

大学院保健科学研究院・
大学院保健科学院(医学部保健学科)

年 報

平成25年4月～平成28年3月

北海道大学大学院保健科学研究院
点検・評価室年報編集専門部会
平成28年10月発行

目次

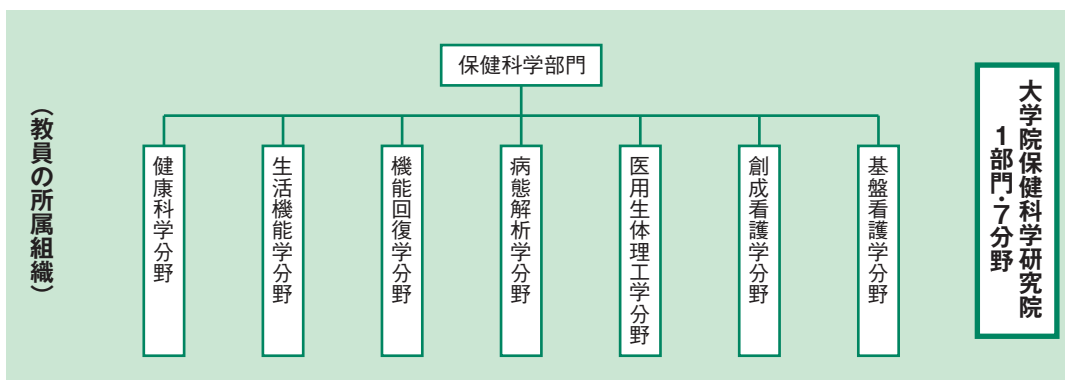
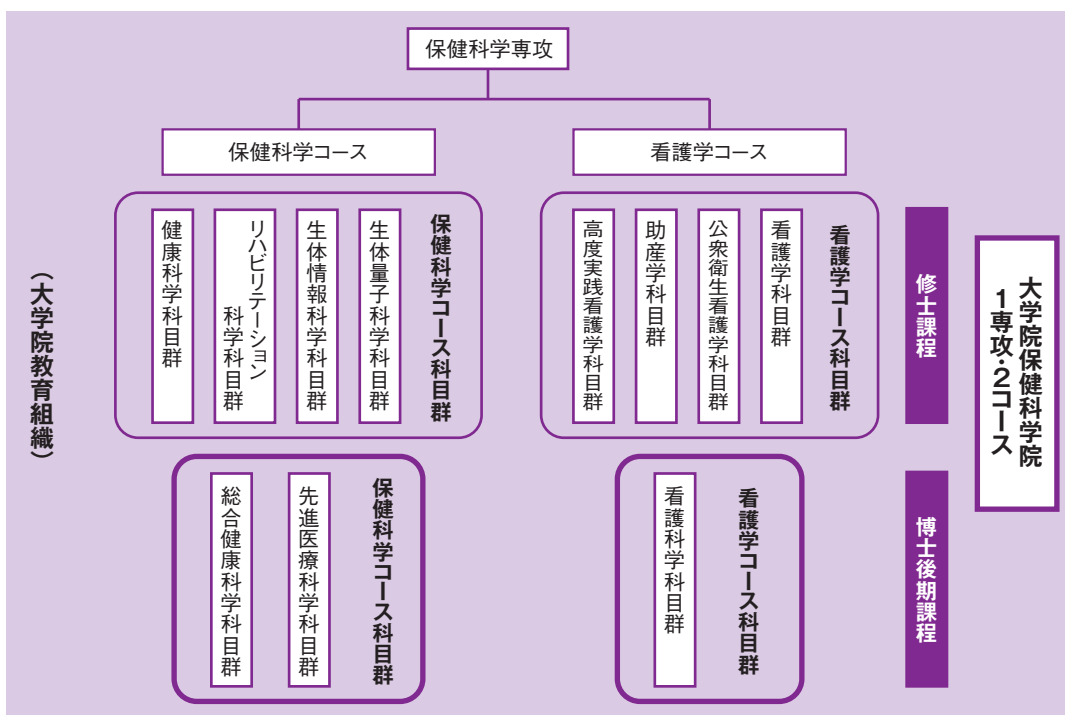
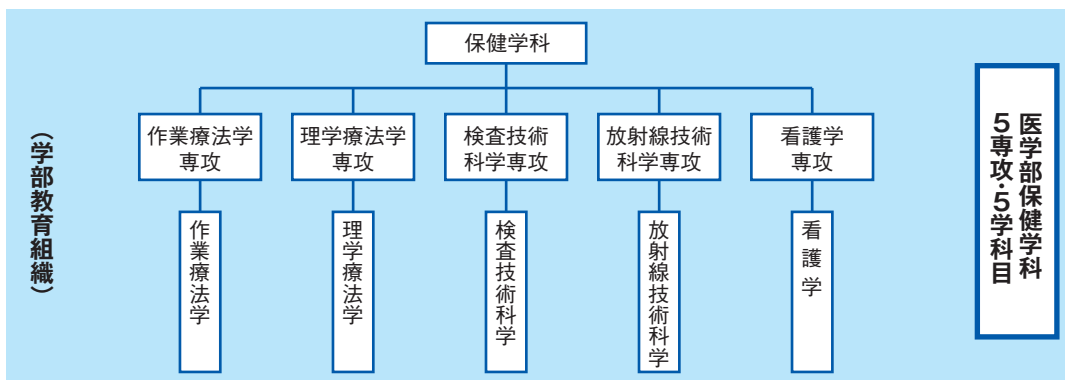
I. 沿革	2
II. 組織	3
III. 管理運営体制	4
IV. 役職員・教職員一覧	
i 役職員・教職員一覧	5
ii 主な研究内容	8
V. 研究活動	
i 年度別業績一覧(平成25年度～平成27年度)	16
ii 外部資金等の獲得及び受入状況(平成25年度～平成27年度)	207
VI. 教育活動	
i 大学院担当教員一覧	221
ii 保健科学院卒業研究課題一覧(平成25年度～平成27年度)	226
iii 保健科学院・医学部保健学科FD研修開催状況(平成25年度～平成27年度)	237
iv 保健科学セミナー開催状況(平成25年度～平成27年度)	240
v 保健科学院-M.B.A Double Degree	242
vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況(平成25年度～平成27年度)	244
VII. 社会貢献	
i 公開講座開催状況(平成25年度～平成27年度)	247
VIII. 顕彰及び研究助成制度	
i 顕彰制度(平成25年度～平成27年度)	250
ii 研究助成制度(平成25年度～平成27年度)	253
IX. 中央研究室の活動報告	
i 活動報告書(平成25年度～平成27年度)	262
X. 第二期中期目標・中期計画	268

I. 沿革

- 平成 15 年 10 月 1 日
北海道大学医学部保健学科（看護学専攻，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻）設置
- 平成 16 年 4 月 1 日
医学部保健学科第 1 期生入学
- 平成 20 年 4 月 1 日
北海道大学大学院保健科学研究所（基盤看護学分野，創成看護学分野，医用生体理工学分野，病態解析学分野，機能回復学分野，生活機能学分野）・大学院保健科学院保健科学専攻修士課程（保健科学コース，看護学コース）設置
- 平成 21 年 4 月 1 日
大学院保健科学研究所に寄附分野「脳機能画像学分野」設置
- 平成 22 年 1 月 1 日
大学院保健科学研究所に寄附分野「食品機能解析・保健栄養学（渡辺オイスター）分野」設置
- 平成 22 年 4 月 1 日
大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程（保健科学コース，看護学コース）設置
- 平成 22 年 9 月 17 日
大学院保健科学院博士後期課程設置記念講演会・記念式典・祝賀会举行
- 平成 23 年 4 月 1 日
北海道大学大学院保健科学研究所（健康科学分野）設置
- 平成 23 年 5 月 1 日
大学院保健科学研究所に寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」設置
- 平成 23 年 10 月 1 日
大学院保健科学研究所に健康イノベーションセンター（高度脂質分析ラボラトリー部門，ヘルスネットワークシステム部門）設置
- 平成 24 年 3 月 31 日
大学院保健科学研究所の寄附分野「脳機能画像学分野」終了
- 平成 24 年 4 月 1 日
大学院保健科学研究所に保健医療教育研究センター（継続教育開発研究部門，教育改革研究部門）設置
- 平成 25 年 4 月 1 日
大学院保健科学研究所に健康イノベーションセンター（生体分子・機能イメージング部門）設置
大学院保健科学院（先進医療科学科目群）に連携分野「重粒子医科学分野」設置
- 平成 26 年 3 月 20 日
大学院保健科学研究所 E 棟竣工
- 平成 26 年 10 月 30 日
大学院保健科学研究所 A 棟・B 棟・C 棟及び D 棟改修

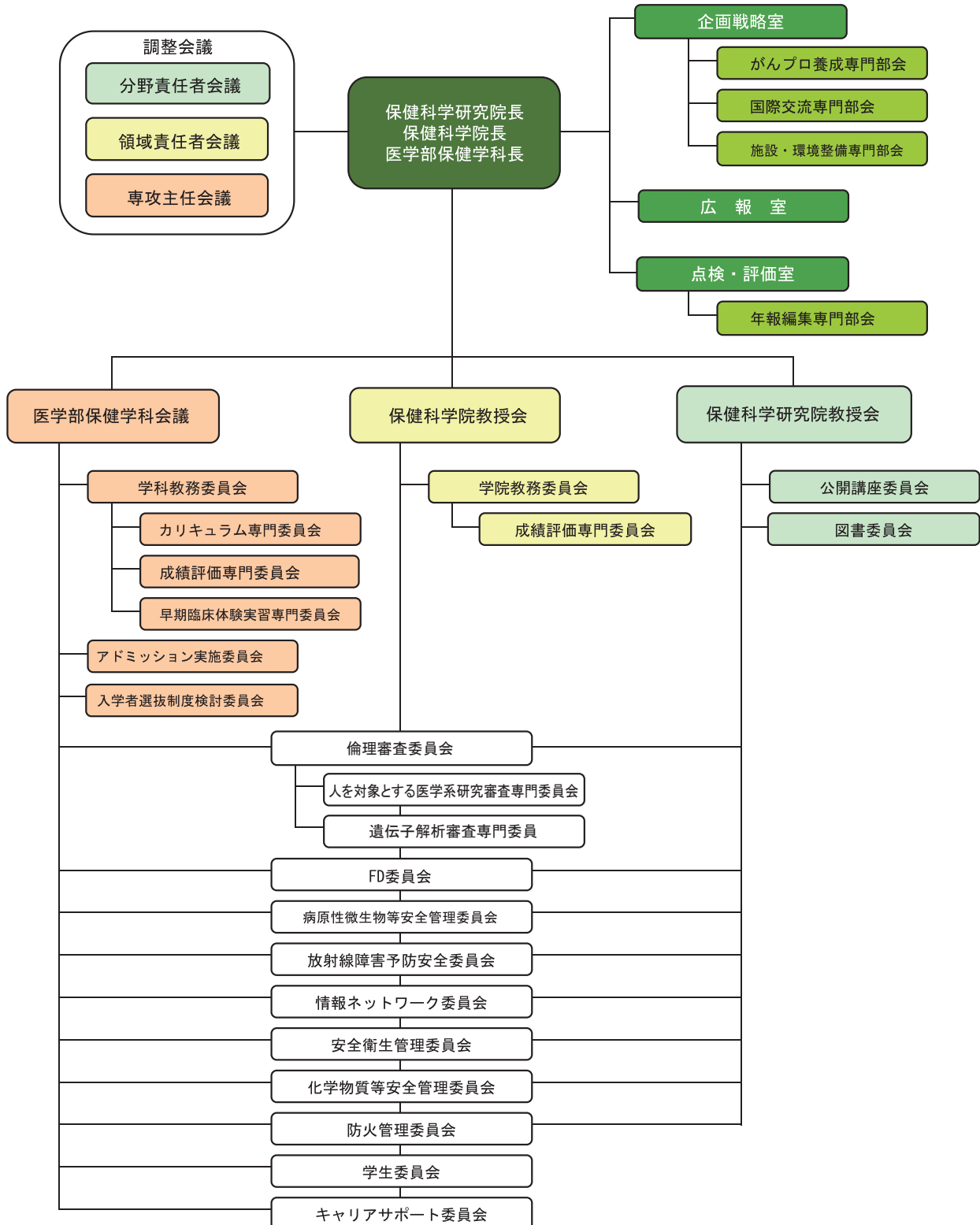
Ⅱ. 組織

大学院保健科学研究所・大学院保健科学院・医学部保健学科



Ⅲ. 管理運営体制

平成 27 年 5 月 1 日現在



IV. 役職員・教職員一覽

i 役職員・教職員一覽

平成 25 年 5 月 1 日現在

役職員

保健科学研究院長・保健科学院長・保健学科長	伊達 広行
保健科学研究院副研究院長	齋藤 健
保健科学院副学院長	良村 貞子
保健科学研究院長補佐	傳田 健三
保健科学研究院長補佐	石津 明洋
保健科学院長補佐	村田 和香

教職員一覽

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
基盤看護学	◎ 良村 貞子 尾崎 倫孝	林 裕子 宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 矢野 理香 鷺見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	塚本 美奈 大内 潤子 高山 望 吉田 祐子 下田 智子	
創成看護学	◎ 佐伯 和子 佐川 正 佐藤 洋子	野口真貴子 安積 陽子 平野美千代	荒木 奈緒 青柳 道子	進藤ゆかり コリ一紀代 本田 光	
医用生体理工学	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 西岡 健 神島 保	坂田 元道		關之山勝博 堤 香織 寺下 貴美	
病態解析学	◎ 三神 大世 山口 博之 石津 明洋	政氏 伸夫 惠 淑萍	松尾 淳司	吉田 繁 小畑 慶子 加賀 早苗	森山 隆則 小林 清一
機能回復学	◎ 宮本 顯二 山中 正紀 浅賀 忠義 前島 洋	高橋 光彦 寒川 美奈		笠原 敏史 齊藤 展士	
生活機能学	◎ 八田 達夫 井上 馨 傳田 健三 村田 和香	境 信哉	河野 仁志	真木 誠 岸上 博俊	
健康科学分野	◎ 千葉 仁志 齋藤 健 横澤 宏一 小笠原克彦 山内 太郎	竹内 文也		神 繁樹	武田 晴治 川西 範明 ロートシルダ
72 名	26 名	16 名	6 名	19 名	5 名

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
食品機能解析・保健栄養学分野	◎ 千葉 仁志 (兼務)				布田 博敏
北斗関節機能障害予防学分野	◎ 山中 正紀 (兼務)				小林 巧
中央研究室 室長	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

平成 26 年 5 月 1 日現在

役職員

保健科学研究院長・保健科学院長・保健学科長	伊達 広行
保健科学研究院副研究院長	傳田 健三
保健科学院副学院長	良村 貞子
保健科学研究院長補佐	石津 明洋
保健科学研究院長補佐	浅賀 忠義
保健科学院長補佐	小笠原克彦

教職員一覧

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
基盤看護学	◎ 良村 貞子 尾崎 倫孝	宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 矢野 理香 鷲見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	塚本 美奈 神 繁樹 大内 潤子 吉田 祐子 村田 恵理 下田 智子 野田なつみ	
創成看護学	◎ 佐伯 和子 佐川 正 佐藤 洋子	野口眞貴子 安積 陽子 平野美千代	荒木 奈緒 青柳 道子	藤田和佳子 進藤ゆかり コリー紀代 高橋 紀子 本田 光	
医用生体理工学	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 西岡 健 神島 保	坂田 元道		堤 香織 寺下 貴美	關之山勝博
病態解析学	◎ 三神 大世 山口 博之 石津 明洋	政氏 伸夫 惠 淑萍	松尾 淳司	吉田 繁 小畑 慶子 加賀 早苗	森山 隆則 小林 清一
機能回復学	◎ 山中 正紀 浅賀 忠義 遠山 晴一 前島 洋	高橋 光彦 寒川 美奈		笠原 敏史 齊藤 展士	
生活機能学	◎ 八田 達夫 井上 馨 傳田 健三 村田 和香	境 信哉		真木 誠 岸上 博俊	河野 仁志
健康科学分野	◎ 千葉 仁志 齋藤 健 横澤 宏一 小笠原克彦 山内 太郎				
70 名	26 名	14 名	5 名	21 名	4 名

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
食品機能解析・保健栄養学分野	◎ 千葉 仁志 (兼務)				布田 博敏
健康 イノベーション センター	センター長 ◎ 千葉 仁志 (兼務)				
	高度脂質分析 ◎ 惠 淑萍 (兼務)				武田 晴治 ロート シュルタ 早坂 孝宏
	遠隔健康相談 ◎ 小笠原克彦 (兼務)				
生体分子機能	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			野田なつみ (兼務)	
中央研究室	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

平成 27 年 5 月 1 日現在

役職員

保健科学研究所長・保健科学院長・保健学科長	伊達 広行
保健科学研究所副研究所長	傳田 健三
保健科学院副学院長	良村 貞子
保健科学研究所長補佐	石津 明洋
保健科学研究所長補佐	浅賀 忠義
保健科学院長補佐	小笠原克彦

教職員一覧

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
基盤看護学	◎ 良村 貞子 尾崎 倫孝 結城美智子	宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 矢野 理香 鷲見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	塚本 美奈 神 繁樹 吉田 祐子 村田 恵理 下田 智子 野田なつみ	
創成看護学	◎ 佐伯 和子 佐川 正 佐藤 洋子	野口眞貴子 安積 陽子 平野美千代	荒木 奈緒 青柳 道子	藤田和佳子 進藤ゆかり 水野 芳子 コリー紀代 高橋 紀子 本田 光	
医用生理工学	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 神島 保 石川 正純	坂田 元道		堤 香織 寺下 貴美 高木 聡志	
病態解析学	◎ 山口 博之 恵 淑萍 石津 明洋	政氏 伸夫	吉田 繁 松尾 淳司	小畑 慶子 加賀 早苗 古川 貴之 岡田 一範 益田紗季子 大久保寅彦	三神 大世
機能回復学	◎ 山中 正紀 浅賀 忠義 遠山 晴一 前島 洋	寒川 美奈		笠原 敏史 齊藤 展士	
生活機能学	◎ 八田 達夫 井上 馨 傳田 健三 村田 和香	境 信哉		真木 誠 岸上 博俊	河野 仁志
健康科学分野	◎ 千葉 仁志 齋藤 健 横澤 宏一 小笠原克彦 山内 太郎			俵 紀行 津久井隆行 中島 進吾	
75 名	27 名	12 名	6 名	28 名	2 名

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
食品機能解析・保健栄養学分野	◎ 千葉 仁志 (兼務)				布田 博敏
健康 イノベーション センター	◎ センター 長 千葉 仁志 (兼務)				
	◎ 高度脂質 分析 恵 淑萍 (兼務)				武田 晴治 早坂 孝宏 馬 逸興
	◎ 遠隔健康 相談 小笠原克彦 (兼務)				
	◎ 生体分子 機能 尾崎 倫孝 (兼務)			野田なつみ (兼務)	
中央 研究室	◎ 室長 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

ii 主な研究内容

保健科学研究院教員の研究内容

基盤看護学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 良村 貞子	看護職者の法的責任に関する日米比較
教授 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
教授 結城 美智子	高齢者の介護予防, 在宅療養者とその家族へのケアに関する研究
准教授 宮島 直子	看護におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
准教授 大槻 美佳	高次脳機能障害(失語, 失行, 失認)の機能局在とメカニズムに関する研究
准教授 岩本 幹子	臨床における看護倫理の問題に関する研究
准教授 矢野 理香	脳血管障害患者における手浴ケアとその効果
准教授 鷺見 尚己	在宅療養生活支援, 移行ケアに関する研究
講師 溝部 佳代	クリティカルな状況にある患者家族への看護に関する研究
講師 佐藤 三穂	慢性疾患を持つ人の療養支援
助教 塚本 美奈	摂食障害患者の退院後の生活に関する研究
助教 神 繁樹	様々なバイオマーカーの研究
助教 吉田 祐子	臨床看護師の労働環境と継続教育に関する研究
助教 村田 恵理	老化及び老化関連疾患と酸化ストレスに関する研究
助教 下田 智子	食道癌患者の周術期栄養管理に関する研究

創成看護学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 佐伯 和子	保健師のキャリア開発（基礎教育と現任教育）
教授 佐川 正	助産師による産婦人科救急におけるオペレーター及び電話相談事業の現状と課題
教授 佐藤 洋子	小児の自律性を支援する看護スキルの開発
准教授 野口 眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
准教授 安積 陽子	乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 平野 美千代	在宅高齢者への効果的な介護予防ケア
講師 青柳 道子	がん患者と家族のソーシャルサポートに関する研究
助教 藤田 和佳子	アフリカ諸国における助産ケアの質の向上に関する研究
助教 進藤 ゆかり	慢性疼痛を抱えた地域在宅者に関する研究
助教 水野 芳子	地方居住者の健康管理に関する研究
助教 コリー 紀代	気管内吸引を行う看護師の眼球運動の分析
助教 高橋 紀子	新生児集中治療室から在宅へ移行する患児家族に関する研究
助教 本田 光	子育て支援と地域づくりに関する研究

医用生体理工学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 山本 徹	MRI画像診断を劣化させないインプラントの開発
教授 加藤 千恵次	PET, CT, MRIなどの医用画像による病態の定量解析
教授 伊達 広行	生体組織への放射線エネルギー付与解析と影響評価
教授 神島 保	超音波やMRIによる関節リウマチ活動性評価
教授 石川 正純	放射線医学分野における新しい計測技術の開発
准教授 坂田 元道	MDCTを用いた側頭骨微細構造の解析
助教 堤 香織	放射線照射を生き残る腫瘍細胞の細胞特性解析
助教 寺下 貴美	問題解決型学習を取り入れた撮影技術学実習と学習効果の評価法開発
助教 高木 聡志	医用画像処理を用いた新しい画像検査・診断法の開発

病態解析学分野

職・氏名	主な研究内容
特任教授 三神 大世	心エコーによる心疾患の病態と心機能の分析
教授 山口 博之	細胞内寄生性難培養性細菌の生存戦略とその分子基盤に関する研究
教授 惠 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授 石津 明洋	血管炎発症機序の解明と新しい病態診断法および分子標的治療法の開発
准教授 政氏 伸夫	血球の計数および形態検査の定量化に関する研究
講師 吉田 繁	H I V 関連遺伝子検査の開発とその標準化に関する研究
講師 松尾 淳司	細胞内寄生細菌の生物学
助教 小畑 慶子	遺伝子発現調節機構の解析
助教 加賀 早苗	心エコーによる心不全の病態解析
助教 古川 貴之	リン脂質に関するケミカルバイオロジー
助教 岡田 一範	スペックルトラッキング心エコー法による心筋機能評価
助教 益田 紗季子	好中球細胞外トラップに関する研究
助教 大久保 寅彦	細菌と原生生物との微生物間相互作用に関する研究

機能回復学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 山中 正紀	スポーツ外傷・障害の予防に関する研究
教授 浅賀 忠義	ヒト立位姿勢制御のメカニズム解明および効果的な運動学習の開発
教授 遠山 晴一	スポーツ傷害と運動器疾患に関するリハビリテーション科学
教授 前島 洋	運動による高齢者のヘルスプロモーションに関する基礎研究
准教授 寒川 美奈	スポーツ傷害の発生予防と運動療法有効性に関する研究
助教 笠原 敏史	加齢による運動制御の低下とその機序についての研究
助教 齊藤 展士	姿勢学習メカニズムの解明に関する研究

生活機能学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 八田 達夫	重度障害者への車いすシーティングの開発研究
教授 井上 馨	視覚機能障害改善への実験的研究
教授 傳田 健三	児童・青年期の気分障害, 注意欠陥多動性障害, 不安障害, 広汎性発達障害に関する臨床的研究
教授 村田 和香	高齢者に対する作業療法実践の効果研究
准教授 境 信哉	脳障害による視覚障害のリハビリテーション
特任講師 河野 仁志	精神障害者への支援
助教 真木 誠	重度障害者の障害受容に関する研究
助教 岸上 博俊	地域に生活における高齢者のリハビリテーションの在り方について

健康科学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
教授 齋藤 健	生命と環境, 疾病の予防, 健康創成
教授 横澤 宏一	脳磁計(MEG)を用いた脳機能計測の研究
教授 小笠原 克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授 山内 太郎	人類生態学, 国際保健学, 世界の子どもの健康・安全・幸福
助教 俵 紀行	医療情報学
助教 津久井 隆行	脂質生化学, 食品科学
助教 中島 進吾	中枢神経系細胞における脂肪滴代謝に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

食品機能解析・保健栄養学分野（渡辺オイスター）

職・氏名	主な研究内容
教授（兼） 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝，バイオセンサー，質量分析，機能性食品，バイオマーカー
特任准教授 布田 博敏	カキによる非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の予防に関する研究

健康イノベーションセンター

職・氏名	主な研究内容
センター長 教授（兼） 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝，バイオセンサー，質量分析，機能性食品，バイオマーカー
教授（兼） 恵 淑萍	過酸化脂質，脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授（兼） 小笠原 克彦	医療情報学，臨床経済学，医療管理学
教授（兼） 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理，生体ストレス，光による生体イメージングに関する研究
准教授（兼） 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
特任講師 早坂 孝宏	イメージング質量分析，機能性成分，病態解析

V. 研究活動

i 年度別業績一覧 (平成25年度～平成27年度)

■業績 (平成25年度)

基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Watanabe M, Yamashita K, Kamachi H, Kuraya D, Koshizuka Y, Shibasaki S, Asahi Y, Ono H, Emoto S, Ogura M, Yoshida T, Ozaki M, Umezawa K, Matsushita M, Todo S: Efficacy of DHMEQ, a NF- κ B Inhibitor, in Islet Transplantation: II. Induction of DHMEQ Treatment Ameliorates Subsequent Alloimmune Responses and Permits Long-Term Islet Allograft Acceptance. *Transplantation* 96:454-462, 2013. IF:4.003
2. Kuraya D, Watanabe M, Koshizuka Y, Ogura M, Yoshida T, Asahi Y, Kamachi H, Nakamura T, Harashima H, Ozaki M, Umezawa K, Matsushita M, Yamashita K, Todo S: Efficacy of DHMEQ, a NF- κ B Inhibitor, in Islet Transplantation: I. HMGB1 Suppression by DHMEQ Prevents Early Islet Graft Damage. *Transplantation* 96:445-453, 2013. IF:4.003
3. Yimin, Kohanawa M, Zhao S, Ozaki M, Haga S, Nan G, Kuge Y, Tamaki N: Contribution of Toll-Like Receptor 2 to the Innate Response against *Staphylococcus aureus* Infection in Mice. *PLoS ONE* 8:e74287, 2013. IF:3.73
4. Hattori M, Haga S, Takakura H, Ozaki M, and Ozawa T: Sustained accurate recording of intracellular acidification in living tissues with a photo-controllable bioluminescent protein. *PNAS* 110:9332-9337, 2013. IF:9.681
5. Qiao H, Abe R, Saito N, Fujita Y, Haga S, Wu C, Ohmiya Y, Ozaki M, Shimizu H: Novel method for intravital monitoring of human cells using far-red luminescence probe in mice. *Journal of Investigative Dermatology* 133:841-843, 2013. IF:6.314
6. Saito N, Yoshioka N, Abe R, Qiao H, Fujita Y, Hoshina D, Suto A, Kase S, Kitaichi N, Ozaki M, Shimizu H: Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis mouse model generated by using PBMCs and the skin of patients. *J Allergy Clin Immunol* 131:434-441, 2013. IF:11.003
7. Shibasaki S, Yamashita K, Goto R, Wakayama K, Tsunetoshi Y, Zaito M, Igarashi R, Haga S, Ozaki M, Umezawa K, Todo S: Immunosuppressive effects of DTCM-G, a novel inhibitor of the mTOR downstream signaling pathway. *Transplantation* 95:542-550, 2013. IF:4.003
8. Oashi K, Furukawa H, Nishihara H, Ozaki M, Oyama A, Funayama E, Hayashi T, Kuge Y, Yamamoto Y: Pathophysiological Characteristics of Melanoma In-Transit Metastasis in a Lymphedema Mouse Model. *Journal of Investigative Dermatology* 133:537-544, 2013. IF:6.314
9. Wu C, Ke-Yong Wang, Guo X, Sato M, Ozaki M, Shimajiri S, Ohmiya Y, Sasaguri Y: Rapid Methods of Detecting the Target Molecule in immunohistology using a Bioluminescence Probe. *Luminescence. The*

V. 研究活動

- Journal of Biological and Chemical Luminescence 28:38-43, 2013. IF:1.731
10. Yamanoi T, Tanaka Y, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T, Sugeno M: Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Names of Body Parts. Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol.17, No.3, 386-391, 2013
 11. 村山信子, 武田幸緒, 荒井由美, 嘉島裕加, 矢野理香: 回復期リハビリテーション病棟における家族指導開始時期の判断基準に関する実態調査. 日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ 43号: 47 - 50, 2013.
 12. 溝部佳代: 手術中待機している家族のコーピングに関する研究. 日本クリティカルケア看護学会誌 9(3): 34-41, 2013.
 13. 佐藤三穂, 吉田恵, 前田美樹, 鷺見尚己: がん患者が外来化学療法を受けながら仕事を継続するうえでの困難と取り組み, およびそれらの関連要因. 日本がん看護学会誌 27: 77-84, 2013.
 14. 吉田祐子, 良村貞子, 岩本幹子: キャリア試行期にある看護師の病院内異動の経験. 日本看護管理学会誌 17: 146-156, 2013.
 15. 小田嶋裕輝, 鷺見尚己, 良村貞子: 2型糖尿病患者のストレス対処力・心理的負担感・医療者の支援との関連性. 看護総合科学研究会誌 15(1): 17-25, 2013.
 16. 大槻美佳: 統語の神経機構. 高次脳機能研究 33(2): 195-204, 2013.
 17. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島恒, 大槻美佳: 同音漢字想起時におけるヒト脳内活動部位の時空間推定Ⅲ. 工学研究 13: 41-46 2013.
 18. 手塚敏之, 下畑享良, 石原智彦, 大槻美佳, 小田野行男, 西澤正豊: Conflict of intentions を呈した白質ジストロフィーの1例. 臨床神経 53: 114 - 118, 2013.
 19. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島恒, 山崎敏正, 大槻美佳: 認知・想起時の EEG からの提示画像の推定—正准判別分析を用いて—. 信学技法 IEICE 113(147): 23-26, 2013.

B. 著書

1. 矢野理香 (分担): 事例研究. 看護技術の科学と検証 第2版 - 研究から実践へ, 実践から研究へ - (菱沼典子, 川島みどり編). 44-48, 日本看護協会出版会, 東京, 2013.
2. 澤田いずみ, 大野真実, 塚本美奈 (共著): 精神科臨床サービス 13 特集 恋愛・結婚・子育て. 341-345, 星和書店, 東京, 2013.
3. 大槻美佳: 失語の概説. 脳血管障害と神経心理学 (平山恵造, 田川皓一編). 96-103, 医学書院, 東京, 2013.
4. 大槻美佳: 失語・失読・失書. 認知神経学ハンドブック (日本認知心理学会編). 382-383, 有斐閣 2013.
5. 大槻美佳: 新編 認知言語学キーワード事典 (辻幸夫編). Pp10, 48-51, 92, 104, 106-107, 128-129, 145-149, 177, 208-209, 277, 344, 362-365, 研究社, 東京, 2013.
6. 大槻美佳: 失語. 脳とこころのプライマリケア第2巻 知能の衰え (池田学編, 日野原重明, 宮岡等監修). 277-290, シナジー, 東京, 2013.
7. 高倉祐樹, 大槻美佳: 失語症の症状と検査結果のみかた. 失語症 Q&A (種村純編). 3-15, 新興医学出版社, 東京, 2013.

V. 研究活動

C. 総説, 解説, 論評

1. 小澤岳昌, 尾崎倫孝:細胞死誘導シグナルの可視化,「細胞死 Update - 基礎から臨床までを俯瞰して -」. 医学の歩み(米原 伸編). 246:357-363, 医歯薬出版, 東京, 2013.

D. 報告書

1. 尾崎倫孝:平成 23 年度科学研究費補助金 基盤研究 A(繰越分) 実績報告書(研究実績報告書).「光プローブを応用した生体イメージング法による画期的術中ライブ診断法の開発」
2. 尾崎倫孝:平成 23 年度科学研究費補助金 基盤研究 A(繰越分) 実績報告書(収支決算報告書).「光プローブを応用した生体イメージング法による画期的術中ライブ診断法の開発」
3. 尾崎倫孝:平成 24 年度科学研究費補助金 基盤研究 A(繰越分) 実績報告書(研究実績報告書).「光プローブを応用した生体イメージング法による画期的術中ライブ診断法の開発」
4. 尾崎倫孝:平成 24 年度科学研究費補助金 基盤研究 A(繰越分) 実績報告書(収支決算報告書).「光プローブを応用した生体イメージング法による画期的術中ライブ診断法の開発」
5. 尾崎倫孝:平成 24 年度科学研究費基金分【挑戦的萌芽研究】実績報告書(研究実績報告書).「細胞死(オートファジー・アポトーシス)による肝再生制御メカニズムの解析」
6. 尾崎倫孝:平成 24 年度科学研究費基金分【挑戦的萌芽研究】実績報告書(収支決算報告書).「細胞死(オートファジー・アポトーシス)による肝再生制御メカニズムの解析」
7. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島恒, 大槻美佳:同音漢字想起時におけるヒト脳内活動部位の時空間推定Ⅲ. 北海学園大学大学院工学研究科工学研究第 13 号, 41-46, 2013.
8. 田中良典, 山ノ井高洋, 大槻美佳, 豊島 恒:同音一文字漢字想起時における脳内活動部位の時空間推定と比較. 第 29 回ファジィシステムシンポジウム論文集, 175-178, 2013.
9. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島 恒, 山崎敏正, 大槻美佳, 菅野道夫, 大西真一, 山崎敏正:複数画像認知・イメージング時 EEG による BCI. 第 29 回ファジィシステムシンポジウム論文集, 179-182, 2013
10. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島 恒, 山崎敏正, 大槻美佳:認知・想起時の EEG からの提示画像の推定～ 正準判別分析を用いて～, M B E 2013-30, 23-26, 2013.
11. 山ノ井高洋, 田中良典, 平佐将孝, 豊島 恒, 大槻美佳:同音漢字想起時におけるヒト脳内活動部位の時空間推定Ⅱ. 北海学園大学工学研究報告第 40 号, 120-128, 2013.
12. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 竹田里光, 楠目剛久, 田中純子, 杉村敏秀:「電気シェーバーにケータイ機能がついている」という誤認の成立機序について. 臨床神経心理, p61, 2013.

E. その他

[受賞]

1. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 大澤朋史, 谷川緑野:言語性短期記憶のメカニズムとその障害について—把持ストラテジーの検討から—, 第 16 回長谷川賞(日本高次脳機能障害学会)

[学会研究会の主催]

1. 尾崎倫孝:第 19 回日本肝臓医生物学研究会(プロメテウスの会) 北海道大学医学部臨床講義棟, 札幌 2013.11.

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Sato M: Self-care in adults with diabetes. The First FHS International Conference, Sapporo, 2013.7.

[国内学会]

1. 尾崎倫孝:「光を応用した生物学的診断・治療法の開発」. 上原記念生命科学財団特定研究「革新的医療を創生する医学研究」中間報告会, 静岡, 2013.6.
2. 大槻美佳: 特別講演. 脳損傷からみる言葉のしくみ. 第14回日本語聴覚学会, 札幌, 2013.6.
3. 大槻美佳: 研修講演. 失語症の診断. 短期記憶障害とその対応. 2012年高次脳機能障害学会夏期教育研修講座, 横浜, 2013.7.
4. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島恒, 山崎敏正, 大槻美佳: 認知・想起のEEGから提示画像の推定～正準判別分析を用いて～. 電子情報通信学会 登録講演, 徳島, 2013.7.
5. 大槻美佳: 失語症の診かた リハビリへの手がかりとして. 回復期リハビリテーション病棟協会 講演, 東京, 2013.8.
6. 大槻美佳: 言語と脳. 平成25年度認定言語聴覚士講習会講演, 東京, 2013.8.
7. 大槻美佳: 言語機能における島の役割. シンポジウム「島をめぐる神経心理学」. 第37回日本神経心理学学会総会, 札幌, 2013.9.
8. 大槻美佳: 失語症のみかた リハビリテーションへの手掛かりとして. 第40回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会 特別講演, 旭川, 2013.9.
9. 尾崎倫孝: 座長 一般演題 「虚血再灌流障害」. 第40回日本臓器保存生物医学会学術集会, 東京, 2013.11.

[地方会]

1. 尾崎倫孝: 特別講義「外科的ストレスにたいする肝の分子応答機構 Molecular Mechanism of Stress Response of Liver」東京医科大学大学院特別講義, 東京, 2013.1.
2. 大槻美佳: 失語症へのアプローチ. 山陰言語聴覚士協会 特別講演, 米子, 2013.4.
3. 大槻美佳: FTLD: 臨床診断のポイント. 札幌神経内科医会 特別講演, 札幌, 2013.7.
4. 大槻美佳: 失語症のみかたとその対応. 旭川リハビリテーション研修会 特別講演, 旭川, 2013.8.
5. 大槻美佳: ミニレクチャー. 変性疾患と発語障害, 数・意図しない復唱. 第15回脳の臨床研究会, 札幌, 2013.10.
6. 大槻美佳: 認知症と高次脳機能障害. 第1回認知症セミナー 特別講演, 青森, 2013.12.
7. 大槻美佳: 進行性失語の症候と診方. 第8回神経症候学研究会, 熊本, 2013.12.
8. 大槻美佳: ミニレクチャー 鏡像書字について. 第16回脳の臨床研究会, 札幌, 2014.3.
9. 大槻美佳: 伝導失語のみかた・考えかた・対応, STM障害とその対応, 画像のみかたとその解釈. 山陰言語聴覚士協会 特別講演, 米子, 2014.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Terashima T, Kataoka N, Yoshimura S, Kimura N, Mitsuno K, Kikuchi R: Use of Digital Image Records for Effective Nursing Observation of Blood Flow to Reattached Digits. ICN 2013, Melbourne, Australia, 2013.5.
2. Shimoda T, Yoshimura S, Ogasawara K: Usefulness of an Advanced Tele-Health Consultation System in the Disaster-Struck Areas in Japan. ICN Conference, Melbourne, Australia, 2013.5
3. Haga S, Ozawa T, Morita N, Seki Y, Yamada Y, Yasuzak Yi, Umezawa K, Ozaki M: p62/SQSTM1 plays a protective role from oxidative injury of steatotic liver in mouse hepatectomy model. The 20th Annual Meeting of the Japanese Society for the Research of Hepatic Cells, Osaka International Convention Center, Osaka, 2013.9.
4. Otsuki M, Nakagawa Y, Ogata A, Makino T, Fukushima T, Kuwabara T: Variety of clinical symptoms of logopenic progressive aphasia in Japanese patients. XXI World Congress of Neurology, Vienna, Austria, 2013.9.
5. Nakagawa Y, Otsuki M, Yoshino M: Errors in tool use reflecting insufficient recall of the target object for tools. XXI World Congress of Neurology, Vienna, Austria, 2013.9.
6. Yamanoi T, Tanaka Y, Otsuki M, Toyoshima H, Yamazaki T: Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Names of Body Parts II. IFMBE/ Mediterranean Conference on Medical and Biological Engineering and Computing (MEDICON 2013), Seville, Spain, 2013. 9.
7. Inagami J, Iwamoto N, Kohwi T, Ban Y, Tsukamoto M, Miyajima N: The factors that motivates some people to continue with their medication. 9th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2013.10.
8. Tanaka Y, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M: Spatiotemporal localization of brain activity on recalling Kanji homophones", The 14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, Korea, 2013.10.
9. Yamanoi T, Tanaka Y, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T, Sugeno M: Brain Computer Interface by use of Electroencephalograms on Recalling of Some Images. The 14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, Korea, 2013.10.
10. Watanabe R, Shimoda T, Yano R, Yamaguchi H, Yoshimura S: Fundamental Inquiry of Environment Surface's Cleanliness Using Stamp Agar Culture Methods in Japanese Acute Care Wards. 3rd International Nursing Research Conference, Seoul, Korea, 2013.10.
11. Ito Y, Yamakawa E, Akimoto A, Yoshimura S, Sagawa T: Ultrasound Examination Performed by Midwives during Pregnancy: Integrative Review. 3rd International Nursing Research Conference, Seoul, Korea, 2013.10.
12. Shimoda T, Yoshimura S: Inter-region Comparison of Consultation Contents and Clients of an Advanced Tele-health Consultation System in Japan. 3rd WANS (International Nursing Conference & World Academy of Nursing Science), Seoul, Korea, 2013.10.
13. Yano R, Haseyama M: Effects of Hand Bathing on Speech in Stroke Patients in Convalescence and Related Factors-Randomized-controlled Study-. 9th INC&3rd WANS(International Nursing Conference & World Academy of Nursing Science), Seoul, Korea, 2013.10.
14. Yoshida Y, Yano R: The Need for Skin Disinfection Prior to Subcutaneous Injections - A Comparison of Trends in Studies and Nursing Textbooks in Japan. World Academy of Nursing Science, Seoul, Korea,

2013, 10.

[国内学会]

1. 尾崎倫孝:「肝再生における分子メカニズムの解析」. 第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013.4.
2. 澤田いずみ, 宮島直子, 高橋由美子, 吉野淳一, 塚本美奈, 大野真実, 景山セツ子:統合失調症をもつ人の子育てと支援に関する精神障害者家族会会員の認識. 第8回日本統合失調症学会, 浦河町, 2013.4.
3. 大槻美佳, 中川賀嗣, 緒方昭彦, 古明地克英, 牧野邦比古, 福島隆男, 桑原武夫:原発性進行性失語頭頂葉型(LPA)と側頭葉型の症候・画像所見・経過. 第54回日本神経学会学術大会, 東京, 2013.5.
4. 糺田リカ, 良村貞子:大学病院に勤務する助産師の臨床実践力の現状と自己教育力との関連. 第27回日本助産学会学術集会, 金沢, 2013.5.
5. 吉田祐子, 戸井田奈美, 木瀧友里, 杉澤千香子, 桜田不二子, 中島かすみ, 大内潤子:林裕子重度認知症高齢者に対する食行動刺激の効果—3事例の検討から—. 日本老年看護学会学術集会, 大阪, 2013.6.
6. 阿久津由紀子, 星明日香, 小林俊輔, 大槻美佳:脳梗塞により前頭葉性超皮質性感覚失語を呈した一例. 第14回日本言語聴覚学会, 札幌, 2013.6.
7. 一条晋伍, 杉原俊一, 大槻美佳. 拙劣症・構成障害を合併し, 書字に特異的な障害を呈した一症例—書称課題での成績変化に着目して—. 第14回日本言語聴覚学会, 札幌, 2013.6.
8. 下田智子, 良村貞子, 岡崎光洋, 後藤輝明, 吉町昌子, 岩丸宏明, 田村信吾, 小笠原克彦:テキストマイニングを用いた高度遠隔健康相談内容の探査的検討. 第14回日本医療情報学会看護学術大会, 札幌, 2013.7.
9. 山ノ井高洋, 田中良典, 豊島恒, 山崎敏正, 大槻美佳:認知・想起時のEEGからの提示画像の推定～正準判別分析を用いて～. MEとバイオサイバネティックス研究会, 徳島, 2013.7.
10. 石黒未恵, 那須翔子, 松尾瞳, 下田智子, 良村貞子:休日における女子大学生の人との交流は, QOLに影響を及ぼす因子となるか. 第37回日本看護研究学会学術集会, 秋田, 2013.8.
11. 下田智子, 良村貞子:テレビ電話による健康相談を担当する看護者に求められる能力の検討—相談内容の分析をもとに—. 第17回日本看護管理学会学術集会, 2013.8.
12. 宮島直子, 塚本美奈, 岩本幹子, 中西千代美, 川畑いづみ:新人看護職員のストレスの実態 第3報—計量テキスト分析によるストレスの特徴—. 第17回日本看護管理学会学術集会, 東京, 2013.8.
13. 溝部佳代, 青柳道子:看護大学生3年次の客観的臨床能力試験(OSCE)における与薬技術の修得状況と課題. 日本看護学教育学会第23回学術集会, 仙台, 2013.8.
14. 石黒未恵, 那須翔子, 松尾瞳, 下田智子, 良村貞子:休日における女子大学生の人との交流は, QOLに影響を及ぼす因子となるか. 日本看護研究学会第39回学術集会, 秋田, 2013.8.
15. 中田亜由美, 川上有紀, 宮島直子, 佐藤洋子:一般児童における歯科恐怖の実態—日本語版CFSS-DSを用いての調査—. 第39回日本看護研究学会, 秋田市, 2013.8.
16. 川上有紀, 中田亜由美, 佐藤洋子, 宮島直子:親が参加するプレパレーションに関する文献検討. 第39回日本看護研究学会, 秋田市, 2013.8.
17. 森田直樹, 芳賀早苗, 関 弥生, 樋口三保, 呉 純, 尾崎倫孝, 近江谷克裕:「分泌型ルシフェラーゼを用いた腫瘍細胞進展のモニタリング」. 第86回日本生化学会大会, 神奈川, 2013.9.
18. 田中良典, 山ノ井高洋, 大槻美佳, 豊島 恒:同音一文字漢字想起時における脳内活動部位の時空間推

V. 研究活動

- 定と比較. 第 29 回ファジィシステムシンポジウム, 2013.9.
19. 池田雪花, ガンゾリグ・オチゲレル, 小林 甫, 山田美季, 渡辺玲奈, 矢野理香: 電子レンジ加熱による清拭タオルの有用性に関する検討(第 1 報) 清拭タオルの形状と配置による加熱効率の比較. 日本看護技術学会第 12 回学術集会, 浜松, 2013.9.
 20. 山田美季, 池田雪花, ガンゾリグ・オチゲレル, 小林 甫, 渡辺玲奈, 矢野理香: 電子レンジ加熱による清拭タオルの有用性に関する検討(第 2 報) 清拭タオルの形状と配置によるタオル温の持続性の比較. 日本看護技術学会第 12 回学術集会, 浜松, 2013.9.
 21. ガンゾリグ・オチゲレル, 小林 甫, 山田美季, 池田雪花, 渡辺玲奈, 矢野理香: 電子レンジ加熱による清拭タオルの有用性に関する検討(第 3 報) 電子レンジ加熱と温湯によるタオル温の経時的比較. 日本看護技術学会第 12 回学術集会, 浜松, 2013.9.
 22. 吉田祐子, 矢野理香: 皮下注射における皮膚消毒の必要性に関する文献的研究. 日本看護技術学会第 12 回学術集会, 浜松, 2013.9.
 23. 大嶋美紀, 藤田真善美, 横井亜友美, 棚田郁子, 岡林靖子, 佐藤三穂: 外来通院中のインスリン使用高齢者の心理的負担に関連する要因の検討. 第 18 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 横浜, 2013.9.
 24. 村川孝彰, 安部正之, 永井義樹, 鴻上雄一, 小嶋孝郎, 杉原俊一, 大槻美佳, 平山和美, 境 信哉: 言語生と動作性の解離を考慮した新しい片麻痺病態失認評価スケール提案. 第 37 回日本神経心理学会総会, 札幌, 2013.9.
 25. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 我が国における小児の歯科恐怖の概観とその課題. 第 17 回看護総合科学研究会学術集会, 札幌市, 2013.10.
 26. 大槻美佳, 中川賀嗣, 緒方昭彦, 牧野邦比古, 福島隆男, 桑原武夫: LPA(logopenic/ phonological variant of PPA) の症候と経過. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 27. 斉藤貴美子, 大槻美佳, 阿久津由紀子, 加藤俊一, 小林俊輔: 著しい書字活動の亢進を認めた一例. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 28. 井川大樹, 大槻美佳: 漢字書字に対する短期訓練効果～書字と写字の違いはあるのか～. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 29. 大澤恵留美, 堤昌恵, 岡崎聡子, 生駒一憲, 大槻美佳: カテゴリー特異的意味障害患者の障害機序. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 30. 黒川清博, 大槻美佳, 川崎未来, 池内英里菜, 竹内茂伸, 河井信行: Functional MRI による言語優位半球の同定—Wada テストとの比較—. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 31. 須藤涼子, 難波志奈, 佐々木美穂, 鈴木康壺, 坂田里麻, 竹林誠治, 大槻美佳: 左被殻出血にて一過性に口唇破裂音化が目立つ失構音を呈した 1 例. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 32. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋伍, 佐野巴里奈, 武市亜里沙: 失語症タイプの相違によるモーラ指折り法の効果の差異について. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 33. 阿久津由紀子, 大槻美佳, 斉藤貴美子, 青山雅彦, 小林俊輔: 左基底核～放線冠病巣により左手に鏡像書字を呈した一例. 第 37 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松江, 2013.11.
 34. 中川賀嗣, 大槻美佳, 吉野雅美: 「道具の使用対象(部位)想起障害」とその誤り方. 第 37 回日本神経心理学会総会, 札幌, 2013.9.

V. 研究活動

35. 田村菜穂美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者の積雪時・非積雪時の活動量変動と全死因死亡率との関連. 第33回医療情報学会連合大会, 神戸, 2013.11.
36. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 森田直樹, 野田なつみ, 山田勇磨, 小澤岳昌: 「光学技術を応用した新たな臓器保存法, 細胞・臓器移植法の開発」. 第40回日本臓器保存生物医学会学術集会, 東京, 2013.11.
37. 小笠原克彦, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 岡崎光洋, 後藤輝明, 吉町昌子, 岩丸宏明, 田村信吾, 森山広行, 黄瀬信之: 大学と調剤薬局を結んだ遠隔健康相談 400例の相談内容と今後の展開. 医療情報学連合大会, 神戸, 2013.11.
38. 下田智子, 良村貞子: 高度遠隔健康相談システムの利用者と相談内容に関する調査. 第33回日本看護科学学会学術集会, 大阪, 2013.12.
39. 伊藤千奈美, 櫻田弘美, 石田香代子, 中西千代美, 川畑いづみ, 矢野理香: 2年目看護職員における多重課題研修の有効性の検討 他者との協働に焦点をあてて. 日本看護科学学会第33回学術集会, 大阪, 2013.12.
40. 溝部佳代: 救命救急センター看護師によるターミナルケアとしての家族看護の認識と実際. 第33回日本看護科学学会学術集会, 大阪, 2013.12.
41. 矢野理香, 鷺見尚己, 中西千代美, 本間美恵, 林みゆき, 高橋久美子, 新山久美, 石田香代子, 川畑いづみ: 臨床看護師の看護研究の推進に向けた臨床と大学教員による支援体制の構築 研究計画書審査・指導の現状. 日本看護科学学会第33回学術集会, 大阪, 2013.12.
42. 鷺見尚己, 矢野理香, 中西千代美, 本間美恵, 林みゆき, 高橋久美子, 新山久美, 石田香代子, 川畑いづみ: 臨床看護師の看護研究の推進に向けた臨床と大学教員による支援体制の構築 Nursing Research Cafe の試行. 日本看護科学学会第33回学術集会, 大阪, 2013.12.
43. 佐藤三穂, 三浦麻美子, 本井愛乃, 瀧原祥恵, 上野ゆかり: 外来で治療を行うがん患者のニーズに関する文献レビューと今後の課題. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014.2.
44. 前田梨紗, 佐藤三穂, 山品博子, 鷺見尚己: がん治療を受ける患者への看護師による口腔ケア 文献レビュー. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014.2.
45. 下田智子, 阿部綾子, 熊谷聡美, 堤昌恵, 七戸俊明, 新山久美: 周術期における胸部食道癌患者の経口摂取量の経時的変化と栄養状態の検討. 第29回静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2014.2.
46. 田中良典, 山ノ井高洋, 大槻美佳, 豊島 恒: 同音一文字漢字想起時における脳内活動部位の時空間推定と比較. 日本知能情報ファジィ学会・ソフトサイエンス研究部会 第24回ソフトサイエンス・ワークショップ, 久留米, 2014.3.
47. 山ノ井高洋, 豊島 恒, 大槻美佳, 大西真一, 山崎敏正, 菅野道夫: 複数の想起画像のEEGによる判別. 日本知能情報ファジィ学会・ソフトサイエンス研究部会 第24回ソフトサイエンス・ワークショップ, 久留米, 2014.3.
48. 田中良典, 山ノ井高洋, 豊島恒, 山崎敏正, 大槻美佳, 菅野道夫: 身体部位名称想起時における脳内部位活動について. 第24回ソフトサイエンス・ワークショップ, 久留米, 2014.3.

[地方会]

1. 平松ふみ子, 橋本直樹, 秋谷絵理, 成田 学, 石塚麻伊子, 照井涼子, 斎藤かおり, 城内和香子, 藤田真善美, 塚本美奈: 北海道大学病院デイケアの活動に関する報告 - 2000～2012年のデータから -. 北海道精神神経学会 第123回地方会, 2013.7.

V. 研究活動

2. 伊藤さやか, 佐藤和則, 廣谷 真, 加納崇裕, 矢部一郎, 大槻美佳, 佐々木秀直: 単純ヘルペス脳炎治療後長期経過した2症例の高次脳機能検査. 第93回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2013.9.
3. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋伍, 佐野巴瑠奈, 武市亜理沙: モーラ指折り法が発話過程に及ぼす効果についての検討～失語症タイプによる差異に着目して～. 第25回東北神経心理懇話会, 仙台, 2014.2.

■業績 (平成 26 年度)

基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Miyata K, Yoshimura S, Hayashi Y: Facilitating patients with disorders of consciousness to sit without trunk support: a qualitative study. *Journal of Clinical Nursing*, 24:2498-2504, 2015.
2. Haga S, Ozawa T, Yamada Y, Morita N, Nagashima I, Inoue H, Inaba Y, Noda N, Abe R, Umezawa K, Ozaki M: p62/SQSTM1 plays a protective role in oxidative injury of steatotic liver in a mouse hepatectomy model. *Antioxid Redox Signal* 21:2515-2530, IF:7.667, 2014.
3. Sato M, Nakanishi K, Haga S, Fujiyoshi M, Baba M, Mino K, Yimin, Niwa H, Yokoo H, Umezawa K, Ohmiya Y, Kamiyama T, Todo S, Taketomi A, Ozaki M: Anoikis induction and inhibition of peritoneal metastasis of pancreatic cancer cells by a nuclear factor-kappa B inhibitor (-)-DHMEQ. *Oncology Research* 21:333-343, IF:0.916, 2014.
4. Watanabe R, Shimoda T, Yano R, Hayashi Y, Nakamura S, Matsuo J, Yamaguchi H: Visualization of hospital cleanliness in three Japanese hospitals with a tendency toward long-term care. *BMC Research Notes*, 10.1186/1756-0500-7-121, 2014.
5. Sato M, Sumi N: Factors related to self-efficacy among men and women undergoing outpatient chemotherapy in Japan. *Scand J Caring Sci* 29:745-750, 2015.
6. Yamanoi T, Tanaka Y, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T, Sugeno M: Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Names of Body Parts II. *Recent Developments and New Directions in Soft Computing*, Springer International Publishing Switzerland, 137-147, 2014.
7. Shrestha R, Hui S-P, Sakurai T, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Identification of molecular species of cholesteryl ester hydroperoxides in very low-density and intermediate-density lipoproteins. *Ann Clin Biochem* 51:662-671, 2014.
8. Fuda H, Watanabe M, Hui S-P, Joko S, Okabe H, Jin S, Takeda S, Miki E, Watanabe T, Chiba H: Anti-apoptotic effects of novel phenolic antioxidant isolated from the pacific oyster (*Crassostrea gigas*) on cultured human hepatocytes under oxidative stress. *Food Chem* 176:226-233, 2015.
9. 小林 甫, 山田美季, 池田雪花, ガンゾリグ・オチゲレル, 渡辺玲奈, 矢野理香: 電子レンジ加熱による清拭タオルの有用性に関する検討 温湯清拭タオルとの経時的温度比較. *日本看護技術学会誌* 13: 200-210, 2014.
10. 吉田祐子, 矢野理香: 皮下注射前における皮膚消毒の必要性に関する文献的研究. *日本看護技術学会誌* 13: 140-147, 2014.
11. 二見朝子, 工藤有紀, 榎本竜哉, 下田智子, 良村貞子: 擬似病室における患者のパーソナルスペースを考慮した看護師の立ち位置. *日本看護技術学会誌* 13 巻 3 号: 211-218, 2014.
12. 岩山陽子, 櫻田弘美, 亀田悦子, 船木典子, 石田香代子, 松野千代美, 岩本幹子: 新人看護職員研修後の到達目標到達度の評価研究 研修終了時から 3 年目への到達度の変化. *日本看護学会論文集 看護管理* 45: 43-46, 2015.
13. 岩本満美, 岩本幹子, 高岡勇子: 救急初療看護における臨床経験による臨床判断の差異 初療経験 1 年

V. 研究活動

- 目と5年目以上の看護師のインタビューから. 日本救急看護学会雑誌 16:13-22, 2014.
14. 大槻美佳: 言語機能における島の役割. 神経心理学 30:30-40, 2014.
 15. 大槻美佳: 多発性硬化症の認知期の障害の特徴. 神経内科 80(5):562-568, 2014.
 16. 大槻美佳: 脳損傷からみることばのしくみーよりよいリハビリテーションへのつながりとしてー. 言語聴覚学研究 11(3):155-165, 2014.
 17. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 竹内菜穂子, 杉村敏秀: 「電子機器機能の重複現象」の発音機序についてー新たな妄想性誤認症候群の一徴候ー. 神経心理学 31:56-69, 2015.
 18. 緒方昭彦, 輿水修一, 浜上尚也, 大槻美佳, 山内朋裕, 森脇拓也, 吉野雅美, 加藤正仁, 青樹毅, 今村博幸, 小柳泉, 会田敏光, 野村憲和: Parkinson disease with dementia (PDD) の臨床的特徴と治療経過の解析. 第39回札幌市医師会医学雑誌 83-84, 2014.
 19. 堀越直子, 大平哲也, 結城美智子, 矢部博興, 安村誠司: 東日本大震災における避難場所の違いによる生活習慣の実態と電話支援の取組みについてー福島県県民健康調査ー厚生指標 62(3):2-8, 2015.
 20. 柏木久美子, 結城美智子, 高瀬佳苗: 糖尿病腎症透析患者の社会活動とQOL. 日本透析医学会雑誌 48(3):179-186, 2015.

B. 著書

1. 大槻美佳: 脳における言語の表象と処理. 言語と身体性. 岩波講座コミュニケーションの認知科学. 93-121, 岩波書店, 東京, 2014.
2. 大槻美佳: 言語障害, せん妄, うつ病性障害/アパシー, 認知症への対応. 脳梗塞診療読本(豊田一則編著). 243-264, 中外医学社, 東京, 2014.
3. 大槻美佳: 失語および関連言語症状. 日常診療に必要な認知症症候学(池田学編). 143-153, 新興医学出版社, 東京, 2014.
4. 大槻美佳: 言語障害. 脳神経外科診療プラクティス(橋本信夫監修, 三国信啓, 深谷親編集). 26-37, 文光堂, 東京, 2014.
5. 大槻美佳: 前頭葉外側 Case02. 症例で学ぶ高次脳機能障害ー病巣部位からのアプローチ(鈴木匡子編著). 7-12, 中外医学社, 東京, 2014.
6. 大槻美佳: 前頭葉外側 Case03. 症例で学ぶ高次脳機能障害ー病巣部位からのアプローチ(鈴木匡子編著). 13-19, 中外医学社, 東京, 2014.
7. 大槻美佳: 側頭葉外側 Case10. 症例で学ぶ高次脳機能障害ー病巣部位からのアプローチ(鈴木匡子編著). 56-60, 中外医学社, 東京, 2014.
8. 大槻美佳: 前頭葉と高次脳機能障害. 標準言語聴覚学. 高次脳機能障害学. 第2版(藤田郁代, 関啓子編). Pp165-180, 医学書院, 2014.

C. 総説, 解説, 論評

D. 報告書

1. 溝部佳代, 横澤宏一, 澤部祐貴, 太田早紀, 河村優生, 半谷早紀枝, 下條暁司, 尾崎倫孝: 絶食ストレス下における情動刺激に伴う生理的・心理的变化ー快・不快画像による脳磁図・脈拍・呼吸・主観的評価の比較ー. 日本生体磁気学会誌 27(1):160-161, 2014.

V. 研究活動

2. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋伍, 佐野巴瑠奈, 武市垂理沙. モーラ指折り法が発話過程に及ぼす効果についての検討—失語症タイプによる再に着目して—. 臨床神経心理 25: 15, 2014

E. その他

[学会研究会の主催]

1. 矢野理香: 第18回看護総合科学研究会学術集会 札幌 大会長

[報道]

1. 「①脂肪肝障害の分子メカニズムの解明, および②非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH: non-alcoholic steato-hepatitis) の発生・進行において中心的役割を果たす p62/SQSTM1 分子の同定とその分子メカニズムの解明に成功。」に関する報道。プレス・リリース: 北海道大学大学院 保健科学研究院において (2014.6.25), 報道: WEB掲載; ASAHI WEB News (2014.6.28), Yahoo Japan News (2014.6.25), Yomiuri Online (2014.6.26), ガジェット通信 (2014.6.26), マイナビニュース (2014.6.27), The Wall Street Journal (2014.6.26), 北海道新聞 Doshin (2014.6.26), 新聞掲載: 北海道新聞 (2014.6.26), 読売新聞 (2014.6.26), 朝日新聞 (2014.6.28), 北海道医療新聞 (2014.7.25)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Ozaki M: Session III “New Technology for Innovative Medicine”, The Uehara Memorial Foundation Symposium 2014 “INNOVATIVE MEDICINE” Basic Research and Development, Tokyo, 2014.6.
2. Ozaki M, Ozawa T, Yamada Y: Development of a New in vivo Optic Probe for Biological Diagnosis and Therapy, Session III “New Technology for Innovative Medicine”, The Uehara Memorial Foundation Symposium 2014 “INNOVATIVE MEDICINE” Basic Research and Development, Tokyo, 2014.6
3. Yamanoi T, Tanaka Y, Otsuki M, Toyoshima H, Yamazaki T, Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Body Parts, IEEE International Conference on Fuzzy System, Beijing, China, 2014.7.6~11.

[国内学会]

1. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 野田なつみ, 森田直樹, 服部 満, 小澤岳昌: パネルディスカッション1 光を応用した移植細胞機能・細胞環境のモニタリングと制御の試み. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014.4.
2. 大槻美佳: 今日の視点からみる言語領野の機能. 第34回日本脳神経外科コンgres プレナリーセッション, 大阪, 2014.5.
3. 良村貞子: 教育講演 チーム医療とコンプライアンス. 第12回J I S A R Tシンポジウム, 札幌, 2014.6.
4. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 野田なつみ, 森田直樹, 小澤岳昌: シンポジウム1 光イメージング技術を用いた肝病態の解析. 第21回肝細胞研究会, 東京, 2014.6.
5. 大槻美佳: パーキンソン病の高次脳機能障害. 第3回北海道難病リハビリテーション研究会, 札幌,

V. 研究活動

2014.7.

6. 大槻美佳：認知症における失語症とリハビリテーション. 認知症の人と家族の会 ひまわり塾 講演会, 札幌, 2014.7.
7. 大槻美佳：短期記憶障害とその対応. 高次脳機能障害学会 2014年 夏期教育研修講座, 名古屋, 2014.7.
8. 大槻美佳：進行性非流暢性失語(PNF A)の症候. 第28回老年期認知症研究会, 東京, 2014.7.
9. 大槻美佳：脳が損傷されたらどのようなことが生じるのか～脳損傷後に生じる言葉・行動の障害～. 金沢講演会, 金沢, 2014.7.
10. 大槻美佳：認知症と高次脳機能障害～失認・失行を中心に～. 第2回認知症セミナー, 青森, 2014.8.
11. 大槻美佳：側頭葉損傷による神経心理学的症候. 第38回日本神経心理学会 教育講演, 山形, 2014.9.
12. 大槻美佳：発話の神経基盤. 第4回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会大会, 大分, 2014.10.
13. 大槻美佳：認知症と高次脳機能障害～動画を中心に～. 第3回認知症セミナー, 青森, 2014.10.
14. 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 野田なつみ, 尾崎倫孝：ポスター 高血糖および脂肪化状態が肝虚血/再灌流傷害に及ぼす影響 Impact of high glucose and steatosis upon ischemia/reperfusion-induced liver injury in mouse. 第87回日本生化学会, 京都, 2014.10.
15. 尾崎倫孝：オープンカンファレンス 肝臓のストレス応答(傷害と再生)について - 脂肪肝から NASH へ -. 国立病院機構福山医療センター, 広島, 2014.10.
16. 尾崎倫孝：シンポジウム 臓器保存と機能再生 ～傷害抑制から再生・創成に向けたイノベーション～. 第41回日本臓器保存生物医学会学術集会, 大阪, 2014.11.
17. 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 野田なつみ, 尾崎倫孝：受賞記念講演(平成25年度日本臓器保存生物医学会奨励賞) “光”を利用した新たな細胞・臓器保存法の開発. 第41回日本臓器保存生物医学会学術集会, 大阪, 2014.11.
18. 尾崎倫孝：“光”を通じて今見えること, そして将来できること - 医療へ, そして日常へ -. 北海道大学大学院保健科学研究所 公開講座 2014「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」, 札幌, 2014.11.
19. 大槻美佳：講演言語および関連症候の神経基盤. ストップ! NO 卒中プロジェクト エリア会議, 札幌, 2014.11.
20. 大槻美佳：進行性非流暢性失語の症候と経過. 第38回高次脳機能障害学会 シンポジウム, 仙台, 2014.11.
21. 尾崎倫孝：講演「肝臓ストレスとストレス応答(傷害と再生)の分子機構の解析と動的理解の試み」. 第43回染色体工学研究セミナー, 鳥取, 2014.12.
22. 大槻美佳：原発性進行性失語の診方とその問題点. 神経心理懇話会, 大阪, 2014.12.
23. 尾崎倫孝：講演 種々の病態における肝臓ストレスの解析 - 生体イメージング法による動的解析の試み -. 金沢大学脳・肝インターフェースメディスン研究センター研究セミナー, 金沢, 2015.1.
24. 尾崎倫孝：講演 肝における酸化ストレス, 傷害と炎症. 鳥取大学セミナー「とっとりバイオフィロンティア毒性勉強会」. 鳥取, 2015.2.
25. 大槻美佳：損傷脳からみる認知機能のしくみ. 日本知能情報ファジィ学会ブレイン・コンピューティング研究部会, 札幌, 2015.3.
26. 大槻美佳：認知症の症候と病態. しばれセミナー, 札幌, 2015.3.
27. 尾崎倫孝：講演 肝細胞(とくに脂肪化肝細胞)における酸化ストレスと細胞死について. 第22回日本

肝臓医生物学研究会；LBSG-J（プロメテウスの会），金沢，2015.3.

[地方会]

1. 大槻美佳：失語・高次脳機能障害の基礎と臨床. 日本福祉リハビリテーション学院記念講演，札幌，2014.9.
2. 大槻美佳：ミニレクチャー，第17回脳の臨床研究会，札幌，2014.9.
3. 大槻美佳：ブローカ失語，進行性原発性失語. 山陰言語聴覚士協会講演会，米子，2015.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ozaki M: Application of an Optic Imaging Technology for Organ Transplantation “移植におけるイメージング技術の応用”，Boston, USA, 2014.3.
2. Shimoda T, Yoshida Y, Ogasawara K, Yoshimura S: A study on health promotion for elderly people by maintaining physical activity in a heavy-snow area in Japan. The 35th International Association for Human Caring Conference, Kyoto, 2014.5.
3. Shimoda T, Yoshimura S: Discussing childcare difficulties on an advanced tele-health consultation system in Japan. 30th Triennial ICM Congress, Prague, Czech Republic, 2014.6.
4. Takamuro N, Watanabe R, Yoshimura S: Child Care Uneasiness of Mothers Immediately after Childbirth in Japanese Birth Center under Midwife's Management and Associated Issues. 30th Triennial ICM Congress, Prague, Czech Republic, 2014.6.
5. Yoshimura S, Shimoda T: Discussing Childcare Difficulties on an Advanced Tele-health Consultation System in Japan. The 30th ICM, Prague, Czech Republic, 2014.6.
6. Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T, Sugeno M: Brain Computer Interface by Use of Single Trial EEG on Recalling of Several Images. 14th Information Conference Information Processing and Management of Uncertainty, France, Montpellier, 2014.7.
7. Shimoda T, Yoshimura S: Risk Management by Nurses at Mealtimes to Prevent Postoperative Aspiration Pneumonitis in Patients with Thoracic Esophageal Cancer, 3rd World Congress of Clinical Safety, Madrid, Spain, 2014.9.
8. Terashima T, Yoshimura S, Tanemoto J, Mitsuno K, Takeshima H, Kikuchi R: Analysis of Nurse-Related Adverse Drug Events Based on Publicly Available Data, 3rd World Congress of Clinical Safety, Madrid, Spain, 2014.9.
9. Masamoto T, Yano R: Characteristics of assessments performed by nurses for the selection of the intravenous insertion site for infusion using a short peripheral catheter. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015.2.
10. Shishido I, Kutomi S, Miyata R, Yamaguchi Y, Yano R: Effect of applying a hot towel against the skin for a short period during bed bathing -Changes in keratin fluid volume and skin surface temperature-. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015.2.
11. Yoshida Y, Yano R: Certified Nurses in Infection Control Address the Use of Skin Disinfection Before Subcutaneous Injection. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015.2.

V. 研究活動

12. Tsukamoto M: Stress Management Programs Intended for nurses in Japan and Their Intervention Effects - Review of Literature over Past 10 Years. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015, Taipei, Taiwan, 2015.2.
13. Tsukamoto M, Miyajima N, Kako Y: Relevance of Stress Coping and Social adaptation on Outpatients with Anorexia Nervosa. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars 2015, Taipei, Taiwan, 2015.2.
14. Shimoda T: Postoperative nutrition management focused on oral intake during the recovery process in esophagectomy, THE 18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, Taipei, Taiwan, 2015.2.
15. Nakata A, Miyajima N, Sato Y: The Factors of Child Dental Fear. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015.2.

[国内学会]

1. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋伍, 佐野巴瑠奈, 武市亜理沙: モーラ指折り法が発話過程に及ぼす効果についての検討 失語症タイプによる差異に着目して. 第25回東北神経心理懇話会, 仙台, 2014.2.
2. 大槻美佳, 中川賀嗣, 吉野雅美, 緒方昭彦, 田島康敬: 左頭頂葉損傷における言語症候. 第55回日本神経学会, 福岡, 2014.5.
3. 緒方昭彦, 浜上尚也, 大槻美佳, 輿水修一, 山内朋裕, 森脇拓也, 吉野雅美, 加藤正仁, 青樹毅, 今村博幸, 小柳泉, 會田敏光: アルツハイマー病における血清中の内因性 monoamine oxidase 阻害物質濃度の解析. 第55回日本神経学会, 福岡, 2014.5.
4. 溝部佳代, 横澤宏一, 澤部祐貴, 太田早紀, 河村優生, 半谷早紀枝, 下條暁司, 尾崎倫孝: 絶食ストレス下における情動刺激に伴う生理的・心理的变化—快・不快画像による脳磁図・脈拍・呼吸・主観的評価の比較—. 第29回日本生体磁気学会大会, 大阪, 2014.5.
5. 浦茂久, 河端聡, 黒島研美, 吉田一人, 大槻美佳: 脳SPECTで後頭葉血流低下を認めた抗グルタミン酸受容体抗体陽性脳炎の臨床的検討. 第55回日本神経学会, 福岡, 2014.5.
6. 芳賀早苗, 小澤岳昌, 山田勇磨, 森田直樹, 野田なつみ, 尾崎倫孝: p62/SQSTM1が制御する肝細胞障害機序の解析. 第21回肝細胞研究会, 東京, 2014.6.
7. 塚本美奈, 宮島直子: 神経性無食欲症患者の退院後のストレス対処と社会的適応状態について. 日本精神保健看護学会第24回学術集会, 横浜, 2014.6.
8. 葛西理沙, 山本彩乃, 武田莉奈, 青山美穂, 新井田知里, 山品博子, 佐藤三穂, 鷺見尚己: 診療録における慢性心不全患者の実態調査. 第8回日本慢性看護学会学術集会, 久留米, 2014.7.
9. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 一般児童における歯科恐怖の実態—歯科恐怖と歯科受診歴, 歯科の印象, 保護者の歯科恐怖との関係—. 第40回日本看護研究学会, 奈良, 2014.8.
10. 吉田祐子, 下田智子, 良村貞子: 豪雪無医村地区の高齢者の遠隔医療相談における携帯情報端末(iPad)導入時の課題. 第18回日本看護管理学会学術集会, 松山, 2014.8.
11. 中西千代美, 岩本幹子, 良村貞子: 大学病院で2年目を迎える看護師が認識する身体侵襲を伴う看護技術の課題—「看護技術を支える要素」の評価をもとに—. 第18回日本看護管理学会学術集会, 松山, 2014.8.
12. 菊池直子, 畑下美和, 矢野理香: 化学療法を受ける肺がん患者の高額療養費制度利用に関する看護師の知識および認識の実態. 第45回日本看護学会看護教育学術集会, 新潟, 2014.9.

V. 研究活動

13. 田村菜穂美, 寺下貴美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者への支援に向けた健康影響評価. 第34回医療情報学会連合大会, 千葉, 2014.9.
14. 下田智子, 伊藤千紘, 樋口亜耶, 熊谷聡美, 堤昌恵, 新山久美, 七戸俊明: 胸壁前胃管再建術を行った食道癌患者の術後回復過程に沿った食事支援の検討. 第20回日本摂食嚥下リハ学会学術大会, 東京, 2014.9.
15. 山ノ井高洋, 豊島 恒, 山崎敏正, 大槻美佳, 菅野道夫: 十種の画像イメージ時 EEG による BCI. 第30回ファジィシステムシンポジウム, 高知, 2014.9.
16. 櫛引勝年, 溝部佳代, 新山久美, 岡林靖子: 体外式補助人工心臓装着患者家族の心臓移植待機期間における経験と危機介入. 第52回日本人工臓器学会大会, 札幌, 2014.10.
17. 吉田祐子, 中井夏子, 小川謙, 門間正子: 北海道の地方都市における救急看護師の職務継続の構造. 日本救急看護学会, 大阪, 2014.10.
18. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋伍, 佐野巴瑠奈, 武市亜理沙, 高清水柚花: 記号素性錯語の発現機序についての検討—誤反応の質とその変遷に着目して—. 第38回日本高次脳機能障害学会総会, 仙台, 2014.11.
19. 細川幸太郎, 大門正太郎, 竹谷一輝, 吉野雅美, 大槻美佳: 本能的把握反応 ～病巣と出現機序～. 第38回高次脳機能障害学会, 仙台, 2014.11.
20. 佐藤玲子, 竹内茂伸, 井後雅之, 大槻美佳: 失構音を伴った LPA の一症例. 第38回高次脳機能障害学会, 仙台, 2014.11.
21. 黒川清博, 大槻美佳, 川崎未来, 池内英里菜, 竹内茂伸, 河井信行: 失語症の言語機能に影響を及ぼす非言語性背景の検討. 第38回高次脳機能障害学会, 仙台, 2014.11.
22. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一, 山本裕美子, 岩井哲也, 一条晋吾, 佐藤巴瑠奈, 武市亜理沙, 高清水柚花: 記号素性錯語の発現機序についての検討. 第38回高次脳機能障害学会, 仙台, 2014.11.
23. 井川大樹, 大槻美佳: 数と語で異なる表出の誤り方を認めた1例. 第38回高次脳機能障害学会, 仙台, 2014.11.
24. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 1歳半児の咀嚼力と養育者の児への食事提供の実態との関連. 第73回日本公衆衛生学会, 宇都宮, 2014.11.
25. 森田直樹, 尾崎倫孝: 新規分泌型発光プローブをもちいたマウス腫瘍の増殖モニタリング. 第18回日本がん分子標的治療学会学術集会, 仙台, 2014.6.
26. 矢野理香, 秋山雅代, 縄秀志, 大橋久美子, 佐居由美, 櫻井利江, 樋勝彩子: 手浴ケアが患者-看護師の関係性にもたらす質的変化の検討～手浴群と対照群の比較～. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
27. 吉田祐子, 矢野理香: 皮下注射前の皮膚消毒実施に関する感染管理認定看護師の認識. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
28. 武田さちか, 岩切夏希, 穴戸穂, 細川裕也, 吉田祐子, 矢野理香: 清拭時に温タオルを短時間貼用する効果の検証(第1報)—皮膚表面温度, 角質水分量の変化—. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
29. 細川裕也, 穴戸穂, 岩切夏希, 武田さちか, 吉田祐子, 矢野理香: 清拭時に温タオルを短時間貼用する効果の検証(第2報)—短時間貼用の有無と ATP 値の関連—. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.

V. 研究活動

30. 大橋久美子, 縄秀志, 佐居由美, 櫻井利江, 樋勝彩子, 矢野理香:「気持ちよさ」をもたらす看護ケアの効果に関する統合的文献レビュー. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
31. 縄秀志, 矢野理香, 佐居由美, 大橋久美子, 櫻井利江, 樋勝彩子:気持ちよさをもたらす看護ケア理論の開発に向けて. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
32. 榎本常子, 矢野理香:点滴静脈内注射における血管確保技術に関する文献検討. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
33. 吉良いずみ, 菱沼典子, 塚越みどり, 矢野理香, 久賀久美子, 加藤木真史, 丸山朱美, 野月千春, 酒井礼子, 加藤祥子:便秘症状の緩和のための温罨法Q & A. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
34. 浅井真理亜, 吉田鈴, 青木梨理子, 下田智子, 矢野理香:疑似病棟における看護行為時に発生する音量と音への意識との関連. 日本看護技術学会第13回学術集会, 京都, 2014.11.
35. 川畑いづみ, 高橋久美子, 矢野理香, 鷺見尚己, 中西千代美, 山谷敦子, 石田香代子, 下河原みゆき, 新山久美, 林みゆき:臨床看護師への研究活動支援プログラムの構築-臨床と大学との協働:Nursing Research Caféの運用と効果-. 第34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.11.
36. 六戸 穂, 矢野理香:清拭に関する統合的文献レビュー. 看護総合科学研究会第18回学術集会, 札幌, 2014.11.
37. 梅林秀行, 井ノ上淳, 坂元あい, 佐藤朱音, 塚本美奈, 宮島直子:精神科看護職員がケアとして行う見守りの実態. 第18回看護総合科学研究会学術集会, 札幌市, 2014.11.
38. 溝部佳代, 澤部祐貴, 太田早紀:絶食ストレス下におけるストレスマネジメントの検討-情動刺激に伴う生理的・主観的变化より-. 第34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.11.
39. 石岡明子, 小野塚美香, 中野政子, 石田香代子, 櫻田弘美, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代:大学病院における院内認定がん看護エキスパートナース養成プログラムの学習効果と課題. 第34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.11.
40. 石黒 毅, 佐伯和子, 宮島直子:うつ状態にある友人への対応に関する大学生の意識. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
41. 石岡明子, 小野塚美香, 高岡勇子, 中野政子, 石田香代子, 櫻田弘美, 岩山陽子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代:院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの開発に向けた取り組み. 第28回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
42. 前田梨紗, 佐藤三穂, 山品博子, 中野政子, 成瀬恭子, 鷺見尚己:がん治療に対するオーラルマネジメントの実態調査-北海道内がん診療連携拠点病院における施設調査より-. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
43. 千葉桃子, 山本円香, 小林璃奈, 堀彩香, 水野織絵, 本田秀子, 矢野理香:一般病棟で生体モニターを使用しないことを希望した患者と家族への看護支援-臨床倫理の四分割法を用いて-. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
44. 下田智子, 伊藤千紘, 樋口亜耶, 熊谷聡美, 新山久美, 武田宏司, 七戸俊明:食道癌患者の周術期におけるHarris-Benedict式と体成分分析装置による経口摂取に着目した栄養評価の比較. 第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015.2.
45. 井川大樹, 馬場雄大, 大槻美佳:「数」の処理と「語彙」の処理. 東北神経心理懇話会, 仙台, 2015.2.

V. 研究活動

[地方会]

1. 大嶋美紀, 竹内麻子, 富樫恵美, 横井亜友美, 棚田郁子, 岡林靖子, 佐藤三穂: インスリン使用高齢者の低血糖に関する実態調査. 第19回北海道糖尿病看護研究会, 札幌, 2014.10.
2. 村田恵理: 血管弛緩作用を惹起する赤ワイン由来ポリフェノール化合物(RWPCs)における有効成分の単離及び分析. 基礎科学をもとにしたCo-Medical研究会. 山形, 2014.11.
3. 坪口晋太郎, 徳武孝充, 関根有美, 大槻美佳, 下畑享良, 西澤正豊: 第二外国語の日の語での語健忘を認めた日経ブラジル人の77歳男性. 第212回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2015.3.

■業績 (平成 27 年度)

基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Yamada Y, Nakamura K, Abe J, Hyodo M, Haga S, Ozaki M, Harashima H: Mitochondrial delivery of Coenzyme Q10 via systemic administration using a MITO-Porter prevents ischemia/reperfusion injury in the mouse liver. *Journal of Controlled Release* 213:86-95, IF:7.705, 2015.
2. Inaba Y, Furutani T, Kimura K, Watanabe H, Haga S, Kido Y, Matsumoto M, Yamamoto Y, Harada K, Kaneko S, Oyadomari S, Ozaki M, Kasuga M, Inoue H: Gadd34 regulates liver regeneration in hepatic steatosis. *Hepatology* 61:1343-1356, IF:11.190, 2015.
3. Yuki M, Ishida T, Sekine S: Secondary exposure of family members to cyclophosphamide after chemotherapy of outpatients with cancer: A pilot study. *ONF* 42: 665-671, 2015.
4. Shimoda T, Yoshimura S, Yoshida Y, Okazaki M, Gotou T, Tamura S, Ogasawara K : Development and current status of an advanced telehealth consultation system in Japan. *Journal of Telemedicine and Telecare* 21(3):176-178, 2015.
5. Shimoda T, Yano R, Nakamura S, Yoshida M, Matsuo J, Yoshimura S, Yamaguchi H: ATP bioluminescence values are significantly different depending upon material surface properties of the sampling location in hospitals. *BMC Res Notes* 8:807, 10.1186/s13104-015-1757-9, 2015.
6. Yamazaki T, Matsuo J, Takahashi S, Kumagai S, Shimoda T, Abe K, Minami K, Yamaguchi H: A characteristic of polymorphic membrane protein F of *Chlamydia trachomatis* isolated from male urogenital tracts in Japan. *J Infect Chemother.* 21(12):842-8, 2015.
7. Hayashi N, Jin S, Ujihara T: Highly selective recognition of tryptophan in water by a poorly water-soluble scandium compound. *Tetrahedron Lett* 56:5557-5560, 2015.
8. Ichikawa N, Yamashita K, Funakoshi T, Ichihara S, Fukai M, Ogura M, Kobayashi N, Zaitsumi M, Yoshida T, Shibasaki S, Koshizuka Y, Tsunetoshi Y, Sato M, Einama T, Ozaki M, Umezawa K, Suzuki T, Todo S: Novel anti-inflammatory agent 3-[(dodecylthiocarbonyl)-methyl]-glutarimide ameliorates murine models of inflammatory bowel disease. *Inflammation Research* 65:245-260, IF:2.347, 2016.
9. Jennings RT, Odkhuu E, Nakashima A, Morita N, Kobayashi T, Yamai I, Tanaka M, Suganami T, Haga S, Ozaki M, Watanabe Y, Nagai Y, Takatsu K, Kikuchi-Ueda T, Ichimonji I, Ogawa Y, Miyake K, Akashi Takamura S: MD-1 is a valuable biomarker for inflammatory responses. *International Immunology* (in press), IF:2.536, 2016.
10. 伊藤由美, 良村貞子, 佐川正: 助産システムにおける概念分析に基づく助産師の自律性の特徴. *母性衛生* 56(1): 95-103, 2015.
11. 渡辺玲奈, 下田智子, 矢野理香, 良村貞子: 病床規模の異なる病院における ATP (アデノシリン三リン酸) 値を用いた環境表面清浄度調査. *看護総合科学研究会誌* 16(1): 13-21, 2015.
12. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 1歳半児の咀嚼力と養育者の児への食事提供の実態. *厚生の指標* 62(7): 12-18, 2015.
13. 永井雅人, 大平哲也, 安村誠司, 高橋秀人, 結城美智子, 中野裕紀, 章文, 矢部博興, 大津留晶,

V. 研究活動

- 前田正治, 高瀬佳苗: 東日本大震災の避難者の避難状況と運動習慣 福島県「県民健康調査」. 日本公衆衛生雑誌 63:3-10, 2015.
14. 穴戸 穂, 武田さちか, 細川裕也, 岩切夏希, 吉田祐子, 矢野理香: 清拭時に温タオルを短時間貼用する効果の検証—皮膚表面温度・角質水分量・ATP 値の変化および主観的評価より—. 日本看護技術学会誌, 14:185-194, 2015.
15. 菊池直子, 矢野理香: 化学療法を受ける肺がん患者の高額療養費制度利用に関する看護師の知識および認識の実態. 看護総合科学研究会誌 16:23-29, 2015.
16. 坂元あい, 佐藤朱音, 梅林秀行, 井ノ上淳, 塚本美奈, 宮島直子: 精神科看護職員がケアとして行う見守りの実態. 看護総合科学研究会誌 16:3-12, 2015.
17. 佐藤三穂, 鷲見尚己: 通院がん患者の支援に対する外来看護師と他職種・他部門との連携の実態. 日本がん看護学会誌 29:98-104, 2015.
18. 村田恵理, 三重堀亜矢, 山崎理美, 岩田宏紀, 森田真一, 石幡 明, 片野由美: 血管弛緩作用を惹起する赤ワイン由来ポリフェノール化合物 (RWPC s) における有効成分の分離及び分析. 基礎科学をもとにした Co-Medical 研究会雑誌 3:29-37, 2015.
19. 大槻美佳: 進行性非流暢性失語の症候と経過. 高次脳機能研究 35(3):297-303, 2015.
20. 大槻美佳: 側頭葉損傷による神経心理学的症候. 神経心理学 31:126-135, 2015.
21. 緒方昭彦, 輿水修一, 浜上尚也, 大槻美佳, 山内朋裕, 森脇拓也, 吉野雅美, 青樹毅, 今村博幸, 小柳泉, 會田敏光: アルツハイマー病血清中内因性 monoamine oxidase(MAO) 阻害物質濃度と臨床重症度との比較検討. 第 40 回札幌市医師会医学雑誌, 131-132, 2015.
22. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 竹内奈緒子, 杉村敏秀: 妄想性誤認症候群の成立機序再考—確信感の病理という観点から—. 神経心理学 31(3):222-226, 2015.
23. 石黒 毅, 佐伯和子, 宮島直子: うつ状態にある友人への対応についての大学生の意識と性別及び学部系統との関連. 北海道公衆衛生学雑誌 29:53-60, 2016.
24. 賀集仁美, 塚本美奈: 医療系大学生の精神障害者に対する社会的態度—知識や関わりの体験との関連について—. 北海道公衆衛生学雑誌 29:93-100, 2016.
25. 大槻美佳: 前頭側頭葉変性症の新しい概念と類型分類. 日本臨床 74 巻第 3 号 :459-465, 2016.
26. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣: 虚を實と確信するメカニズム 妄想性誤認に対する臨床神経心理学的検討. 神経心理学 32, 31-43, 2016.
27. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 竹内奈緒子, 杉村敏秀: 多元的なアプローチに基づく妄想性誤認症候群の病態理解にむけて. 神経心理学 32:79-84, 2016.

B. 著書

1. Ozaki M, Ozawa T, Yamada Y: "Development of a New In Vivo Optical Probe for Biological Diagnosis and Therapy" in "Innovative Medicine Basic Research and Development" Edited by Nakao K, Minato N, Uemoto S, Springer OPEN, 265-279, Tokyo, 2015.
2. 大槻美佳: Broca 領域失語と前頭葉性超皮質性感覚失語. 超皮質性失語 (日本高次脳機能障害学会教育・研修委員会編). 123-149, 新興医学出版, 東京, 2015.
3. 大槻美佳: 高次脳機能障害. 脳神経外科プラクティス 5. 無症候性脳梗塞. 344-353, 文光堂, 東京, 2015.

V. 研究活動

4. 大槻美佳:言語機能損傷後の機能回復. 脳神経外科プラクティス6. 脳神経外科医が知っておくべきニューロサイエンスの知識. 71-72, 文光堂, 東京, 2015.
5. 大槻美佳:前頭葉と高次脳機能障害. 高次脳機能障害 第2版. 165-180, 医学書院, 東京, 2015.
6. 結城美智子(分担):保健医療サービス関係者との連携と実際. 社会福祉学習双書 医学一般(社会福祉法人 全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書」編集委員会編). 307-316, 社会福祉法人 全国社会福祉協議会, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 良村貞子:特定行為に係る看護師の研修制度と法的課題. 年報 医事法学 30, 93-101, 2015.

D. 報告書

1. 結城美智子:基盤研究(B)福島原子力災害避難者の住民交流と健康支援のためのコミュニティサロンの運営と評価. 科学研究費助成事業 研究成果報告書, 2015.
2. 大槻美佳:言語の変化と意識の変化. ひまわり通信(第53号), 2015.6.
3. 矢部一郎, 大槻美佳:挑戦!脳トレゲーム. 脳力アップ習慣. 道新ポケットブック10月号:30-39, 2015.
4. 矢野理香, 鷺見尚己, 吉田祐子:地域医療の質向上と看護職の健康管理のためのICT技術の開発とクラウドサービス活用の実証研究. 戦略的情報通信研究開発事業(SCOPE)地域ICT振興型研究開発 研究開発内容報告書, 2016.1.

E. その他

[学会研究会の主催]

1. 良村貞子:日本医事法学会第45回研究大会, 北海道大学, 札幌, 2015.10.31-11.1. 大会長
2. 大槻美佳:第39回日本神経心理学会, 札幌 2015.9.10-11. 会長

[特許]

1. 「ルシフェラーゼを含む発光系及びそれを用いたイメージング方法」特許権者または出願人:呉純, 近江谷克裕, 尾崎倫孝 出願日:2008.9.26 出願番号:2008-249109

[報道]

1. 「抗がん剤をカプセルで 細胞傷めず運搬」日本経済新聞掲載(2015/10/12) 第74回 日本癌学会学術総会シンポジウム Application of basic research to surgical treatment (基礎研究の外科臨床への応用)にて「Development of a novel in vivo optic imaging technology for biological diagnosis and therapy. (生物学的診断と治療のための新たな生体光イメージング技術の開発)」と題して, これまでの成果を報告した(2015/10/9)。これらの成果は, 北大・薬(原島先生, 山田先生), 東大・理(小澤先生)との共同研究の成果であるが, 特にDDSの部分が日本経済新聞に掲載された。

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Sato M: Inter-professional collaboration in diabetes care in clinical settings. 3rd Java International Nursing Conference, Semarang, Republic of Indonesia, 2015.8.
2. Otsuki M: Language symptoms of FTD: longitudinal clinical investigation of PPA.(Symposium : FTD) The9th Asian Society Against Dementia (ASAD), Kumamoto, 2015.9.
3. Yamanoi T, Ohnishi S, Toyoshima H, Yamazaki T, Otsuki M, Sugeno M: Discrimination of Electroencephalograms During Recognizing and Recalling of Playing Card and its Application to BCI. IARIA The Eighth International Conference on Advances in Human-oriented and Personalized Mechanisms, Technologies, and Services (CENTRIC), Spain (Barcelona), 2015.11.

[国内学会]

1. 尾崎倫孝：シンポジウム 光イメージングによる虚血再灌流傷害の動的・質的解析. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.
2. 大槻美佳：教育講演 原発性進行性失語. 認知と行動の神経内科学. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015.5.
3. 大槻美佳：認知症における言語症状とその対応. 医師会講演会, 敦賀, 2015.5.
4. 大槻美佳：神経心理学と神経症候学一病巣と症状一. 第3回認知症研修会, 米子, 2015.6.
5. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 井上啓, 稲葉有香：シンポジウム1「脂肪肝における肝切除後肝傷害・肝再生不全の機序について」. 第22回肝細胞研究会, 鳥取, 2015.6.
6. 高倉祐樹, 大槻美佳, 杉原俊一：失構音の下位分類とその病態の発現機序について(平成26年度学術研究助成制度「若手研究コース」助成研究報告). 日本言語聴覚学会, 仙台, 2015.6.
7. 大槻美佳：特別講演 失語症のみかた 脳の視点と言語の視点. 第11回言語聴覚学会, 高松, 2015.7.
8. 大槻美佳：失語症の診断. 高次脳機能障害学会, 2015年夏期教育研修講座, 京都, 2015.7.
9. 鷲見尚己：Practice of oral care and related issues among nurses in cancer treatment: Approach for effective oral management. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, 2015.7.
10. 大槻美佳：言語と脳. 平成27年度認定言語聴覚士講習会, 東京, 2015.8.
11. 尾崎倫孝：講演「肝臓ストレスと生活習慣病」. 第46回北海道大学白菊会総会, 札幌, 2015.9.
12. 尾崎倫孝：シンポジウム「核内受容体を介した肝細胞機能制御」. 第23回日本肝臓医生物学研究会(プロメテウスの会), 千歳市, 2015.9.
13. 大槻美佳：会長講演 言語の神経心理学. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
14. 大槻美佳：シンポジウム 脳機能からみる言語と身体 What is language embodiment in view of brain function. 第32回日本認知科学会, 千葉, 2015.9.
15. 橋本竜作, 中川賀嗣, 大槻美佳：公募企画「疑問一挙解決!」. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
16. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 森田直樹, 伊敏, 菅野憲, 小澤岳昌：ワークショップ1「光技術を応用した移植臓器(組織)のモニタリングと制御の試み」. 第51回日本移植学会総会(臓器横断的ワークショップ1臓器移植における新規技術・機器の導入), 熊本, 2015.10.

V. 研究活動

17. Ozaki M, Haga S, Morita N, Yi M, Yamada Y, Ozawa T: Symposia-16 「Development of a novel in vivo optic imaging technology for biological diagnosis and therapy. (生物学的診断と治療のための新たな生体光イメージング技術の開発)」。第74回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2015.10.
18. 尾崎倫孝: 特別講演「種々の病態下における肝再生の分子機構—増殖・成長と傷害—」。京都肝胆膵外科カンファレンス, 京都, 2015.11.
19. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 森田直樹, 伊敏: シンポジウム(4)「p62/SQSTM1を基軸とした新たな肝臓・肝細胞保護・機能維持法の探索」。第42回日本臓器保存生物医学会学術集会(臓器保存機能再生をめぐる新技術—National projectをめざして2015), 岩手, 2015.11.
20. 大槻美佳: シンポジウム 前頭葉と理解障害。第39回日本高次脳機能障害学会, 東京, 2015.12.
21. 大槻美佳: 失語症の捉え方とアプローチ—神経基盤の視点から—。言語聴覚士研修会, 福岡, 2015.12.
22. 大槻美佳: 高次脳機能障害を診る視点と明快な診察方法。日本神経学会第6回専門医育成教育セミナー, 船橋, 2015.12.

[地方会]

1. 大槻美佳: レクチャー 高次脳機能検査の基礎と診方。神経内科研修医レクチャー, 札幌, 2015.4.
2. 大槻美佳: 発語の見方 発語失行を中心に。北斗病院研修会, 帯広, 2015.6.
3. 大槻美佳: 招待レクチャー 症例の見方・考え方。書字障害, 着衣障害, 拙劣症。第19回脳の臨床研究会, 札幌, 2015.9.
4. 大槻美佳: 教育講演 失語症のみかた。平成27年度高次脳機能障害研修会, 網走, 2016.2.
5. 大槻美佳: 高次脳機能障害の見方とその対応。Reらぶ 高次脳機能障がい講演会, 札幌, 2016.2.
6. 大槻美佳: 前頭葉・動作・行為。平成27年度高次脳機能障害研修会, 網走, 2016.2.
7. 大槻美佳: 超皮質性失語。山陰言語聴覚士協会講演会, 米子, 2016.3.
8. 大槻美佳: 招待レクチャー 外国人アクセント症候群 F A S (foreign accent syndrome), 第20回脳の臨床研究会, 札幌, 2016.3.
9. 大槻美佳: 言語の神経心理学。山陰言語聴覚士協会講演会, 鳥取, 2016.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ishibashi N, Yoshimura S: Old Japanese primiparas have more positive thoughts on childcare than primiparas less than thirty five years of age. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
2. Ishibashi N, Yoshimura S: A Review of Literature on Positive Thoughts of Elderly Japanese Primipara Related to Childcare. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, 2015.7.
3. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T: Positive Effects of Occurrence Ratio of Perineal Laceration based on Freestyle Delivery Positions. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, 2015.7.
4. Yuki M, Furuto J, Suzuki Y, Kikukawa Y: Mental health of life support counsellors assisting evacuees after the Fukushima Nuclear Power Plant Accident. The 6th International Conference on Community Health Nursing research, Seoul, Korea, 2015.8.
5. Furuto J, Suzuki Y, Kikukawa Y, Sato S, Suzuki R, Sukegawa M, Igari T, Muroi H, Takada K, Yuki M: Change in kyphosis and activities of daily living in elderly residents of mountainous area: A follow-up

- study after 6 years. The 6th International Conference on Community Health Nursing research, Seoul, Korea, 2015.8.
6. Shimoda T, Kumagai S, Shichinohe T, Takeda H: Postoperative nutrition management focused on body composition and nutritional status during recovery after esophagectomy. President of the Parenteral and Enteral Nutrition Society of Asia 2015, Nagoya, Japan, 2015.8.
 7. Shimoda T, Yoshimura S: Role of a Nutrition Support Team in Avoiding the Risk of Malnutrition after Esophagectomy. 4rd World Congress of Clinical Safety, Vienna, Austria, 2015.9.
 8. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T: Maternal and Neonatal Risks and Effects due to Freestyle Delivery Positions on the Second Stage of Spontaneous Vaginal Delivery : Case-Control Study. 4rd World Congress of Clinical Safety, Vienna, Austria, 2015.9.
 9. Kim K, Hirayama K, Yano R, Otsuki M, Sakuraba S, Yoshida K, Murakami Y, Sakai S: Effects of exposure to blue light on susceptibility to motion sickness. The 1st Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation, Seoul, Korea, 2015.9.
 10. Shishido I, Yano R: Comparison of the skin condition of elderly patients and young adults -skin surface temperature, stratum corneum water content, and transepidermal water loss-. 10th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2015.10.
 11. Yano R, Yoshida Y: Recognition by Certified Nurses in Infection Control in Japan of the Need for Skin Disinfection before a Subcutaneous Injection. 10th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2015.10.
 12. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T: Positive Effects of Occurrence Ratio of Perineal Laceration based on Freestyle Delivery Positions. Nay Pyi Taw, Myanmar, 2016.2.
 13. Shishido I, Yano R: Effects of short-term application of a hot towel to the skin and number of wipes during bed bathing among elderly nursing home residents. 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 14. Masamoto T, Yano R: The process of site selection of the intravenous insertion site for a short peripheral catheter followed by nurses. 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 15. Kagamiyama H, Yano R: The Relationship between Two-shift Nurses' Subjective Fatigue and Actigraphy-assessed Objective Activity Indices. 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 16. Kawashima A, Yano R: Physical activity and fatigue among 5 primiparous women hospitalized after delivery. 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 17. Tsukamoto M, Miyajima N: Stress experience of outpatient with Anorexia nervosa. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 18. Kubota M, Tanabe Y, Ishibashi Y, Kanda F, Miyajima N: The Effect of Coherence Training on Reducing the Nervousness of Student Nurses While Carrying Out a Practical Task. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 19. Miyajima N, Kubota M, Tanabe Y, Kanda F, Ishibashi Y: Survey on Experience and Cause of Nervousness that Student Nurses Felt While Carrying Out Practical Tasks. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 20. Kasai R, Kinoshita R, Oikawa R, Nonaka H, Sato M, Sumi N: Health-Promoting Lifestyle for Outpatients

V. 研究活動

with Ischemic Heart Disease, 12th East Asian Forum of nursing Scholars, Chiba, 2016.3.

[国内学会]

1. 緒方昭彦, 浜上尚也, 大槻美佳, 輿水修一, 千葉康弘, 吉野雅美, 青樹毅, 今村博幸, 小泉 泉, 會田敏光, 野村憲和: パーキンソン病と脳血管性パーキンソン症候群との鑑別方法の解析. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015.5.
2. 金 京室, 平山和美, 矢野理香, 大槻美佳, 桜庭 聡, 吉田一生, 村上優衣, 境 信哉: 短波長光が motion sickness に及ぼす影響. 日本生理人類学会第72回大会, 札幌, 2015.5.
3. 澤田いずみ, 大野真実, 塚本美奈, 宮島直子, 影山セツ子: メンタルクリニックに通院する母親へのペアレントトレーニングの試行的評価第1報—育児態度とストレスへの効果—. 日本精神保健看護学会第25回学術集会, つくば, 2015.6.
4. 大野真実, 塚本美奈, 澤田いずみ, 宮島直子, 影山セツ子: メンタルクリニックに通院する母親へのペアレントトレーニングの試行的評価第2報—グループインタビューからのプロセス評価—. 日本精神保健看護学会第25回学術集会, つくば, 2015.6.
5. 稲葉有香, 芳賀早苗, 尾崎倫孝, 春日雅人, 井上啓: 一般口演5 統合的ストレス応答による脂肪肝再生障害の分子メカニズムの解明. 第22回肝細胞研究会, 鳥取, 2015.6.
6. 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 野田なつみ, 尾崎倫孝: ポスターセッション6 “光”を利用した肝細胞機能制御技術の開発. 第22回肝細胞研究会, 鳥取, 2015.6.
7. 佐藤ひとみ, 良村貞子, 矢野理香, 中西千代美, 蓮池清美, 石田香代子, 新潟郁子, 川畑いづみ, 船木典子: 部署内教育の総括的役割を担う指導看護師の養成—プログラムの開発・実施を通して—. 第19回日本看護管理学会学術集会, 福島, 2015.8.
8. 萩村英樹, 良村貞子, 矢野理香: 看護師が認識する終末期がん患者の困難な外出・外泊を実現させる看護介入とは. 日本看護研究学会第41回学術集会, 広島, 2015.8.
9. 矢野理香, 吉田祐子, 鷺見尚己: ウェアラブルデバイス情報による身体活動量・睡眠と自覚的疲労度の関連—看護師と一般就業者との比較—. 日本看護研究学会, 広島, 2015.8.
10. 岩山陽子, 櫻田弘美, 亀田悦子, 船木典子, 石田香代子, 松野千代美, 岩本幹子: 新人看護職員研修後の到達目標到達度の評価研究—研修終了時から3年目への到達度の変化—. 第45回日本看護学会看護管理, 熊本, 2015.9.
11. 志賀はるか, 八木亜李寿, 山根綾華, 吉澤日美美, 吉田祐子, 岩本幹子: 交代浴による保温効果の検証—交代浴終了時の温浴と冷浴の違いに着目して—. 日本看護研究学会, 広島, 2015.8.
12. Mizobe K, Yokosawa K, Shimojo A, Ozaki M: Fasting modulates physio-psychological responses to emotional pictures: An analysis by MEG, VAS and biological markers. 生体医工学シンポジウム2015, 岡山, 2015.9.
13. 樋口亜耶, 下田智子, 伊藤千紘, 阿部彩加, 木原由佳, 熊谷聡美, 新山久美, 七戸俊明: 食道切除患者の術後離床と回復過程に沿った栄養状態の検討. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015.9.
14. 下田智子, 寒川美奈, 小笠原克彦, 良村貞子: 特別豪雪地帯に住む高齢者の積雪時および非積雪時の活動量と体組成の実態調査. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.9.
15. 田村菜穂美, 寺下貴美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者への

V. 研究活動

- 支援方法に関する健康影響評価. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.9.
16. 佐藤玲子, 竹内茂伸, 井後雅之, 大槻美佳: 失構音を伴ったLPA 亜型例の1年経過. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 17. 川崎未来, 黒川清博, 池内英里菜, 竹内茂伸, 大槻美佳: 右半球損傷にて相貌失認と腹側型同時失認を呈した一例. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 18. 三浦祐一, 高倉祐樹, 大槻美佳, 杉原俊一: 視覚性注意障害は単一対象の視覚性処理に影響を及ぼすのか. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 19. 竹谷一輝, 大槻美佳, 大門正太郎, 今村博幸: 左前頭葉内側の病巣にて, 状況によって変化する対象の投下障害. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 20. 難波志奈, 宮崎美穂, 鈴木康壺, 小野智美, 浦 茂久, 吉田一人, 大槻美佳: Luriaの系列動作における問題点と解決法の提案. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 21. 浦 茂久, 長沼亮滋, 黒島研美, 吉田一人, 池田将樹, 大槻美佳: PES症候群を呈したFTLD-17の1例. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 22. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一: 電子機器操作における文字処理のメカニズムとその障害の発言機序. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 23. 黒川 翔, 大門正太郎, 大槻美佳, 山本奈緒子, 新保大輔: 両側前頭葉血流低下による自動的な書字行動. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 24. 阿久津由紀子, 大槻美佳, 平山和美: 低酸素脳症発症後吃音が消失した一例. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 25. 山田晃司, 大槻美佳, 幅寺慎也, 佐々木絵梨, 櫻木 均: 再帰性発話をきっかけに文の構成を取る発話の分析. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 26. 黒川清博, 大槻美佳, 川崎未来, 池内英里菜, 竹内茂伸: 情動と記憶が失語症者の発語機構に与える影響—いわゆる「意図性と自動性の解離」と称されてきた現象からの視点. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 27. 小野大輔, 金藤公人, 大槻美佳, 日野美貴, 斎藤匠真: 語義失語の症状と経過. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 28. 一条晋吾, 山地純也, 志田大輔, 伏見美香, 浅野雅佳子, 新谷葵, 福田亜里沙, 藪貴代美, 大門正太郎, 大槻美佳: 失構音における音の連結不良に対するモーラ指折り法の効果の検討. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 29. 高田美樹, 大槻美佳, 森脇拓也, 阿部沙良綾, 風間あり彩: 言語リズムの崩れに注目した失構音改善訓練プログラムの検討. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 30. 辻澤陽平, 生駒一憲, 大槻美佳: 小児期の脳腫瘍手術・放射線化学療法後の認知機能への影響 言語機能低下が残存した1例. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 31. 畠山公大, 大槻美佳: 語音弁別障害を呈したlogopenic progressive aphasiaの一例. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
 32. 武田茜, 穴吹沙樹, 田坂理美, 姥谷実佳, 下田智子: カーテンによる視覚遮断が患者の心理に与える影響 疑似病室でのプライバシーに関わる会話場面において. 第14回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
 33. 石橋紀子, 良村貞子: 35歳を過ぎて初めて出産・育児をしている母親の肯定的な思い. 第56回日本母

V. 研究活動

- 性衛生学会学術集会, 盛岡, 2015.10.
34. 尾崎倫孝: 一般演題・座長 異種移植. 第 51 回日本移植学会総会, 熊本, 2015.10.
35. 章 文, 大平哲也, 安村誠司, 結城美智子, 堀越直子, 鈴木友理子, 永井雅人, 中野裕紀, 上村真由: 東日本大震災の避難住民における睡眠障害のリスクファクターについての検討. 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.10.
36. 宍戸 穂, 宮田莉英, 久富咲貴子, 山口由香, 矢野理香: 高齢者への清拭における有効な温タオルの貼用時間の検討—角質水分, 経表皮水分蒸散量および主観的評価の比較—. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
37. 宮田莉英, 久富咲貴子, 山口由香, 宍戸 穂, 矢野理香: 清拭中の背部温タオル貼用による皮膚表面温度と主観的快適感の経時的変化—温タオル貼用時間の比較—. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
38. 久富咲貴子, 山口由香, 宮田莉英, 宍戸 穂, 矢野理香: 清拭における背部温タオル貼用の有効性の検証—温タオル貼用あり群と対照群の比較—. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
39. 山口由香, 宮田莉英, 久富咲貴子, 宍戸穂, 矢野理香: 清拭における背部温タオル貼用効果の男女比較. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
40. 縄 秀志, 矢野理香, 大橋久美子, 樋勝彩子, 佐居由美: 気持ちよさをもたらす看護ケア理論の開発に向けて. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
41. 塚越みどり, 菱沼典子, 吉良いずみ, 矢野理香, 久賀久美子, 加藤木真史, 丸山朱美, 南山祥子, 秋山雅代, 酒井礼子, 野月千春: 便秘症状の緩和のための温電法 Q & A-Ver.2 作成への取り組み—. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
42. 鏡山浩美, 矢野理香: 交代制勤務看護師の睡眠に関する文献研究. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
43. 佐居由美, 縄 秀志, 矢野理香, 大橋久美子, 樋勝彩子: 「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに対する看護師の認識の検討. 第 14 回日本看護技術学会学術集会, 松山, 2015.10.
44. 細沼敦子, 北村美奈子, 矢野理香: 呼吸器科専門病院に勤務する看護師の喫煙状況と意識調査. 肺癌 55(5), 719, 2015.10.
45. 島田詩絵奈, 木村優駿, 小野加奈, 小湊さゆり, 木下龍太郎, 及川玲子, 野中浩美, 鷺見尚己, 佐藤三穂: 心疾患患者の退院後における QOL に影響する要因の検討. 第 12 回日本循環器看護学会学術集会, 東京, 2015.10.
46. 大西 舞, 中谷亮太, 永井絢子, 工藤涼香, 木下龍太郎, 及川玲子, 野中浩美, 葛西理沙, 佐藤三穂, 鷺見尚己: 心疾患患者のセルフケアに対する重要性の認識と実施状況およびその関連要因. 第 12 回日本循環器看護学会学術集会, 東京, 2015.10.
47. 溝部佳代: 手術室看護師が行う術後患者への意図的なケア—術後訪問の経験に関する看護師の語りから. 第 29 回日本手術看護学会年次大会, 札幌, 2015.10.
48. 小堀 昂, 柳川悠香, 松本かな, 柴田貴子, 瀬戸桃恵, 上田陽子, 山本裕子, 芳賀真理子, 溝部佳代: マジックベッド®の厚さの不均衡が体圧分散に与える影響—ウレタンマット併用時—. 第 29 回日本手術看護学会年次大会, 札幌, 2015.10.
49. 葛西理沙, 佐藤三穂, 鷺見尚己: 慢性心不全患者のセルフケアと QOL に関する文献検討. 第 18 回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2015.10.

V. 研究活動

50. 鏡山浩美, 矢野理香, 中川達哉, 吉田正樹, 好光有一: 二交代勤務看護師の自覚的疲労度とウェアラブルデバイスによる睡眠と身体活動量の実態. 第19回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2015.11.
51. 津 有希, 良村貞子: 新看護提供方式 PNS (Partnership Nursing System) に関する研究の動向. 第19回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2015.11.
52. 齋藤史子, 坂本祐子, 結城美智子: 外来通院する2型糖尿病中年期男性患者の糖尿病に関する負担感情の実態とその影響要因. 第35回日本看護科学学会, 広島, 2015.12.
53. 永田智子, 錦織理沙, 戸村ひかり, 田口敦子: 外来における在宅療養支援に関する研究の現状. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12.
54. 鷺見尚己, 矢野理香: 臨床看護師による看護研究を支援する看護管理者の研究指導における困難と課題. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12.
55. 溝部佳代, 福居真緒, 上野雅悠子, 小田川将之, 茂木美祐: 手術看護における術後訪問の実際および手術室看護師の認識—術後訪問の意義に焦点をあてて. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12.
56. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 三浦祐一, 杉原俊一: Dejerine 型純粋失読における数字の読みに関する検討—指折りの方略が数字の読みの“何を”改善させるのか—. 第39回日本高次脳機能障害学会, 東京, 2015.12.
57. 井川大樹, 大槻美佳, 藤重正人: 仮名文字における濁点の特異的障害. 第39回日本神経心理学会, 札幌, 2015.9.
58. 下田智子, 良村貞子: 食道切除術の周術期栄養管理において BMI 高値が体組成変化に及ぼす影響. 第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 福岡, 2016.2.
59. 下田智子, 良村貞子: BMI 高値患者の食道切除術後における体組成評価と看護必要度の検討. 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2016.2.
60. 青柳道子, 溝部佳代, 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 船木典子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの継続的評価第1報—エキスパートナースによる自己評価. 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2016.2.
61. 溝部佳代, 青柳道子, 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 船木典子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの継続的評価 第2報 —認定半年後における所属部署の看護師長による活動評価. 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2016.2.
62. 下田智子, 樋口亜耶, 阿部彩加, 木原由佳, 熊谷聡美, 武田宏司, 七戸俊明: 食道切除術の周術期栄養管理において BMI 高値が体組成変化に及ぼす影響. 第31回日本静脈経腸栄養学会, 福岡, 2016.2.
63. 井川大樹, 大槻美佳, 藤重正人: 仮名文字における濁点の障害. 第26回東北神経心理懇話会, 仙台, 2016.2.
64. 矢野理香, 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦: 病院での環境清浄度評価の盲点と院内細菌叢の実態. 第89回日本細菌学会, 大阪, 2016.3.
65. 杉本幸司, 山ノ井高洋, 豊島 恒, 大槻美佳, 大西真一, 山崎敏正: 果物名称想起時における脳内活動部位について. 第26回ソフトサイエンス・ワークショップ, 米沢, 2016.3.
66. 佐藤三穂, 佐藤仁美, 鷺見尚己, 中村昭伸, 三好秀明, 渥美達也: 特定機能病院における糖尿病外来初診患者の臨床的特徴. 第58回日本糖尿病学会. 下関, 2015.5.

V. 研究活動

[地方会]

1. 加納崇裕, 松島理明, 矢部一郎, 北川まゆみ, 佐々木秀直, 大槻美佳, 濱内祝嗣, 笹森 徹, 関 俊隆, 宝金清博, 井上 猛: 脳深部刺激療法前後での心理学的評価項目の変化について. 第97回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2015.9.
2. 鈴木良香, 結城美智子, 高瀬佳苗: 福島原発事故で避難生活を継続している認知症高齢者と家族介護者に関する調査-第1報 家族介護者の介護に関するニーズ-. 日本老年医学会東北地方会, 仙台市, 2015.10.
3. 古戸順子, 鈴木良香, 菊川幸恵, 佐藤幸子, 鈴木礼子, 助川真美, 猪狩友子, 室井宏育, 高田和秀, 結城美智子: 山間地域で暮らす高齢者のADLと円背姿勢の変化との関連-7年後の追跡調査から-. 日本老年医学会東北地方会, 仙台市, 2015.10.
4. 村田恵理: 老化及び老化関連疾患と酸化ストレスの影響について. 第5回基礎科学をもとにしたCo-Medical研究会, 山形, 2015.11.
5. 畠山公大, 大槻美佳, 西澤正豊: 高次脳機能障害学の今後の展望. 第306回新潟脳神経研究会, 新潟, 2015.12.
6. 輿水修一, 大槻美佳, 緒方昭彦: レビー小体型認知症(DLB)様のSPECT所見を呈する高齢者の2例. 第98回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2016.3.
7. 上床 尚, 長井 梓, 小渡貴司, 白井慎一, 松島理明, 中野史人, 廣谷 真, 加納崇裕, 北川まゆみ, 大槻美佳, 笹森 徹, 関 俊隆, 寶金清博, 矢部一郎, 佐々木秀直: 脳深部刺激法(DBS)の刺激周波数変更によって歩行障害が改善したパーキンソン病の1例. 第98回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2016.3.
8. 金藤公人, 井原伸夫, 大槻美佳, 井出 渉: トリガーポイントを有する驚愕反射様ミオクローヌスに対してピラセタムが著効した脳梗塞の1例. 第98回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2016.3.

■業績 (平成 25 年度)

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Takashima R, Saeki K: Professional identities of occupational therapy practitioners in Japan. *Health 5: (6A2) 64-71, 2013.*
2. Kudo Y, Saeki K: Reasons for the Creation of New Social Networks by the Elderly after Relocation. *Health 5: (12A) 31-38, 2013.*
3. Asaka Y: Sleep pattern of Japanese infants and their mother's parenting stress. *J Women's Health Care 2: 3, 2013.*
4. Asaka Y, Takada S: Relation between sleep status of preterm infants aged 1-2 years and mothers' parenting stress. *Pediatr Int: 55: 416-421, 2013.*
5. 平野美千代, 佐伯和子, 河原加代子: 要支援認定を受けた高齢女性の社会活動に対する意味づけ: 独居の前期高齢女性に焦点をあてて. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 69-74, 2013.*
6. 松下佑太, 三浦 萌, 蔵満美奈, 佐伯和子: 老人クラブに参加する高齢者の持つ認知症のイメージおよび知識と将来の受診意思との関連. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 83-88, 2013.*
7. 本田 光, 佐伯和子, 平野美千代, 上田 泉: 基礎教育から新任期における保健師の政策に関する理解のプロセス. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 153-158, 2013.*
8. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光: 学士課程における保健師教育強化モデルコースの教育実践—統合カリキュラムから大学院教育への過渡期の形態として—. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 197-201, 2013.*
9. 荻田珠江, 中澤貴代, 安積陽子, 荒木奈緒, 平塚志保: バースレビューを実施した助産師学生の経験と教育課題の検討. *日本助産学会誌 27: 72-82, 2013.*
10. 岡部日香莉, 高岡佳代, 小山 萌, 及川真子, 平野美千代: 地方沿岸部における家族介護者の在宅介護継続を支える認識. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 61-68, 2013.*
11. 及川真子, 石黒 毅, 向井美那子, 平野美千代: 北海道内の地域包括支援センターの三専門職種間の協働の認識と基本属性および職場体制との関連. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 165-172, 2013.*
12. 平野美千代: 日本における要支援高齢女性の社会活動の概念分析. *北海道公衆衛生学雑誌 27: 123-130, 2013.*
13. 菅原成美, 富山夕貴, 進藤ゆかり: 北海道の訪問看護ステーションにおける自然災害対策の現状. *北海道公衆衛生雑誌 27: 147-152, 2013.*
14. 渡邊美佳, 石田大起, 木村宣哉, 進藤ゆかり: 在宅で療養する小児と家族を支える在宅ケアシステムに関する我が国の研究動向. *北海道公衆衛生雑誌 27: 181-189, 2013.*
15. コリー紀代, 横尾靖子, 清水弘美, 本田千積, 大塚 健: 気管内吸引におけるリスク分析ツール開発の方向性. *医工学治療 25(3): 179-185, 2013.*
16. 西尾聡華, 林 和奈, 伊藤由美, コリー紀代, 佐川 正: 助産師による会陰切開・会陰縫合の実態調査. *北海道産科婦人科学会誌 57(1): 62-74, 2013.*

V. 研究活動

B. 著書

C. 総説, 解説, 論評

1. 岡本玲子, 佐伯和子, 今井睦子, 山口 忍, 鈴木知代, 横山美江, 西嶋真理子, 洲崎好香:【過渡期にある保健師教育】ミニマム・リクワイアメンツを教育の指針に. 保健師ジャーナル 69:692-697, 2013.
2. 佐伯和子:【過渡期にある保健師教育】保健師国家試験出題基準の改定のねらい. 保健師ジャーナル 69:698-703, 2013.
3. 安積陽子:養育者からみた子どもの睡眠, 子ども眠りと健康-小児科医として知っておきたい子どもの眠りの up to date (神山潤企画). 小児科臨床:21-27, 2013.
4. 鈴木幸子, 坂本めぐみ, 齋藤恵子, 山本英子, 大月恵理子, 兼宗美幸, 橋本美幸, 芝本美紀, 高橋紀子:埼玉県立大学の県内産科医療施設推薦制度にて編入学した学生・卒業生の現況調査. 保健医療福祉科学 3:46-51, 2013.

D. 報告書

1. 野口真貴子:「医療従事者と妊産婦の関係性が出産／出生ケアの質に与える影響」平成25年度国際医療研究開発費中間報告書, 国立国際医療研究センター:2013.10.
2. 青柳道子:がん患者の療養を支える家族の自己効力感尺度の開発, 2013年度 公益財団法人 笹川記念保健財団 ホスピス緩和ケアに関する研究助成報告書:2014.3.

E. その他

[受賞]

1. 佐伯和子:A保健所で実施した高次脳機能障がい者の家族を対象とするサポートグループの参加者の変化, 北海道公衆衛生協会会長賞2013年(発表者:宮田孝子)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Sagawa T: The role of midwives for maternal care system in Japan. The Gold Program Wyeth Nutrition Seminar, Sapporo, 2013, 10.
2. Noguchi M: Midwifery to improve maternal and child health for global health. The first FHS international conference: Evolving health sciences in Asia, Sapporo, 2013.6.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Hayasaka M, Sakagami R, Toyama Y, Satake E, Sato Y: Support for decision making in parents of a child receiving a clinical trial overseas, 25th Quadrennial Congress of the ICN 2013, Melbourne, Australia, 2013.5.
2. Colley N, Miyazaki T: Impacts of Diffusion of Home-ventilators in the Community, International Council of Nursing 25th Quadrennial Congress 2013, Melbourne, Australia, 2013.5.

V. 研究活動

3. Araki N, Takahata R, Miyajima N, Matsumoto C, Takesue I: Analysis of correlation between father's degree of satisfaction with parenting preparation classes and expectations of parenting. ICN Conference 2013, Melbourne, Australia, 2013.5.

[国内学会]

1. 星有理香, 佐々木千穂, 境 直子, 佐藤洋子, 吉田一生, 桜庭 聡, 真木 誠, 境 信哉, 加藤光広:「脊髄性筋萎縮症 1 型児のコミュニケーション手段について - 親へのアンケート調査より -」. 第 55 回日本小児神経学会学術集会, 大分, 2013.5.
2. 安積陽子: 3 次元加速度センサーから得た体動データによる健康な乳児の睡眠覚醒パターンの分析. 第 55 回日本小児神経学会総会 (第 7 回子どもの眠り研究会), 宮崎, 2013.5.
3. 高島理沙, 工藤禎子, 佐伯和子: 作業療法士の「専門価値」を切り口にして他職種との協働を考える 1 人のセラピストの語りから. 第 47 回日本作業療法学会, 横浜, 2013.6.
4. 進藤ゆかり, 原井美佳, 村松真澄, 坂倉恵美子: 看護学生が持つ高齢者観の形成要因—高齢者観と家族背景との関連について—. 日本老年看護学会第 18 回学術集会, 大阪, 2013.6.
5. 勘林美帆里, 佐藤美里, 川上有紀, 佐藤洋子:「小児医療支援端末を用いたプレパレーションの効果の検討」. 日本小児看護学会 第 23 回学術集会, 高知, 2013.7.
6. 野口真貴子, 久米美代子, 村山より子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の育児に対する認識. 日本ウーマンズヘルス学会, 東京, 2013.7.
7. コリー紀代, 大塚健: 地域医療連携における双方向性のある情報技術活用 (ガバメント 2.0) における課題. 第 14 回日本医療情報学会看護学術大会, 札幌, 2013.7.
8. 川上有紀, 中田亜由美, 佐藤洋子, 宮島直子:「親が参加するプレパレーションに関する文献検討」. 日本看護研究学会第 39 回学術集会, 秋田, 2013.8.
9. 中田亜由美, 川上有紀, 宮島直子, 佐藤洋子:「一般児童における歯科恐怖の実態—歯科恐怖と歯科受診歴, 歯科の印象, 保護者の歯科恐怖との関係—」. 日本看護研究学会第 39 回学術集会, 秋田, 2013.8.
10. 中澤貴代, 安積陽子: 教員が捉える助産師学生が行う バースレビューの内容の分析. 日本看護学教育学会第 23 回学術集会, 仙台, 2013.8.
11. 平野美千代, 河原加代子, 佐伯和子: 効果的な介護予防ケアの推進に向けた要支援高齢女性の社会活動尺度の開発. 日本地域看護学会第 16 回学術集会, 徳島, 2013.8.
12. 溝部佳代, 青柳道子: 看護大学生 3 年次の客観的臨床能力試験 (OSCE) における予約技術の習得状況と課題. 第 23 回日本看護教育学会学術集会, 仙台, 2013.8.
13. 藤井美南子, 田中ゆきえ, 荒木奈緒: 手掌温電法による肘正中皮静脈の拡張効果の検証. 第 12 回日本看護技術学会学術集会, 浜松, 2013.9.
14. 高島理沙, 佐伯和子: 専門職アイデンティティの構造に起因する作業療法実践の違い. 北海道作業療法学会, 札幌, 2013.9.
15. 松本珠実, 阿部尚子, 遠藤智子, 大内佳子, 奥寺三枝子, 日高橘子, 藤原啓子, 加藤静子, 佐伯和子, 横山美江, 米澤洋美: 東日本大震災における災害時の公衆衛生看護活動を推進した体制整備について. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.
16. 和泉比佐子, 佐伯和子, 藺牟田洋美, 松原三智子, 岡田尚美, 森 満: 青壮年期のメタボリックシンドローム予備群への介入のための ICT システムの開発. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.

V. 研究活動

17. 福島富士子, 大澤絵里, 林友沙, 川島知子, 横山美江, 野口真貴子, 浜脇文子: 全国市町村を対象とした産後ケア事業に関する調査(第1報). 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.
18. 川島知子, 大澤絵里, 林友沙, 横山美江, 野口真貴子, 浜脇文子, 福島富士子: 全国市町村を対象とした産後ケア事業に関する調査(第2報). 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.
19. 林友沙, 大澤絵里, 川島知子, 横山美江, 野口真貴子, 浜脇文子, 福島富士子: 全国市町村を対象とした産後ケア事業に関する調査(第3報). 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.
20. 笹川恵美, 竹原健二, 野口真貴子, 三砂ちづる: カンボジアにおける分娩第一期・第二期の陣痛促進剤(オキシトシン)の適応と使用管理方法に関する実態調査. 第54回日本母性衛生学会学術総会, 埼玉, 2013.10.
21. 三田真琴, 日野真理絵, 野口真貴子: 分娩第1期の経過を示す3つの指標の分娩事例への適合性の検討. 第54回日本母性衛生学会学術総会, 埼玉, 2013.10.
22. 石黒毅, 及川真子, 向井美那子, 平野美千代: 地域包括支援センター内における三専門職間の協働の認識と職種間の比較. 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013.10.
23. 小坂井里恵, 宍戸和代, 井谷香織, 畑中幹子, 佐藤千歳, 荒木奈緒: 出産病院で実施する育児支援活動「おしゃべり広場」に参加する対象者の特性とニーズについての分析. 第54回母性衛生学会, 埼玉, 2013.10.
24. 安藤由美子, 梅本智子, 荒木奈緒: ピアカウンセリング形式を用いた産後の育児サロンの効果についての分析. 第54回母性衛生学会, 埼玉, 2013.10.
25. 野口真貴子, 松井三明, 堀越洋一, 川口みどり, 小長井祥子, 竹原健二, 小山内泰代: カンボジア王国におけるコア・トレーナーの認識. 日本国際保健医療学会, 沖縄, 2013.11.
26. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 「我が国における小児の歯科恐怖の概観とその課題」. 第17回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2013.11.
27. 大館真美, 熊倉寿希, 佐竹恵美子, 佐藤洋子: 「2歳8か月患児の骨髄移植事例への関わりを振り返る～プレパレーションに着目して」. 第11回日本小児がん看護学会, 福岡, 2013.11.
28. 山本航平, 佐伯和子, 平野美千代: 成年大学生の飲酒の実態について. 第65回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2013.12.
29. 佐伯和子, 平野美千代, 本田光, 麻原きよみ, 齋藤彩乃, 深川周平, 和泉比佐子, 阿久津雅子, 三井尚美: 行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の変化 – 2001年と2013年の比較 –. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.
30. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 摂取食物から見た1歳半児の咀嚼力. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.
31. 山本航平, 佐伯和子, 平野美千代: 未成年大学生の飲酒の実態. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.
32. 上田泉, 佐伯和子, 河原田まり子, 平野美千代, 和泉比佐子, 波川京子: 保健師がとらえる子ども虐待事例における父親の対人関係の特性. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.
33. 平野美千代: 日本における要支援高齢女性の社会活動の概念分析. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2014.1.
34. 富山夕貴, 菅原成美, 進藤ゆかり: 北海道の訪問看護ステーションにおける在宅神経難病療養者への自然災害対策の現状. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.
35. 菅原成美, 富山夕貴, 進藤ゆかり: 北海道の訪問看護ステーションにおける自然災害時対策の現状. 第2

V. 研究活動

回日本公衆衛生看護学会学術集会, 小田原, 2014.1.

36. 椎名智暁, 芳賀真理子, 青柳道子:仕事をしながら乳がん放射線治療を受ける患者が経験する困難と対処. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014.2.
37. 佐藤愛, 五十嵐瑞恵, 渡邊亜美, 柳萬拓人, 青柳道子:外来で放射線治療を受ける患者が必要とする情報とその関連要因. 第28回日本がん看護学会学術集会, 新潟, 2014.2.
38. 常田美和, 佐藤洋子:「伝統的産婆に対するアフリカの母子保健の管理職の認識と対応」. 第28回日本助産学会学術集会, 長崎, 2014.3.
39. コリー紀代, 大塚健:道内における小児用在宅人工呼吸器の普及とヘルパー等事業所の研修受講状況. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.3.

[地方会]

1. 宍戸和代, 小坂井里恵, 畑中幹子, 井谷香織, 佐藤千歳, 荒木奈緒:出産病院における育児支援活動の効果に関する分析. 第43回北海道母性衛生学会学術集会, 札幌, 2013.9.
2. 大館真美, 熊倉寿希, 佐竹恵美子, 佐藤洋子:2歳8か月患児の骨髄移植における日常生活援助に関する検討. 北海道小児血液研究会, 札幌, 2013.10.
3. 及川真子, 向井美那子, 石黒 毅, 平野美千代:北海道内の地域包括支援センターの三専門職種間の協働の認識と基本属性および職場体制. 第65回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2013.11.
4. 山本航平, 佐伯和子, 平野美千代:成人大学生の飲酒の実態. 第65回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2013.11.

■業績 (平成 26 年度)

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Hirano M, Kawahara K, Saeki K: Development of a Social Activities Scale for Community-Dwelling Older Women Requiring Support in Japan: A Preliminary Study. Public Health Nursing. Article first published online: 5 OCT 2014, DOI: 10.1111/phn.12161, 2014.
2. Ueda I, Izumi H, Saeki K, Namikawa K, Shiromaru M: Psychosocial Characteristics of Fathers Who Have Abused Their Children as Seen by Public Health Nurses. Open Journal of Nursing 4:669-675, 2014.
3. Izumi H, Mastubara M, Saeki K, Imuta H, Mori M: The Effectiveness of Hyperlipidemia Prevention Intervention Designed to Affect Behavior Change: Focus on Changes in Health Behavior. Open Journal of Nursing 4:962-970, 2014.
4. Takehara K, Noguchi M, Shimane T, Misago C: A longitudinal study of women's memories of their childbirth experiences at five years postpartum. BMC Pregnancy & Childbirth 2014 Jul 5;14:221. doi: 10.1186/1471-2393-14-221, 2014.
5. Kubota M, Shindo Y, Kawaharada M: Identifying the contents of a type 1 diabetes outpatient care program based on the self-adjustment of insulin using the Delphi method. Japan Journal of Nursing Science 11: 299-309, 2014.
6. 上田 泉, 佐伯和子, 河原田まり子, 平野美千代, 和泉比佐子, 波川京子: 保健師がとらえる子ども虐待事例における父親の対人関係と行動の特性. 日本公衆衛生看護学会誌 2: 2-11, 2014.
7. 沼田佳苗, 西川 鑑, 真里谷奨, 川俣あかり, 二瓶岳人, 荒木奈緒: 当院における 40 歳以上の高年出産 216 例の検討. 産婦人科の実際 63-1: 115-119, 2014.
8. 佐賀井緑, 林みちる, 三宅 杏, 本田 光: 母親の友人との関係づくり・関係維持におけるソーシャルネットワークワーキングサービスの役割. 北海道公衆衛生学雑誌 27(2): 159-164, 2014.
9. 上田 泉, 佐伯和子, 河原田まり子, 平野美千代, 和泉比佐子, 波川京子: 保健師がとらえる子ども虐待事例における父親の対人関係と行動の特性. 日本公衆衛生看護学会誌 2: 2-11, 2014.
10. 平野美千代, 河原加代子, 佐伯和子: 要支援高齢女性の社会活動尺度の開発. 日本地域看護学会誌 17: 19-27, 2014.
11. 橋本ゆかり, 杉基陽子, 蝦名美智子, 榎木野裕美, 今野美紀, 松森直美, 高橋清子, 佐藤洋子, 岡田洋子: 採血・点滴を受ける子どものプレパレーションに関連する看護師への意識調査一年齢階級別による実施中の関わりについて一, 小児保健研究 73 (3): 446-452, 2014.
12. 常田美和, 斉藤早香枝, 大竹沙織, 岩田銀子, 佐藤洋子: アフリカ仏語圏 5 か国における看護教育の現状と課題—JICA 仏語圏アフリカ母子保健研修員の報告書の内容から—, 札幌保健医療大学紀要 65-74, 2014.
13. 佐々木奈美, 池田雄二郎, 渡辺真優, 鈴木志穂, 平野美千代: 育児期における母親の属性及び対人態度と相談相手との関連. 北海道公衆衛生学雑誌 28: 99-104, 2014.
14. 井谷香織, 穴戸和代, 小坂井里恵, 畑中幹子, 佐藤千歳, 荒木奈緒: 出産病院における育児支援活動の効果に関する分析. 北海道母性衛生学会誌 43:2-6, 2014.

V. 研究活動

15. 前田明里, 加藤愛, 荒山千智, 鈴木理恵, 進藤ゆかり: 我が国の退院支援・退院調整のシステム化に向けた研究動向. 北海道公衆衛生雑誌 28:151-159, 2014.
16. コリー紀代: 在宅人工呼吸器装着者が望む自立生活から導き出された自立概念. 社会教育研究 32: 91-100, 2014.
17. コリー紀代: 活動理論を援用した ALS 患者団体による政策活動の分析. 季刊社会保障研究 50 Summer 2014 (1・2): 154-166, 2014.
18. コリー紀代, 高橋理恵: 道内のヘルパー等事業所から見た医療的ケア研修受講における障壁. 北海道小児保健研究会誌 25-28, 2014.

B. 著書

1. 佐伯和子(分担): 第2章公衆衛生看護の対象3. 活動の対象. 公衆衛生看護学テキスト第1巻公衆衛生看護学原論(麻原きよみ責任編集・佐伯和子・岡本玲子・荒木田美香子編). 35 - 69, 医歯薬出版, 東京, 2014.
2. 佐伯和子(分担): 第3章地域社会全体への公衆衛生看護技術3. 社会システムへの働きかけ. 公衆衛生看護学テキスト第2巻公衆衛生看護技術(佐伯和子責任編集・麻原きよみ・荒木田美香子・岡本玲子編). 132 - 151, 医歯薬出版, 東京, 2014.

C. 総説, 解説, 論評

1. 佐伯和子, 村嶋幸代, 大木幸子, 尾崎章子, 蔭山正子, 河野あゆみ, 西崎美和, 松下光子: 日本地域看護学会委員会報告 地域看護学の定義について. 日本地域看護学会誌 17: 75-84, 2014.
2. 佐伯和子, 尾崎章子, 佐藤玉枝: 日本地域看護学会第17回学術集会報告 理事会セミナー 地域看護学の定義と看護師教育課程における「地域看護学」教育. 日本地域看護学会誌 17: 62-74, 2014.

D. 報告書

1. 藤田和佳子, ダニエル・ングギ, 村上睦子, 大橋一友: タンザニア・ムツワラにおける立会い出産に関するニーズ調査ータンザニア人にとっての立会い出産の意義ー. 龍谷大学社会科学研究所年報 44: 301-309, 2014.
2. 鈴木美穂, コリー紀代: 第8回 ICN INP/APNN カンファレンス報告 海外の Advanced Practice Nurse の動向. 看護研究 47(7): 692-697, 2014.

E. その他

[受賞]

1. 佐藤洋子: 日本看護研究学会北海道地方会研究奨励賞「一般児童における歯科恐怖の実態」. 日本看護研究学会第39回学術集会発表演題(発表者: 中田亜由美)
2. 野口真貴子: Best Poster Presentation Award, "Evidence-based midwifery care and assessment among Cambodian midwives", "Women-friendly childbirth experience Cambodia". The 55th Japanese Society of Tropical Medicine & the 29th Japan Association for International Health Joint Conference.

[学会研究会の主催]

1. 佐伯和子：第66回北海道公衆衛生学会 大会長
2. 佐川 正：北海道産婦人科乳腺医学会 第5回学術集会長

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Noguchi M: What kind of care did the midwives provide? How did the women feel about their birth experience?, Maternal and Child Health Symposium, Phnom Penh, Cambodia, 2015.2.
2. Noguchi M: The outcomes of the training program for women friendly care based evidence, JCC Meeting, Phnom Penh, Cambodia, 2015. 2.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Noguchi M, Kume M, Murayama Y, Harada M, Iizuka Y: The eating habits of Japanese mothers whose BMI classification is under weight. Women's Health 2014, The 21th Annual Congress, Washington DC, 2014.4.
2. Noguchi M, Osanai Y, Kawaguchi M, Konagai S: The connotation of "women's friendly care" in Cambodia, The International Congress of Midwives 30th Triennial Congress, Prague, 2014. 6.
3. Itoh K, Ogita T Asaka Y: Yoga improves the emotion of pregnant women in the third trimester. 30th International Confederation of Midwives, Prague, Czech Republic, 2014.6.
4. Araki N, Ogasawara K, Shioya M: Experiences and satisfaction levels of fathers present at childbirth. 30th ICM Conference 2014, Prague, Czeck Republic, 2014.6.
5. Noguchi M, Kume M, Murayama Y, Harada M, Iizuka Y: The dietary intake of Japanese women raising children in infancy. IEA World Global Conference of Epidemiology, Anchorage, Anchorage, 2014. 8.
6. Asaka Y: Maternal perception related to the regulation of the sleep wake pattern of infants in Japan. 20th IEA would congress of epidemiology, Alaska, U.S.A, 2014.8.
7. Colley N: Prevention for excessive discrimination of the non-qualified. 8th International Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network Conference, Helsinki, Finland, 2014.8.
8. Kawaharada M, Honda H, Shindo Y, Tanaka R, Odajma Y, Sakagami Y: Elements of Social Capital in Japan: A Qualitative Research. 46th Asia-Pacific Academic consortium for Public Health Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2014.10.
9. Honda H, Matsuda N, Hirano M, Saeki K: Building Relationships between Mothers and the Community through Child-rearing. 46th Asia-Pacific Academic consortium for Public Health Conference, Kuala Lumpur, Malaysia, 2014.10.
10. Honda H, Matsuda N, Hirano M, Saeki K: Social Competency on building the Mothers' networks relating social support of child-rearing. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015.2.
11. Nakata A, Miyajima N, Sato Y: Factors of Child Dental Fear. 18th East Asia Forum of Nursing Scholars, Taipei, Taiwan, 2015. 2.

V. 研究活動

[国内学会]

1. コリー紀代, 大塚 健: 道内における小児用在宅人工呼吸器の普及とヘルパー等事業所の研修受講状況. 日本医工学治療学会第30回学術大会, 名古屋, 2014.4.
2. 安積陽子, 太田英伸: 小児を対象としたアクチグラフ装着部位による推定睡眠指標への影響. 第8回子どもの眠り研究会 第56回日本小児神経学会学術集会, 浜松, 2014.5.
3. 荒木奈緒: 周産期医療の中で生きる子どものいのちと看護師のかかわり. 日本文化人類学会第48回研究大会, 千葉, 2014.5.
4. 藤田和佳子, ダニエル・ングギ, 村上睦子: タンザニア・ムツワラにおける立会い出産に関するニーズ調査. 日本アフリカ学会第51回学術大会, 京都, 2014.5.
5. 安積陽子: 子どもの生活習慣作りにおける重要度の認識と実践度の関連—乳幼児の母親と保育の専門職者の比較による検討. 第61回日本小児保健協会学術集会, 福島, 2014.6.
6. 川上有紀, 荒木奈緒, 野口真貴子, 佐藤洋子: 母親が参加するプレパレーションの実態と母子への影響. 日本小児看護学会第24回学術集会, 東京, 2014.7.
7. 渡辺早貴, 藤田 晃, 川上有紀, 熊倉寿希, 佐竹恵美子, 佐藤洋子: 入院中・退院後における小児の睡眠の実態—客観的指標と主観的指標による評価—. 日本小児看護学会第24回学術集会, 東京, 2014.7.
8. 野口真貴子: カンボジア王国における“women-friendly care”の測定用具の開発. 第13回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 東京, 2014.7.
9. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 一般児童における歯科恐怖の実態—歯科恐怖と歯科受診歴, 歯科の印象, 保護者の歯科恐怖との関係. 日本看護研究学会第40回学術集会, 奈良, 2014.8.
10. 平野美千代, 佐伯和子, 本田 光, 麻原きよみ: 保健師の総合的なキャリア発達尺度の開発に向けた予備調査. 地域看護学会第18回学術集会, 岡山, 2014.8.
11. 進藤ゆかり, 本田 光, 河原田まり子, 田仲里江, 坂上ゆかり, 小田嶋裕輝: 住民の暮らしからみたソーシャルキャピタル. 日本地域看護学会, 岡山, 2014.8.
12. 本田 光, 進藤ゆかり, 河原田まり子, 田仲里江, 坂上ゆかり, 小田嶋裕輝: 地域保健活動において保健師が認識するソーシャルキャピタル. 日本地域看護学会, 岡山, 2014.8.
13. 渡部舞子, 安積陽子: 妊娠期の配偶者をもつ日本人男性の抑うつ傾向とソーシャルサポートの関連. 第55回日本母性衛生学会総会学術集会, 千葉, 2014.9.
14. 白木七瀬, 原 美咲, 荒木奈緒: 完全母乳育児と夫の母乳育児参加との関連. 第55回母性衛生学会学術集会, 千葉, 2014.9.
15. 水野芳子, 城野美幸, 佐藤亜月子, 小澤美和, 青木伸也, 小浅恵美, 内野聖子: 訪問看護ステーション管理者が実施しているデスエデュケーションとスタッフの支援(2). 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第16回大会, 香川, 2014.9.
16. 小澤美和, 城野美幸, 佐藤亜月子, 高橋朋子, 高田 薫, 水野芳子, 内野聖子: 訪問看護ステーション管理者が実施しているデスエデュケーションとスタッフの支援(1). 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第16回大会, 香川, 2014.9.
17. コリー紀代: 災害・停電時における気管内吸引のリスク対策—足踏み式吸引器の使用経験から—. 第61回日本小児保健協会学術集会, 福島, 2014.9.
18. 荒木奈緒, 林 卓宏: 妊娠継続中に胎児の異常を診断された女性の支援ニーズ—助産学的視点からの分析—. 日本遺伝看護学会, 沖縄, 2014.10.

V. 研究活動

19. 高田薫, 小澤美和, 水野芳子: 看護師が静脈注射技術を習得する過程についての研究. 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第16回大会, 香川, 2014.10.
20. 和泉比佐子, 岡田尚美, 松原三智子, 佐伯和子, 藺牟田洋美, 森 満: 青壮年期のメタボリックシンドローム予備群を対象とした介入プログラムの評価. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014.10.
21. 平野美千代, 佐伯和子, 本田 光, 麻原きよみ, 三井尚美: 行政機関に勤める保健師の専門職務遂行能力の構造. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014.10.
22. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 麻原きよみ, 三井尚美: 行政機関に勤務する非常勤保健師の専門職務遂行能力. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014.10.
23. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 1歳半児の咀嚼力と養育者の児への食事提供の実態との関連. 第73回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014.10.
24. Noguchi M, Matsui M, Osanai Y, Horikoshi Y, Takehara K, Chizuru M, Egami Y: Women-friendly childbirth experience Cambodia. 第55回日本熱帯医学大会第29回日本国際保健医療学会学術大会, 東京, 2014.11.
25. Noguchi M, Matsui M, Osanai Y, Horikoshi Y, Takehara K, Chizuru M, Egami Y: Evidence-based midwifery care and assessment among Cambodian midwives. 第55回日本熱帯医学大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会, 東京, 2014.11.
26. 石岡明子, 小野塚美香, 中野政子, 石田香代子, 櫻田弘美, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代: 大学病院における院内認定がん看護エキスパートナース養成プログラムの学習効果と課題. 第34回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.11.
27. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 水野芳子, 麻原きよみ: 行政機関に勤務する保健師の職務および職場満足の経験群別比較. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
28. 蔵満美奈, 平野美千代, 佐伯和子: 若年認知症の配偶者を介護する介護者と友人知人・近所の人とのつながり. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
29. 及川真子, 佐伯和子, 平野美千代: 高齢者の身近な地域における社会参加の動機～札幌市A区に在住する高齢者を対象に～. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
30. 石黒 毅, 佐伯和子, 宮島直子: うつ状態にある友人への対応に関する大学生の意識. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
31. 木村宣哉, 佐伯和子, 平野美千代: 健康増進施策で保健師が重要と考える栄養・食生活アセスメント項目—地域の健康増進に関する栄養・食生活のリスク分析—. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
32. 本田 光, 松田宣子, 平野美千代, 佐伯和子: 子育てを通して構築される母親の地域とのつながり一つつながりを求める動機とつながりが果たす機能—. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
33. 池田千聖子, 平野美千代, 佐伯和子: 健診機関に勤務する看護職のメンタルヘルスケア提供の自信とその関連要因. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会, 神戸, 2015.1.
34. 山中こずえ, 須藤瑞穂, 松中 恵, 渋谷千恵, 大市彩加, 安田瑞穂, 田中ゆきえ, 荒木奈緒: 化学療法を受けている患者の口腔内乾燥に関する調査. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
35. 中野政子, 日下部緑, 二社谷美紀, 三宅亜矢, 船木典子, 石岡明子, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの実践と評価(第1報)—がん化学療法看護の研修評価—. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.

V. 研究活動

36. 成瀬恭子, 眞貝祐紀, 佐藤雅子, 石岡明子, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの実践と評価(第2報)ーがん放射線療法看護の研修評価ー. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
37. 竹田泰子, 半澤江衣, 田中愛子, 石岡明子, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの実践と評価(第3報)ー緩和ケアの研修評価ー. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
38. 石岡明子, 小野塚美香, 高岡勇子, 中野政子, 石田香代子, 櫻田弘美, 岩山陽子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの開発に向けた取り組み. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
39. 沼田 愛, 児島美咲, 後藤なつみ, 西村沙由梨, 青柳道子: 一般病棟での終末期がん患者野ケアにおける看護師の感情の実態と関連要因. 第29回日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2015.2.
40. 野口真貴子, 松井三明, 小山内泰代, 堀越洋一, 竹原健二, 三砂ちづる, 江上由里子: カンボジアにおける分娩期ケアに対する助産師と女性の認識. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015.3.
41. 荻田珠江, 伊藤香織, 安積陽子: POMS 短縮版でみたマタニティヨーガ実施前後の気分・感情の変化. 第29回日本助産学会学術集会, 東京, 2015.3.
42. コリー紀代, Andrew Cashin: オーストラリアにおける特定看護師の業務範囲と報酬体系. 日本医工学治療学会第31回学術大会, 広島, 2015.3.
43. コリー紀代, 清水弘美, 長田靖子: 気管内吸引法6種の実施時間の比較. 日本医工学治療学会第31回学術大会, 広島, 2015.3.
44. 橋本美幸, 高橋紀子, 坂上明子: 産後に母親が祖母から受けた子育て支援内容の特徴. 第29回日本助産学会学術集会, 東京, 2015.3.
45. 橋本美幸, 高橋紀子, 坂上明子: 母親が感じた祖母から受けた産後の子育て支援の仕方の特徴. 第29回日本助産学会学術集会, 東京, 2015.3.
46. 山本英子, 大月恵理子, 高橋紀子: 乳児をもつ母親の育児肯定感を高める親子体操プログラムの作成と試行. 第29回日本助産学会学術集会, 東京, 2015.3.

[地方会]

1. コリー紀代, 高橋理恵: 道内のヘルパー等事業所から見た医療的ケア研修受講における障壁. 北海道小児保健研究会平成26年度総会, 札幌, 2014.5.
2. 秋元彩花, 山川恵里奈, 伊藤由美, 佐川 正: 助産師外来における超音波検査の実態調査. 第18回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2014.11.
3. 藤田和佳子, Emelda Mnzava: タンザニアの公立病院分娩室における助産業務の実態. 看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2014.11.
4. 池田千聖子, 平野美千代, 佐伯和子: 健診機関看護職のメンタルヘルスケア業務量とその関連要因. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
5. 及川真子, 佐伯和子, 平野美千代: 札幌市A区に在住する高齢者の身近な地域における社会参加の実態. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
6. 森本友香, 平野美千代, 佐伯和子: 公衆衛生看護学実習における家庭訪問指導についての実習指導者の意識. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.

V. 研究活動

7. 蔵満美奈, 平野美千代, 佐伯和子:若年性認知症の配偶者を介護する家族介護者と家族の会とのつながり. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
8. 木村宣哉, 佐伯和子, 平野美千代:健康増進施策で保健師が重要と考える栄養・食生活アセスメントにおける地域の特性の把握の項目. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
9. 瀧澤莉代, 久富沙織, 仁村優希, 三宅 杏, 水野芳子, 齋藤芳子, 佐伯和子:地域で安心して暮らすための見守りに関する高齢者の意識. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
10. 渡辺真優, 池田雄二郎, 佐々木奈美, 鈴木志穂, 平野美千代:育児期における母親の相談相手と対人態度の関連. 第66回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2014.12.
11. 津村宣彦, 島畑顕治, 佐川 正:バイアスピリン投与中に緊急手術後, 腹腔内出血を生じた1例. 第6回千歳臨床医学研究会, 北海道, 2015.1.
12. コリー紀代:重症心身障害児(者)の両親以外の家族のニーズと支援の方向性. 第3回北海道重症心身障害医療研究会, 札幌, 2015.1.
13. 野口真貴子, 松井三明, 小山内泰代, 堀越洋一, 竹原健二, 三砂ちづる, 江上由里子:カンボジアにおける分娩期ケアに対する女性の認識. 日本国際保健医療学会第33回西日本地方会, 鹿児島, 2015.2.

■業績 (平成 27 年度)

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Honda H, Matsuda N, Hirano M, Saeki K: Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process. *Bulletin of Health Sciences Kobe* 30: 35-54, 2015.
2. Fujita W, Mukumbuta L, Chavuma R, Ohashi K: Quality of partogram monitoring at a primary health centre in Zambia. *Midwifery* 31:191-196, 2015.
3. Takasima R, Murata W, Saeki K: Movement changes due to hemiplegia in stroke survivors: a hermeneutic phenomenological study. *Disability and Rehabilitation*. 2015. DOI:10.3109/09638288. 2015. 110729.
4. Miyazaki M, Watanabe Y, Sato Y : Laws related to the Protection of Women's Health in Japan. *Medicine and Law*, 34:635-644, 2015.
5. Colley N, Asaka T, Sakai S, Shimizu H, Nagata Y, Honda C, Sasaki T, Nishioka T: Differences in Visual Attention between Novice and Expert Nurses Performing Endotracheal Suctioning. *Therapeutics & Engineerings* 27, 97-105, 2015.
6. Asaka Y, Takada S: Longitudinal Evaluation Nocturnal Sleep Behaviors of Healthy and Well Developed Children Born Prematurely. *Open Journal of Pediatrics*, 6: ID: 64331, 5 pages, 2016.
7. Mani H, Hsiao S, Konishi T, Izumi T, Tsuda A, Hasegawa N, Takeda K, Colley N, Asaka T: Adaptation of postural control while standing on a narrow unfixed base of support. *International Journal of Rehabilitation Research* 39, 92-95, 2016.
8. 及川真子, 佐伯和子, 平野美千代: 札幌市 A 区在住の高齢者事業参加者の地縁的活動の実態. *北海道公衆衛生学雑誌* 28 : 69-76, 2015.
9. 瀧澤莉代, 久富沙織, 仁村優希, 三宅 杏, 水野芳子, 齋藤芳子, 佐伯和子: 高齢者が地域で安心して暮らすための見守りに関する高齢者の意識. *北海道公衆衛生学雑誌* 28 : 77-84, 2015.
10. 安積陽子: 助産・医療における子育て支援: 子育て支援はいかに変化するべきか? 助産師としての取り組みから. *国際ジェンダー学会誌* 第 13 号, 19-31, 2015.
11. 米澤裕子, 木村奈都未, 長沼希久代, 李 雪麗, 青柳道子: 看護学生の訪問看護師に対するイメージ構造. *北海道公衆衛生学雑誌* 28 : 91-97, 2015.
12. コリー紀代, 大塚 健: 医療機器開発における Infinity model の提案. *医工学治療* 27 : 8-12, 2015.
13. 荒川真澄, 古満まりの, 島明日美, 本田 光: 働く世代の男性におけるメタボリックシンドローム予防行動に対する認識の特徴. *北海道公衆衛生学雑誌* 28 : 113-118, 2015.
14. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 1 歳半児の咀嚼力と養育者の児への食事提供の実態. *厚生*の指標 62 : 12-18, 2015.
15. 伊藤由美, 良村貞子, 佐川 正: 助産システムにおける概念分析に基づく助産師の自律性の特徴. *母性衛生* 56 : 95-103, 2015.
16. 津村宣彦, 島畑顕治, 佐川 正: バイアスピリン投与中に緊急手術後, 腹腔内出血を生じた 1 例. *市立千歳市民病院医誌* 11(1) : 5-6, 2015.
17. 栗田 優, 神谷由子, 高橋紀子, 本間陽子, 佐藤洋子: 入院中の子どもに付き添う母親の睡眠の実態と

V. 研究活動

- QOL との関連—客観的指標と主観的指標による評価—. 日本小児看護学会誌 24:26-32, 2015.
18. 中澤貴代, 安積陽子: 助産学実習における学生のバースレビューに対する教育的関わりへの検討. 日本看護学教育学会誌 25:59-67, 2015.
 19. 荻田珠江, 安積陽子: 唾液中クロモグラニン A によるマタニティヨーガの精神的ストレス軽減効果の検証. 北海道母性衛生学会誌 44:31-34, 2015.
 20. コリー紀代: 気管内吸引のシミュレーション教育における評価法とその課題—看護師と学生の視野の比較から—. 平成 27 年度北海道小児保健研究会会誌:23-27, 2015.
 21. 栗田 優, 神谷由子, 高橋紀子, 本間陽子, 佐藤洋子: 入院中の子どもに付き添う母親の睡眠の実態と QOL との関連—客観的指標と主観的指標による評価—. 日本小児看護学会誌 24:26-32, 2015.
 22. 石黒 毅, 佐伯和子, 宮島直子: うつ状態にある友人への対応についての大学生の意識と性別及び学部系統との関連. 北海道公衆衛生学雑誌 29:53-60, 2016.
 23. 熊谷晴加, 森合 薫, 辻 明里, イルデフォンソ瑠衣, 大西竜太, 佐伯和子: 一次介護予防事業に参加する高齢者の介護予防事業, 地域活動, 日常生活における人とのつながり. 北海道公衆衛生学雑誌 29:101-106, 2016.
 24. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 麻原きよみ, 和泉比佐子, 阿久津雅子, 三井尚美: 行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の変化—2001 年と 2013 年の比較—. 北海道公衆衛生学雑誌 29:131-137, 2016.
 25. 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 山本真充, 吉川由希子, 小野智美, 清水称喜, 吉本康子, 伊織光恵, 平田美佳, 後藤真千子, 早田典子, 佐藤洋子, 横山佳世, 浅利剛史, 蝦名美智子: タブレット端末用コンテンツを用いてプレパレーションを行った小児の反応と評価—看護師と保護者に行った質問紙調査自由記述のテキストマイニングによる分析を通して—. 札幌保健科学雑誌 5:53-58, 2016.
 26. 常田美和, 新川加奈子, 藤田和佳子, 高橋紀子, 佐藤洋子: JICA「課題別研修母子保健(B)」における Project Cycle Management(PCM) 手法学習への介入の成果—3 か国の PCM 展開の分析結果から—. 札幌保健医療大学紀要 2:51-62, 2016.
 27. 福田友愛, 尾立 陸, 齊藤葉月, 南山斗志世, 池田雄二郎, 平野美千代: 自主組織に参加する高齢者の他者とのつきあいと生きがいの関連. 北海道公衆衛生雑誌 29:61-67, 2016.
 28. 長沼希久代, 木村奈都未, 米澤裕子, 李 雪麗, 青柳道子: 看護学生の訪問看護への就職希望に関連する要因の検討. 北海道公衆衛生学雑誌 29:151-158, 2016.
 29. 柴田恭香, 荒木望実, 古口夏子, 久富沙織, 佐藤弘美, 得能睦美, 室矢剛志, 菊池佳菜子, 水野芳子: 北海道宗谷郡猿払村に暮らす高齢者の通院状況と負担感. 北海道公衆衛生学雑誌 29:123-129, 2016.
 30. 水野芳子: 小規模自治体に勤務する保健師の職務満足感と生活満足感. 北海道公衆衛生学雑誌 29:131-138, 2016.

B. 著書

1. 佐伯和子, 安積陽子(分担): 事例 大学院における保健師・看護師の教育 看護師教育課程の上乗せの役割を担う. 平成 27 年版看護白書. 39-47, 日本看護協会出版会, 東京, 2015.
2. 佐伯和子(分担): 第 7 章公衆衛生看護管理 継続教育・専門的自律. 第 4 版公衆衛生看護 j p (荒賀直子・後閑容子編). 493-499, インターメディカル, 東京, 2015.
3. 安積陽子(分担): 新生児フォローアップ. 日常診療における子どもの睡眠障害(谷池雅子編). 68-72,

V. 研究活動

診断と治療社, 東京, 2015.

4. 進藤ゆかり, 岩本幹子, 青柳道子(分担): 第3章 アセスメントー統合. 在宅看護過程演習ーアセスメント・統合・看護計画から実施・評価へー(上田泉編). 32-37, クオリティケア, 東京, 2015.
5. 青柳道子(分担): 第7章 看護過程の実際ー事例別の展開 医療依存度が高い末期がん患者の事例. 在宅看護過程演習ーアセスメント・統合・看護計画から実施・評価へー(上田泉編). 99-118, クオリティケア, 東京, 2015.
6. 佐藤洋子(分担): 第10章 乳幼児の身体の清潔. 改訂 子どもの保健演習ガイド(高内正子編著). 101-112, 建帛社, 東京, 2015.
7. 野口真貴子(分担): 産後うつと早期発見と看護診断. マタニティサイクルとメンタルヘルス(久米美代子・堀口文編). 57-66, 医歯薬出版, 東京, 2016.
8. 藤田和佳子(分担): アフリカの女性とリプロダクションー国際社会の開発言説をたおやかに超えてー(落合雄彦編). 167-195, 晃洋書房, 京都, 2016.
9. 藤田和佳子(分担): 来て! 助産師さん(土屋さやか訳者代表). クオリティケア, 東京, 2016.
10. 高橋紀子: ナーシング・グラフィカ母性看護学①母性看護実践の基本(横尾京子, 中込さと子, 荒木奈緒編). 156-161, 181-183, メディカ出版, 大阪, 2016

C. 総説, 解説, 論評

1. 佐伯和子, 藪本初音: 理解して生かす保健師用語(第1回) 公衆衛生看護. 地域保健 46(4): 68-69, 2015.
2. 佐伯和子: 【地域診断のチカラをつける - 基礎教育から現任教育へ】保健師教育における地域診断技術教育の意義と到達目標. 保健師ジャーナル 71: 278-285, 2015.
3. 安積陽子: 助産・医療における子育て支援: 子育て支援はいかに変化すべきか? - 助産師としての取り組みから. 国際ジェンダー学会誌 13: 19-31, 2015.
4. 宮崎美砂子, 佐伯和子, 上田修代, 石川麻衣, 平野美千代: 被災地の保健活動の課題と今後に向けて. 保健師ジャーナル 72(3): 212-215, 2016.
5. 山本恵梨子, 磯野晃照, 進藤ゆかり: パーキンソン病患者を支える在宅ケアシステムに関する我が国の研究動向. 北海道公衆衛生雑誌 29(2): 41-51, 2015.

D. 報告書

1. Noguchi M: The Grant of National Center for Global Health and Medicine, Final report about "the questionnaire survey to assess the effects of women-friendly midwifery care on maternal and child health", National Center for Global Health and Medicine, 2015
2. 松本珠実, 岡島さおり, 朽木悦子, 黒橋真奈美, 小西美香子, 西嶋知子, 吉田知可, 横山美江, 佐伯和子, 半澤節子: 平成26年度地域保健総合推進事業 ソーシャル・キャピタルの醸成にかかる保健師の能力形成に関する研究報告書. 2015.
3. 野口真貴子: 国際医療協力研究「24指4: 医療従事者と妊産婦の関係性が出産/出生ケアの質に与える影響」分担研究報告書(独立行政法人国立国際医療研究センター). 2015.
4. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 麻原きよみ, 阿久津雅子, 三井尚美, 水野芳子: 科学研究費助成事業(基盤研究C) 報告書. 「保健師の総合的なキャリア発達尺度の開発」北海道調査 結果報告書. 行政保健師の

V. 研究活動

多様なキャリアに対応した総合的なキャリア発達測定尺度の開発に関する研究：1-13, 2015.

5. 佐伯和子(分担)：厚生労働科学研究費補助金平成27年度総括・分担研究報告書。地域保健に従事する人材の計画的育成に関する研究。研究代表者：奥田博子。2016.
6. 佐伯和子(分担)：厚生労働科学研究費補助金平成26年度～27年度総合研究報告書。地域保健に従事する人材の計画的育成に関する研究。研究代表者：奥田博子。2016.
7. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 麻原きよみ, 阿久津雅子, 三井尚美, 水野芳子:科学研究費助成事業(基盤研究C)報告書。「保健師の総合的なキャリア発達尺度の開発」全国調査 結果報告書。行政保健師の多様なキャリアに対応した総合的なキャリア発達測定尺度の開発に関する研究：1-14, 2016.
8. 本田 光：科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(若手B)報告書。子育て世代における「地域とつながる力」の概念構築：1-7, 2016.

E. その他

[受賞]

1. 伊藤由美, 秋元彩花, 山川恵里奈, 佐川 正：研究奨励賞受賞「統合分析を用いた文献レビューからみた助産師による妊娠期の超音波検査の課題」(第45回北海道母性衛生学会学術講演)
2. 平野美千代：Student Poster Award. "Advisers of mothers raising children and the content of advice in Japan.". The 6th international conference on community health nursing research, Seoul, Korian, 2015.8. (発表者：池田雄二郎)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Noguchi M: Maternal and child care with midwifery approach, 3rd JAVA International Nursing Conference 2015, Semarang, Indonesia, 2015.8.

[国内学会]

1. 野口真貴子：シンポジウム 私たちに支援は可能か。「母子の力を支える助産ケアをめざして」。第14回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 東京, 2015. 7.
2. 安積陽子：助産・医療における子育て支援：子育て支援はいかに変化すべきか？。国際ジェンダー学会2014年大会, 静岡, 2015. 9.
3. 伊藤由美, 秋元彩花, 山川恵里奈, 佐川 正：統合分析を用いた文献レビューからみた助産師による妊娠期の超音波検査の課題(研究奨励賞受賞講演)。第45回北海道母性衛生学会学術講演会, 札幌, 2015. 9.
4. 野口真貴子：シンポジウム 開発途上国から日本への回帰。国際保健の日本の公衆衛生・地域保健への貢献「母子の健康をグローバルに支える助産」。第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015. 10.
5. 佐伯和子:「未来を創造できる保健師基礎教育」。第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016. 1.

[地方会]

1. 荻田珠江, 安積陽子：マタニティヨガのストレスへの影響に関する研究～唾液中クロモグラニンAによ

るマタニティヨガの精神的ストレス軽減効果の検証～(研究奨励賞講演). 第44回北海道母性衛生学会学術講演会, 札幌, 2015. 9.

2. 野口真貴子:「豊かな出産とは? 女性の出産体験の向上をめざして」(教育講演). 東京母性衛生学会学術セミナー, 東京, 2016. 3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Asaka Y, Takada S: Longitudinal evaluation of nocturnal sleep quality of infants born prematurely, The 13th Asian and Oceania Congress of Child Neurology (2015 AOCCN), Taipei, 2015.5.
2. Sakamoto M, Kanemune M, Yamamoto E, Shibamoto M, Takahashi N: A study on the necessary support to education and difficult situations in nutrition education of pregnant women. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015. Yokohama, Japan, 2015.7
3. Akimoto S, Yamakawa E, Ito Y, Fujita W, Sagawa T. A survey on the utilization of ultrasound examination at the midwives-led outpatient department in Hokkaido, Japan. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, 2015.7.
4. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T. The influence of early skin-to-skin contact immediately after birth based on neonatal weight gain and methods of giving nutrition at one month after birth for different delivery positions. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, 2015.7.
5. Noguchi M, Omura A, Kasuga Y, Kubo M: A survey of university student' attitudes toward marriage and childbirth. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, Japan, 2015.7.
6. Noguchi M, Nagano K, Yamamoto C, Takeda C: The midwives' perception about postnatal care in Sapporo, Japan. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, Japan, 2015.7.
7. Tsuneta M, Sato Y, Takahashi N, Fujita N: Effects and future issues of JICA training program promoting maternal and child health. ICM Asia Pacific Regional Conference, Yokohama, Japan, 2015.7.
8. Nakazawa T, Asaka Y: The educational support for achieving the student's skills of birth review in practice of midwifery, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Kanagawa, 2015.7.
9. Itoh K, Asaka Y, Ogita T, Moriyama T: Psychological effect of yoga program on pregnant women using salivary chromogranin A, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Kanagawa, 2015.7.
10. Kutomi S, Nimura Y, Takizawa R, Miyake A, Saito Y, Mizuno Y, Saeki K: Views on monitoring community-dwelling older residents in a metropolitan city (3rd report) The views of older residents and adult residents on monitoring by smartphone. International Collaboration for Community Health Nursing Research 6th, Seoul, Korea, 2015.8.
11. Nimura Y, Mizuno Y, Kutomi S, Takizawa R, Miyake A, Saito Y, Mizuno Y, Saeki K: Views on monitoring community-dwelling older residents in a metropolitan city (1st report) Views of adult residents on monitoring and related factors. International Collaboration for Community Health Nursing Research 6th, Seoul, Korea, 2015.8.
12. Mizuno Y, Kutomi S, Nimura Y, Takizawa R, Miyake A, Saito Y, Mizuno Y, Saeki K: Views on monitoring community-dwelling older residents in a metropolitan city (2nd report) Views on the reorganization of a monitoring system in a small region. International Collaboration for Community Health Nursing Research

- 6th, Seoul, Korea, 2015.8.
13. Izumi H, Matsubara M, Saeki K, Imuta H, Mori M: Evaluation of interventions for patients with pre-metabolic syndrome: focusing on the establishment and implementation of behavioral goals. International Collaboration for Community Health Nursing Research 6th, Seoul, Korea, 2015.8.
 14. Ikeda Y, Sasaki N, Watanabe M, Suzuki S, Hirano M: Advisers of mothers raising children and the content of advice in Japan. The 6th international conference on community health nursing research, Soul, Korean, 2015.8.
 15. Miyazaki M, Sato Y, Watanabe Y: Laws related to the protection of women's health in Japan. 21st World Congress on Medical Law, Coimbra, Portugal, August, 2015.8.
 16. Miyazaki M, Watanabe Y, Sato Y: Children's rights and marriage. 21st World Congress on Medical Law, Coimbra Portugal, 2015.8.
 17. Sato Y, Miyazaki M: Legal Environment Regarding Decision Making for Children Treated for Pediatric Cancer. 21st World Congress on Medical Law, Coimbra Portugal, 2015.8
 18. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T. Maternal and neonatal physical risks and effects of freestyle delivery positions during the second stage of spontaneous vaginal delivery: a case control study. IARMM 4th World Congress of Clinical Safety, Vienna, 2015.9.
 19. Takashima Risa, Kazuko Saeki: Movement changes due to hemiplegia in stroke survivors: A hermeneutic phenomenological study. 6TH Asia Pacific Occupational Therapy Congress, Rotorua, New Zealand, 2015.9.
 20. Tanaka Y, Saeki K: Decision making about psychiatric hospital discharge among family caregivers of persons with early onset dementia, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016.3.
 21. Miyake A, Saeki K, Hirano M: Mothers' feelings about the development of their children with autism spectrum disorder before they enroll their children in an educational program: A qualitative study, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016.3.
 22. Li X, Saeki K, Aoyanagi M: Interpersonal Relationships of Nursing Care Leaders at the Workplace In Metropolitan Cities in Japan, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016.3.
 23. Suzuki S, Saeki K, Hirano M, Miyazaki Y, Ikeda C: Supervisor-subordinate informal communication in Japanese workplaces and related factors, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016.3.
 24. Tsuneta M, Takahashi N, Fujita W, Sato Y: Use of Traditional Birth Attendants in Africa. 19th EAFONS, Chiba, Japan, 2016.3.
 25. Mimura E, Sato Y: Literature review of reception processes for mothers of children with disabilities. 19th EAFONS, Chiba, Japan, 2016.3.
 26. Aoyanagi M: Development of scale to evaluate the interpersonal stress levels of family caregivers. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, 2016.3.
 27. Colley N, Fujita W, Takahashi N, Kangasniemi M, Abe Y, Ishimura G, Ozaki M, Date H: Nurse Robots or Nursing Robots?: Preparedness on Nursing for Ultra Aging Society in Japan. East Asian Forum of Nursing Scholars 2016, Chiba, 2016.3.
 28. Colley N, Takahashi N, Ninomiya S: A prototype of tracheal membrane model: A representation of sense

V. 研究活動

of touch by suctioning catheter. 16th International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2016), San Diego, USA, 2016. 1.

[国内学会]

1. コリー紀代：気管内吸引における看護師と看護学生の動作分析－モーションセンサーを用いた教育評価法の可能性－. 第35回看護科学学会学術集会, 広島, 2015.
2. 中川真智子, 太田英伸, 安積陽子, 高橋紀子, 中澤貴代, 兼次洋介, 荒井博子, 長和俊, 与田仁志, 草川 功：乳児期における早産児の行動・睡眠スクリーニング. 第56回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2015.5.
3. 安積陽子, 高田哲：2歳児の適切な生活習慣に関する母親・保育者・小児科医の認識, 第57回日本小児神経学会, 大阪, 2015.5.
4. 太田英伸, 兼次洋介, 森岡圭太, 早坂 格, 卯月ゆたか, 秋元琢真, 盛一享徳, 中川真智子, 大石芳久, 樋口重和, 安積陽子, 高橋紀子, 中澤貴代, 本間直樹, 須摩弘樹, 坂下隆一, 下河原みゆき, 長和俊, 水上尚典：新生児室における夜間の光環境デザイン. 第72回日本生理人類学会, 北海道, 2015.5.
5. 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 山本真充, 吉川由希子, 吉本康子, 伊織光恵, 佐藤洋子, 後藤真千子, 横山佳世, 浅利剛史, 羽場美穂, 蝦名美智子：タブレット端末媒体を用いてプレパレーションを行った小児の反応の評価 親に行った質問紙調査の自由記述のテキストマイニングによる分析を通して. 第62回日本小児保健協会学術集会, 長崎, 2015.6.
6. 常田美和, 佐藤洋子, 高橋紀子, 藤田和佳子：独立行政法人国際協力機構(JICA)母子保健コース研修の成果と課題. 第11回ICMアジア太平洋地域会議, 助産学術集会, 横浜, 2015.7.
7. 神谷由子, 栗田 優, 高橋紀子, 本間陽子, 佐藤洋子：千葉入院中の子どもに付き添う母親の睡眠の実態とQOLとの関連－客観的指標と主観的指標による評価－日本小児看護学会第25回学術集会, 千葉, 2015.7.
8. 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 山本真充, 吉川由希子, 小野智美, 清水称喜, 吉本康子, 伊織光恵, 平田美佳, 後藤真千子, 佐藤洋子, 横山佳世, 浅利剛史, 羽場美穂, 蝦名美智子：タブレット端末媒体を用いてプレパレーションを行った小児の反応－看護師に行った質問紙調査の自由記述のテキストマイニングによる分析を通して. 日本小児看護学会第25回学術集会, 千葉, 2015.7.
9. 野口真貴子, 村山より子, 久米美代子, 原田通予, 飯塚幸恵：幼児を育てている母親の食生活 ケーススタディリサーチデザインによる分析. 第14回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 東京, 2015.7.
10. 野口真貴子：幼児を育てている母親の食生活. 国際保健研究会, 東京, 2015.8.
11. 赤星琴美, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 蔭山正子, 二宮一枝, 佐藤玉枝, 村嶋幸代：保健師教育における技術項目と卒業時到達度調査(第1報)－保看統合大学と保健師選択大学の違い－. 日本地域看護学会第18回学術集会, 横浜市, 2015.8.
12. 村嶋幸代, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 二宮一枝, 佐藤玉枝, 赤星琴美：修士課程の保健師教育を先駆的に開始した大学からの報告. 日本地域看護学会第18回学術集会, 横浜, 2015.8.
13. 宮崎美砂子, 佐伯和子, 上田修代, 石川麻衣, 平野美千代：災害に対する地域保健活動と学会の役割 原子力災害被災地域への発災後3年8ヶ月時の訪問を通して捉えた地域保健活動の現状と課題の実際を踏まえて. 日本地域看護学会第18回学術集会, 東京, 2015.8.
14. 岩浅留美子, 瀬津永美, 高橋紀子, 下河原みゆき：保育器交換による人形の温度変動の検証. 第25回日

V. 研究活動

本新生児看護学会学術集会, 岩手, 2015.10.

15. 河原田まり子, 田仲里江, 進藤ゆかり, 本田 光, 島 明子:地域保健活動に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度開発のための予備調査. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.10.
16. 中川真智子, 太田英伸, 安積陽子, 高橋紀子, 中澤貴代, 兼次洋介, 荒井博子, 大石芳久, 長和俊, 与田仁志, 草川功:体動計による早産児の多動性・睡眠障害の評価と母親のメンタルヘルス支援. パブリックヘルス科学研究助成金2014年度研究成果報告会, 東京, 2015.11.
17. 木村奈都未, 長沼希久代, 米澤裕子, 李 雪麗, 青柳道子:看護学生の訪問看護への就職希望に関連する要因の検討. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.11.
18. 松本珠実, 横山美江, 岡島さおり, 朽木悦子, 黒橋真奈美, 小西美香子, 西嶋知子, 吉田知可, 佐伯和子, 半澤節子:保健師によるソーシャル・キャピタルの醸成過程. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎市, 2015.11.
19. 吉田知可, 松本珠実, 岡島さおり, 朽木悦子, 黒橋真奈美, 小西美香子, 西嶋知子, 横山美江, 佐伯和子, 半澤節子:ソーシャルキャピタルの醸成に結びつく公衆衛生看護活動. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎市, 2015.11.
20. 山本真充, 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 吉川由希子, 小野智美, 清水称喜, 吉本康子, 伊織光恵, 平田美佳, 後藤真千子, 佐藤洋子, 横山佳世, 浅利剛史, 羽場美穂, 蝦名美智子:タブレット端末媒体を用いたプレパレーションの評価ー保護者への質問紙調査結果を通してー. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12.
21. 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 小野智美, 吉川由希子, 佐藤洋子, 山本真充, 吉本康子, 平田美佳, 横山佳世:タブレット端末を用いた検査・処置のプレパレーションツールの検討. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12.
22. コリー紀代:気管内吸引技術の反復による学習効果ーモーションセンサーを用いた加速度と角速度の計測からー. 日本医工学治療学会第32回学術大会, 山梨, 2016.
23. 佐伯和子, 平野美千代, 本田 光, 水野芳子:修士課程における公衆衛生看護学教育の展開1:教育課程の設置と構築. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
24. 平野美千代, 佐伯和子, 本田 光, 水野芳子:修士課程における公衆衛生看護学教育の展開2:指定規則で定められた教育課程の運営. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
25. 朽木悦子, 松本珠実, 岡島さおり, 黒橋真奈美, 小西美香子, 西嶋知子, 吉田知可, 佐伯和子, 半澤節子, 横山美江:ソーシャル・キャピタルの醸成に結びつく保健師のアイデンティティ. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
26. 黒橋真奈美, 松本珠実, 岡島さおり, 小西美香子, 朽木悦子, 西嶋知子, 吉田知可, 佐伯和子, 半澤節子, 横山美江:ソーシャル・キャピタルの醸成に資する保健師の職場環境. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
27. 小西美香子, 松本珠実, 岡島さおり, 黒橋真奈美, 朽木悦子, 西嶋知子, 吉田知可, 佐伯和子, 半澤節子, 横山美江:ソーシャル・キャピタルの醸成に資する保健師の人材育成. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
28. 松本珠実, 黒橋真奈美, 岡島さおり, 小西美香子, 朽木悦子, 西嶋知子, 吉田知可, 佐伯和子, 半澤節子, 横山美江:ソーシャル・キャピタルの醸成に至る保健師の公衆衛生看護展開過程. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.

V. 研究活動

29. 村嶋幸代, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 二宮一枝, 佐藤玉枝, 赤星琴美: 大学院修士課程の保健師教育を開始した大学からの報告第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
30. 三宅 杏, 佐伯和子, 平野美千代: 自閉傾向を持つ児の母親が療育開始前に児および周囲との関係性の中で経験する心理. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
31. 田中裕子, 佐伯和子: 若年性認知症者の家族が精神科病院から在宅への退院を可能にした要因-1事例の考察-. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
32. 鈴木志穂, 佐伯和子, 平野美千代, 池田千聖子: 一般企業での上司とのインフォーマルコミュニケーションとソーシャルサポートの関連. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
33. 李 雪麗, 佐伯和子, 青柳道子: 特別養護老人ホームおよび小規模多機能における介護リーダーの職業性ストレスと関連要因. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
34. 河原田まり子, 進藤ゆかり, 本田 光, 田仲里江, 小田嶋裕輝, 坂上ゆかり: 地域保健分野で活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
35. 田仲里江, 進藤ゆかり, 本田 光, 河原田まり子, 小田嶋裕輝, 坂上ゆかり: ソーシャル・キャピタルを醸成する保健師活動の特徴. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京, 2016.1.
36. 青柳道子, 溝部佳代, 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 船木典子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの継続的評価第1報—エキスパートナースによる自己評価—. 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2016.2.
37. 溝部佳代, 青柳道子, 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 船木典子, 本間美恵, 高橋久美子, 川畑いづみ: 院内認定がん看護エキスパート養成プログラムの継続的評価 第2報 —認定半年後における所属部署の看護師長による活動評価—. 第30回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2016.2.
38. 野口真貴子, 村山より子, 久米美代子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の食事バランス. 第30回日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.
39. 永野来実, 野口真貴子: 乳幼児の育児に対して女性がもつ否定的感情に関する文献検討. 第30回日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.
40. 山本英子, 森 美紀, 大月恵理子, 高橋紀子: 乳児をもつ母親における親子体操プログラムの有用性の検討. 第30回日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.

[地方会]

1. Li X, Saeki K, Aoyanagi M: Stress in Nursing Care Leaders in Metropolitan Cities in Japan. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
2. 中川真智子, 太田英伸, 安積陽子, 高橋紀子, 中澤貴代, 兼次洋介, 荒井博子, 大石芳久, 長和俊, 草川 功, 与田仁志: アクチグラフを用いた乳幼児の睡眠発達調査. 第69回東邦医学会総会, 東京, 2015.11.
3. 深川修平, 堤健太郎, 高橋英章, 高野康羽, 佐藤夕貴, 川上有紀, 本田 光: 札幌市の新任保健師による自主的な学習会を通じた学び. 第67回北海道公衆衛生学会, 旭川, 2015.11.
4. コリー紀代: 重症心身障害児(者)の両親以外の家族のニードと支援の方向性. 第3回北海道重症心身障害医療研究会, 札幌, 2015. 1.

■業績 (平成 25 年度)

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Masahiro Teduka and Takeshi Nishioka*. Ambient-temperature fusible filter: a preliminary experiment and a proposal for a filtration process. *AIChE J* 60:22-26, 2013.
2. Li X, Ishihara S, Yasuda M, Nishioka T, Mizutani T, Ishikawa M, Kawabata K, Shirato H, Haga H. Lung cancer cells that survive ionizing radiation show increased integrin $\alpha 2 \beta 1$ - and EGFR-dependent invasiveness. *Pros One* 8:1-12, 2013
3. Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T; Japan College of Rheumatology Committee for the Standardization of Musculoskeletal Ultrasonography: Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint. *Arthritis Rheumatol* 66(3):523-32, 2014
4. Moriya S, Miki Y, Kamishima T, Miyati T, Kanagaki M, Matsuno Y, Yokobayashi T: Lingering fat signals with CHES in simultaneous imaging of both hands can be improved with rice pads in both 1.5T and 3.0T. *Eur J Radiol* 82(9):1458-62, 2013
5. 中村麻名美 真壁武司 手塚秀臣 三浦喬弘 梅村琢磨 杉森博行 坂田元道 頸動脈プラーク性状評価における k-space 充填法 (Radial Scan) 撮像条件の検討 日本放射線技術学会雑誌 Vol. 69 No. 4 407-412 Apr 2013
6. 白勢竜二 櫻井佑樹 長濱宏史 原田邦明 高島弘幸 中西光広 原田耕平 穴戸博紀 今村 壘 坂田元道 3T-MR 装置を用いた根治的前立腺全摘除術における手術支援用 3D 画像作成のための適切な MR 撮像シーケンスと撮像条件の検討 日本放射線技術学会雑誌 Vol. 69 No. 5 529-534 Apr 2013
7. 寺本 大翼 潮田 悠一 佐々木 絢加 長濱 宏史 櫻井 佑樹 中村 麻名美 杉森 博行 坂田 元道 MRI において果実・野菜が人体脳組織ファントムになり得るか? 日本放射線技術学会雑誌 Vol. 69 No. 10 1146-1152 Oct 2013
8. 中村麻名美 真壁武司 宇野弘幸 丹羽 潤 古明地孝宏 對馬州一 福田友美 坂田元道 radial scan 法による非心電図同期頸動脈血管壁イメージング 函館医学誌 Vol. 37 No. 1 41-45 Oct 2013
9. 中村麻名美 真壁武司 手塚秀臣 三浦喬弘 梅村琢磨 杉森博行 坂田元道 非心電図同期 Fast Spin Echo Sequence による radial scan 法を使用した頸動脈血管壁イメージング～ 3.0T における頸動脈血流速による血管内腔信号強度の評価～ 日本放射線技術学会雑誌 Vol. 69 No. 11 1261-1265 Nov 2013

B. 著書

1. 神島 保(分担): 関節の MRI 第 2 版 福田国彦 (編集), 上谷雅孝 (編集), 杉本英治 (編集), 江原 茂 (編集). 257-278, *メディカルサイエンスインターナショナル*, 東京, 2013.
2. 神島 保(分担): 画像診断ガイドライン 2013 年版 日本医学放射線学会 (編集), 日本放射線科専門医会・医会 (編集). 金原出版, 東京, 201

V. 研究活動

C. 総説, 解説, 論評

1. 山本 徹: MRI 画像診断を劣化させない金属インプラントの開発. 17-18, 平成 25 年度産学官連携の手引き 技術シーズ紹介, 北海道大学, 2013
2. 神島 保: 達人はこうみる 四肢関節画像診断 正常解剖 上肢 手関節. Orthopaedics, 101-106, 2013
3. 神島 保: 画像読影トレーニング 投球後, 利き手示指 PIP 関節付近に違和感があり, 関節炎が疑われた。違和感の原因は何か? 20 代, 男性, 野球選手(投手). 整形外科 Surgical Technique, 469-471, 2013

D. 報告書

1. 山本 徹: 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書
2. 山本 徹: 研究シーズ集 北海道大学産学連携本部
3. 伊達 広行(代表): 科学研究費補助金研究成果報告書: 基盤研究(C)(研究期間: 2010～2013, 課題番号: 22550055, 総額: 4,290 千円)「放射線被曝影響解析に向けた線量付与の統計的モデルの構築」(研究代表者: 伊達広行)

E. その他

[受賞]

1. 日本放射線技術学会 北海道部会 秋季大会研究発表 優秀研究賞
コーンビーム CT による胸部検査時の被ばく線量の評価(白石 祐太)
2. 日本放射線技術学会 北海道部会 秋季大会研究発表 優秀研究賞
半導体検出器を用いた 320 列 CT における実効エネルギー分布と線量の評価(中野 聡)
3. 日本放射線技術学会 北海道部会 秋季大会研究発表 優秀研究賞
チャイニーズハムスター肺由来繊維芽細胞(V79)を用いた DNA 損傷数のモデル解析(権 池勲)
4. 日本放射線技術学会 北海道部会 秋季大会研究発表 優秀研究賞
様々な細胞株に対する Non-Lethal Probability 細胞生存率モデルの応用(川崎 智博)

[学会研究会の主催]

1. 伊達 広行: 第 6 回 弘前大学・北海道大学 交換研究会(HH 交換研究会)
平成 25 年 6 月 15 日(土) 大学院保健科学院 2 階多目的室

[特許]

1. 磁気擾乱低減材, 磁気擾乱低減材を使用したインプラント材又は建材, 及びその製造方法
山崎慶太, 櫛部淳道, 広里成隆, 山本徹 2013.12.12
特願 2009-77161 国立大学法人北海道大学, 株式会社竹中工務店

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Hiroyuki Date: A special lecture at the Taipei Medical University on “Evolving Health Sciences: Our Mission to the Future”, 17 Dec. 2013

[国内学会]

1. 山本 徹: 特別講演「MRIにおける金属材料の影響 —検査安全性およびアーチファクト—」. 第23回日本磁気歯科学会学術大会, 登別, 2013.11.2.
2. 神島 保: シンポジウム2: MRIからみた骨関節疾患の病態 MRIからみた関節リウマチ. 第28回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 2013.10.
3. 神島 保: 教育講演 脊椎の炎症性疾患. 第41回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 2013. 9.
4. 神島 保: パネルディスカッション3 エキスパートに学ぶ画像診断 3-2 骨軟部組織感染症と褥瘡の画像診断. 第5回日本創傷外科学会総会・学術集会, 京都, 2013.7.

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Yamamoto T, Tang M: Prediction of RF burning: mapping of high-SAR areas using a low-RF power scan. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 21th Annual Meeting and Exhibition, Salt Lake City, USA, 2013.4. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 21:2834.)
2. Ogisu K, Fujita A, Yamamoto T: Insight into intravoxel incoherent motion: appearance of signal from interstitial fluid. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 21th Annual Meeting and Exhibition, Salt Lake City, USA, 2013.4. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 21:3110.)
3. Gao Y, Esaki Y, Dozono H, Muramatsu K, Yamamoto T: Analysis of Magnetic Disturbance due to Paramagnetic Metallic Implant in Magnetic Resonance Imaging. COMPUPAG 2013, Budapest, Hungary, 2013.7.
4. Tang M, Yamamoto T: Vascular properties obtained from spin-echo signal fluctuations in the human brain. 20th International Conference on Medical Physics, Brighton, UK, 2013.9
5. Tang M, Yamamoto T: Arteriolar elasticity obtained from spin-echo signal fluctuations in the human brain. RSNA 99th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, 2013.12
6. Mori Y, Manabe O, Yoshinaga K, Katoh C, Tomiyama Y, Tamaki N: Evaluation of Myocardial Blood Flow Response to Dobutamine Stress using Dynamic 11C-Acetate PET in patient with coronary artery stenosis. The 60th Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting, Vancouver, Canada, 2013.6.
7. Mori Y, Katoh C, Naya M, Manabe O, Yoshinaga K, Katoh C, Tomiyama Y, Tamaki N: Improvement of Method for Quantification of Regional Myocardial Blood Flow Using 11C-Acetate PET: Comparison with 15O-H2O PET. The 60th Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting,

- Vancouver, Canada, 2013.6.
8. Kohei Sasaki, Hiroyuki Date, Kaori Tsutsumi, Yusuke Matsuya, and Akio Itoh. In silico modeling for the radiation-induced bystander effect with confluent cell monolayers. 40th Annual Meeting of the European Radiation Research Society, W-58, Dublin (Ireland), 2013.9.1-5
 9. Yusuke Matsuya, Yosuke Ohtsubo, Kaori Tsutsumi, Kohei Sasaki, Rie Yamazaki, and Hiroyuki Date. Estimation of DNA damage related to RBE with photon irradiation. 40th Annual Meeting of the European Radiation Research Society, M-14, Dublin (Ireland), 2013.9.1-5
 10. Seishin Takao, Masahiro Mizuta, Hiroyuki Date, Yuriko Komiya, Kenneth L. Sutherland, Rikiya Onimaru, Shinichi Shimizu, and Hiroki Shirato. A Mathematical Framework to Select Fractionation Regimen based on Physical Dose Distribution for Proton Therapy. The 52nd Annual Conference of the Particle Therapy Co-Operative Group (PTCOG 52), Congress Center in Essen, Germany, 2-8 June 2013
 11. Takeshi Nishioka, Hiroki Shirato, Motoaki Yasuda: HIF-1 α Post Transcriptional mRNA Regulation Under Normoxia: The Significance Of UTRs. Annual Meeting of American Society of Therapeutic Radiology and Oncology, Atlanta, USA, 2013.9
 12. Naomi Tamura, Takayoshi Terashita, Katsuhiko Ogasawara: A Pilot Study Measuring Changes in Student Impressions before and after Clinical Training Using a Questionnaire Based on the Semantic Differential Technique. Medinfo 2013 (Copenhagen, Denmark), 2013.8.

[国内学会]

1. Tang M, Yamamoto T: Vascular properties obtained from spin-echo signal fluctuations in the human brain. 第 105 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2013.4. (Jpn. J. Med. Phys. 2013;33S1:143.)
2. 黒下裕次, 森 静香, 山本 徹: Analysis of artifacts in breast diffusion weighted imaging. 第 69 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2013.4. (予稿集 234)
3. 唐明輝, 山本徹: 時系列画像解析による 細動脈収縮拡張機能の画像化. 第 41 回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 2013.9.
4. 黒下裕次, 森 静香, 山本 徹: 乳房拡散強調画像に発生したアーチファクト一定期点検では解決し得ない事例一. 第 41 回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 2013.9.
5. 高橋紗綾, 唐明輝, 山本 徹: MRI 内で脳動脈瘤クリップに働く トルク測定. 第 41 回日本磁気共鳴医学会大会, 徳島, 2013.9.
6. Tang M, Yamamoto T: Arteriolar properties obtained from spin-echo signal fluctuations in the brain. 第 106 回日本医学物理学会学術大会, 吹田, 2013.9.
7. 山田勝久, 伊東 学, 赤澤敏之, 村田 勝, 山本 徹, 岩崎倫政: 80%の高気孔率と連通孔を有する発砲チタン製椎体間ケージの骨結合能に関する前臨床大動物実験. 第 28 回日本整形外科学会基礎学術集会, 千葉, 2013.10.
8. 森祐希, 真鍋治, 納谷昌直, 吉永恵一郎, 加藤千恵次, 富山勇輝, 玉木長良: ¹¹C- 酢酸ダイナミック PET を用いた低用量ドブタミン負荷における冠動脈狭窄患者の心血流反応性の評価. 第 53 回日本核医学会学術総会, 福岡市, 2013.11.
9. 竹内 桂介, 富山 勇輝, 森 祐希, 加藤 千恵次: 心電図同期心筋 PET/CT 画像における吸収補正誤差修正プログラムの開発: ファントム実験による検討. 第 53 回日本核医学会学術総会, 福岡市, 2013.11.

V. 研究活動

10. 加藤千恵次, 富山勇輝, 孫田恵一, 玉木長良: Errors in attenuation correction with ECG-gated myocardial PET/CT images: Evaluation with phantom study. 第 72 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2013.4.
11. 加藤千恵次, 富山勇輝, 葛西克彦, 真鍋治, 吉永恵一郎, 玉木長良: ¹¹C-酢酸心筋 PET による肺高血圧症の重症度評価方法の開発. 第 53 回日本核医学会学術総会, 福岡市, 2013.11.
12. 三浦 貴智, 松谷 悠佑, 吉井 勇治, 伊達 広行. 光子線の線質に依存する生物学的影響の違い. 第 106 回日本医学物理学会学術大会, 報文集 p75, 講演番号 O-042, 大阪, 2013.9.16-18
13. 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 三浦 貴智, 伊達 広行. 光子線照射による DSB 誘導と二次電子の空間分布の関係. 第 106 回日本医学物理学会学術大会, 予稿集 p76, 講演番号 O-043, 大阪, 2013.9.16-18
14. 松谷 悠佑, 大坪 洋輔, 堤 香織, 山崎 理衣, 佐々木 恒平, 伊達 広行. 放射線による DNA 損傷の定量的モデル解析と生物学的効果比. 日本放射線影響学会第 56 回大会, 予稿集 p96, 講演番号 O1-1-3, 青森, 2013.10.18-20
15. 権 池勲, 松谷 悠佑, 大坪 洋輔, 堤 香織, 山崎 理衣, 伊達 広行. Microdosimetric-Kinetic Model に基づく DSB 推定式とその有用性の検討. 日本放射線影響学会大 56 回大会, 予稿集 p97, 講演番号 O1-1-4, 青森, 2013.10.18-20
16. 佐々木 恒平, 松谷 悠佑, 堤 香織, 伊藤 秋男, 伊達 広行. コンフルエント単層細胞環境における放射線誘発バースタンダー効果のシミュレーション. 日本放射線影響学会第 56 回大会, 予稿集 p111, 講演番号 O1-7-3, 青森, 2013.10.18-20
17. 菅野 康貴, 水田 正弘, 高尾 聖心, 小宮 由里子, 白土 博樹, 伊達 広行. 寡分割照射放射線治療における最適分割方式の検討. 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会, 予稿集 p135, 講演番号 RQ-006, 青森, 2013.10.18-20
18. 山崎 雄太, 阪井 純, 村井 宏, 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 坂田 元道, 伊達 広行. 脳血流量定量核医学検査法のベイズ推定による誤差評価. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 予稿集 p32, 講演番号 280, 福岡, 2013.10.17-19
19. 白石祐太, 溝延数房, 中野聡, 伊達広行. ボクセルファントムを用いた多列 CT における散乱線の影響. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 予稿集 p35, 講演番号 387, 福岡, 2013.10.17-19
20. 中野 聡, 溝延 数房, 白石 祐太, 伊達 広行. 320 列 CT における線量評価—半導体検出器を用いた測定—. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 日本放射線技術学会雑誌 Vol.69 No.9 p1084, 講演番号 376, 福岡, 2013.10.17-19
21. 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 三浦 貴智, 松谷 悠佑, 伊達 広行. モンテカルロ法を用いた 28kVpX 線の生物学的効果比の推定. 第 56 回日本放射線影響学会学術大会, 予稿集 p97, 講演番号 O1-1-5, 青森, 2013.10.18-20
22. 山崎 理衣, 西岡 健, 伊達 広行. 肺の放射線治療における呼吸の影響に関する基礎的検討. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 日本放射線技術学会雑誌 Vol.69 No.9 p1048, 演題番号 214, 福岡, 2013.10.17-19
23. 神島 保: 脊椎疾患(3) 脊椎の腫瘍と炎症. 第 24 回日本骨軟部放射線診断セミナー, 東京, 2013.8.
24. 神島 保: MRI と超音波検査に関するトピックス. JCR 関節超音波検査講習会アドバンスコース, 東京, 2013.9.
25. 田村菜穂美, 寺下貴美, 小笠原克彦: Semantic Differential 法による学生の X 線撮影に対する印象を測定

V. 研究活動

する指標開発の試み. 日本放射線技術学会第 69 回総会学術大会 (横浜), 2013.4.

26. 寺下貴美, 田村菜穂美, 小笠原克彦: 撮影技術学実習における問題解決型学習実践の試み. 第 41 回日本放射線技術学会秋季学術大会 (福岡), 2013.10.
27. 寺下貴美, 田村菜穂美, 小笠原克彦: 問題解決型学習を導入した実習の前後における学生の概念の変化: Semantic Differential 法. 第 33 回医療情報学連合大会 (神戸), 2013.11.
28. 桑原智美, 寺下貴美, 小笠原克彦: 地理情報システムを用いた救急医療整備体制の検討 —北海道における脳血管疾患・虚血性心疾患への対応—. 第 33 回医療情報学連合大会 (神戸), 2013.11.

[地方会]

1. 白石祐太, 溝延数房, 中野聡, 伊達広行. 320 列 ADCT における散乱線の評価. 北海道ヘリカル CT 研究会 第 37 回大会, 予稿集 p1, 講演番号 1, 札幌, 2013.7.20
2. 白石祐太, 溝延数房, 中野聡, 伊達広行. コーンビーム CT による胸部検査時の被ばく線量の評価. 日本放射線技術学会北海道部会学術大会 第 69 回秋季大会, 抄録集 p93, 講演番号 26, 旭川, 2013.11.9-10
3. 山崎 雄太, 阪井 純, 村井 宏, 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 坂田 元道, 伊達 広行. 非採血脳血流定量法における誤差の評価. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p113, 講演番号 31, 旭川, 2013.11.9-10
4. 中野 聡, 溝延 数房, 白石 祐太, 伊達 広行. 半導体検出器を用いた 320 列 CT における実効エネルギー分布と線量の評価. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p119, 講演番号 43, 旭川, 2013.11.9-10
5. 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 三浦 貴智, 伊達 広行. モンテカルロ法を用いた光子線の生物学的線量の推定. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p131, 講演番号 68, 旭川, 2013.11.9-10
6. 松谷 悠佑, 佐々木 恒平, 堤 香織, 伊達 広行. 線量率の違いを考慮した細胞生存率モデルの有用性. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p135, 講演番号 76, 旭川, 2013.11.9-10
7. 権 池勲, 松谷 悠佑, 山崎 理衣, 大坪 洋輔, 堤 香織, 伊達 広行. チャイニーズハムスター肺由来繊維芽細胞 (V79) を用いた DNA 損傷数のモデル解析. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p136, 講演番号 77, 旭川, 2013.11.9-10
8. 三浦 貴智, 松谷 悠佑, 吉井 勇治, 伊達 広行. 光子線のエネルギーの違いが及ぼす生物学的影響の推定. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p136, 講演番号 78, 旭川, 2013.11.9-10
9. 高瀬 峻研, 佐々木 恒平, 伊達 広行. シミュレーションによる放射線誘発バイスタンダー効果の動態解析. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p137, 講演番号 80, 旭川, 2013.11.9-10
10. 菅野 康貴, 水田 正弘, 小宮 由里子, 高尾 聖心, 白土 博樹, 伊達 広行. UNIVERSAL SURVIVAL CURVE を用いた分割照射放射線治療法の最適化. 日本放射線技術学会 北海道部会学術大会 69 回秋季大会, 予稿集 p138, 講演番号 81, 旭川, 2013.11.9-10
11. 川崎 智博, 松谷 悠佑, 伊達 広行. 様々な細胞株に対する Non-Lethal Probability 細胞生存率モデルの

V. 研究活動

- 応用. 日本放射線技術学会 北海道部会学術学会 69 回秋季大会, 予稿集 p138, 講演番号 82, 旭川, 2013.11.9-10
12. 岡崎 佑亮, 長谷川 博一, 伊達 広行. 放電パラメータ測定 (76) —C₂H₆ の電子移動速度測定—. 平成 25 年度電気・情報関連学会北海道支部連合大会講演論文集 71, 室蘭 (室蘭工業大学) 10/19, 2013
 13. 横谷 伯幸, 長谷川 博一, 伊達 広行. 放電パラメータ測定 (77) —C₆H₄CH₃OH の電離係数の測定—. 平成 25 年度電気・情報関連学会北海道支部連合大会講演論文集 72, 室蘭 (室蘭工業大学) 10/19, 2013
 14. 神島 保: 関節リウマチと脊椎関節炎 診断から治療まで 今こそリフレッシュ 関節リウマチの画像診断: US による血流動態評価. 第 23 回つきじ放射線研究会, 東京, 2013.5.
 15. 神島 保, 佐々木亮祐, 坂野稜典: リウマチ診療の進歩と画像診断. 平成遠友夜学校, 札幌, 2013.7.
 16. 神島 保: わたしが好きなこの画像 骨軟部. 第 32 回東京 MRI 研究会, 2013.7.
 17. 神島 保: 超音波・MRI による関節リウマチの診断・治療効果判定・予後予測. 第 28 回 城北リウマチ研究会, 東京, 2013.9.
 18. 神島 保: リウマチ診療の進歩と画像診断. 北海道大学保健科学研究院公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」, 札幌, 2013.11.

■業績 (平成 26 年度)

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Omatsu M, Obata T, Minowa K, Yokosawa K, Inagaki E, Ishizaka K, Shibayama K, Yamamoto T: Magnetic Displacement Force and Torque on Dental Keepers in the Static Magnetic Field of a Magnetic Resonance Scanner. *J Magn Reson Imaging* 2014 Dec;40(6):1481-6.
2. Yoshinaga K, Ohira H, Tsujino I, Oyama-Manabe N, Mielniczuk L, Beanlands RS, Katoh C, Kasai K, Manabe O, Sato T, Fujii S, Ito YM, Tomiyama Y, Nishimura M, Tamaki N : Attenuated right ventricular energetics evaluated using ^{11}C -acetate PET in patients with pulmonary hypertension. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 2014 Jun;41(6):1240-50.
3. Yusuke Matsuya, Yosuke Ohtsubo, Kaori Tsutsumi, Kohei Sasaki, Rie Yamazaki, and Hiroyuki Date. Quantitative estimation of DNA damage by photon irradiation based on the microdosimetric-kinetic model. *Journal of Radiation Research* 2014:1-10, 2014 doi:10.1093/jrr/rrt222
4. Hiroyuki Date, Kosuke Wakui, Kohei Sasaki, Takahiro Kato, and Takeshi Nishioka. A formulation of cell surviving fraction after radiation exposure. *Radiological Physics and Technology* 22 (1):148-157, 2014 doi: 10.1007/s12194-013-0244-z
5. Rie Yamazaki, Rikiya Onimaru, Norio Katoh, Tetsuya Inoue, Takeshi Nishioka, Hiroki Shirato, and Hiroyuki Date. Influence of respiration on dose calculation in stereotactic body radiotherapy of the lung. *Radiological Physics and Technology, Radiol Phys Technol*. 2014 Jul;7(2):284-9.
6. Yusuke Nomura, Takuo Kitamoto, Hikaru Takashima, Takeshi Nishioka*. The Critical Role of Hypoxia in Cancer Progression: a Mini-review of Recent Literature. *Radiation Emergency Medicine* 3: 28-34, 2014
7. Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T; Japan College of Rheumatology Committee for the Standardization of Musculoskeletal Ultrasonography: Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint. *Arthritis Rheumatol* 66(3):523-32, 2014
8. Tsutsumi K, Saito N, Kawazoe Y, Ooi H, Shiba T. Morphogenetic study on the maturation of osteoblastic cell as induced by inorganic polyphosphate. *PLOS ONE*:9(2):e86834. doi: 10.1371/journal.pone.0086834, 2014
9. 田村菜穂美, 寺下貴美, 小笠原克彦: Semantic Differential 法による態度測定指標の開発: 診療放射線技術学科学生を持つX線撮影の概念の特定. *日本放射線技術学会雑誌* 70: 206-212, 2014.
10. 横地将文, 寺下貴美, 小笠原克彦: 仮想評価法を用いた3地域におけるドクターヘリの存続に対する支払意思額の比較. *日本医療・病院管理学会誌* 51: 41-52, 2014.
11. Kikuchi Y, Oyama-Manabe N, Naya M, Manabe O, Tomiyama Y, Sasaki T, Katoh C, Kudo K, Tamaki N, Shirato H: Quantification of myocardial blood flow using dynamic 320-row multi-detector CT as compared with ^{15}O -H $_2\text{O}$ PET. *Eur Radiol* 24(7):1547-56, 2014.

V. 研究活動

12. Yoshinaga K, Tomiyama Y, Manabe O, Kasai K, Katoh C, Magota K, Suzuki E, Nishijima K, Kuge Y, Ito YM, Tamaki N: Prone-position acquisition of myocardial (123)I-metaiodobenzylguanidine (MIBG) SPECT reveals regional uptake similar to that found using (11)C-hydroxyephedrine PET/CT. *Ann Nucl Med* 28(8):761-9, 2014.
13. Mori Y, Manabe O, Naya M, Tomiyama Y, Yoshinaga K, Magota K, Oyama-Manabe N, Hirata K, Tsutsui H, Tamaki N, Katoh C: Improved spillover correction model to quantify myocardial blood flow by 11C-acetate PET: comparison with 15O-H₂O PET. *Ann Nucl Med* 29(1):15-20, 2015.
14. Nesterov SV, Deshayes E, Sciagrà R, Settimo L, Declerck JM, Pan XB, Yoshinaga K, Katoh C, Slomka PJ, Germano G, Han C, Aalto V, Alessio AM, Ficaro EP, Lee BC, Nekolla SG, Gwet KL, deKemp RA, Klein R, Dickson J, Case JA, Bateman T, Prior JO, Knuuti JM: Quantification of myocardial blood flow in absolute terms using (82)Rb PET imaging: the RUBY-10 Study. *JACC Cardiovasc Imaging* 7(11):1119-27, 2014.
15. Fukae J, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Shimizu M, Tanimura K, Matsubashi M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T: Structural deterioration of finger joints with ultrasonographic synovitis in rheumatoid arthritis patients with clinical low disease activity. *Rheumatology (Oxford)*. 2014 Sep;53(9):1608-12.
16. Masuda H, Ishihara S, Harada I, Mizutani T, Ishikawa M, Kawabata K, Haga H: An improved glass substrate for cell culture: Coating of extracellular matrix on a glass substrate by (3-aminopropyl) triethoxysilane treatment. *BioTechniques* 56(4):172-179, 2014. (Graduate School of Medicine, Professor)
17. Nishio T, Shirato H, Ishikawa M, Miyabe Y, Kito S, Narita Y, Onimaru R, Ishikura S, Ito Y, Hiraoka M: Design, development of water tank-type lung phantom and dosimetric verification in institutions participating in a phase I study of stereotactic body radiation therapy in patients with T2NOMO non-small cell lung cancer: Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG0702). *J Radiat Res* 55:600-607, 2014. (Graduate School of Medicine, Professor)
18. 川崎伸一, 福田泰之, 小木有紗, 西田 純, 大野 肇, 坂田元道, 石井良直: 造影 SSFP-CINE 画像による心筋リスクエリア評価の有用性. *臨床放射線* 59: 1127-1131, 2014.
19. 敦澤貴啓, 寺下貴美: 救急搬送時間の短縮効果による北海道における最適ドクターヘリ配備数の検討の試み. *日本航空医療学会雑誌* 15:7-13, 2014.
20. 浅川朋宏, 川畑秀伸, 村上 学, 木佐健悟, 大島寿美子, 寺下貴美, 小野寺慧州, 大滝純司: 医療資源の縮小を経験した地域住民の思い—北海道の一地方都市を事例にした医療の合理化に関する探索的研究一. *日本プライマリ・ケア連合学会誌* 37:249-253, 2014.

B. 著書

1. 山本 徹 (分担): 第1章 MRI の安全性. MRI 安全性の考え方. 15-26, 秀潤社, 東京, 2014.3.5.
2. 神島 保: 超音波画像を用いた理学療法評価法 超音波画像診断装置の特性, 理学療法, 11-16, 2014
3. 神島 保: 骨軟部領域の common disease の画像スペクトラム 感染症, 画像診断, 326-335, 2014
4. 神島 保 (分担): 新 骨軟部画像診断の勘どころ II 系統別疾患レビュー: 診断のおさえどころ関節炎: その1. 総論・関節リウマチ及び類縁疾患 P112 その2. その他の骨と関節の炎症 P122-132, メジ

V. 研究活動

カルビュー社, 東京, 2014

5. 神島 保 (分担・編集): 骨軟部画像診断スタンダードメディカルサイエンスインターナショナル 脊索腫 (p18-19)・転移性脊椎腫瘍 (p20-21)・歯突起骨折 (p28-29)・乾癬性関節炎などその他の脊椎関節炎 (p308-309)・SAPHO 症候群, 胸肋鎖骨肥厚症など (p310-311) 2014 (編集)

C. 総説, 解説, 論評

1. 山本 徹: MRI アーチファクトのない体内埋入器具 (インプラント) の開発. 26, 北海道大学 研究シーズ集 2014, 北海道大学 産学連携本部, 2014.
2. 山本 徹: MRI における金属インプラント材料の影響—検査安全性およびアーチファクト—. 日本磁気歯科学会雑誌 23:1-11, 2014.
3. 山本 徹: MRI における熱傷事故を予防する方法. 化学工業 65:505-511, 2014.
4. 伊達 広行: 教育講座—モンテカルロシミュレーションの放射線技術への利用— 1. モンテカルロ法の原理. 日本放射線技術学会雑誌 70(6):582-587, 2014.
5. 伊達 広行, 吉井 勇治, 佐々木 恒平: 教育講座—モンテカルロシミュレーションの放射線技術への利用— 2. モンテカルロ法とシミュレーション. 日本放射線技術学会雑誌 70(7):705-714, 2014.
6. ケネス・サザランド, 白石 祐太, 伊達 広行: 教育講座—モンテカルロシミュレーションの放射線技術への利用— 3. モンテカルロシミュレーションの放射線医療への応用. 日本放射線技術学会雑誌 70(8):827-838, 2014.
7. 堤 香織, 斎藤 永仁, 川添祐美, 黄 鴻堅, 柴 肇一: ポリリン酸による骨芽細胞成熟の形態学研究. 北海道医学雑誌 89(1):71, 2014.

D. 報告書

1. 吉井 勇治, 佐々木 恒平, 三浦 貴智, 伊達 広行: モンテカルロ法を用いた光子線の生物学的線量の推定. 北海道放射線技術雑誌 77:30-31, 2014.
2. 高瀬 峻研, 佐々木 恒平, 伊達 広行: シミュレーションによる放射線誘発バイスタンダー効果の動態解析. 北海道放射線技術雑誌 77:34-35, 2014

E. その他

[受賞]

1. The 1st Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists, Poster Prize, 2014.9. Kwon J, Sutherland K, Hashimoto T, Date H: Monte Carlo simulations of proton beam irradiation of gold particles.
2. 2nd International Conference on Radiological Sciences and Technology, President's Special Award, 2014.10. Matsuya Y, Yoshii Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Date H: Quantitative Estimation of DNA Lesions in the Cell nucleus in Consideration of the Dose Rate.
3. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, Oral Presentation Award, 2014.9.27(Busan), Ishikawa M, Minemura T, Tachibana H, Nishimura Y, Nishio T, Narita Y, Tohyama N, Tsuchiya K, Suzuki R, Ishikura S: Consideration of pass criteria for IMRT credentialing using the Gradient method in multi-institutional clinical trials.

V. 研究活動

4. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, Poster Presentation Award, 2014.9.27(Busan), Ishikawa M, Matsumura A, Yamamoto T, Hiratsuka T, Miyatake S, Kato I, Sakurai Y, Kumada H, Shrestha SJ, Ono K: Clinical application of scintillator with optical fiber detector as a real-time thermal neutron monitor.during boron neutron capture therapy.
5. 日本放射線腫瘍学会第 27 回学術大会 優秀演題賞, 2014.12.13, 石川正純、峯村俊行、岡本裕之、垣花泰政、西尾禎治、戸板孝文: 大型 CTV に対する IMRT 多施設共同研究における物理的 Credentialing の検討

[学会研究会の主催]

[特許]

取得

1. 放射線治療用動体追跡装置 石川正純 他 6 名 2014/4/25 特許第 5530967 号 国立大学法人北海道大学・(株)島津製作所
2. Target tracking device and radiation therapy apparatus Masayori Ishikawa 2014/4/29 U.S. Patent No. 8,712,502 National University Corporation Hokkaido University
3. 放射線治療装置 石川正純 2014/5/9 特許第 5534470 号 国立大学法人北海道大学
4. Target tracking device and radiation therapy apparatus Masayori Ishikawa 2014/6/24 U.S. Patent No. 8,761,863 National University Corporation Hokkaido University
5. 放射線治療用動体追跡装置 石川正純 他 6 名 2014/10/17 特許第 5632069 号 国立大学法人北海道大学・(株)島津製作所
6. 放射線治療用動体追跡装置 石川正純 他 4 名 2014/11/21 特許第 5650836 号 国立大学法人北海道大学・(株)島津製作所
7. ターゲット追跡装置および放射線治療装置 石川正純 2014/12/5 特許第 5656170 号 国立大学法人北海道大学
8. 放射線治療用動体追跡装置 石川正純 他 4 名 2014/12/19 特許第 5667489 号 国立大学法人北海道大学・(株)島津製作所

出願

1. Heat emission distribution information generating device and method, magnetic resonance device, and program Yamamoto T, Kobayashi Y 2014.9.29 14389313 National University Corporation Hokkaido University
2. Heat emission distribution information generating device and method, magnetic resonance device, and program Yamamoto T, Kobayashi Y 2014.10.10 13768217.5 National University Corporation Hokkaido University
3. LaBr₃ シンチレーション検出器及び特定イベント排除方法 石川正純, 小川原亮 2015/2/25 特願 2015-035788 国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yamamoto T: MR physics and physiology: what we see in proton signals from the human body. 14th Asia-Oceania Congress of Medical Physics & 12th South East Asia Congress of Medical Physics, Ho Chi Minh City, 2014.10
2. Kamishima T: Ultrasonography of the Musculoskeletal System. EL21-2 Ultrasonography of Rheumatoid Arthritis, Educational Lecture 21 Musculoskeletal 2, 15th Asian Oceanian Congress of Radiology (AOCR2014) and the 50th Autumn Assembly of the Japan Radiological Society (JRS2014 Autumn) in Kobe, 2014.9.
3. Ishikawa M: Feasibility study on a new film analysis method applying for IMRT credentialing in multi-institutional clinical trials. 14th Asia-Oceania Congress of Medical Physics, Ho Chi Minh City, 2014.10.

[国内学会]

1. 加藤千恵次: 教育講演「核医学検査における看護師の被ばくについて」. 第1回高度実践看護教育部門セミナー, 東京, 2014.1.
2. 神島 保: MTE 「リウマチ性疾患のMRI」第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014.4.
3. 神島 保: 「非感染性関節炎」第25回日本骨軟部放射線診断セミナー, 札幌, 2014.8.
4. 石川正純: 「科学研究費の申請と採択のために～研究を加速する外部資金の獲得～」. 日本医学物理学会第107回学術大会, 横浜, 2014.4.
5. 石川正純: 「臨床現場のニーズに基づいた研究開発の新たな展開ー新しい技術を臨床へと繋げる研究開発」. 日本放射線腫瘍学会第27回学術大会, 横浜, 2014.12.
6. 石川正純: 「放射線治療装置用動体追跡システム SyncTraX ～クリニカルコミッショニングについて～」. 日本放射線腫瘍学会第27回学術大会, 横浜, 2014.12.
7. 坂田 元道: 北海道プレミアムシンポジウム: 放射線技術研究について考える 診療放射線技師の研究とは何か?. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.

[地方会]

1. 石川正純「晩発性放射線障害の予防を目的とした透視に映らないX線線量計の開発」第15回北海道IVR談話会, 札幌, 2014.12.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Yamada K, Ito M, Akazawa T, Murata M, Yamamoto T, Iwasaki N: A Large Preclinical Animal Study on a Novel Intervertebral Fusion Cage Covered with High Porosity Titanium Sheets with a Triple-pore-structure used for Spinal Fusion. 2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society, New Orleans, USA, 2014.3.
2. Yamamoto T, Gao T, Muramatsu K: Hybrid structure design for implants: dramatic reduction of the metal artifacts. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 22nd Annual Meeting and Exhibition,

V . 研究活動

- Milan, Italy, 2014.5. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 22:1628.)
3. Gao T, Muramatsu K, Yamamoto T, Ikeda D: Optimal design of metallic implant reducing artifact in magnetic resonance imaging by combining paramagnetic and diamagnetic materials. Intermag 2014, Dresden, Germany, 2014.5.
 4. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Yoshii Y, Date H: Dose Rate Effects on the Cell Survival Curve at High Dose. 41th Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Paradise Mare Conference Centre, Aldemar Hotel, Rhodes Greece, (Poster) 2014.9.
 5. Matsuya Y, Yoshii Y, Sasaki K, Date H: Dose Rate Effects of Standard X-rays exposure on Biological Cells. 1st meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki, Japan, (Oral and Poster) 2014.9.
 6. Matsuya Y, Yoshii Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Date H: Quantitative Estimation of DNA Lesions in the Cell nucleus in Consideration of the Dose Rate. 2nd International Conference on Radiological Sciences and Technology, Sapporo Convention Center, Sapporo, Japan, (Oral) 2014.10.
 7. Sugano Y, Mizuta M, Takao S, Shirato H, Sutherland K, Date H: A graphical method for selecting the optimal number of fractions and dose per fraction for fractionated radiotherapy, 1st Educational Symposium on Radiation and Health by Young Scientists (ESRAH2014), Hirosaki, Japan, (Oral and Poster) 2014.9.
 8. Sugano Y, Mizuta M, Takao S, Shirato H, Sutherland K, Date H: A Novel Technique for Optimizing the Dose Fractionation Regimen Based on the Universal Survival Curve with Tumor Repopulation 2014. Radiological Society of North America (RSNA2014): 100th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, (Poster) 2014.11-12.
 9. Kwon J, Sutherland K, Hashimoto T, Date H: Monte Carlo simulations of proton beam irradiation of gold particles. 1st meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki, Japan, (Oral and Poster) 2014.9.
 10. Kwon J, Sutherland K, Hashimoto T, Date H: Monte Carlo simulation of the electron production by proton beam irradiation to gold particles. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, BEXCO, Busan, Korea, (Oral) 2014.9.
 11. Yoshii Y, Sasaki K, Matsuya Y, Date H: Estimation of DNA Damage under Low-LET Irradiation according to Distribution of Distance between Interaction's Events using Monte Carlo Simulation. 41th Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Paradise Mare Conference Centre, Aldemar Hotel, Rhodes Greece, (Poster) 2014.9.
 12. Yoshii Y, Sasaki K, Matsuya Y, Date H: A Computational Approach to the DNA Damage Induced by Electron Tracks using The DBSCAN Algorithm. 1st meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki, Japan. (Oral and Poster) 2014.9.
 13. Sasaki K, Yoshii Y, Matsuya Y, Date H: Monte Carlo Simulation for the Impact of Reactive Oxygen Species on the Radiation-Induced Bystander Effects. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, BEXCO, Busan, Korea, (Oral), 2014.9.
 14. Sasaki K, Yoshii Y, Matsuya Y, Date H: Computational analysis of the impact of radicals on the non-targeted effects. 2nd International Conference on Radiological Sciences and Technology, Sapporo

- Convention Center, Sapporo, Japan, (Oral) 2014.10.
15. Ishikawa M, Matsumura A, Yamamoto T, Hiratsuka J, Miyatake S, Kato I, Sakurai Y, Kumada H, Shrestha SJ, Ono K: Clinical application of scintillator with optical fiber detector as a real-time thermal neutron monitor during boron neutron capture therapy. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, Busan, 2014.9.
 16. Ishikawa M, Minemura T, Tachibana H, Nishimura Y, Nishio T, Narita Y, Tohyama N, Tsuchiya K, Suzuki R, Ishikura S: Consideration of pass criteria for IMRT credentialing using the Gradient method in multi-institutional clinical trials. 7th Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics, Busan, 2014.9. "
 17. Sugimori H, Wang JK, Yabusaki S, Kato F, Hamaguchi H, Oyama-Manabe N, Sakata M, Kudo K: Comparison of the diffusion kurtosis imaging for evaluating the prostate cancer using multiple b-values diffusion weighted imaging at 3-tesla magnetic resonance imaging. SMRT 2014 Milano, Italy, 2014.5.
 18. Nakamura M, Makabe T, Hatakeyama R, Sasaki A, Sakata M: The Blood Flow Suppression of Non-Gated Vessel Wall Imaging. SMRT 2014 Milano, Italy, 2014.5.
 19. Takashima H, Takebayashi T, Yoshimoto M, Terashima Y, K Ida K, Imamura R, Akatsuka Y, Shishido H, Sakata M, Yamashita T: Efficacy of diffusion-weighted MRI in diagnosing spinal root disorders in lumbar disc herniation. Radiological Society of North America (RSNA 2014) 100th Annual meeting, Chicago, USA, 2014.11.

[国内学会]

1. 江崎由伊, 高炎輝, 堂菌 浩, 村松 和弘, 山本 徹: 金属インプラントによる磁気共鳴画像のアーチファクトの磁界解析. 電気学会静止器/回転機合同研究会, 東京, 2014.1.
2. Tang M, Yamamoto T: Elastic changes of arteriolar blood volume in the human brain — Estimation based on spin-echo signal fluctuations —. 第 107 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2014.4. (Jpn. J. Med. Phys. 2014;34S1:161.)
3. 西 慶悟, 唐 明輝, 山本 徹: 大脳静脈血酸素飽和度揺らぎの精密測定—細動脈機能情報の取得—. 第 107 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2014.4. (Jpn. J. Med. Phys. 2014;34S1:160.)
4. 高橋紗綾, 平山将梧, 唐 明輝, 山本 徹: グラジエントエコー法を用いた高速高精度 T1 値測定の可能性. 第 107 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2014.4. (Jpn. J. Med. Phys. 2014;34S1:156.)
5. Tang M, Yamamoto T: Situation of arteriolar elasticity obtained from spin-echo signal fluctuations in the human brain. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.
6. 西 慶悟, 唐明輝, 山本 徹: 大脳静脈血酸素飽和度揺らぎの精密測定—細動脈機能情報の取得—. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.
7. 山口 大樹, 安倍 雄一郎, 佐藤 栄修, 百町 貴彦, 柳橋 寧, 市野 善郎, 増田 武志, 伊東 学, 山本 徹: R F 発熱の生体的影響 —磁場強度依存性及びインプラントの効果—. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.
8. 黒下裕次, 唐 明輝, 山本 徹: ボア内に混入した微小磁性体による磁場歪み. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.
9. 高橋紗綾, 唐 明輝, 山本 徹: 改良 IR 法解析法による高速高精度 T1 値測定の可能性. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.

V. 研究活動

10. 荻子仁泰, 高野陽介, 横浜拓実, 山本 徹: 横緩和時間の酸素濃度依存性. 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014.9.
11. 小林洗貴, 唐明輝, 山口大樹, 伊東 学, 山本 徹: インプラント装着患者の MRI 検査におけるポジショニングの影響—RF 発熱の低減—. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.
12. 金田貴彦, 唐明輝, 西慶悟, 山本 徹: 3D 撮像によるインプラントの高精度磁場歪みマッピング. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.
13. 菊地 侑, 江刈内英輝, 唐明輝, 山本 徹: MRI 検査時の RF 熱傷を予知する方法. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.
14. 押野見一哉, 唐明輝, 西慶悟, 石本卓也・中野貴由, 山本 徹: 二重構造による椎間ケージの MR アーチファクトの低減. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.
15. 伊東 学, 安倍雄一郎, 山口大樹, 山本徹, 佐藤栄修, 増田武志: 腰椎高磁場 MRI 撮影における有害事象頻度調査. 第 68 回国立病院総合医学会, 横浜, 2014.11.
16. 加藤千恵次, 富山勇輝, 真鍋治, 玉木長良: Circularity of left ventricle correlates with right ventricular function and pulmonary hemodynamics in patients with pulmonary hypertension using ¹¹C-acetate PET, 第 73 回日本医学放射線学会, 横浜, 2014.4.12
17. Matsuya Y, Kwon J, Tsutsumi K, Sasaki K, Date H: Estimation of cell surviving fraction considering the repair of lesions in the cells during dose-delivery time. 第 107 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 日本, 2014.4.
18. 菅野 康貴, 水田 正弘, 高尾 聖心, 白土 博樹, Kenneth L. Sutherland, 伊達 広行: 分割照射放射線治療における一回線量および分割数最適化の検討. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 日本, 2014.10.
19. 木村 亮朗, 松谷 悠佑, 伊達 広行: 線量率を考慮した細胞生存率モデルの高線量率照射データへの適合度. 第 42 回日本放射線技術学会秋季大会, 札幌, 日本, 2014.10.
20. 吉井 勇治, 松谷 悠佑, 佐々木恒平, 伊達広行: 微視的エネルギー付与の空間分布が及ぼす DNA 二本鎖切断の誘導への影響. 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 日本, 2014.10.
21. Ishikawa M, Minemura T, Tachibana H, Nishimura Y, Nishio T, Narita Y, Tohyama N, Tsuchiya K, Toita T, Ishikura S: Consideration of pass criteria for IMRT credentialing using the Gradient method in multi-institutional clinical trials. 73th Annual meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, 2014.4.
22. 石川正純, 宮本直樹, 篠川毅, 山中誓次, 堀田賢治, 藤田勝久, 鈴木隆介, 鬼丸力也, 井上哲也, 白土博樹: 「次世代動体追跡装置のアクセプタンス/コミッショニング」日本医学物理学会第 107 回学術大会, 横浜, 2014.4.
23. 石川正純, 小野公二, 松村明, 平塚純一, 宮武伸一, 櫻井良憲, 古林徹, 熊田博明: 「SOF 検出器による BNCT 治療中のリアルタイム熱中性子モニタリング」日本放射線腫瘍学会第 27 回学術大会, 横浜, 2014.12.
24. 石川正純, 峯村俊行, 岡本裕之, 垣花泰政, 西尾禎治, 戸板孝文: 「大型 CTV に対する IMRT 多施設共同研究における物理的 Credentialing の検討」日本放射線腫瘍学会第 27 回学術大会, 横浜, 2014.12.
25. 石川正純, 小野公二, 松村明, 山本哲哉, 平塚純一, 宮武伸一, 加藤逸朗, 櫻井良憲, 古林徹, 熊田博明: 「リアルタイム熱中性子束モニタの開発と臨床応用」第 11 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 大阪, 2014.7. 中村麻名美, 真壁武司, 畠山遼平, 宮部泰秀, 杉森博行, 坂田元道. 3.0T Radial scan 法を使用し

V. 研究活動

- た頸動脈血管壁イメージングにおける血流抑制効果. 第70回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜 2014.4.10
26. 今村壘, 長濱宏史, 中西光広, 高島弘幸, 鈴木淳平, 宍戸博紀, 赤塚吉紘, 坂田元道. 可変再収束フリック角を用いた3D-T2強調像における入力T2値およびequivalent TEが四肢関節画像に与える影響. 第42回日本磁気共鳴医学大会 京都 2014.9
27. 柳田美香, 高島弘幸, 玉川光春, 河合有里子, 今村壘, 射場浩介, 中西光広, 坂田元道. 3T MRIを用いた前腕回旋肢位の違いによるTFCCの変化. 第42回日本磁気共鳴医学大会 京都 2014.9.
28. 中村麻名美, 真壁武司, 畠山 遼平, 佐々木絢加, 宇野弘幸, 杉森博行, 丹羽 潤, 坂田元道. 頸動脈プラークにおけるMP-RAGEと非心電図同期Radial scan法の信号強度比の比較. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会 札幌 2014.10.
29. 佐々木絢加, 中村麻名美, 真壁武司, 畠山遼平, 宇野弘幸, 坂田元道. 3T MRIにおける後膨大部神経描出の評価. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会 札幌 2014.10.
30. 川崎伸一, 福田泰之, 尾崎正則, 杉森博行, 小木有紗, 大野肇, 坂田元道. 心筋Late Gadolinium Enhancementにおける境界アーチファクトの発生とその影響に関する検討. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会 札幌 2014.10.
31. 松谷 悠佑, 権 池勲, 佐々木 恒平, 堤 香織, 伊達 広行: 「光子線照射時間中の細胞損傷修復を考慮した細胞生存率の推定」. 第107回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2014.4.
32. 小野陽平, 神島 保, 八十嶋伸敏, 田村賢一, 堤 香織, 柏原李菜: 「トモシンセシスを用いた関節リウマチ骨病変の最適撮像条件の探求—ファントムによる検討」. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.
33. 柏原李菜, 神島 保, 八十嶋伸俊, 田村賢一, 小野陽平, 堤 香織: 「トモシンセシスにおけるX線の入射中心点の違いによる関節裂隙幅計測への影響—初期検討」. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014.10.

[地方会]

1. 安倍雄一郎, 山口大樹, 伊東 学, 山本 徹, 佐藤栄修, 百町貴彦, 柳橋 寧, 山田賢太郎, 増田武志. 腰椎高磁場MRI撮影における有害事象頻度調査. 北海道整形災害外科学会, 札幌, 2014.2.2.
2. 神島 保: 関節リウマチの画像診断—新たな展開—. 第6回順天堂リウマチカンファレンス, 東京, 2014.1.
3. 加藤千恵次: 医学部保健学科学生に対するホームページを利用した医用工学実習の試み, 第53回日本生体医工学会学北海道支部大会, 札幌, 2014.10.11
4. 岡崎 佑亮, 長谷川 博一, 伊達 広行. 放電パラメータ測定(78)—C3H6の電子移動速度測定—. 平成26年度電気情報関係学会北海道支部連合大会, 札幌, 日本, 2014.10.

■業績 (平成 27 年度)

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Date H: Evaluation of the cell survival curve under radiation exposure based on the kinetics of lesions in relation to dose-delivery time. *Journal of Radiation Research* 56.1:90-99, 2015.
2. Yoshii Y, Sasaki K, Matsuya Y, Date H: Cluster analysis for the probability of DSB site induced by electron tracks. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B* 350:55-59, 2015.
3. Kwon J, Sutherland K, Hashimoto T, Date H: Dose distribution of electrons from gold nanoparticles by proton beam irradiation. *International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology* 4:49-53, 2015.
4. Sugano Y, Mizuta M, Takao S, Shirato H, Sutherland KL, Date H: Optimization of the fractionated irradiation scheme considering physical doses to tumor and organ at risk based on dose-volume histograms. *Medical Physics* 42 (11):6203-6210, 2015.
5. Hasegawa H and Date H: Study on electron transport in hydrocarbon gases. *Journal of Applied Physics*, 117:133302, 1-5, 2015.
6. Nakahara M, Ito M, Hattori N, Magota K, Takahata M, Nagahama K, Sudo H, Kamishima T, Tamaki N, Iwasaki N. 18F-FDG-PET/CT better localizes active spinal infection than MRI for successful minimally invasive surgery. *Acta Radiol.* 2015 Jul;56(7):829-36.
7. Sakano R, Kamishima T, Nishida M, Horie T: Power Doppler signal calibration between ultrasound machines by use of a capillary-flow phantom for pannus vascularity in rheumatoid finger joints: a basic study. *Radiol Phys Technol.* 2015 Jan;8(1):120-4. doi: 10.1007/s12194-014-0299-5
8. Ishizaka K, Kato F, Terae S, Mito S, Oyama-Manabe N, Kamishima T, Nakanishi M, Sugimori H, Hamaguchi H, Shirato H. Bilateral breast MRI by use of dual-source parallel radiofrequency excitation and image-based shimming at 3 Tesla: improvement in homogeneity on fat-suppression imaging. *Radiol Phys Technol.* 2015 Jan;8(1):4-12.
9. Miyamoto N, Ishikawa M, Sutherland K, Suzuki R, Matsuura T, Toramatsu T, Takao S, Nihongi H, Shimizu S, Umegaki K, Shirato H: Motion compensated image filter for low dose fluoroscopy in real-time tumor-tracking radiotherapy system. *J Radiat Res* 56:186-196, 2015. (Graduate School of Medicine, Professor) [Corresponding author]
10. Ishikawa M, Nagase N, Matsuura T, Hiratsuka J, Suzuki R, Miyamoto N, Sutherland K, Fujita K, Shirato H: Development of a wavelength-separated type scintillator with optical fiber dosimeter to compensate for the Cerenkov radiation effect. *J Radiat Res* 56:372-381, 2015. (Graduate School of Medicine, Professor)
11. Ishikawa M, Tanaka K, Endo S, Hoshi M: Application of an ultraminiature thermal neutron monitor for irradiation field study of accelerator-based neutron capture therapy. *J Radiat Res* 56:391-396, 2015. (Graduate School of Medicine, Professor)

12. Nagahama H, Suzuki K, Shonai T, Aratani K, Sakurai Y, Nakamura M, Sakata M : Comparison of magnetic resonance imaging sequences for depicting the subthalamic nucleus for deep brain stimulat. *Radiological Physics and Technology* 8:30-35, 2015.
13. Yamada K, Ito M, Akazawa T, Murata M, Yamamoto T, Iwasaki N. A preclinical large animal study on a novel intervertebral fusion cage covered with high porosity titanium sheets with a triple pore structure used for spinal fusion. *Eur Spine J* 24:2530-2537, 2015
14. Tomiyama Y, Yoshinaga K, Fujii S, Ochi N, Inoue M, Nishida M, Aziki K, Horie T, Katoh C: Tamaki N. Accurate quantitative measurements of brachial artery cross-sectional vascular area and vascular volume elastic modulus using automated oscillometric measurements: comparison with brachial artery ultrasound. *Hypertens Res*38:478-84, 2015.
15. Tomiyama Y, Manabe O, Oyama-Manabe N, Naya M, Sugimori H, Hirata K, Mori Y, Tsutsui H, Kudo K, Tamaki N, Katoh C: Quantification of myocardial blood flow with dynamic perfusion 3.0 Tesla MRI: Validation with (15) O-water PET. *J Magn Reson Imaging*42:754-62. 2015.
16. Onuma T, Kamishima T, Sasaki T, Sakata M: Absolute reliability of adipose tissue volume measurement by computed tomography: application of low-dose scan and minimal detectable change--a phantom study. *Radiol Phys Technol.* 8:312-9, 2015
17. Tsuchiya Y, Kusaka T, Tanaka T, Matsuo Y, Oda M, Sasaki T, Kamishima T, Yamanaka M: Calibration method for lumbosacral dimensions in wearable sensor system of lumbar alignment. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc.*2015:3909-12, 2015
18. Matsui Y, Funakoshi T, Kobayashi H, Mitsunashi T, Kamishima T, Iwasaki N: Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation (Nora's lesion) affecting the distal end of the ulna: a case report. *BMC Musculoskelet Disord.* 16;17(1):130, 2016"
19. 神島 保 : 読影医が求める画像技術—手のMRIについて . 医用画像情報学会雑誌 33:4-7, 2016.
20. Ishikawa M, Nagase N, Matsuura T, Hiratsuka J, Suzuki R, Miyamoto N, Sutherland K, Fujita K, Shirato H: Development of a wavelength-separated type scintillator with optical fiber dosimeter to compensate for the Cerenkov radiation effect. *Journal of Radiation Research* 56:372-381, 2015.
21. Ishikawa M, Tanaka K, Endo S, Hoshi M: Application of an ultraminiature thermal neutron monitor for irradiation field study of accelerator-based neutron capture therapy. *Journal of Radiation Research* 56:391-396, 2015.
22. Ishihara S, Yasuda M, Ishizu A, Ishikawa M, Shirato H, Haga H: Activating transcription factor 5 enhances radioresistance and malignancy in cancer cells. *Oncotarget.* 6:4602-14, 2015.
23. Ogawara R and Ishikawa M: Feasibility study on signal separation for spontaneous alpha decay in LaBr3: Ce scintillator by signal peak-to-charge discrimination. *Review of Scientific Instruments* 86:Epub. 085108, 2015.
24. Kunitatsu J, Miyamoto N, Ishikawa M, Shirato H, Tanaka M: Application of radiosurgical techniques to produce a primate model of brain lesions. *Front Syst Neurosci*:9-67, 2015.

B. 著書

1. 加藤千恵次(分担): 消化器内視鏡技師のためのハンドブック改訂第7版(松井敏幸編). 94-96, 医学図書出版社, 東京, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 宮本直樹, 石川正純, 松浦妙子, 井上哲也, 加藤徳雄, 清水伸一, 鬼丸力也, 梅垣菊男, 白土博樹「これからの放射線治療の展望 : 最新の動体追跡放射線治療装置」Rad Fan 2014年12月臨時増刊号 DIVISION-3, 2015.
2. 山本 徹: 技術の視点から見た ISMRM2015 のトピックス. INNERVISION 30(9):70-71, 2015.
3. 神島 保: 【ステップアップのための骨軟部画像診断-Q&A アプローチ-】(第8章) 脊椎疾患 終板下骨髄信号の Modic 分類について教えてください(Q&A/特集). 200-203 画像診断, 東京, 2015.
4. 神島 保: 関節リウマチのダイナミック MRI (解説). 304-308, リウマチ科, 東京, 2015.
5. 神島 保: 【骨関節疾患の画像評価】MRIによる骨関節疾患の評価法(解説/特集). 165-170, Rheumatology Clinical Research, 東京, 2015.
6. 伊達広行: 教育講座—モンテカルロシミュレーションの放射線技術への利用— 12. モンテカルロ法の将来展望. 日本放射線技術学会雑誌第71巻第8号 699-707, 2015.

D. 報告書

1. 山本 徹: 研究シーズ集 Vol.2 北海道大学産学連携本部 41, 2015.
2. 山本 徹: 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

E. その他

[受賞]

1. Mizonobe K, Shiraishi Y, Date H. JSRT CyPos 賞 銀 賞. An Evaluation of the SSDE in 320-row ADCT Scanning. 日本放射線技術学会, 4/19, 2015.
2. 伊達広行. 英語論文誌論文賞(土井賞). A formulation of cell surviving fraction after radiation exposure 日本放射線技術学会・日本医学物理学学会, 4/19, 2015.
3. 伊達広行. 平成26年度日本放射線技術学会誌・RPT投稿に対する表彰. A formulation of cell surviving fraction after radiation exposure 日本放射線技術学会北海道支部, 4/25, 2015.
4. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Best presentation award. Application of gold nanoparticles as a radio sensitizer: comparison between protons and X-rays. The 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, (1min oral + Poster), 7/ 3, 2015.
5. 山田亮太, 木村堯朗, 松谷悠佑, 伊達広行. 優秀研究賞(放射線治療). パラメータ決定法の違いが及ぼす細胞生存率曲線への影響. 日本放射線技術学会 第70回北海道部会秋季大会, 北海道大学, 札幌 11/14-15, 2015.
6. 溝延 数房, 浅沼 治, 武田 浩光, 赤石 泰一, 吉井 勇治, 竹中 祥太郎, 伊達 広行. 優秀演題賞. SSDE 算出のための有効径計算における検討. 第42回ヘリカルCT研究会, 札幌, 1/9, 2016.
7. 北海道科学技術奨励賞, 2015.2.20, 石川 正純: 放射線治療・診断領域における放射線測定技術の高度化に関する研究

8. 北海道大学総長賞(研究奨励賞), 2015.3.11, 石川 正純

[学会研究会の主催]

1. 第110回日本医学物理学会学術大会(会長:山本 徹)
2. The 2nd Educational Symposium on Radiation and Health by Young Scientists (ESRAH2015), Hirosaki, Japan, 5/23-24, 2015 (Symposium Chair: Hiroyuki Date)
3. The 2nd FHS (Faculty of Health Sciences) International Conference, Hokkaido University, Sapporo, 7/ 3, 2015 (Conference Chair: Hiroyuki Date)

[特許]

1. 放射線治療用動体追跡装置 石川 正純, 宮本 直樹, 篠川 毅, 山中 誓次, 山崎 純一
2015/8/11 US:9,101,761 国立大学法人北海道大学, 株式会社 島津製作所
2. シンチレータ及びこれを用いた放射線線量計 石川 正純 2015/2/12 2015-025382 国立大学法人北海道大学
3. LaBr₃ シンチレーション検出器及び特定イベント排除方法 石川 正純, 小川原 亮 2015/2/25 2015-035788 国立大学法人北海道大学
4. シンチレーション光検出装置および放射線検出装置 石川 正純, 小川原 亮 2015/9/2 2015-172498 国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Kamishima T: Imaging of rheumatoid arthritis- quantitative approach using X-ray, US, and MRI, The 71st Korean Congress of Radiology (KCR 2015), Seoul, Korea, 2015.9.
2. Kamishima T: Advanced imaging of rheumatoid arthritis, 3RD JOINT CONGRESS OF THE ASIAN MUSCULOSKELETAL SOCIETY (AMS) AND ARABIAN GULF SOCIETY OF SKELETAL RADIOLOGY (AGSSR) INCORPORATING THE 18TH AMS ANNUAL SCIENTIFIC MEETING AND THE 9TH AGSSR ANNUAL SCIENTIFIC MEETING REFRESHER COURSE PROGRAMME THEME: MUSCULOSKELETAL IMAGING - BASIC TO ADVANCE, KUWAIT CITY, KUWAIT, 2016.2.

[国内学会]

1. 山本 徹: MRI 装置のハードウェア. 第21回講演会「MRI 安全性 安全性 の考え方」, 東京, 2016.3.25.
2. 神島 保: Meet the Expert3 「リウマチ性疾患のMRI」. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会 名古屋, 2015.4.
3. 神島 保: 「EULAR レコメンデーションにおける関節MRI(Research agenda も含めて)」. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会 名古屋, 2015.4.
4. 神島 保: 私は影しか見ていない医者 of の言うことは信用しない「骨感染症」. 第26回日本骨軟部放射線

V. 研究活動

診断セミナー, 東京, 2015.8.

5. 神島 保:「関節リウマチの dynamic MRI」. 日本リウマチ学会主催 JCR 関節超音波検査講習会 アドバンスコース・イブニングセミナー, 東京, 2015.10.
6. 神島 保:「読影医が求める画像技術」. 医用画像情報学会 (MII) 平成 27 年度秋季 (第 173 回) 大会, 札幌, 2015.10.
7. 伊達 広行: JSRT・JSMP 土井賞受賞講演 (in English) 「A formulation of cell surviving fraction after radiation exposure」日本放射線技術学会(JSRT)第71回総会学術大会・第109回日本医学物理学会(JSMP)学術大会, 横浜, 4/19, 2015.
8. 伊達 広行: 特別講演「Radiation effects: from physical processes to DNA damage」第110回日本医学物理学会学術大会 報文集 pp.18-19, 北海道大学, 札幌, 9/19, 2015.

[地方会]

1. 山本 徹. MRI における金属系バイオマテリアル —検査安全性および画像への影響—. 東北大学金属材料研究所共同研究ワークショップ
2. 日本バイオマテリアル学会東北ブロック講演会. 仙台, 2015.9.8. (予稿集 84)
3. 神島 保:「関節リウマチの MRI 診断」. 第 27 回新潟 MR 画像研究会, 新潟, 2015.9.
4. 神島 保:「手の MRI —関節リウマチを中心に」. 第 28 回旭川 MRI 研究会, 旭川, 2015.10.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Nishi K, Tang M, Yamamoto T. Evaluation of Respiratory Fluctuation in Cerebral Venous Blood Oxygenation for Diagnosis of Arteriolar Function. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 23rd Annual Meeting and Exhibition, Toronto, Canada, 2015.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 23:1440.)
2. Tha KK, Katscher U, Stehning C, Yamaguchi S, Terasaka S, Sugimori H, Yamamoto T, Fujima N, Kudo K, Suzuki Y, Van Cauteren M, Shirato H. Electrical Conductivity Characteristics of Meningiomas: Noninvasive Assessment Using Electric Properties Tomography. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 23rd Annual Meeting and Exhibition, Toronto, Canada, 2015.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 23:4397.)
3. Tawara N, Onishi T, Yamamoto T. Dynamic analysis of T2 and proton density of exercise-induced muscle using SE-EPI. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 23rd Annual Meeting and Exhibition, Toronto, Canada, 2015.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 23:4255.)
4. Katoh C, Tomiyama Y, Takeuchi K, Manabe O, Tamaki N: Estimation of myocardial blood flow using multi-detector CT as compared with 15O-H2O PET: Strategy for reducing radiation dose in myocardial CT study. 61th Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting, Baltimore, USA, 2015.6.
5. Sakashita T, Kamishima T, Sugimori H, TangM, Noguchi A, Kono M, and Atsumi T: Accurate Quantitative Assessment of Synovitis in Rheumatoid Arthritis Using Pixel by Pixel, Time-Intensity Curve Shape Analysis. ISMRM 23rd Annual Meeting and Exhibition 2015, Traditional poster presentation, Tronto,

- Canada, 2015.6.
6. Sakashita T, Kamishima T, Sugimori H, Tang M, Noguchi A, Kono M, and Atsumi T: Pixel-by-Pixel Arterial Spin Labeling Blood Flow Pattern Variation Analysis for Depiction of Rheumatoid Synovitis. Radiological Society of North America (RSNA) 2015, 101st Annual Meeting, Chicago, USA, 2015.11.
 7. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Okubo T, Katayama K: "Computer-Based Temporal Subtraction Analysis of Joint Space Narrowing in Rheumatoid Patients: Validation Study in Carpal Joints". The Radiological Society of North America 2015, Chicago USA, 2015.12.
 8. Okino T, Kamishima T, Sutherland K, Fukae J, Tanimura K: "X-ray Temporal Subtraction Analysis of Finger Joint Space Narrowing with Ultrasonographic Synovitis in Rheumatoid Patients with Long-term Sustained Clinical Low Disease Activity." The Radiological Society of North America 2015, Chicago USA, 2015.12.
 9. Masayori Ishikawa, "Educational lecture: Radiotherapy Physics 6, Physical aspect of radiation therapy," 74th Annual meeting of Japan Radiological Society (2015.4.17-19) Yokohama
 10. M. Ishikawa, S. Tanabe, S. Yamaguchi, N. Ukon, K. Sutherland, N. Miyamoto, R. Suzuki, N. Katoh, K. Yasuda, H. Shirato, "Feasibility study on real-time tumor tracking using a parallel plane PET," 2015 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference (2015.10.31-11.7) San Diego
 11. M Ishikawa, K Nakagawa, T Igarashi, Y Furuhashi, "Development of Ultra-miniature Invisible Dosimeter Using Scintillator with Optical Fiber for Diagnostic X-ray Dosimetry," PH203-SD-SUA4, 101st Scientific Assembly and Annual Meeting of Radiological Society of North America, (2015.11.29-12.4) Chicago
 12. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Radiosensitizing effects of gold nanoparticles in proton and X-ray irradiations. The 2nd Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists (ESRAH2015), Hirosaki, Japan, (Poster) 5/23-24 (2015)
 13. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Dose distribution around gold nanoparticles in proton beam irradiation. 15th International Congress of Radiation Research (ICRR), posters.pp.959, Kyoto, Japan, (Poster) 5/25-29 (2015)
 14. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Monte Carlo simulation of the radio sensitizing effect by gold nanoparticles: comparison between proton and X-ray irradiation. World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2015, Toronto, Canada, (Oral) 6/7-17 (2015)
 15. Mizonobe K, Fukuda C, Shiraishi Y, Nakano S, Asanuma O, Takeda H, Date H. The evaluation of size correction factor the SSDE in 320 rows ADCT scanning, The 2nd Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists (ESRAH2015), Hirosaki, Japan, (Poster) 5/ 23 (2015)
 16. Kimura T, Matsuya Y, Date H. Dose rate effect on cell survival in the fractionated radiotherapy. The 2nd Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists (ESRAH2015), Hirosaki, Japan, (Poster) 5/23-24 (2015)
 17. Matsuya Y, Sasaki K, Yoshii Y, Date H. Cell-killing model considering DNA damage repair and cell phase. The 2nd Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists (ESRAH2015), Hirosaki, Japan, (Poster) 5/23-24 (2015)
 18. Matsuya Y, Sasaki K, Yoshii Y, Date H. Influence of two types of DNA repair pathways on the surviving fraction of cells exposed to radiations. 15th International Congress of Radiation Research, Kyoto

International Conference center, Kyoto, Japan, (Poster) 5/25-29 (2015)

19. Yoshii Y, Matsuya Y, Sasaki K, Date H. Effects of secondary electrons on DNA double-strand breaks after photon irradiation. The 2nd Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH for Young Scientists (ESRAH2015), Hiroasaki, Japan, (Poster) 5/23-24 (2015)
20. Morphological Alteration of Murine MC3T3-E1 Osteoblastic cells Induced by Inorganic Polyphosphate Experimental Biology 2015, Boston, USA (2015.3.31)

[国内学会]

1. 西 慶悟, 唐明輝, 山本 徹: 大脳細動脈収縮拡張による静脈血酸素飽和度揺らぎ. 第 19 回酸素ダイナミクス研究会, 東京, 2015.9.
2. Tang M, Yamamoto T. Appearance of cerebral arteriolar elasticity in magnetic resonance signal fluctuation in brain. 第 19 回酸素ダイナミクス研究会, 東京, 2015.9
3. キンキン タ, Katscher U, Stehning C, 山口 茂, 寺坂俊介, 山本 徹, 工藤與介, 白土博樹. グリオマ評価における非侵襲的導電率画像法の有用性の検討. 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会, 東京, 2015.9.
4. 西 慶悟, 唐明輝, 山本 徹: 呼吸周期成分静脈血酸素飽和度揺らぎの呼気終末二酸化炭素分圧依存性. 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会, 東京, 2015.9.
5. Tang M, Yamamoto T. Blood pressure and end-tidal carbon dioxide dependency of spin-echo signal fluctuation: appearance of arteriolar elasticity in the human brain. 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会, 東京, 2015.9.
6. Oshinomi K, Tang M, Nishi K, Ishimoto T, Nakano T, Yamamoto T. Hybrid structure design to reduce metallic artifacts in MRI. 医学物理. 2015;35S1:153.
7. Kikuchi Y, Tang M, Yamaguchi D, Ito M, Yamamoto T. Influence of patient positioning on RF heating due to metallic implants during MRI examination. 医学物理. 2015;35S1:159.
8. Kaneda T, Tou M, Nishi K, Yamamoto T. Precise mapping of magnetic field distortion induced by metallic implants: Application of three-dimensional imaging. 医学物理. 2015;35S1:154.
9. Nishi K, Tang M, Yamamoto T. Respiratory fluctuation in venous blood oxygenation in healthy human body. 医学物理. 2015;35S1:157.
10. Tang M, Yamamoto T. Brain arteriolar elastic mapping obtained from magnetic resonance signal fluctuations —Application to dementia patients—. 医学物理. 2015;35S1:158.
11. Takano Y, Ogisu K, Yamamoto T. Dissolved oxygen concentration dependence of the transverse relaxation time—Feasibility study of in vivo oxygen concentration changes by MRI—. 医学物理. 2015;35S1:155.
12. 唐明輝, 西 慶悟, 山本 徹: 細動脈収縮拡張機能情報の取得. 第 28 回臨床 MR 脳機能研究会, 東京, 2016.3.19.
13. 加藤千恵次: 320 列 CT による心筋血流定量評価と被曝量軽減の試み. 第 54 回日本生体医工学会大会, 名古屋, 2015.7.
14. 坂下太郎, 神島保, 杉森博行, 唐明輝, 河野通仁, 渥美達也: ASL 法を用いた RA 滑膜炎の分離: 複数の PLD から得られたデータを用いた解析. 第 71 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2015.4.
15. 坂下太郎, 神島保, 杉森博行, 唐明輝, 河野通仁, 渥美達也: Pixel by Pixel TIC 解析を用いたリウマチ滑膜炎の定量評価. 第 71 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2015.

V. 研究活動

16. 坂下太郎, 神島保, 杉森博行, 唐明輝, 河野通仁, 渥美達也: Time-intensity curve (TIC) shape analysis を用いた関節リウマチ滑膜炎の定量的評価. 医用画像情報学会 (MII) 平成 27 年秋季 (第 173 回), 札幌, 2015.
17. 市川翔太, 神島保, Sutherland Kenneth, 大久保学宣, 片山耕: 「単純 X 線写真における経時差分技術を用いた関節裂隙狭小化定量評価—関節リウマチ罹患関節における検証」. 医用画像情報学会 173 回大会, 札幌, 2015.10.
18. Saito K, Kamishima T, Sakano R, Horie T, Nishida M: Quantitative Analysis of Capillary Flow by Use of Newly Introduced Doppler Technique to Visualize the Smallest Vessels without Motion Artifact - A Phantom study -. The 71th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2015.4.
19. Ono Y, Kamishima T, Yasojima N, Tamura K, Tsutsumi K, Kashihara R: Effect on Measured Finger Joint Space Width Caused by Positioning on Tomosynthesis - A Phantom Study for Assessment of Rheumatoid Hand. The 71st Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2015.4.
20. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Okubo T, Katayama K: “Computer-Based Analysis of Joint Space Narrowing Using Temporal Subtraction in Rheumatoid Patients: Validation Study in Carpal Joints”. 71 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2015.4.
21. Okino T, Kamishima T, Sutherland K, Fukae J, Tanimura K: “X-ray Temporal Subtraction Analysis of Finger Joint Space Narrowing in Rheumatoid Patients with Long-term Sustained Clinical Low Disease Activity”. The 71th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2015.4.
22. 齋藤克己, 神島保, 坂野稜典, 堀江達則, 西田睦: 微細血管を描出できる新たなドプラ技術の使用による定量的毛細血管血流評価 - ファントム研究. 第 71 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2015.4.
23. Onuma T, Kamishima T, Takeda H, Yamashita K, and Shimamura T: Post Operative Change of Trunk Muscle Mass and Quality for Living Donor Liver Transplantation Recipients. The 71st Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology. Yokohama, 2015.4.
24. 石川 正純「科研費獲得合同セミナー：研究課題を決める際に重要なこと」第 109 回日本医学物理学会 & 第 70 回日本放射線技術学会合同シンポジウム (2015.4.17-19) 横浜
25. 石川 正純, 作原 祐介, 郡 俊志, 齊藤 こず恵, 吉田 聖香, 「X 線透視像に写らない診断 X 線用超小型線量計の開発」第 109 回日本医学物理学会学術大会 (2015.4.17-19) 横浜
26. 石川 正純, 長瀬 尚巳, 太田 真緒, 藤田 勝久, 平塚 純一, 白土 博樹, 「体内線量測定を目的とした高精度分光型 SOF 線量計の開発」第 110 回日本医学物理学会学術大会 (2015.9.18-20) 札幌
27. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. A Monte Carlo investigation of radial dose distribution of electrons by proton beam, 第 109 回日本医学物理学会学術大会報文集 p.126, 横浜, 4/14 (2015)
28. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Dose enhancement effect of gold nanoparticles in proton therapy at different depth before Bragg peak, 第 110 回日本医学物理学会学術大会報文集 p.136, 札幌, 9/20 (2015)
29. 権 池勲, ケネス サザランド, 橋本 孝之, 伊達 広行. Bragg peak 近傍において金ナノ粒子が及ぼす線量増加の検討, Geant4 医学応用研究会, 富山, 12/19 (2015)
30. Mizonobe K, Fukuda C, Shiraishi Y, Nakano S, Asanuma O, Takeda H, Date H. An Evaluation of the SSDE in 320-row ADCT Scanning. 日本放射線技術学会第 71 回総会学術大会, 報文集 p188, 横浜 4/19 (2015)
31. 溝延 数房, 竹中 祥太郎, 伊達 広行. SSDE 算出のための体厚計算における検討. 第 173 回医用画像情報

V. 研究活動

学会, 札幌, 10/17 (2015)

32. Yoshii Y, Matsuya Y, Sasaki K, Date H. Estimation of the number of DNA double-strand breaks induced by megavoltage X-ray beams. 第 110 回日本医学物理学会学術大会 報文集 p114, 北海道大学, 札幌, 9/18-20 (2015)
33. Matsuya Y, Yoshii Y, Sasaki K, Date H. Microdosimetric analysis of the energy deposition at low dose rate X-ray irradiation. 第 110 回日本医学物理学会学術大会 報文集 pp.125, 北海道大学, 札幌, 9/18-20 (2015)
34. 木村亮朗, 松谷悠佑, 伊達 広行. Dose rate effects of conventional fractionated radiotherapy on the cell-killing. 第 43 回日本放射線技術学会秋季大会, 金沢市文化ホール, 金沢, 10/8-10 (2015)
35. 横山 美翔, 寒川 美奈, 堤 香織, 田中 茉衣, 遠山 晴一:「テロスストレス装置を用いた X 線足関節前方引き出しテストにおける性差の検討」. 第 50 回日本理学療法学術大会, 東京, 2015.6 月 5-7 日
36. 奥貫拓実, 山中 正紀, 越野 裕太, 五十嵐 将人, 江沢 侑也, 寒川 美奈, 堤 香織, 遠山 晴一:「Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル走行時の足部 kinematics の特徴: 第 1 報」第 26 回臨床スポーツ医学会, 神戸, 2015.11 月 5-6 日
37. 堤 香織, 菅原智紀, 田村麻奈実, 澤田 慧, 福良沙霧, 中野 永, 松谷悠佑:「ポリリン酸がヒト肺非小細胞癌由来細胞株の放射線感受性に及ぼす影響」. 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会, 神戸, 2015.12 月 1-4 日

[地方会]

1. 金田貴彦, 山本 徹: MRI による金属試料の磁化率測定. 第 54 回日本医工学会北海道支部大会, 札幌, 2015.10.10.
2. 吉富敬祐, 石坂欣也, 押野見一哉, 河口 蒼, Tha Khin Khin, 山本 徹, 杉森 博行: DSI におけるパラメータ変化による神経束角度への影響についての検討. 日本放射線技術学会 第 71 回北海道支部秋季大会, 札幌, 2015.11.15.
3. 加藤千恵次: 320 列 CT を用いた心電図同期ダイナミック撮像 による心筋血流量と被曝量軽減の試み. 第 54 回日本生体医工学会北海道支部大会, 札幌, 2015.10.
4. 加藤千恵次: 理解すべき工学的基礎知識 II (電子工学, 計測工学, 情報・通信工学). 第 1 種 ME 技術実力検定試験講習会, 札幌, 2015.4.
5. Sakashita T, Kamishima T, Sugimori H, Tang M, Noguchi A, Kono M, and Atsumi T: Accurate Quantitative Assessment of Synovitis in Rheumatoid Arthritis Using Pixel by Pixel, Time-Intensity Curve Shape Analysis. The Second FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
6. Onuma T, Kamishima T, Sasaki T, and Sakata M. Absolute Reliability of Fat Volume Measurement by Computed Tomography: Application of Low-dose Scan and Minimal Detectable Change - A Phantom Study. The Second FHS International Conference. Sapporo, 2015.7.
7. Ono Y, Kamishima T, Yasojima N, Tamura K, Tsutsumi K: Detection and Measurement of Bone Erosions in Rheumatoid Finger by Tomosynthesis: A Phantom study for Reconstruction Filter Setting Optimization. The Second FHS International Conference: Gazing into the Future of Health Sciences in Asia, Sapporo, 2015.7
8. Saito K, Kamishima T, Horie T, Nishida M: Quantitative analysis of capillary flow using newly introduced Doppler technique to visualize the smallest vessels without motion artifact - a phantom study. The 2nd

V. 研究活動

- FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
9. Okino T, Kamishima T, Sutherland K, Fukae J, Tanimura K: “Radiographic Temporal Subtraction Analysis of Finger Joint Space Narrowing with Ultrasonographic Synovitis in Rheumatoid Patients with Long-term Sustained Clinical Low Disease Activity”. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
 10. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Okubo T, Katayama K: “The Usefulness of Computer-Based Method Using Temporal Subtraction to Assess Joint Space Narrowing Progression in Rheumatoid Patients”. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
 11. Kwon J, Sutherland KL, Hashimoto T, Date H. Application of gold nanoparticles as a radio sensitizer: comparison between protons and X-rays. 2nd FHS International Conference, Sapporo, Japan, (Oral+Poster) 7/3 (2015)
 12. Kimura T, Matsuya Y, Date H. Influence of dose delivery rate on the fractionated radiotherapy. 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, Japan, (Oral+Poster) p7, 7/3 (2015)
 13. 山田亮太, 木村堯朗, 松谷悠佑, 伊達広行. パラメータ決定法の違いが及ぼす細胞生存率曲線への影響. 日本放射線技術学会 第70回北海道部会秋季大会, 11/14-15 (2015)
 14. 溝延 数房, 浅沼 治, 武田 浩光, 赤石 泰一, 吉井 勇治, 竹中 祥太郎, 伊達 広行. SSDE 算出のための有効径計算における検討. 第42回ヘリカルCT研究会, 札幌, 1/9 (2016)

■業績 (平成 25 年度)

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Ohba K, Oki Y, Fujita K, Kameko F, Moriyama T, Horiike Y, Morita H, Matsushita A, Iino K, Sasaki S, Nakamura H, Maekawa M: A sudden onset and the spontaneous remission of severe hypo-high-density lipoprotein cholesterolemia without serious underlying disease: a case report. *Clin Chim Acta* 426: 91-94, 2013.
2. Sakurai T, Wada N, Takahashi Y, Ichikawa A, Ikuta A, Furumaki H, Hui S-P, Jin S, Takeda S, Fuda H, Fujikawa M, Shimizu C, Nagasaka H, Furukawa H, Kobayashi S, Chiba H: Immunological detection of large oxidized lipoproteins in hypertriglyceridemic serum. *Ann Clin Biochem* 50:465-472, 2013.
3. Nakano K, Tamura S, Otuka K, Niizeki N, Shigemura M, Shimizu C, Matsuno K, Kobayashi S, Moriyama T: Development of a highly sensitive three-dimensional gel electrophoresis method for characterization of monoclonal protein heterogeneity. *Anal Biochem* 438:117-123, 2013.
4. Iwano H, Yamada S, Watanabe M, Mitsuyama H, Mizukami K, Nishino H, Yokoyama S, Kaga S, Okada K, Nishida M, Yokoshiki H, Mikami T, Tsutsui H: Strain rate dispersion index can predict changes in left ventricular volume and adverse cardiac events following cardiac resynchronization therapy. *Circ J* 77: 2757-2765, 2013.
5. Michimata R, Watari H, Tomaru U, Sakuragi N, Ishizu A: Human papillomavirus (HPV) 16-positive uterine cervical squamous cell carcinoma with co-infection of HPV 34 has lower incidence in lymph node metastasis than that without co-infection of HPV 34. *Pathobiology* 80:259-264, 2013.
6. Ishizu A, Tomaru U, Murai T, Yamamoto T, Atsumi T, Yoshiki T, Yumura W, Yamagata K, Yamada H, Kumagai S, Kurokawa MS, Suka M, Makino H, Ozaki S for JMAAV: Prediction of response to treatment by gene expression profiling of peripheral blood in patients with microscopic polyangiitis. *PLoS One* 8:e63182, 2013.
7. Takeuchi S, Kimura S, Soma Y, Waki M, Yamaguchi M, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A, Kawakami T: Lysosomal-associated membrane protein-2 plays an important role in the pathogenesis of primary cutaneous vasculitis. *Rheumatology* 52:1592-1598, 2013.
8. Masuda S, Iwasaki S, Tomaru U, Baba T, Katsumata K, Ishizu A: Possible implication of Fc γ receptor-mediated trogocytosis in susceptibility to systemic autoimmune disease. *Clin Dev Immunol* 2013:345745, 2013.
9. Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A: Possible implication of disordered neutrophil extracellular traps in the pathogenesis of MPO-ANCA-associated vasculitis. *Clin Exp Nephrol* 17:631-633, 2013.
10. Kawakami T, Okudaira A, Okano T, Takeuchi S, Kimura S, Soma Y, Ishizu A, Arimura Y, Kobayashi S, Ozaki S: Treatment for cutaneous arteritis patients with mononeuritis multiplex and elevated C-reactive protein. *J Dermatol* 40:955-961, 2013.
11. Hui SP, Sakurai T, Takeda S, Jin S, Fuda H, Kurosawa T, Chiba H: Analysis of triacylglycerol hydroperoxides in human lipoproteins by Orbitrap mass spectrometer. *Anal Bioanal Chem* 405:4981-

- 4987, 2013.
12. Sakurai T, Wada N, Takahashi Y, Ichikawa A, Ikuta A, Furukawa H, Hui SP, Jin S, Takeda S, Fuda H, Fujikawa M, Shimizu C, Shiga M, Shimizu C, Nagasaka H, Furumawa H, Kobayashi S, Chiba H: Immunological detection of large oxidized lipoproteins in hypertriglyceridemic serum. *Ann Clin Biochem* 50:465-472, 2013.
 13. Jin S, Wada N, Takahashi Y, Hui SP, Sakurai T, Fuda H, Takeda S, Fujikawa M, Yanagisawa K, Ikegawa S, Kurosawa T, Chiba H: Quantification of urinary 18-hydroxycortisol using LC-MS/MS. *Ann Clin Biochem* 50:450-456, 2013.
 14. Takeda S, Ohkawa F, Hui SP, Sakurai T, Jin S, Fuda H, Sueoka K, Chiba H: Evaluation of oxidized low-density lipoproteins using Kelvin Force microscopy. *IEEE SENSORS J* 13:3449-3453, 2013.
 15. Sakurai T, Takeda S, Takahashi J, Takahashi Y, Wada N, Trirongjitmoah S, Namita T, Jin S, Ikuta A, Furumaki H, Hui SP, Fuda H, Fujikawa M, Shimizu K, Chiba H: Measurement of single low-density lipoprotein particles using atomic force microscopy. *Ann Clin Biochem* 50:564-570, 2013.
 16. Tanaka J, Kanamori H, Nishiwaki S, Ohashi K, Taniguchi S, Eto T, Nakamae H, Minagawa K, Miyamura K, Sakamaki H, Morishima Y, Kato K, Suzuki R, Nishimoto N, Oba K, Masauzi N: Reduced-intensity vs myeloablative conditioning allogeneic hematopoietic SCT for patients aged over 45 years with ALL in remission: a study from the Adult ALL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). *Bone Marrow Transplant* 48:1389-1394, 2013.
 17. Abe A, Mikami T, Kaga S, Tsuji K, Okada K, Yokoyama S, Nishino H, Nakabachi M, Nishida M, Shimizu C, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H: Coexisting cardiac diseases and pressure recovery phenomenon contribute to discrepancy between echocardiographic severity of aortic stenosis and left ventricular hypertrophy. *J Echocardiogr* 11:41-49, 2013.
 18. 京極典憲, 岩井和浩, 佐藤暢人, 飯村泰昭, 狭間一明, 石津明洋: 急性腹症を契機に発見された回盲部腸間膜原発 solitary fibrous tumor の 1 例. *日本臨床外科学会雑誌* 74:2194-2199, 2013.

B. 著書

1. Takanori Moriyama (分担): Sialyl Salivary-Type Amylase Associated with Ovarian Cancer. *Cancer Treatment-Conventional and Innovative Approaches*, INTECH, Croatia, 541-553, 2013
2. 石津明洋(分担):第1章 循環器 B 血管,リンパ管. 器官病理学(改訂14版). 218-230, 南山堂, 東京, 2013.
3. 石津明洋(分担):第11章 リンパ系と免疫. 標準臨床検査学 基礎医学 人体の構造と機能. 229-243, 医学書院, 東京, 2013.
4. 千葉仁志, 恵 淑萍: 医用質量分析ガイド 内分泌・代謝疾患, 診断と治療. 108-114, 診断と治療社, 東京, 2013.
5. 吉田 繁(分担): HIV 感染症診断・治療・看護マニュアル 第9版 4.HIV 薬剤耐性とその検査. 23-25, 北海道大学病院 HIV 感染症対策委員会, 2013
6. 吉田 繁(分担): HIV 感染症診断・治療・看護マニュアル 第9版 20-3. 検査・輸血部領域での安全対策と検査項目. 207-211, 北海道大学病院 HIV 感染症対策委員会, 2013.

V. 研究活動

C. 総説, 解説, 論評

1. 森山隆則: 血清酵素解析への電気泳動法の応用. 医療と検査機器・試薬 36:265-269, 2013.
2. 森山隆則, 中野恵一, 田村彰吾: 免疫検査における非特異反応. Medical Technology 41:724-729, 2013.
3. 石津明洋, 外丸詩野, 村井太一, 山本智宏, 吉木 敬: 血管炎の予後は予測できるかー予後因子探索の道ー. 分子リウマチ治療 6: 82-86, 2013.
4. 石津明洋: 血管炎症候群: 抗好中球細胞質抗体. 分子リウマチ治療 6: 209-213, 2013.
5. 中沢大悟, 志田玄貴, 西尾妙織, 渥美達也, 吉田雅治, 外丸詩野, 石津明洋: 血管炎の新たな発症機序ー「好中球の網」NETsー. 分子リウマチ治療 7: 34-38, 2013.
6. 恵 淑萍: 臨床化学者の育成. 臨床化学 42: 207, 東京, 2013.

D. 報告書

1. 石津明洋: 血管炎の発症機序解明と新しい分子標的治療法の開発に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 難治性血管炎に関する調査研究 平成 25 年度 総括・分担研究報告書: 50-54, 2013.
2. 恵 淑萍: 平成 24 年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書), 2013.
3. 恵 淑萍: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 分担研究報告書(研究実績報告書), 2013.
4. 吉田 繁(分担): 北海道ブロックにおける薬剤耐性 HIV の調査研究. 薬剤耐性 HIV の動向把握のための調査体制確立及びその対策に関する研究 平成 25 年度総括・分担報告書, 2013.

E. その他

[学会研究会の主催]

1. 石津明洋: 第 18 回 血管病理研究会, 札幌, 2013.10.

[特許]

1. 取得: 2 件
2. 出願: 1 件

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Matsuo J: Learning from bacteria-protist interactions: from human-health threat to infection control. The first FHS symposium: evolving of health science, Sapporo, Japan, 2013.7.

[国内学会]

1. 山口博之: 特別講演「クラミジア基礎研究への誘い: 難しさ, 面白さ, そして…」. 第 31 回日本クラミジア研究会, 札幌, 2013.9.
2. 恵 淑萍: シンポジスト「LC/MS を用いた過酸化脂質および生理活性脂質の分析」. 第 60 回日本臨床検査医学会, 神戸, 2013.11.

V. 研究活動

3. 和田典男, 神 繁樹, 恵 淑萍, 柳沢克之, 黒澤隆夫, 千葉仁志: シンポジスト「ハイブリッドステロイド質量分析による原発性アルトステロン症の鑑別診断」. 第60回日本臨床検査医学会, 神戸, 2013.11.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Horioka K, Kobayashi S, Masauzi N: Correlation between the strength of agglutination and plasma IgM levels in ABO reverse grouping. Biochemists Association of Nepal (BAN) the second Biochemistry conference in Nepal, Dahran, Nepal, 2013.4.
2. Masauzi N, Yamada N, Fukui A, Fujimoto N, Horioka K, Miwa K: The changes of complete blood cell count (CBC) and 5-part leukocyte differential (5-DEFF) after preserving blood sample at room temperature (RT). Biochemists Association of Nepal (BAN) the second Biochemistry conference in Nepal, Dahran Nepal, 2013.4.
3. Ishizu A, Tomaru U, Iinuma C, Waki M, Kawakami A, Sasaki N, Yoshiki T: Implication of vascular endothelial cell-reactive NKT cells in pathogenesis of small vessel vasculitis in rats. 16th International Vasculitis and ANCA Workshop, Paris, France, 2013.4.
4. Ishizu A, Tomaru U, Murai T, Yamamoto T, Atsumi T, Yoshiki T: Prediction of outcome of treatment by gene expression profiling of peripheral blood in patients with microscopic polyangiitis. 16th International Vasculitis and ANCA Workshop, Paris, France, 2013.4.
5. Nakazawa D, Tomaru U, Jodo S, Nishio S, Atsumi T, Ishizu A: Abundant neutrophil extracellular traps in thrombus of patient with microscopic polyangiitis. 16th International Vasculitis and ANCA Workshop, Paris, France, 2013.4.
6. Hui SP, Hirano K, Shrestha R, Suzuki A, Yamaguchi S, Nagasaka H, Fukuzawa S, Chiba H: Analysis of triglycerides in skin fibroblast from TGCV by LC/MS. The 2nd International Symposium on Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy/Neutral Lipid Storage Disease, Osaka, Japan, 2013.4.
7. Ishida K, Matsuo J, Hayashida K, Sekizuka T, Kuroda M, Takeuchi F, Nagai H, Sugimoto C, Yamaguchi H: A unique genome feature of an amoebal endosymbiotic primitive chlamydia, Neochlamydia, showing intimate mutualistic interaction with Acanthamoeba. 113th General Meeting in American Society for Microbiology, Denver, USA, 2013.5.
8. Matsuo J, Okude M, Hayashi Y, Nakamura S, Yamaguchi H: Cell-to-cell transfer of amoebal endosymbiotic primitive chlamydiae via cytokinesis: a model. 113th General Meeting in American Society for Microbiology, Denver, USA, 2013.5.
9. Yamane C, Yamazaki T, Hayashi Y, Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Incomplete developmental cycle of amoebal endosymbiotic primitive chlamydia Parachlamydia into human immortal HEp-2 cells at low culture temperature. 113th General Meeting in American Society for Microbiology, Denver, USA, 2013.5.
10. Yamazaki T, Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Ureaplasma parvum stimulation prompts Chlamydia trachomatis growth in HeLa cells treated with IFN-gamma. 113th General Meeting in American Society for Microbiology, Denver, USA, 2013.5.
11. Lin M, Cheng Z, Xiong Q, Rahman MA, Matsuo J, Sengamalay N, Sadzewicz L, Kumar N, Tallon LJ, Fraser

V. 研究活動

- C, Dunning Hotopp JC, Rikihisa Y: Sequencing and comparison of genomes of Ehrlichia strains and transcriptome profiles in mammalian host and tick cells. 113th General Meeting in American Society for Microbiology, Denver, USA, 2013.5.
12. Shrestha R, Hui SP, Sakurai T, Takahashi Y, Ohkawa F, Miyazaki R, N.Xiao, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Qualitative Determination of Triacylglycerol Hydroperoxide in VLDL, Intermediate Density Lipoprotein and Human Plasma using Orbitrap Mass Spectrometer. AACC, Houston, USA, 2013.7.
13. Hui SP, Shrestha R, Sakurai T, Takahashi Y, N. Xiao, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Detection and characterization of lipid hydroperoxides in human lipoproteins by LC/MS. AACC, Houston, USA, 2013.7.
14. Yamaguchi H, Matsuo J, Yagita K, Nakamura S, Nagai H: High-temperature adapted primitive chlamydia found in amoebae isolated from a hot spring can grow in immortalized human epithelial cells. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji, Japan, 2013.9.
15. Nishino H, Yamada S, Okada K, Nakabachi M, Yokoyama S, Iwano H, Kaga S, Nishida M, Shibuya H, Shimizu C, Mikami T, Tsutsui H: Relationship between left ventricular myocardial shortening in the three orthogonal directions and cardiovascular complications in patients with hypertrophic cardiomyopathy. American Heart Association Scientific Sessions, Dallas, USA, 2013.11.
16. Nakazawa D, Tomaru U, Yoshida M, Nishio S, Shida H, Atsumi T, Ishizu A: High induction and low degradation abilities on neutrophil extracellular traps of sera in patients with MPO-ANCA-associated vasculitis. ASN 2013, Atlanta, USA, 2013.11.
17. Takeda S, Sakurai T, Ohkawa F, Jin S, Hui SP, Fuda H, Mukasa K, Sueoka K, Chiba H: Effects of acid oxidation on carbon nanotube based electrodes for detection of oxidized LDL. IEEE SENSORS 2013, Baltimore, USA, 2013.11.

[国内学会]

1. 中沢大悟, 外丸詩野, 浄土 智, 渥美達也, 石津明洋: 顕微鏡的多発血管炎(MPA)患者に合併した深部静脈血栓における過剰なNETs形成. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 2013.4.
2. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 野澤弥生, 西田 翼, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 機能的三尖弁逆流の成因と機序: とくに慢性心房細動の関与について. 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 2013.4.
3. 中野 彩, 三神大世, 加賀早苗, 北南文絵, 岡田一範, 阿部 歩, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 山田 聡, 筒井裕之: 肺動脈弁逆流の拡張後期流速波形のバリエーションとその意義. 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 2013.4.
4. 中鉢雅大, 山田 聡, 西野久雄, 岡田一範, 横山しのぶ, 西田 睦, 渋谷 斉, 清水 力, 加賀早苗, 三神大世, 筒井裕之: 3次元スペックルトラッキングによる左室容積自動計測の有用性: 同一画像データでの2次元用手トレース法との比較に基づく検討. 第24回日本心エコー図学会学術集会, 東京, 2013.4.
5. 加賀早苗, 三神大世, 高松由佳, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 連続波ドプラ法による肺動脈弁逆流速度波形の分析に基づく収縮性心膜炎の診断. 日本超音波医学会第86回学術集会, 大阪, 2013.5.
6. 福元達也, 松尾淳司, 清水 力, 山口博之: 院内環境からの環境クラミジア共生アメーバの株化と分子系統解析. 第87回日本感染症学会総会, 横浜, 2013.6.

V. 研究活動

7. 小栗 聡, 松尾淳司, 花輪智子, 清水 力, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫内で促進する大腸菌プラスミド伝播頻度とクオラムセンシング. 第 87 回日本感染症学会総会, 横浜, 2013.6.
8. 中沢大悟, 外丸詩野, 西尾妙織, 渥美達也, 笠原正典, 石津明洋: 好中球細胞外トラップ (NETs) の異常と MPO-ANCA 関連血管炎の発症. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6
9. 川上 愛, 飯沼千景, 脇 雅, 山口まどか, 外丸詩野, 笠原正典, 吉木 敬, 石津明洋: 自己血管内皮細胞反応性 NKT 細胞による血管炎発症モデル. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6.
10. 紺野沙織, 外丸詩野, 岸本葉奈, 石津明洋, 笠原正典: プロテアソームの発現異常における免疫応答の変化. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6
11. 今本鉄平, 中沢大悟, 大塚紀幸, 外丸詩野, 笠原正典, 石津明洋: 顕微鏡的多発血管炎と血栓症は MPO-ANCA と好中球細胞外トラップを介して関連する. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6.
12. 山本 岳, 藤井真理子, 大塚紀幸, 光部兼六郎, 櫻井宏治, 外丸詩野, 石津明洋, 笠原正典: HELLP 症候群に合併した hepatic rupture の一剖検例. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6.
13. 味藤 静, 外丸詩野, 大塚紀幸, 石津明洋, 笠原正典: リツキシマブ投与後に日和見感染を併発した顕微鏡的多発血管炎の一剖検例. 第 102 回日本病理学会総会, 札幌, 2013.6.
14. 水上真喜, 勢田英果, 山田実早希, 福井彩佳, 藤本奈緒, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 保存全血検体の血算, 好中球核形態の経時的变化: 保存測定条件による相違と生化学データの変化. 第 14 回日本検査血液学会学術集会, 東京, 2013.7.
15. 勢田英果, 水上真樹, 山田実早希, 福井彩佳, 藤本奈緒, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 保管全血検体の血算, 白血球分画の経時的变化: 異なる保管温度 (4℃, 室温) での比較. 第 14 回日本検査血液学会学術集会, 東京, 2013.7.
16. 堀岡希衣, 福井彩佳, 山田実早希, 藤本奈緒, 勢田英果, 水上真喜, 三輪佳子, 政氏伸夫: myeloperoxidase 染色における過酸化水素水添加量の検討. 第 14 回日本検査血液学会学術集会, 東京, 2013.7.
17. 西岡佑介, 齊藤史織, 森山隆則, 小林清一: 可溶性ローヤルゼリー蛋白質の選択的抗体産生抑制作用について. 第 8 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 大阪, 2013.8.
18. 西岡佑介, 森山隆則, 小林清一: ヒト末梢血単核細胞に対する可溶性 Royal Jelly 蛋白質の免疫調節効果に関する研究. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
19. 中野恵一, 田村彰吾, 大塚浩平, 新関紀康, 重村雅彦, 澁谷 齐, 松野一彦, 清水 力, 小林清一, 森山隆則: M 蛋白多様性解析に向けた高感度 3 次元電気泳動法の確立. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
20. 寺嶋 駿, 武田晴治, 山田理絵, 大川芙多葉, 恵 淑萍, 布田博敏, 櫻井俊宏, 神 繁樹, 千葉仁志: 金属酸化 LDL に由来する粒子の電気化学的検討. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
21. Rojeet Shrestha, 恵 淑萍, 櫻井俊宏, 高橋祐司, 武田晴治, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: Qualitative analysis of triacylglycerol hydroperoxide in VLDL and IDL by LC/MS. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
22. 恵 淑萍, 三浦佑介, 池川繁男, 千葉仁志: グリセリンカブリン酸エステルの合成. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
23. 武田晴治, 櫻井俊宏, 大川芙多葉, 恵 淑萍, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: 原子間力顕微鏡による LDL 酸化状態評価. 第 53 回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.

V. 研究活動

24. 高橋祐司, 櫻井俊宏, 惠 淑萍, 神 繁樹, 武田晴治, 布田博敏, 伊藤康樹, 千葉仁志: apoE-containing HDL-cholesterol 直接法の開発. 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
25. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡辺 貢, 神 繁樹, 惠 淑萍, 武田晴治, 櫻井俊宏, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来の新規抗酸化物質における肝保護作用. 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会, 徳島, 2013.8.
26. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 西田 翼, 中元雅章, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 山田 聡, 筒井裕之: 機能的三尖弁逆流の成因としての慢性心房細動の意義とその機序. 第 8 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 大阪, 2013.8.
27. 惠 淑萍, 八木亜希子, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: 高度生殖医療に用いられるミネラルオイル中の過酸化脂質. 第 61 回質量分析総合討論会, 筑波, 2013.9.
28. 黒木靖敏, 松尾淳司, 石田香澄, 山崎智弘, 山根千夏世, 中村眞二, 山口博之: 原始クラミジア Neochlamydia 共生 S13 アカントアメーバにレジオネラは感染できない. 第 31 回日本クラミジア研究会学術集会, 札幌, 2013.9.
29. 山根千夏世, 山崎智弘, 松尾淳司, 西能史華, 中村眞二, 山口博之: アメーバ共生細菌原始クラミジア Parachlamydia acanthamoebae Bn9 の低温培養条件下における株化ヒト上皮系細胞 HEp-2 内での増殖様式について. 第 31 回日本クラミジア研究会学術集会, 札幌, 2013.9.
30. 山崎智弘, 松尾淳司, 山根千夏世, 山保 文, 庄司なつみ, 林 泰弘, 中村眞二, 石田香澄, 八木田健司, 山口博之: 温泉より分離された HS-T3 株アメーバに共生する Protochlamydia のヒト上皮系細胞 HEp-2 への感染. 第 31 回日本クラミジア研究会学術集会, 札幌, 2013.9.
31. 松尾淳司, 石田香澄, 関塚剛史, 黒田 誠, 竹内史比古, 永井宏樹, 林田京子, 杉本千尋, 山口博之: アメーバ共生細菌原始クラミジア Neochlamydia のドラフトゲノム解析. 第 31 回日本クラミジア研究会学術集会, 札幌, 2013.9.
32. 石田香澄, 松尾淳司, 佐伯 歩, 山根千夏世, 伊 敏, 中村眞二, 柴田健一郎, 山口博之: リンパ球細胞に感染した病原性クラミジアの IFN γ 抵抗性についての検討. 第 31 回日本クラミジア研究会学術集会, 札幌, 2013.9.
33. 八木亜希子, 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: LC/MS による高度生殖医療に用いられるミネラルオイル中のヒドロペルオキシドの検出. 第 38 回日本医用マススペクトル学会年会, 神戸, 2013.9.
34. 惠 淑萍, 平野賢一, Rojeet Shrestha, 千葉仁志: TGCV の皮膚線維芽細胞におけるトリグリセリドの LC/MS による分析. 第 38 回日本医用マススペクトル学会年会, 神戸, 2013.9.
35. 西岡佑介, 横関 愛, 木田実里, 三本木咲花, 森山隆則, 小林清一: 可溶性ローヤルゼリー蛋白質のメラニン合成抑制作用について. 第 60 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2013.11.
36. 八木亜希子, 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: ART に用いる市販ミネラルオイルにおける過酸化脂質の分析. 第 58 回日本生殖医学学術講演会・総会, 神戸, 2013.11.
37. 吉田 繁, 服部純子, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 和山行正, 加藤真吾, 伊部史朗, 巽 正志, 杉浦 互: 2012 年度 HIV 薬剤耐性検査外部精度管理の報告. 第 27 回日本エイズ学会学術集会, 熊本, 2013.11.
38. 小林清一, 西岡佑介, 三本木咲花, 齊藤史織, 野崎怜雄, 村田清志, 山口喜久二, 森山隆則: 可溶性ローヤルゼリー蛋白質の抗アレルギー作用について. 第 11 回日本機能性食品医用学会総会, 東京, 2013.12.
39. 森山隆則, 田村彰吾, 野崎怜雄, 河野 透, 本間直幸, 小林清一, 村田清志, 山口喜久二: ローヤルゼリー可溶性蛋白質の HPLC プロフィールと品質評価系の確立に向けた提言. 第 11 回日本機能性食品医用学会

V. 研究活動

総会, 東京, 2013.12.

40. Kawakami A, Iinuma C, Waki M, Yamaguchi M, Tomaru U, Kasahara M, Ishizu A : Establishment of NKT cell clone from vasculitis-prone rats, which recognizes autoantigen but not α -galactosylceramide presented by CD1d. 第 42 回日本免疫学会総会・学術集会, 千葉, 2013.12.
41. Konno S, Tomaru U, Ishizu A, Kasahara M : Aberrant proteasomal expression affects T cell differentiation and function. 第 42 回日本免疫学会総会・学術集会, 千葉, 2013.12.

[地方会]

1. 黒木靖敏, 松尾淳司, 石田香澄, 山崎智弘, 山根千夏世, 中村眞二, 山口博之 : Neochlamydia S13 共生アcantアメーバとレジオネラとの相互関係. 第 80 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 網走, 2013.8.
2. 山根千夏世, 山崎智弘, 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之 : アメーバ共生細菌原始クラミジア Parachlamydia acanthamoebae Bn9 の低温条件下での株化ヒト上皮系 HEP-2 細胞内での増殖機構について. 第 80 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 網走, 2013.8.
3. 山崎智弘, 松尾淳司, 山根千夏世, 林 泰弘, 中村眞二, 石田香澄, 山口博之 : 温泉分離株 Acanthamoeba HS-T3 に共生する原始クラミジア Protochlamydia のヒト上皮系株化細胞内での増殖. 第 80 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 網走, 2013.8.
4. 松尾淳司, 林 泰弘, 中村眞二, 山口博之 : 原始クラミジア Neochlamydia は宿主細胞分裂を利用してアメーバ間を伝播する. 第 80 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 網走, 2013.8.
5. 石田香澄, 松尾淳司, 関塚剛史, 黒田 誠, 永井宏樹, 杉本千尋, 山口博之 : ゲノムシーケンスから読み解く Acanthamoeba 共生細菌 Neochlamydia S13 の特徴. 第 80 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 網走, 2013.8.
6. 堀岡希衣, 水上真樹, 勢田英果, 三輪佳子, 政氏伸夫 : 血球数算定(決算)の経時的変化に対する検体保管温度および測定条件の影響. 第 47 回日本臨床検査医学会北海道支部総会, 札幌, 2013.9.
7. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 山田 聡, 筒井裕之 : 肥大心における左室長軸方向収縮速度の時相的变化の特徴. 日本超音波医学会第 43 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.
8. 竹村盛二郎, 三神大世, 大野 瞬, 岡田一範, 加賀早苗, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 山田 聡, 筒井裕之 : 肝硬変患者において心エコー検査で検出される心形態・機能異常の特徴. 日本超音波医学会第 43 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.
9. 辻香菜子, 三神大世, 加賀早苗, 長多真実, 阿部 歩, 岡田一範, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之 : 加齢変性による大動脈弁狭窄症の収縮期弁口形態と狭窄重症度との関係. 日本超音波医学会第 43 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.
10. 西田 翼, 三神大世, 加賀早苗, 中元雅章, 岡田一範, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之 : 機能的三尖弁逆流の機序 : 弁テザリングか弁輪拡大か? 日本超音波医学会第 43 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.
11. 西野久雄, 山田 聡, 林 大知, 村井大輔, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 加賀早苗, 西田 睦, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之 : 肺動脈弁逆流速波波形が拘束型血行動態の診断に有用であった心アミロイドーシスの 1 例. 日本超音波医学会第 43 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.

V. 研究活動

12. 樋岡拓馬, 加賀早苗, 三神大世, 中野 彩, 岡田一範, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 山田 聡, 筒井裕之: 高度三尖弁逆流例における右室-右房圧較差の連続波ドプラ計測はどこまで信頼できるか. 日本超音波医学会第43回北海道地方会学術集会, 札幌, 2013.10.
13. 横山しのぶ, 山田 聡, 小松博史, 中鉢雅大, 西野久雄, 西田 睦, 渋谷 斉, 清水 力, 加賀早苗, 三神大世, 筒井裕之: 右室-左房交通との鑑別が難しかった房室中隔欠損症術後の残存左房-右房短絡. 第13回北海道心血管エコー研究会, 札幌, 2013.11.
14. 堀岡希衣, 水上真樹, 勢田英果, 三輪佳子, 政氏伸夫: CBC測定用血液検体の経時的变化と測定限界. 第57回日本輸血・細胞治療学会北海道地方会, 札幌, 2013.11
15. 西岡佑介, 三本木咲花, 横関 愛, 木田実里, 野崎怜雄, 森山隆則, 小林清一: 可溶性ローヤルゼリー蛋白質の脱顆粒抑制作用について. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013.12.
16. 八木亜希子, 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: LC/MSによるARTに用いられるミネラルオイル中の過酸化物質の検出. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013.12.
17. 三浦佑介, 惠 淑萍, 平野賢一, 池川繁男, 千葉仁志: アシルグリセロールカプリン酸エステルの化学合成. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013.12.
18. Shrestha R, Hui SP, Hirano K, Suzuki A, Yamaguchi S, Yagi A, Chiba H: Identification of medium-chain triglyceride in fibroblast from adipose triglyceride lipase deficiency by LC/MS. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013.12.
19. 吉田 繁, 服部純子, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 和山行正, 伊部史朗, 巽 正志, 杉浦 亙: 2011年度HIV薬剤耐性検査の外部精度管理. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013.12.

■業績 (平成 26 年度)

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Okada K, Mikami T, Kaga S, Nakabachi M, Abe A, Yokoyama S, Nishino H, Nishida M, Shimizu C, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H: Decreased aorto-septal angle may contribute to left ventricular diastolic dysfunction in healthy subjects. *J Clin Ultrasound* 42:341-347, 2014.
2. Kaga S, Mikami T, Takamatsu Y, Abe A, Okada K, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Shimizu C, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H: Quantitative and pattern analyses of continuous-wave Doppler derived pulmonary regurgitant flow velocity for the diagnosis of constrictive pericarditis. *J Am Soc Echocardiogr* 27:1223-1229, 2014.
3. Sampo A, Matsuo J, Yamane C, Yagita K, Nakamura S, Shouji N, Hayashi Y, Yamazaki T, Yoshida M, Kobayashi M, Ishida K, Yamaguchi H: High-temperature adapted primitive Protochlamydia found in Acanthamoeba isolated from a hot spring can grow in immortalized human epithelial HEp-2 cells. *Environ Microbiol* 16:486-497, 2014.
4. Ishida K, Sekizuka T, Hayashida K, Matsuo J, Takeuchi F, Kuroda M, Nakamura S, Yamazaki T, Yoshida M, Takahashi K, Nagai H, Sugimoto C, Yamaguchi H: Amoebal Endosymbiont Neochlamydia Genome Sequence Illuminates the Bacterial Role in the Defense of the Host Amoebae against Legionella pneumophila. *PLoS ONE* 9:e95166. 2014.
5. Ishida K, Matsuo J, Yamamoto Y, Yamaguchi H: Chlamydia pneumoniae effector chlamydial outer protein N sequesters fructose bisphosphate aldolase A, providing a benefit to bacterial growth. *BMC Microbiol* 14:330. 2014.
6. Yamazaki T, Matsuo J, Nakamura S, Oguri S, Yamaguchi H: Effect of Ureaplasma parvum co-incubation on Chlamydia trachomatis maturation in human epithelial HeLa cells treated with interferon- γ . *J Infect Chemother* 20:460-464, 2014.
7. Imamoto T, Nakazawa D, Shida H, Suzuki A, Otsuka N, Tomaru U, Ishizu A: Possible linkage between microscopic polyangiitis and thrombosis via neutrophil extracellular traps. *Clin Exp Rheumatol* 32:149-150, 2014.
8. Yamada Y, Tomaru U, Ishizu A, Kiuchi T, Kasahara M, Matsuno Y: Expression of thymoproteasome subunit β 5t in type AB thymoma. *J Clin Pathol* 67:276-278, 2014.
9. Hamano R, Baba T, Sasaki S, Tomaru U, Ishizu A, Kawano M, Yamagishi M, Mukaida N: Ag and IL-2 immune complexes efficiently expand Ag-specific Treg cells that migrate in response to chemokines and reduce localized immune responses. *Eur J Immunol* 44:1005-1015, 2014.
10. Nakazawa D, Shida H, Tomaru U, Yoshida M, Nishio S, Atsumi T, Ishizu A: Enhanced formation and disordered regulation of NETs in MPO-ANCA-associated microscopic polyangiitis. *J Am Soc Nephrol* 25:990-997, 2014.
11. Matsui Y, Tomaru U, Miyoshi A, Ito T, Fukaya S, Miyoshi H, Atsumi T, Ishizu A: Overexpression of TNF- α converting enzyme promotes adipose tissue inflammation and fibrosis induced by high fat diet. *Exp Mol*

Pathol 97:354-358, 2014.

12. Shrestha R, Hui SP, Sakurai T, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Identification of molecular species of cholesteryl ester hydroperoxides in very low-density and intermediate-density lipoproteins. *Ann Clin Biochem* 51:662-671, 2014.
13. Hirano K, Tanaka T, Ikeda Y, Yamaguchi S, Zaima N, Kobayashi K, Suzuki A, Sakata Y, Kobayashi K, Toda T, Fukushima N, Ishibashi-Ueda H, Tavian D, Nagasaka H, Hui SP, Chiba H, Sawa Y, Hori M: Genetic mutations in adipose triglyceride lipase and myocardial up-regulation of peroxisome proliferated activated receptor- γ in patients with triglyceride deposit cardiomyovascularopathy. *Biochem Biophys Res Commun* 443:574-579, 2014.
14. Ohkawa F, Takeda S, Hui SP, Sakurai T, Jin S, Fuda H, Chiba H: Evaluation of antioxidant activity of natural and synthetic compounds against LDL oxidation using CNT electrodes. *IEEE Sensors J* 14:532-537, 2014.
15. Nagasaka H, Tsukahara H, Okano Y, Hirano KI, Sakurai T, Hui SP, Ohura T, Usui H, Yorifuji T, Hirayama S, Ohtake A, Miida T: Changes of lipoproteins in phenylalanine hydroxylase-deficient children during the first early of life. *Clinica Chimica Acta* 433:1-4, 2014.
16. Nishimukai M, Maeba R, Yamazaki Y, Nezu T, Sakurai T, Takahashi Y, Hui SP, Chiba H, Okazaki T, Hara H: Serum choline plasmalogens, particularly those with oleic acid in sn-2, are associated with proatherogenic state. *J Lipid Res* 55:956-965, 2014.
17. Fuda H, Watanabe M, Hui SP, Joko S, Okabe H, Jin S, Takeda S, Miki E, Watanabe T, Chiba H: Anti-apoptotic effects of novel phenolic antioxidant isolated from the Pacific oyster (*Crassostrea gigas*) on cultured human hepatocytes under oxidative stress. *Food Chemistry* 176:226-233, 2014.
18. Nishimukai M, Maeba R, Ikuta A, Asakawa N, Kamiya K, Yamada S, Yokota T, Sakakibara M, Tsutsui H, Sakurai T, Takahashi Y, Hui SP, Chiba H, Okazaki T, Hara H: Serum choline plasmalogens-those with oleic acid in sn-2-are biomarkers for coronary artery disease. *Clinica Chimica Acta* 437:147-154, 2014.
19. Komatsu Y, Nagaoka R, Funamoto K, Hayase T, Masauzi N, Kanai H, Saijo Y : "Sonocytometry" – novel diagnostic method of ultrasonic differentiation of cells in blood flow. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc* 2014;2014:2761-2764.
20. Ibusuki A, Kawai K, Yoshida S, Uchida Y, Nitahara-Takeuchi A, Kuroki K, Kajikawa M, Ose T, Maenaka K, Kasahara M, Kanekura T: NKG2D Triggers Cytotoxicity in Murine Epidermal $\gamma\delta$ T Cells via PI3K-Dependent, Syk/ZAP70-Independent Signaling Pathway. *J Invest Dermatol* 134:396-404, 2014.
21. Price NPJ, Furukawa T, Cheng F, Qi J, Chen W, Crich D: Biosynthesis of 4-aminoheptose 2-epimers, core structural components of the septacidins and spicamycins. *Journal of antibiotics* 67:405-414, 2014.
22. Nakano K, Moriyama T, Yasuda K, Shibuya H, Tajima T, Shigematsu A, Shimizu C: Identification of IgG- κ type macrolactin found in the serum of an 8-year-old girl. *Clin Chim Acta* 433:206-208, 2014.
23. Watanabe R, Shimoda T, Yano R, Hayashi Y, Nakamura S, Matsuo J, Yamaguchi H: Visualization of hospital cleanliness in three Japanese hospitals with a tendency toward long-term care. *BMC Res Notes*, 7:121, 2014.
24. Suzuki A, Nagasaka H, Ochi Y, Kobayashi K, Nakamura H, Nakatani D, Yamaguchi S, Yamaki S, Wada A, Shirata Y, Hui SP, Toda T, Kuroda H, Chiba H, Hirano K: Peripheral leukocytes' anomaly detected with

V. 研究活動

routine automated hematology analyzer sensitive to adipose triglyceride lipase deficiency manifesting neutral lipid storage disease with myopathy/triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. *Mol Genet Metab reports* 1: 249-253, 2014.

25. Yoshida T, Konno S, Tsujino I, Sato T, Ohira H, Chen F, Date H, Ishizu A, Haga H, Tanino M, Nishimura M: Severe pulmonary hypertension in adult pulmonary Langerhans cell histiocytosis: The effect of sildenafil as a bridge to lung transplantation. *Intern Med* 53:1985-1990, 2014.
26. Sugawara H, Matsumoto T, Hotta H, Yoshida D, Kato N, Ohhata J, Ishii K, Yuda S, Murakami T, Shibata S, Ishizu A, Ooiwa H, Fujise Y, Nakata T: Aortic valve aneurysm responsible for acute congestive heart failure and histological findings: A case report. *J Cardiol Cases* 10:100-103, 2014.
27. 杉下圭治, 毛利 学, 西村陽子, 竹内一郎, 石津明洋, 篠原信雄: Scheele 法による膀胱拡大術 50 年後に利用回腸に発生した腺癌の一例. *日本泌尿器科学会雑誌* 105:207-211, 2014.

B. 著書

1. 森山隆則, 田村彰吾 (分担): メディカルサイエンス臨床化学検査学～病態生化学の視点から～ (太田敏子 他編). 236-242, 近代出版, 東京, 2014.
2. 三神大世 (監修): エコーでコラボ: 主治医と検査者の相互理解を深める心エコー奥義 (湯田 聡, 山田 聡, 赤坂和美編集). 医学書院, 東京, 2014.
3. 武田 晴治, 惠 淑萍, 千葉 仁志 (分担): 過酸化脂質・酸化 LDL 測定のためのバイオセンサ. バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発. 技術情報協会, 東京, 2014.
4. 加賀早苗 (分担): 左室収縮能と拍出量の評価. エコーでコラボ 主治医と検査者の相互理解を深める心エコー奥義 (三神大世監修, 湯田 聡, 山田 聡, 赤坂和美編集). 43-7, 医学書院, 東京, 2014.
5. 岡田一範, 中鉢雅大, 山田 聡 (分担): 右脚ブロックに対する心エコー. エコーでコラボ 主治医と検査者の相互理解を深める心エコー奥義 (三神大世監修, 湯田 聡, 山田 聡, 赤坂和美編集). 260-272, 医学書院, 東京, 2014.

C. 総説, 解説, 論評

1. 三神大世: 大動脈弁狭窄症の重症度評価の進歩. *成人病と生活習慣病* 44: 823-829, 2014.
2. 山口博之: 原始クラミジアの生存戦略から探る病原体の新規制御システム. *化学療法の領域* 30: 115-122, 2014.
3. 山口博之, 秋沢宏次: 感染症の現状と展望 [11]. *感染症と臨床検査* 42: 537-542, 2014.
4. 中沢大悟, 西尾妙織, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: 血管炎の発症機序と NETs. *日本腎臓学会誌* 56:117-123, 2014.
5. 山村昌弘, 佐田憲映, 針谷正祥, 藤井隆夫, 石津明洋, 有村義宏, 槇野博史: 1. 免疫と内科疾患—その病態と治療最前線. 5) 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の病態と治療の最前線. *日本内科学会雑誌* 103:2012-2129, 2014.
6. 石津明洋: 血管炎の新たなバイオマーカー. *Modern Physician* 34:1075-1079, 2014.
7. 石津明洋: 好中球細胞外トラップの異常と MPO-ANCA 関連血管炎. *日本小児腎臓学会雑誌* 27:81-85, 2014.
8. 惠 淑萍: LC/MS を用いた過酸化脂質および生理活性脂質の分析. *臨床病理* 62: 283-290, 東京, 2014.

V. 研究活動

9. 加賀早苗, 山田 聡: 心不全が疑わしい場合. 心エコー 15: 422-433, 2014.
10. 古川貴之(分担): 1,5,7-Triazabicyclo[4.4.0]dec-5-ene Encyclopedia of Reagents for Organic Synthesis. RNO0786, 2014.
11. 古川貴之(分担): Asymmetric Hydroamination Catalyzed by Zinc/Zirconium Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:0721, 2014.
12. 古川貴之(分担): Asymmetric Reductive Allylations Catalyzed by Nickel(II) Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:0725, 2014.
13. 古川貴之(分担): Asymmetric Synthesis of Vicinal Amino Alcohols by Rhodium Catalysis Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:0843, 2014.
14. 古川貴之(分担): Enantioselective β -Lactam Synthesis via Pd-Catalyzed C(sp³)-H Alkylation Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:0942, 2014.
15. 古川貴之(分担): Silver-Catalyzed Asymmetric Aldol Reaction Using Alkenyl Trihaloacetates Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:1046, 2014.
16. 古川貴之(分担): Stereoselective Cascade Reaction for a Planar Core Structure Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:1170, 2014.
17. 古川貴之(分担): Palladium-Catalyzed Stereospecific C-3 Arylation of Proline Derivatives Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:1184, 2014.
18. 古川貴之(分担): Asymmetric Alkynylation-Lactamization Cascade Catalyzed by Copper Synfacts (Georg Thieme Verlag) 10:1298, 2014.

D. 報告書

1. 石津明洋, 川上民裕, 菅野祐幸, 高橋 啓, 土屋尚之, 宮崎龍彦, 池田栄二, 岩月啓氏, 小川弥生, 鬼丸満穂, 黒川真奈絵, 中沢大悟, 平橋淳一, 吉田雅治: 臨床病理分科会報告. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書: 78-79, 2014.
2. 石津明洋: ANCA 関連血管炎の治療反応性を予測する病態診断法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書: 80-83, 2014.
3. 恵 淑萍: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 分担研究報告書(研究実績報告書) 2014.
4. 恵 淑萍: 平成 26 年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書) 2014.
5. 恵 淑萍: さっぽろヘルスイノベーション'Smart-H'(平成 26 年度 研究者集積報告書) 2014.
6. 恵 淑萍: さっぽろヘルスイノベーション'Smart-H'(平成 26 年度 機器共用化報告書) 2014.
7. 恵 淑萍: 研究成果展開事業センター・オブ・イノベーション(平成 26 年度 実績報告書) 2014.
8. 吉田 繁(分担): 北海道ブロックにおける薬剤耐性 HIV の動向調査研究. 国内で流行する HIV とその薬剤耐性株の動向把握に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書: 72-73, 2014.

E. その他

[受賞]

1. 石津明洋：北海道大学総長研究奨励賞
2. 岡田一範：高血圧における長軸方向心筋短縮能は遠心性肥大より求心性肥大でより高度に低下する，第25回日本心エコー図学会学術集会 一般演題優秀賞，2014.4
3. 恵 淑萍：機能性脂肪酸に関する分析，第21回日本未病システム学会学術総会 優秀賞，2014.11

[学会研究会の主催]

1. 加賀早苗：日本超音波検査学会 第25回北海道地方会研修会，札幌，2014.10

[特許]

1. 出願1件

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Furukawa T, Huang M, Mukherjee D, Bohé L, Crich D: Development of a Cation Clock Reaction for Determining Relative Kinetics of Glycosylation Reactions. 1st FCCA Symposium, Nagoya, 2014.8.

[国内学会]

1. 石津明洋：「ANCAによる血管傷害機序」. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会シンポジウム「ANCA関連血管炎のアップデート」, 東京, 2014.4
2. 加賀早苗：「拡張機能 Update」. 第63回日本医学検査学会, 新潟, 2014.5.
3. 石津明洋：教育講演「好中球細胞外トラップの異常とMPO-ANCA関連血管炎」. 第49回日本小児腎臓病学会学術集会, 秋田, 2014.6.
4. 山口博之：特別公演「原始的なクラミジアとアメーバの共生様式について」. 第32回日本クラミジア研究会, 岐阜, 2014.9.
5. 恵 淑萍：招待講演「医用マススペクトル学会との共催シンポジウムー質量分析技術の社会実装ー」：「地域・産業振興のための高度脂質分析ラボの立ち上げから将来構想まで」. 第54回日本臨床化学会年次学術集会シンポジウム, 東京, 2014.9.
6. 恵 淑萍：招待講演「地域イノベーション事業における北海道大学高度脂質分析ラボの研究マネジメントと研究成果」. 三重大学2014年度イノベーション創出セミナー, 三重大学, 2014.9.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Terashima S, Takeda S, Hui SP, Ohkawa F, Jin S, Fuda H, Mukasa K, Sueoka K, Chiba H: Properties of oxidized LDL were investigated by a carbon nanotube based electrode. SFRR 2014, Kyoto, Japan, 2014.3.
2. Takeda S, Ohkawa F, Hui SP, Jin S, Fuda H, Mukasa K, Sueoka K, Chiba H: Investigation of antioxidant

- activity of compounds against LDL oxidation using a CNT electrode. SFRRRI 2014, Kyoto, Japan, 2014.3.
3. Fuda H, Watanabe M, Jin S, Joko S, Hui SP, Takeda S, Sakurai T, Watanabe T, Chiba H: Hepatoprotective effects of a new antioxidant isolated from Pacific oyster. SFRRRI 2014, Kyoto, Japan, 2014.3.
 4. Hui SP, Shrestha R, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Identification of lipid hydroperoxides in human lipoprotein. SFRRRI 2014, Kyoto, Japan, 2014.3.
 5. Ishida K, Matsuo J, Yamazaki S, Nakamura S, Yamaguchi H: Chlamydia pneumoniae CopN interacts with human fructose-bisphosphate aldolase A. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology, Tokyo, Japan, 2014.3.
 6. Kuroki Y, Matsuo J, Ishida K, Yamazaki T, Yamane C, Nakamura S, Sekizuka T, Kuroda M, Nagai H, Sugimoto C, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont Neochlamydia restricts Legionella growth in its host amoebae. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology, Tokyo, Japan, 2014.3.
 7. Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Carbon nanoparticles synergize with Chlamydia pneumoniae to enhance IL-1 β secretion from macrophages. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology, Tokyo, Japan, 2014.3.
 8. Yamane C, Yamazaki T, Matsuo J, Nakamura S, Ishida K, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont Parachlamydia can grow into human immortal epithelial HEp-2 cells at low temperature. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology, Tokyo, Japan, 2014.3.
 9. Yamazaki T, Sampo A, Matsuo J, Yamane C, Nakamura S, Ishida K, Yagita K, Yamaguchi H: Protochlamydia found in high-temperature adapted HS-T3 Acanthamoeba isolated from a hot spring can proliferate in human epithelial HEp-2 cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology, Tokyo, Japan, 2014.3.
 10. Nakazawa D, Shida H, Tomaru U, Yoshida M, Nishio S, Atsumi T, Ishizu A: NETs-ANCA vicious cycle in MPO-ANCA-associated vasculitis. International Concurrent Workshop Vasculitis, immunity, and inflammation. Tokyo, Japan, 2014.4.
 11. Ishida K, Matsuo J, Yamazaki S, Nakamura S, Yamaguchi H: Chlamydial effector CopN interacts with human fructose-bisphosphate aldolase A. 114th General Meeting in American Society for Microbiology, Boston, USA, 2014.5.
 12. Matsuo J, Takeda S, Nakamura S, Hui S.P, Yamaguchi H: Chlamydia pneumoniae stimulation with carbon nanoparticles synergistically enhances IL-1 β secretion from macrophages. 114th General Meeting in American Society for Microbiology, Boston, USA, 2014.5.
 13. Yamaguchi H, Yamane C, Yamazaki T, Ishida K, Matsuo J, Nakamura S: Intracellular growth mechanism of amoebal endosymbiont environmental chlamydiae Parachlamydia Bn9 in immortalized human epithelial HEp-2 cells at low temperature 30 °C . 114th General Meeting in American Society for Microbiology, Boston, USA, 2014.5.
 14. Yamane C, Yamazaki T, Matsuo J, Nakamura S, Ishida K, Yamaguchi H: Chlamydial thermal adaptation: amoebal endosymbiont primitive Parachlamydia Bn9 can grow into human immortal epithelial cell line HEp-2 cells at low temperature. 114th General Meeting in American Society for Microbiology, Boston, USA, 2014.5.
 15. Yamazaki T, Sampo A, Matsuo J, Yamane C, Nakamura S, Ishida K, Yagita K, Yamaguchi H: High-

V. 研究活動

- temperature adapted amoebal endosymbiont Protochlamydia found in HS-T3 Acanthamoeba isolated from a hot spring can grow in immortalized human epithelial HEp-2 cells. 114th General Meeting in American Society for Microbiology, Boston, USA, 2014.5.
16. Kaga S, Mikami T, Okada K, Abe A, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H: Practical Role of Continuous-Wave Doppler Measurements of Diastolic Velocities of Pulmonary Regurgitation for the Assessment of Pulmonary Hypertension. American Society of Echocardiography 25th annual science sessions, Portland, USA, 2014.6.
 17. Nakabachi M, Yamada S, Hayashi T, Sakakibara M, Nishino H, Okada K, Ichikawa A, Murai D, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Nishida M, Shibuya H, Shimizu C, Mikami T, Tsutsui H: Effects of systolic function and hypertrophy on the estimation of left ventricular relaxation and filling pressure by tissue Doppler imaging: the first multicenter study in japan. American Society of Echocardiography 25th annual scientific sessions, Portland, USA, 2014.6
 18. Yamada S, Abe Y, Okada K, Nishino H, Nakabachi M, Murai D, Hayashi T, Yokoyama S, Mikami T, Tsutsui H: A simulation study for estimating myocardial fiber strain from the wall kinetics measured by speckle tracking echocardiography in patients with hypertension and those with hypertrophic cardiomyopathy. European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona, Spain, 2014.8.
 19. Komatsu Y, Nagaoka R, Funamoto K, Hayase T, Masauzi N, Kanai H, Saijo Y: "Sonocytometry" – novel diagnostic method of ultrasonic differentiation of cells in blood flow. The 36th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Chicago, USA, 2014.8.
 20. Hayashi T, Yamada S, Nakabachi M, Iwano H, Sakakibara M, Okada K, Murai D, Nishino H, Kusunose K, Watanabe K, Ishizu T, Wakami K, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Mikami T, Tsutsui H: Comparison of tissue Doppler-derived and speckle tracking-derived parameters for the estimation of left ventricular filling pressure: A multicenter study in japan. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA, 2014.11.
 21. Yamada S, Okada K, Nishino H, Iwano H, Murai D, Hayashi T, Nakabachi M, Ichikawa A, Yokoyama S, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Left ventricular longitudinal myocardial workload is more severely reduced in hypertensive patients with concentric hypertrophy than in those with eccentric hypertrophy. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA, 2014.11.
 22. Yamada S, Okada K, Nishino H, Iwano H, Murai D, Hayashi T, Nakabachi M, Ichikawa A, Yokoyama S, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Impaired intrinsic myocardial shortening in both two directions and compensatory mechanism to maintain left ventricular ejection fraction in patients with hypertensive heart disease. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA, 2014.11.

[国内学会]

1. 石田香澄, 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: クラミジアエフェクター CopN はヒトフルクトースニリン酸アルドラーゼ A と結合する. 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, 2014.3.
2. 黒木靖敏, 松尾淳司, 石田香澄, 山崎智弘, 中村眞二, 関塚剛史, 黒田誠, 永井宏樹, 杉本千尋, 山口博之: あるアメーバは Legionella 感染を回避するために Neochlamydia を内部共生させている. 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, 2014.3.

V. 研究活動

3. 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: カーボンナノ粒子を伴う肺炎クラミジア刺激はマクロファージからの IL-1 β の分泌を相乗的に促進する. 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, 2014.3.
4. 山根千夏世, 山崎智拵, 松尾淳司, 中村眞二, 石田香澄, 山口博之: クラミジアの温度環境変化への適応: 原始的なクラミジアは低温下で不完全ながらも増殖する. 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, 2014.3.
5. 山崎智拵, 松尾淳司, 山根千夏世, 中村眞二, 石田香澄, 山口博之: 温泉から株化したアメーバ共生細菌 Protochlamydia HS-T3 は株化ヒト細胞内で不完全ながらも増殖する. 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, 2014.3.
6. 武田晴治, 武笠幸一, 恵 淑萍, 布田博敏, 神 繁樹, 末岡和久, 千葉仁志: 走査型プローブ顕微鏡を利用した一粒子レベルでの低比重リポ蛋白質の酸化状態の評価. 電気化学会第 81 回大会, 大阪, 2014.3.
7. 中鉢雅大, 山田 聡, 林 大知, 榊原 守, 西野久雄, 岡田一範, 市川絢子, 村井大輔, 山田博胤, 土肥 薫, 瀬尾由広, 大手信之, 西田 睦, 澁谷 斉, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: 組織ドプラ法による左室弛緩能と充満圧の推定に及ぼす左室収縮機能と肥大の影響. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
8. 加賀早苗, 三神大世, 樋岡拓馬, 中野 彩, 岡田一範, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: どのくらい高度の三尖弁逆流まで連続波ドプラ法による右室-右房圧較差の評価は可能か? 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
9. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 山田 聡, 筒井裕之: 肥大型心筋症における左室長軸方向ストレインレートの時相・波形異常の特徴. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
10. 林 大知, 山田 聡, 中鉢雅大, 榊原 守, 西野久雄, 岡田一範, 市川絢子, 村井大輔, 山田博胤, 土肥 薫, 瀬尾由広, 大手信之, 三神大世, 筒井裕之: 左室充満圧の推定における E/e' の限界と長軸および円周方向グローバルストレインレートをを用いた新たな指標の検討. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
11. 市川絢子, 山田 聡, 阿部 歩, 辻香菜子, 岡田一範, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 清水 力, 林 大知, 村井大輔, 三神大世, 筒井裕之: 大動脈弁狭窄の診療における弁-動脈インピーダンスの意義: 左室肥大との関連について. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
12. 西野久雄, 山田 聡, 岡田一範, 村井大輔, 林 大知, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 加賀早苗, 西田 睦, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: スペックルトラッキング法を用いた長軸方向心筋仕事量算出の試み: 高血圧性心疾患と肥大型心筋症への応用. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
13. 岡田一範, 山田 聡, 西野久雄, 村井大輔, 林 大知, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 加賀早苗, 三神大世, 筒井裕之: 高血圧における長軸方向心筋短縮能は遠心性肥大より求心性肥大でより高度に低下する. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014.4.
14. 木内静香, 外丸詩野, 紺野沙織, 石津明洋, 宮島祥太, 平川彩香, 笠原正典: 胸腺におけるプロテアソームキモトリプシン様活性サブユニットの発現と T 細胞選択. 第 103 回日本病理学会総会, 広島, 2014.4.
15. 伊藤智樹, 外丸詩野, 大村 優, 石津明洋, 笠原正典: プロテアソーム機能異常と脳機能の低下. 第 103 回日本病理学会総会, 広島, 2014.4.

V. 研究活動

16. 竹中淳規, 大塚紀幸, 藤田裕美, 中馬 誠, 外丸詩野, 石津明洋, 笠原正典: 高齢男性でみられた EBV 陽性肝脾 $\gamma \delta$ T 細胞リンパ腫の一例. 第 103 回日本病理学会総会, 広島, 2014.4.
17. 竹村盛二郎, 三神大世, 岡田一範, 加賀早苗, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 肝硬変患者の心臓形態・機能異常の特徴. 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014.5.
18. 小松洋介, 長岡 亮, 船本健一, 早瀬敏幸, 政氏伸夫, 金井 浩, 西條芳文: ソノサイトメトリーの基盤技術の検討. 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014.5.
19. 小栗 聡, 松尾淳司, 花輪智子, 秋沢宏次, 澁谷 斉, 重松明男, 清水 力, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫共培養下で大腸菌から産生誘導されるクオラムセンシングシグナル分子 AI-2 について. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014.6.
20. 福元達也, 松尾淳司, 清水 力, 山口博之: 新興感染症起因菌パラクラミジアが共生するアメーバの院内環境からの株化. 第 88 回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014.6.
21. 山口博之: 原始的なクラミジアと宿主アメーバとの共生様式およびクラミジア III 型分泌装置エフェクター. 第 3 回マトリョーシカ型生物研究会, 神戸, 2014.7.
22. 菅野加奈絵, 後藤美沙紀, 西 清孝, 橋ことみ, 前田里衣, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: Photoshop と Image-J を用いた NAP Score の半自動解析法 (PS-IJ 法) と目視計数による NAP Score の比較. 第 15 回日本検査血液学会学術集会, 仙台, 2014.7.
23. 前田里衣, 後藤美沙紀, 菅野加奈絵, 西 清孝, 橋ことみ, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 鉄キレート剤添加による血液検体の CBC と血球形態の変化. 第 15 回日本検査血液学会学術集会, 仙台, 2014.7.
24. 後藤美沙紀, 菅野加奈絵, 西 清孝, 橋ことみ, 前田里衣, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 抗酸化剤添加による血液検体の CBC と血球形態の変化. 第 15 回日本検査血液学会学術集会, 仙台, 2014.7.
25. 西 清孝, 後藤美沙紀, 菅野加奈絵, 橋ことみ, 前田里衣, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 市販キット 2 種を用いた myeloperoxidase 染色における過酸化水素水至適添加量の検討. 第 15 回日本検査血液学会学術集会, 仙台, 2014.7.
26. 橋ことみ, 後藤美沙紀, 菅野加奈絵, 西 清孝, 前田里衣, 堀岡希衣, 三輪佳子, 政氏伸夫: 市販キット (4 種) を用いたミエロペルオキシダーゼ染色の検体・スライド保管による染色性の変化. 第 15 回日本検査血液学会学術集会, 仙台, 2014.7.
27. 林 大知, 山田 聡, 中鉢雅大, 岩野弘幸, 榊原 守, 岡田一範, 西野久雄, 楠瀬賢也, 渡辺清孝, 石津智子, 若見和明, 山田博胤, 土肥 薫, 瀬尾由広, 大手信之, 三神大世, 筒井裕之: 左室弛緩能と充満圧の推定における組織ドプラ指標とスペックルトラッキング指標の比較: 多施設共同 SMAP 研究からの報告. 第 12 回先進心血管エコー研究会, 大阪, 2014.8.
28. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 林 大知, 村井大輔, 山田 聡, 筒井裕之: 肥大型心筋症における左室心筋短縮速度の時相・波形異常の特徴: 長軸方向と短軸円周方向の差異. 第 12 回先進心血管エコー研究会, 大阪, 2014.8.
29. 三浦佑介, 恵 淑萍, 池川繁男, 千葉仁志: 多重重水素標識コレステロールの合成. 第 54 回日本臨床化学学会年次学術集会, 東京, 2014.9.
30. 岡部浩昭, 恵 淑萍, 池川繁男, 比留間貴久, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: LC-MS/MS によるマガキ由来フェノール性抗酸化物質の定量. 第 54 回日本臨床化学学会年次学術集会, 東京, 2014.9.
31. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Sueoka H, Chiba H: Mechanical properties of oxidized low-density lipoprotein particles disclosed with AFM. 第 52 回生物物理学会, 札幌, 2014.9.

V. 研究活動

32. 松尾淳司, 中村眞二, 惠 淑萍, 武田晴治, 千葉仁志, 山口博之: 肺炎クラミジアとカーボンナノ粒子の共刺激によるマクロファージからの IL-1 β の相乗的分泌促進作用について. 第 32 回日本クラミジア研究会学術集会, 京都, 2014.9.
33. 石田香澄, 松尾淳司, 山崎すみれ, 山口博之: 肺炎クラミジア III 型分泌装置エフェクター CopN と aldolase A との相互作用について. 第 32 回日本クラミジア研究会学術集会, 京都, 2014.9.
34. 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 平野賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: 機能性脂肪酸に関する分析. 第 21 回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014.11.
35. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: Keap1-Nrf2 経路活性化によるマガキ由来の抗酸化物質の肝臓保護作用. 第 21 回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014.11.
36. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 布田博敏, 大谷晋太郎, 渡辺孝之, 渡辺 貢, 千葉仁志: マガキ抽出液中のフェノール性抗酸化物質の定量. 第 21 回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014.11.
37. 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 平野賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: 中鎖脂肪酸の HPLC 法による定量分析. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014.11.
38. 鈴木 朗, 和田 淳, 長坂博範, 越智康浩, 千葉仁志, 惠 淑萍, 平野賢一: 中性脂肪蓄積心筋血管症における Jordans'anomaly を自動血球分析装置で検出する. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014.11.
39. 和田 淳, 鈴木 朗, 山本志緒里, 越智康浩, 惠 淑萍, 千葉仁志, 平野賢一: 他項目自動血球分析装置 XE-5000 WBC/BASO チャンネルによる, 中性脂肪蓄積心筋血管症判別原理の検証. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014.11.
40. 吉田 繁, 服部純子, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 加藤真吾, 杉浦 互: HIV 薬剤耐性検査の外部精度評価の報告. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014.11.
41. 八木亜希子, 惠 淑萍, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: ミネラルオイルへの培養液溶出現象に関する検討. 第 59 回日本生殖医学会学術講演会, 東京, 2014.12.
42. Kiuchi S, Tomaru U, Konno S, Miyajima S, Ishizu A, Kasahara M: Aberrant expression of proteasomal β 5 subunit affects T cell repertoires in the thymus. 第 43 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都, 2014.12.
43. 吉田 繁, 熊谷菜海, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 西澤雅子, 佐藤かおり, 藤澤真一, 遠藤知之, 藤本勝也, 豊嶋崇徳, 加藤真吾, 杉浦 互: 外部精度評価をもとにした HIV 薬剤耐性検査推奨法の考案. 第 28 回日本エイズ学会学術集会, 大阪, 2014.12.

[地方会]

1. 政氏伸夫, 菅野加奈絵, 後藤美沙紀, 西 清孝, 前田里衣, 橋ことみ, 堀岡希衣, 三輪佳子: 血液疾患診療と関連検査に関する道内主要病院アンケート調査(第 1 報). 第 49 回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌, 2014.4
2. 熊谷翔大, 松尾淳司, 石田香澄, 山崎智拈, 関塚剛史, 黒田 誠, 杉本千尋, 永井宏樹, 山口博之: 比較ゲノム解析から紐解くクラミジアの多様性と進化. 第 81 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2014.8.
3. 黒木靖敏, 松尾淳司, 石田香澄, 山崎智拈, 山根千夏世, 中村眞二, 関塚剛史, 黒田 誠, 杉本千尋, 永井宏樹, 山口博之: 原始的なクラミジア *Neochlamydia S13* が共生するアカントアメーバのレジオネラ撃退機序を解明するための基礎的な検討. 第 81 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2014.8.

V. 研究活動

4. 山崎智拵, 松尾淳司, 山口博之: 病原性クラミジアの III 型分泌装置新規エフェクターの探索. 第 81 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2014.8.
5. 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: 肺炎クラミジアおよびカーボンナノ粒子の共刺激によるマクロファージからの IL-1 β 分泌促進機構. 第 81 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2014.8.
6. 石田香澄, 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: 肺炎クラミジアの III 型分泌装置エフェクター CopN は aldolase A と相互作用する. 第 81 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2014.8.
7. 伊藤佳澄, 西田 睦, 工藤悠輔, 井上真美子, 表原里実, 岡田一範, 加賀早苗, 渋谷 斉, 清水 力, 三神大世: 超音波による肝臓脂肪の定量的指標 CAP (Controlled Attenuation Parameter) の検者間再現性. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
8. 米田球土, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 西田 翼, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 三尖弁通過リードと三尖弁逆流との関係: 心エコー法による検討. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
9. 村山迪史, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 樋岡拓馬, 横山しのぶ, 西田 睦, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 三尖弁逆流の程度が連続波ドプラ法の右室収縮期圧推定に及ぼす影響: 心カテーテルとの比較に基づく検討. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
10. 大原彩友美, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 片山拓也, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 連続の式を用いて計測した大動脈弁口面積の誤差とその要因. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
11. 西村一美, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 片山拓也, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 大動脈弁狭窄症患者における腎障害の合併が心臓の形態と機能に及ぼす影響. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
12. 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 阿部 歩, 西田 睦, 林 大知, 村井大輔, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 肥大型心筋症における左室心筋短縮速度の時間推移波形の特徴: 長軸方向と短軸円周方向の差異. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
13. 喜田真由子, 三神大世, 岡田一範, 加賀早苗, 竹村盛二郎, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田 睦, 山田 聡, 筒井裕之: 肝硬変患者に合併する肺高血圧症の心エコーによる病態分析. 日本超音波医学会第 44 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2014.10.
14. 西田 翼, 三神大世, 加賀早苗, 米田球土, 岡田一範, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 清水 力, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 機能的三尖弁逆流の成因と機序の心エコー図法による検討: 心エコー法による検討. 第 48 回日本臨床検査医学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
15. 上甲紗愛, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: Keap1-Nrf2 経路活性化によるマガキ由来の抗酸化物質の肝臓保護作用. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
16. 大谷晋太郎, 惠 淑萍, 岡部浩昭, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の定量法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
17. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 山本麻衣子, 菊地 玲, 南 昭子, 清水 力, 千葉仁志: LC-MS/MS による血中 25-hydroxy vitamin D の定量法の開発, 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
18. 林 沙紀, 宮永 賢, 八木垂希子, 小林清一, 神谷博文, 千葉仁志, 惠 淑萍: HILIC-LC/MS による体外受精用培養液におけるアミノ酸の分析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
19. シュレスタ ロジート, 惠 淑萍, 平野 賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: HPLC 法によるカプリン酸の定量分析.

V. 研究活動

- 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
20. 宮永 賢, 小林美穂, 早坂孝宏, 清水 力, 千葉仁志, 惠 淑萍: 尿脂質の質量分析法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
21. 小林美穂, 宮永 賢, 藤田和華子, 柴 瀟, 中島 收, 山下直樹, 安田慶子, 渋谷 斉, 渡邊俊之, 千葉仁志, 惠 淑萍, 清水 力: 尿沈渣中に脂質成分を認めた尿の高分解能質量分析計による脂質成分分析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
22. 早坂孝宏, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 質量分析イメージングによる NASH モデルマウス腎組織の脂質解析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
23. 小林 悠, 吉田 繁, 川西範明, 惠 淑萍, 千葉仁志: 筋管細胞における脂肪滴形成とミトコンドリア機能に関する研究. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
24. 高橋遼地, 三浦佑介, 惠 淑萍, 千葉仁志: 重水素標識コレステロールの化学合成. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
25. 三浦佑介, 高橋遼地, 惠 淑萍, 千葉仁志: コレステリルエステルの重水素標識体の化学合成と LC-MS 法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014.10.
26. 吉田 繁, 服部純子, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 加藤真吾, 杉浦 亙: HIV 薬剤耐性検査の外部精度評価の報告と推奨法の考案. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2014.10.
27. 熊谷菜海, 吉田 繁, 松田昌和, 橋本 修, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 西澤雅子, 佐藤かおり, 藤澤真一, 遠藤知之, 藤本勝也, 豊嶋崇徳, 加藤真吾, 杉浦 亙: HIV 薬剤耐性検査推奨法の設定の検討. 第 24 回臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2014.10.
28. 石津明洋: 血管炎症候群の分類と臨床病理. 第 24 回日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会ランチョンセミナー, 札幌, 2014.11.
29. 堀岡希衣, 的場光太郎, 早川 輝, 高橋道範, 坂口良典, 政氏伸夫, 寺沢浩一: 嬰兒の血液型検査を行ない, 母子間血液型不一致となった 1 例. 第 58 回日本輸血・細胞治療学会北海道支部例会, 札幌, 2014.11.

■業績 (平成 27 年度)

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Okada K, Yamada S, Iwano H, Nishino H, Nakabachi M, Yokoyama S, Abe A, Ichikawa A, Kaga S, Nishida M, Hayashi T, Murai D, Mikami T, Tsutsui H: Myocardial shortening in 3 orthogonal directions and its transmural variation in patients with nonobstructive hypertrophic cardiomyopathy. *Circ J* 79: 2471-2479, 2015.
2. Matsuo J, Nakamura S, Takeda S, Ishida K, Yamazaki T, Yoshida M, Chiba H, Hui SP, Yamaguchi H: Synergistic costimulatory effect of *Chlamydia pneumoniae* with carbon nanoparticles on NLRP3 inflammasome-mediated IL-1 β secretion in macrophages. *Infect Immun* 83:2917-2925, 2015.
3. Yamane C, Yamazaki T, Nakamura S, Matsuo J, Ishida K, Yamazaki S, Oguri S, Shouji N, Hayashi Y, Yoshida M, Yimin, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont *Parachlamydia acanthamoebae* Bn9 can grow in immortal human epithelial HEP-2 cells at low temperature; an in vitro model system to study chlamydial evolution. *PLoS ONE*, 10:e0116486, 2015.
4. Yamazaki T, Matsuo J, Takahashi S, Kumagai S, Shimoda T, Abe K, Minami K, Yamaguchi H: A characteristic of polymorphic membrane protein F of *Chlamydia trachomatis* isolated from male urogenital tracts in Japan. *J Infect Chemother* 21:842-848, 2015.
5. Oguri S, Hanawa T, Matsuo J, Ishida K, Yamazaki T, Nakamura S, Okubo T, Fukumoto T, Akizawa K, Shimizu C, Kamiya S, Yamaguchi H: Protozoal ciliate promotes bacterial autoinducer-2 accumulation in mixed culture with *Escherichia coli*. *J Gen Appl Microbiol* 61:203-210, 2015.
6. Iinuma C, Waki M, Kawakami A, Yamaguchi M, Tomaru U, Sasaki N, Masuda S, Matsui Y, Iwasaki S, Baba T, Kasahara M, Yoshiki T, Paletta D, Herrmann T, Ishizu A: Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from rat model of autoimmune vasculitis. *Int Immunol* 27:105-114, 2015.
7. Ishihara S, Yasuda M, Ishizu A, Ishikawa M, Shirato H, Haga H: Activating transcription factor 5 enhances radioresistance and malignancy in cancer cell. *Oncotarget* 6:4602-4614, 2015.
8. Tomaru U, Tsuji T, Kiuchi S, Ishizu A, Suzuki A, Otsuka N, Ito T, Ikeda H, Fukasawa Y, Kasahara M: Decreased expression of a thymus-specific proteasome subunit β 5t in Down syndrome patients. *Histopathology* 67:235-244, 2015.
9. Yamada Y, Tomaru U, Ishizu A, Ito T, Kiuchi T, Ono A, Miyajima S, Nagai K, Higashi T, Matsuno Y, Dosaka-Akita H, Nishimura M, Miwa S, Kasahara M: Decreased proteasomal function accelerates cigarette smoke-induced pulmonary emphysema in mice. *Lab Invest* 95:625-634, 2015.
10. Iinuma C, Waki M, Kawakami A, Yamaguchi M, Tomaru U, Sasaki N, Masuda S, Matsui Y, Iwasaki S, Baba T, Kasahara M, Yoshiki T, Paletta D, Herrmann T, Ishizu A: Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from rat model of autoimmune vasculitis. *Int Immunol* 27:105-114, 2015.
11. Ishihara S, Yasuda M, Ishizu A, Ishikawa M, Shirato H, Haga H: Activating transcription factor 5 enhances radioresistance and malignancy in cancer cell. *Oncotarget* 6:4602-4614, 2015.
12. Yamada Y, Tomaru U, Ishizu A, Ito T, Kiuchi T, Ono A, Miyajima S, Nagai K, Higashi T, Matsuno Y, Dosaka-

- Akita H, Nishimura M, Miwa S, Kasahara M: Decreased proteasomal function accelerates cigarette smoke-induced pulmonary emphysema in mice. *Lab Invest* 95:625-634, 2015.
13. Tomaru U, Tsuji T, Kiuchi S, Ishizu A, Suzuki A, Otsuka N, Ito T, Ikeda H, Fukasawa Y, Kasahara M: Decreased expression of a thymus-specific proteasome subunit β 5t in Down syndrome patients. *Histopathology* 67:235-244, 2015.
14. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano KI and Chiba H: Plasma capric acid concentrations in healthy subjects determined by high-performance liquid Chromatography. *Ann Clin Biochem* 52:588-596, 2015.
15. Shrestha R, Hui SP, Miura Y, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Fuda H, Chiba H: Identification of molecular species of oxidized triglyceride in plasma and its distribution in lipoproteins. *Clin Chem Lab Med* 53:1859-1869, 2015.
16. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H: Elastic modulus of low-density lipoprotein as potential indicator of its oxidation. *Ann Clin Biochem* 52:647-653, 2015.
17. Okabe H, Hui SP, Fuda H, Furukawa T, Takeda S, Shrestha R, Miura Y, Watanabe M, Chiba H: Mass Spectrometric Quantification of Amphipathic, Polyphenolic Antioxidant of the Pacific Oyster (*Crassostrea gigas*). *Anal Sci* 31:1341-1344, 2015.
18. Fuda H, Watanabe M, Hui SP, Joko S, Okabe H, Jin S, Takeda S, Miki E, Watanabe T, Chiba H: Anti-apoptotic effects of novel phenolic antioxidant isolated from the Pacific oyster (*Crassostrea gigas*) on cultured human hepatocytes under oxidative stress. *Food Chem* 176:226-233, 2015.
19. Yoshida S, Hattori J, Matsuda M, Okada K, Kazuyama Y, Hashimoto O, Ibe S, Fujisawa S, Chiba H, Tatsumi M, Kato S, Sugiura W: Japanese External Quality Assessment Program to Standardize HIV-1 Drug-Resistance Testing (JEQS2010 Program) Using In Vitro Transcribed RNA as Reference Material. *AIDS Res Hum Retroviruses* 31:318-325, 2015.
20. Adero PO, Furukawa T, Huang M, Mukherjee D, Retailleau P, Bohé L, Crich D: Cation Clock Reactions for the Determination of Relative Reaction Kinetics in Glycosylation Reactions: Applications to Gluco- and Mannopyranosyl Sulfoxide and Trichloroacetimidate Type Donors. *J Am Chem Soc* 137:10336-10345, 2015.
21. Mbehang Nguema PP, Okubo T, Tsuchida S, Fujita S, Yamagiwa J, Tamura Y, Ushida K: Isolation of multiple drug-resistant enteric bacteria from feces of wild Western Lowland Gorilla (*Gorilla gorilla gorilla*) in Gabon. *J Vet Med Sci* 77:619-623, 2015.
22. Muraki M, Mikami T, Yoshimoto T, Fujimoto S, Kitaguchi M, Kaga S, Sugawara T, Tokuda K, Kaneko S, Kashiwaba T: Sonographic detection of abnormal plaque motion of the carotid artery: Its usefulness in diagnosing high-risk lesions ranging from plaque rupture to ulcer formation. *Ultrasound Med Biol* 42:358-364, 2016.
23. Nakazawa D, Shida H, Kusunoki Y, Miyoshi A, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: The responses of macrophages in interaction with neutrophils that undergo NETosis. *J Autoimmun* 67:19-28, 2016.
24. Kawakami T, Yoon S Y, Takeuchi S, Soma Y, Kuroha S, Yoshida S, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A: Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes. *Mod Rheumatol* 26:470-471, 2016.

25. Miura Y, Hui SP, Shrestha R, Hiruma T, Takeda S, Fuda H, Ikegawa S, Hirano K, Chiba H: Synthesis of ($2\beta, 3\alpha, 6$ -(2)H₃)cholesteryl linoleate and cholesteryl oleate as internal standards for mass spectrometry. *Steroids* 107:1-9, 2016.
26. Takahashi Y, Ito Y, Wada N, Nagasaka A, Fujikawa M, Sakurai T, Shrestha R, Hui SP, Chiba H: Development of homogeneous assay for simultaneous measurement of apoE-deficient, apoE-containing, and total HDL-cholesterol. *Clin Chim Acta* 454:135-142, 2016.
27. Yagi A, Miyanaga S, Shrestha R, Takeda S, Kobayashi S, Chiba H, Kamiya H, Hui SP: A fatty acid profiling method using liquid chromatography-high resolution mass spectrometry for improvement of assisted reproductive technology. *Clin Chim Acta* 456:100-106, 2016.
28. Fuda H, Watanabe M, Okabe H, Joko S, Miura Y, Hui SP, Yimin, Hamaoka N, Miki E, Chiba H: Oyster extracts attenuate pathological changes in non-alcoholic steatohepatitis (NASH) mouse model. *J Funct Foods* 20:516-531, 2016.
29. Umazume T, Yamada T, Morikawa M, Ishikawa S, Kojima T, Cho K, Masauzi N, Minakami H: Occult fetomaternal hemorrhage in women with pathological placenta with respect to permeability. *J Obstet Gynaecol Res.* 42:632-639, 2016.
30. Huang M, Furukawa T, Retailleau P, Crich D, Bohé L: Further studies on cation clock reactions in glycosylation: observation of a configuration specific intramolecular sulfenyl transfer and isolation and characterization of a tricyclic acetal. *Carbohydr Res* 427:21-28, 2016
31. Yamaguchi H, Matsuo J, Yamazaki T, Ishida K, Yagita K: Draft genome sequence of high-temperature-adapted *Protochlamydia* sp. HS-T3, an amoebal endosymbiotic bacterium found in *Acanthamoeba* isolated from a hot spring in Japan. *Genome Announc* 3:e01507-0150714, 2015.
32. Shimoda T, Yano R, Nakamura S, Yoshida M, Matsuo J, Yoshimura S, Yamaguchi H: ATP bioluminescence values are significantly different depending upon material surface properties of the sampling location in hospitals. *BMC Res Notes* 8:807, 2015.
33. Yamazaki T, Matsuo J, Kikuchi M, Miyamoto K, Oka K, Takahashi M, Takahashi S, Okubo T, Yamaguchi H: Draft genome sequence of *Chlamydia trachomatis* strain 54, isolated from the urogenital tract of a male in Japan. *Genome Announc* 3:e01242-15, 2015.
34. Iwasaki S, Suzuki A, Fujisawa T, Sato T, Shirai S, Kamigaki M, Otsuka N, Tomaru U, Ishizu A: Fatal cardiac small vessel involvement in ANCA-associated vasculitis: an autopsy case report. *Cardiovasc Pathol* 24:408-410, 2015.
35. Umazume T, Morikawa M, Yamada T, Cho K, Masauzi N, Minakami H: Long-term persistent fetomaternal hemorrhage. *Clin Case Rep.* 3:916-919, 2015.
36. 大久保寅彦, 白井 優, 福田 昭, 佐藤友美, 田村 豊: 犬由来菌に対するフルオロキノロン系抗菌薬の殺菌能力評価. *獣医畜産新報* 69:39-42, 2015.
37. 橋ことみ, 西 清孝, 後藤美沙紀, 前田里衣, 菅野加奈絵, 山田実早希, 福井彩佳, 藤本奈緒, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: 検体, 標本保管に伴うミエロペルオキシダーゼ染色強度の継時的安定性～市販染色キットでの検討～. *日本検査血液学会雑誌* 17:25-35, 2016.

V. 研究活動

B. 著書

1. 石津明洋(分担): 2. 血管 組織病理アトラス(第6版) 15-26, 文光堂, 東京, 2015.
2. 石津明洋(分担): IX 免疫 スタンダード病理学(第4版) 103-121, 文光堂, 東京, 2015.
3. 石津明洋(分担): E. 血管炎 6a. ANCA 関連血管炎—総論 リウマチ病学テキスト(改訂第2版) 262-264, 診断と治療社, 東京, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 中沢大悟, 石津明洋: 特集「腎と免疫」各論「ANCA 関連腎炎」腎と透析 78:727-732, 2015.
2. 石津明洋: 特集「膠原病研究 アップデート」VI. 血管炎症候群 アレルギー・免疫 22:1740-1747, 2015.
3. 志田玄貴, 石津明洋: 特集「ANCA 関連血管炎(AAV)」MPO-ANCA による血管傷害のメカニズム リウマチ科 54:581-585, 2015.
4. 古川貴之(分担): Zirconium/VANOL-Catalyzed Asymmetric α -Iminol Rearrangement Synfacts (Georg Thieme Verlag) 11:46, 2015.
5. 古川貴之(分担): Asymmetric Alkylation via Photoredox Pathway Using a Chiral Iridium Complex Synfacts (Georg Thieme Verlag) 11:153, 2015.
6. 古川貴之(分担): Asymmetric Hydrogenation of Quinoxalines Catalyzed by Borane Synfacts (Georg Thieme Verlag) 11:272, 2015.
7. 古川貴之(分担): Iridium-Catalyzed Asymmetric Allylic Sulfonation Synfacts (Georg Thieme Verlag) 11:274, 2015.
8. 古川貴之(分担): Catalytic Asymmetric Pauson-Khand Reaction Using Cobalt Synfacts (Georg Thieme Verlag) 11:0408, 2015.
9. 石津明洋: [医学用語解説] 好中球細胞外トラップ(NETs) 炎症と免疫 24:163-165, 2016.
10. 石津明洋: 特集 2: NETs の臨床における意義 NETs と血管炎 日本血栓止血学会誌 27:42-48, 2016.
11. 石津明洋: AYUMI「自己抗体産生機序の新展開」抗好中球細胞質抗体と好中球細胞外トラップ 医学のあゆみ 256:1209-1213, 2016.
12. 布田博敏, 岡部浩昭, 恵 淑萍, 千葉仁志: 抗酸化物質の概念の変化と新しい抗酸化食品開発戦略. JSBMS Letters 41:7-13, 2016.
13. 加賀早苗, 三神大世: 三尖弁逆流の評価. 心エコー 3:422-433, 2016.
14. 加賀早苗, 三神大世: 肺高血圧の推定と注意点. メディカルテクノロジー 3:249-254, 2016.

D. 報告書

1. 石津明洋, 川上民裕, 菅野祐幸, 高橋 啓, 土屋尚之, 宮崎龍彦, 池田栄二, 岩月啓氏, 小川弥生, 鬼丸満穂, 黒川真奈絵, 中沢大悟, 平橋淳一, 吉田雅治: 臨床病理分科会報告. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書: 78-79, 2015.
2. 石津明洋: ANCA 関連血管炎の治療反応性を予測する病態診断法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書: 80-83, 2015.
3. 恵 淑萍: 平成 27 年度日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業) 分担研究報告書(研

V. 研究活動

究実績報告書). 2015.

4. 惠 淑萍:平成 27 年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書). 2015.
5. 惠 淑萍:さっぽろヘルスイノベーション'Smart-H'(平成 27 年度 研究者集積報告書). 2015.
6. 惠 淑萍:さっぽろヘルスイノベーション'Smart-H'(平成 27 年度 機器共用化報告書). 2015.
7. 惠 淑萍:公益財団法人北海道科学技術総合振興センターとの共同研究報告書. 2015.
8. 惠 淑萍:日生バイオ・ライフサイエンス研究所との共同研究報告書. 2015.
9. 惠 淑萍:ノーステック財団「研究開発助成事業」補助金・フードイノベーション創造支援事業(実証研究支援補助金)補助事業成果報告書. 2015.

E. その他

[受賞]

1. 石津明洋:北海道大学総長賞(研究奨励賞)
2. 山口博之:ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞(日本学術振興会)
3. 加賀早苗:Practical Role of Continuous-Wave Doppler Measurements of Diastolic Velocities of Pulmonary Regurgitation for the Assessment of Pulmonary Hypertension, 第 26 回日本心エコー図学会学術集会 海外学会発表優秀論文賞, 2015.3.
4. 大久保寅彦:繊毛虫との共培養で大腸菌から漏れ出すクオラムセンシング分子 autoinducer-2 について, 第 82 回日本細菌学会北海道支部学術総会 北海道支部会賞最優秀賞, 2015.9.
5. 古川貴之:化学濃縮及びタグ交換反応(グライコプロテティング法)に基づく脂質アルデヒド類の定量解析法, 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会 優秀賞, 2015.9.

[学会研究会の主催]

1. 惠 淑萍:例会長 第 49 回日本臨床検査医学会北海道支部例会(合同開催 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会), 札幌, 2015.9.

[特許]

1. 出願: 2 件

F. 学会発表

A) 招待講演

[国内学会]

1. 加賀早苗:「基礎疾患で考える: 膠原病」. 第 26 回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
2. 石津明洋:「MPO-ANCA 関連血管炎における NETs-ANCA 悪循環」. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会シンポジウム「ANCA 関連血管炎の Update」, 名古屋, 2015.4.
3. 吉田 繁:(ワークショップ)「遺伝子検査の管理開発の提言」. 第 33 回日本染色体遺伝子検査学会学術集会, 香川, 2015.10.
4. 惠 淑萍:(シンポジウム)「脂肪滴の分析技術」. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
5. 惠 淑萍:(シンポジウム)「臨床化学教育・研究における国際交流」. 第 55 回日本臨床化学会年次学術集会,

V. 研究活動

大阪, 2015.10.

6. 惠 淑萍:(シンポジウム)「質量分析法による種々の脂質分子の定性及び定量分析」. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015.11.
7. 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦, 北条 史, 花輪智子, 神谷茂:(WS23 マイクロブトランスファー)「繊毛虫と病原細菌の相互作用: 繊毛虫食胞内での大腸菌の接合とクォーラムセンシングの発動について」. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
8. 山崎智弘, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之:(WS13 Bacteria meet Viral Infection)「Ureaplasma parvum の混合感染が生殖器粘膜面での Chlamydia trachomatis の生存性に与えるインパクト」. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
9. 矢野理香, 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦:(WS23 マイクロブトランスファー)「病院での環境清浄度評価の盲点と院内細菌叢の実態」. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.

[地方会]

1. 加賀早苗:「大動脈弁逆流の重症度評価～定性から定量へ～」. 室蘭臨床検査技師会生理検査談話会, 室蘭, 2015.2.
2. 山口博之: 特別講演「クラミジアの基礎: クラミジアの持続感染とは何か」. 第24回北海道性感染症研究会, 札幌, 2015.7.
3. 三神大世: 教育講演「肺動脈弁逆流の心エコーを考える」. 平成27年度日臨技北日本支部医学検査学会, 札幌, 2015.10.
4. 惠 淑萍, 宮永 賢, 千葉仁志: 招待講演「細胞内脂質・脂肪滴代謝異常と病態」. 福岡大学病院 腎臓セミナー, 福岡, 2015.12.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano K, Chiba H: Quantification of plasma capric acid concentration using high-performance liquid chromatography. The 3rd International Symposium on Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy Neutral Lipid Storage Disease, Tokyo, Japan 2015.3.
2. Ishizu A, Nakazawa D, Shida H, Kusunoki Y, Miyohi A, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Yoshid M: NETs-ANCA vicious cycle in MPO-ANCA-associated vasculitis. 17th International Vasculitis and ANCA Workshop, London, UK, 2015.4.
3. Ishizu A, Iinuma C, Waki M, Yamaguchi M, Kawakami A, Nishioka Y, Sasaki N, Tomaru U, Yoshiki T, Paletta D, Herrmann T: Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from rat model of autoimmune vasculitis. 17th International Vasculitis and ANCA Workshop, London, UK, 2015.4.
4. Masauzi N, Mizukami M, Yamada M, Fukui S, Fujimoto N, Horioka K, Yoshida S, Kaga S, Obata K, Jin S, Miwa S, Mikami T: Semi-automated segmentation and measurement of cytoplasmic vacuoles in neutrophil with general-purpose image analysis software. International Society for Laboratory Hematology, Chicago, USA, 2015.5.
5. Yamazaki T, Takagi N, Ohba T, Matsuo J, Nakamura S, Ishida K, Yamaguchi H: Computational based

V. 研究活動

- prediction of novel type III secreted effectors in pathogenic chlamydiae. 115th General Meeting in American Society for Microbiology, New Orleans, USA, 2015.6.
6. Matsuo J, Kumagai S, Yamazaki T, Takahashi S, Yamaguchi H: Polymorphisms in polymorphic membrane protein F (PmpF) of *Chlamydia trachomatis* isolated from male. 115th General Meeting in American Society for Microbiology, New Orleans, USA, 2015.6.
 7. Yamaguchi H, Yamane C, Yamazaki T, Ishida K, Matsuo J, Nakamura S: Intracellular growth mechanism of amoebal endosymbiont environmental chlamydiae *Parachlamydia Bn9* in immortalized human epithelial HEp-2 cells at low temperature 30°C. 115th General Meeting in American Society for Microbiology, New Orleans, USA, 2015.6.
 8. Hayasaka T, Fuda H, Chiba H, Hui SP: Imaging Mass Spectrometry Reveals the Decrease of Cardiolipin on Kidney of NASH model Mouse. 63rd Conference on Mass Spectrometry and allied topics, St. Louis, USA, 2015.6.
 9. Murai D, Yamada S, Hayashi T, Okada K, Nishino H, Nakabachi M, Abe A, Ichikawa A, Yokoyama S, Kaga S, Iwano H, Mikami T, Tsutsui H: Linear relationship between left ventricular wall stress and myocardial strain and its response to changes in blood pressure in normal subjects. American Society of Echocardiography 26th Annual Scientific Sessions, Boston, USA, 2015.6.
 10. Taki K, Ishida K, Yamazaki T, Matsuo J, Yamaguchi H: Cloning of chlamydial type III effector CopNs and their host target molecules. The second FHS symposium: gazing into the future of health sciences in Asia, Sapporo, Japan, 2015.7.
 11. Yamakawa K, Yamazaki T, Matsuo J, Yamaguchi H: *Chlamydia trachomatis* polymorphic membrane protein F of male strains. The second FHS symposium: gazing into the future of health sciences in Asia, Sapporo, Japan, 2015.7.
 12. Yamazaki T, Ohba T, Takagi N, Matsuo J, Yamaguchi H: In silico prediction of novel effectors secreted by type III secretion apparatus of pathogenic chlamydiae. The second FHS symposium: gazing into the future of health sciences in Asia, Sapporo, Japan, 2015.7.
 13. Maita C, Yamazaki T, Matsuo J, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont *Neochlamydia* with a unique role in the defense of the host amoebae against *Legionella pneumophila*. The second FHS symposium: gazing into the future of health sciences in Asia, Sapporo, Japan, 2015.7.
 14. Maita C, Matsuo J, Nakamura S, Okubo T, Nagai H, Yamaguchi H: Impact of Amoebal endosymbiont *Neochlamydia* on host defense against harmful *Legionella* infection and its unique defense mechanism. 第2回国際シンポジウム・第4回マトリョーシカ型生物学会, 筑波, 2015.9.
 15. Murai D, Yamada S, Iwano H, Hayashi T, Okada K, Nishino H, Nakabachi M, Abe A, Ichikawa A, Yokoyama S, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Comparison of afterload dependency between left ventricular myocardial strain and strain rate in healthy subjects. American Heart Association Scientific Sessions 2015, Orlando, USA, 2015.11.

[国内学会]

1. 樋岡拓馬, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 村山迪史, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 西田 睦, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 高度三尖弁逆流が連続波ドプラ法による収縮期右室-右房圧較差計測に

V. 研究活動

- 及ぼす影響とその対策. 第26回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
2. 林 大知, 山田 聡, 中鉢雅大, 岩野弘幸, 榎原 守, 渡辺清孝, 若見和明, 楠瀬賢也, 石津智子, 山田博胤, 土肥 薫, 瀬尾由広, 大手信之, 三神大世, 筒井裕之: スペックルストレインを用いた左室充満圧の推定: 長軸方向最大ストレイン値の有用性. 第26回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
 3. 村井大輔, 山田 聡, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 阿部 歩, 市川絢子, 横山しのぶ, 加賀早苗, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 血圧変動による壁応力とスペックルストレインの変化: 健常者での応力-ストレイン関係の検討. 第26回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
 4. 馬詰 武, 山田 聡, 山田崇弘, 村井大輔, 林 大知, 岡田一範, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 筒井裕之, 水上尚典: 発症から分娩後の正常化までの経過を心エコー図で観察し得た周産期心筋症の1症例. 第26回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
 5. 横山しのぶ, 山田 聡, 岩野弘幸, 新宮康栄, 阿部 歩, 市川絢子, 中鉢雅大, 西野久雄, 岡田一範, 加賀早苗, 林 大知, 村井大輔, 若狭 哲, 西田 睦, 澁谷 斉, 重松明男, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之, 松居喜郎: S字状心室中隔に伴う左室流出路狭窄と弁穿孔による僧帽弁逆流が溶血性貧血の原因となった僧帽弁形成術後症例. 第26回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015.3.
 6. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化による肝臓保護作用. 日本農芸化学会 2015 年度大会, 岡山, 2015.3.
 7. 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: Synergistic effect of chlamydiae with carbon nanoparticles on IL-1b secretion via NLRP3 inflammasome. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015.3.
 8. 石田香澄, 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: Chlamydia pneumoniae CopN sequesters aldolase A, providing a benefit to the bacterial growth. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015.3.
 9. 山崎智拡, 松尾淳司, 山口博之: Computational prediction of novel type III effectors in pathogenic chlamydiae. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015.3.
 10. 小栗 聡, 花輪智子, 松尾淳司, 清水 力, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫を介した大腸菌の接合伝達とクオラムセンシング分子の産生誘導. 第89回日本感染症学会学術講演会, 京都, 2015.4.
 11. 福元達也, 松尾淳司, 清水 力, 山口博之: 院内環境から株化したアメーバに共生する原始的なクラミジアの感染能力について. 第89回日本感染症学会学術講演会, 京都, 2015.4.
 12. 川上民裕, 志田玄貴, 中沢大悟, 外丸詩野, 石津明洋: 動物モデル全身に血栓形成を誘導させる新規抗リン脂質抗体の作成に成功した. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会ワークショップ「血管炎」, 名古屋, 2015.4.
 13. 志田玄貴, 中沢大悟, 外丸詩野, 川上民裕, 渥美達也, 石津明洋: 抗ラクトフェリン抗体の病原性. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会ワークショップ「血管炎」, 名古屋, 2015.4.
 14. Murai D, Yamada S, Hayashi T, Okada K, Nishino H, Nakabachi M, Abe A, Ichikawa A, Yokoyama S, Iwano H, Mikami T, Tsutsui H: Left ventricular wall longitudinal stress-strain relationship by blood pressure intervention with handgrip exercise in healthy subjects. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015.4.
 15. Hayashi T, Yamada S, Nakabachi M, Iwano H, Sakakibara M, Okada K, Murai D, Nishino H, Kusunose K, Watanabe K, Ishizu T, Wakami K, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Mikami T, Tsutsui H: Ratio of transmitral E to global longitudinal speckle-strain can accurately estimate filling pressure in reduced and preserved ejection fraction patients. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015.4.

V. 研究活動

16. Nakabachi M, Yamada S, Hayashi T, Iwano H, Sakakibara M, Okada K, Nishino H, Yokoyama S, Ichikawa A, Murai D, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Nishida M, Shibuya H, Shimizu C, Mikami T, Tsutsui H: Effects of hypertrophy on the estimation of left ventricular relaxation and filling pressure using tissue Doppler imaging. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015.4.
17. 山田 聡, 岡田一範, 西野久雄, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: シンポジウム「駆出率を越えて: 心機能評価の新しい潮流」. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015.4.
18. 宮島祥太, 外丸詩野, 石津明洋, 木内静香, 大井智貴, 笠原正典: 胸腺T細胞選択におけるプロテアソームキモトリプシン様活性サブユニットの役割. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
19. 伊藤智樹, 外丸詩野, 大村 優, 戸松留花, 石津明洋, 笠原正典: プロテアソーム機能低下マウスにおける記銘力障害の解析. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
20. 三次有奈, 山田真衣, 館山ゆう, 楠 由宏, 志田玄貴, 中沢大悟, 外丸詩野, 三好秀明, 渥美達也, 石津明洋: 高血糖による好中球細胞外トラップ (neutrophil extracellular traps: NETs) の形成亢進. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
21. 岩崎沙理, 古屋充子, 桑原博昭, 大槻雄士, 石津明洋, 桑原 健, 鈴木 昭: 気胸を反復し肺部分切除を契機に診断に至ったBHD症候群の一例. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
22. 木内静香, 外丸詩野, 辻 隆裕, 石津明洋, 鈴木 昭, 大塚紀幸, 伊藤智樹, 池田 仁, 深澤雄一郎, 笠原正典: ダウン症患者の胸腺におけるプロテアソームサブユニット β 5tの発現低下. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
23. 河内麻里亜, 横山達也, 大塚紀幸, 藤本俊郎, 池田 仁, 高木芳武, 石津明洋, 外丸詩野, 笠原正典: 壁在結節を伴う卵巣粘液産生腺癌の3例. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
24. 安部樹太郎, 有賀 茜, 外丸詩野, 木内静香, 石津明洋, 大塚紀幸, 清水知浩, 丸川活司, 松野吉宏, 笠原正典: 血管炎症候群の分類と臨床病理. Type B胸腺腫, 胸腺癌におけるカテプシンの発現. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015.4.
25. 片山拓也, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫, 横山しのぶ, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 腎障害の合併が大動脈弁狭窄症患者の心形態・機能に及ぼす影響. 日本超音波医学会第88回学術集会, 東京, 2015.5.
26. 村井大輔, 山田 聡, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 心筋ストレインとストレインレート: 後負荷依存性は異なるか? 日本超音波医学会第88回学術集会, 東京, 2015.5.
27. 村井大輔, 山田 聡, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 阿部 歩, 市川絢子, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 心筋ストレインとストレインレートの後負荷依存性の差異: ハンドグリップ負荷を用いた検討. 第1回負荷心エコー図研究会, 東京, 2015.6.
28. 村井大輔, 山田 聡, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 阿部 歩, 市川絢子, 加賀早苗, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 壁応力-ストレイン関係を考慮した長軸方向左室心筋短縮能の評価. 第12回新エコー研究会, 大阪, 2015.7.
29. 政氏伸夫, 水上真喜, 山田実早希, 福井彩佳, 藤本奈緒, 河野圭伍, 村上 悟, 早田瑠架, 加賀早苗: 汎用画像処理ソフトを用いた細胞質内空胞の半自動分画・計測法. 第16回日本検査血液学会学術集会, 名古屋, 2015.7.
30. 早田瑠架, 河野圭伍, 村上 悟, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の血液形態検査に使用する機器・

V. 研究活動

- 設備に関するアンケート調査. 第 16 回日本検査血液学会学術集会, 名古屋, 2015.7.
31. 村上 悟, 河野圭伍, 早田瑠架, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の骨髄検査に関するアンケート調査. 第 16 回日本検査血液学会学術集会, 名古屋, 2015.7.
 32. 河野圭伍, 村上 悟, 早田瑠架, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の末梢血検査に関するアンケート調査. 第 16 回日本検査血液学会学術集会, 名古屋, 2015.7.
 33. 村井大輔, 山田 聡, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 阿部 歩, 市川絢子, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 壁応力 - ストレイン関係により補正した長軸方向心筋短縮能の評価: 高血圧性心疾患と肥大型心筋症での検討. 第 13 回先進心血管エコー研究会, 大阪, 2015.8.
 34. 恵 淑萍, 繁富(栗林)香織, 小林 悠, 千葉仁志: 脂肪細胞の脂肪滴における過酸化トリグリセリドの分析. 第 40 回日本医用マススペクトル学会年会, 浜松, 2015.9.
 35. 市川絢子, 山田 聡, 横山しのぶ, 阿部 歩, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 清水 力, 林 大知, 村井大輔, 岩野弘幸, 三神大世, 筒井裕之: 心房細動例での左室拡張機能評価に有効な代表心拍の決定法: 各指標の心周期変動に対する依存性の比較に基づく検討. 第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015.9.
 36. 西野久雄, 山田 聡, 岡田一範, 岩野弘幸, 村井大輔, 林 大知, 阿部 歩, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: 肥大型心筋症における心血管合併症と心筋ストレインの関連: 左室グローバルおよび局所ストレインとそのばらつきの検討. 第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015.9.
 37. 大谷晋太郎, 恵 淑萍, 岡部浩昭, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: LC-MS/MS によるマガキ由来フェノール性抗酸化物質の測定法の開発とその応用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 38. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡辺 貢, 恵 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化による肝保護作用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 39. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 恵 淑萍, 千葉仁志: システインは LDL を安定化させて酸化を抑制する. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 40. Shrestha Rojeet, 恵 淑萍, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志: Analysis of phosphatidylcholine hydroperoxides in plasma and triglyceride-rich lipoproteins by LC/MS. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 41. 山本祐輔, 古川貴之, 恵 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: Glycoblotting 法を用いた牛乳中遊離オリゴ糖の網羅的定量解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 42. 古川貴之, 恵 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: プロッティング技術に基づく脂質アルデヒド類の網羅的定量解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 43. 中藪拓哉, 岡部浩昭, 古川貴之, 恵 淑萍, 千葉仁志: 牛乳ビタミン D 類の定量に向けた新規ラベル化試薬の合成と応用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 44. 三浦佑介, 恵 淑萍, 小林美穂, 清水 力, 千葉仁志: 尿中コレステリルエステル腎脂質代謝を反映する. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 45. 寺嶋 駿, 武田晴治, 宮永 賢, 吉田 繁, 恵 淑萍, 千葉仁志: 酸化 LDL 由来の酸化分解物質の組成と性質. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
 46. 早坂孝宏, 布田博敏, 恵 淑萍, 千葉仁志: NASH モデルマウスの腎組織の質量分析イメージング解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.

V. 研究活動

47. 中島進吾, 牧原圭佑, 惠 淑萍, 千葉仁志: ラット C6 グリア細胞株における脂肪滴形成とその影響. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
48. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化された HepG2 細胞による酸化トリグリセリド分泌と脂肪滴形成. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
49. 馬 逸興, 惠 淑萍, 古川貴之, 布田博敏, 千葉仁志: DHMBA increases mitochondrial function and fatty acid utilization in muscle cells. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
50. 惠 淑萍, 繁富(栗林)香織, 小林 悠, 千葉仁志: 脂肪細胞に蓄えられた脂肪滴より過酸化トリグリセリドを検出した. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
51. 菊地 玲, 南 昭子, 道又理恵, 山下直樹, 安田慶子, 澁谷 齐, 加畑 馨, 岡部浩昭, 惠 淑萍, 千葉仁志, 清水 力: 一年を通しての貯蔵型ビタミン D と紫外線量との関連性. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
52. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来の抗酸化物質における肝細胞保護作用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
53. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 布田博敏, 大谷晋太郎, 渡辺孝之, 渡辺 貢, 千葉仁志: マガキ抽出物中の両親媒性抗酸化フェノールの定量. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
54. 林 沙紀, 宮永 賢, 千葉仁志, 八木亜希子, 神谷博文, 惠 淑萍: メタボロミクスによる体外受精用培養液のアミノ酸の解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015.10.
55. 政氏伸夫, 菅野加奈絵, 橋ことみ, 後藤実早希, 前田里衣, 西 清孝, 水上真喜, 加賀早苗, 三神大世: Semi-automatic method for differentiation of NAP score. -the comparison with manual counting-. 第 77 回日本血液学会学術集会, 金沢, 2015.10.
56. 岡野達郎, 竹内そら, 相馬良直, 鈴木和男, 鈴木浩也, 月田佐智子, 石津明洋, 川上民裕: 抗モエシン抗体は, 皮膚動脈炎が結節性多発動脈炎へ移行する時, 上昇する. 第 20 回血管病理研究会, 大阪, 2015.10.
57. 岩崎沙理, 岡本賢三, 小島哲弥, 藤田裕美, 清水垂衣, 鈴木 昭, 石津明洋: Wegener 肉芽腫症と Necrotizing sarcoid granulomatosis との鑑別に苦慮した一例. 第 20 回血管病理研究会, 大阪, 2015.10.
58. 石津明洋: 標本レビュー: Cogan 症候群の大動脈病変. 第 20 回血管病理研究会, 大阪, 2015.10.
59. 瀧 圭介, 山川和也, 山崎智弘, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: アメーバに共生する原始的なクラミジア *Parachlamydia acanthamoebae* Bn9 のヒト上皮系細胞への適応機構: 低温下での増殖. 第 33 回日本クラミジア研究会, 岡山, 2015.10. 2 4
60. 米田千夏, 山川和也, 山崎智弘, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: トランスクリプトーム解析から探る原始的なクラミジア *Neochlamydia* S13 が共生するアメーバのレジオネラ撃退機構. 第 33 回日本クラミジア研究会, 岡山, 2015.10.
61. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: グライコブロットィング法を用いた脂質アルデヒドの定量測定法の開発. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
62. 林 沙紀, 宮永 賢, 千葉仁志, 八木亜希子, 神谷博文, 惠 淑萍: HILIC-LC/MS による体外受精用培養液におけるアミノ酸のメタボローム解析. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
63. 高橋遼地, 古川貴之, 惠 淑萍, 千葉仁志: 内部標準物質として用いる非天然型カルジオリピンの合成研究と定量分析へ向けた基礎的検討. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
64. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: LDL 酸化に及ぼすアミノ酸の影響に関する研究. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.

V. 研究活動

65. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化ストレスによるヒト肝培養細胞の脂肪滴形成と脂質分泌に及ぼす影響. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
66. Shrestha Rojeet, 惠 淑萍, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志: Detection and identification of cholesteryl ester hydroperoxides by LC/MS. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
67. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡邊 貢, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質, DHMBA, による Keap1-Nrf2 経路活性化. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
68. 三浦佑介, 惠 淑萍, 高橋遼地, 千葉仁志: LC-MS/MS によるコレステリルエステル定量法の開発. 第 55 回日本臨床化学学会年次学術集会, 大阪, 2015.10.
69. 川上民裕, 岡野達郎, 竹内そら, 相馬良直, 鈴木和男, 鈴木浩也, 月田佐智子, 石津明洋: 抗モエシン抗体と皮膚動脈炎から結節性多発動脈炎への移行との関係. 第 21 回 MPO 研究会, 東京, 2015.10.
70. 志田玄貴, 八反田文彦, 佐藤 遥, 橋本展洋, 林 晃正, 三次有奈, 楠 由宏, 中沢大悟, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: MPO-ANCA 関連血管炎における NETs-ANCA 悪循環. 第 21 回 MPO 研究会, 東京, 2015.10.
71. Ishizu A, Nakazawa D, Shida H, Kusunoki Y, Miyoshi A, Nishio S, Tomru U, Atsumi T: Macrophages transiently reinforce neutrophil extracellular trap (NET)-related immunity and thereafter remove neutrophils that undergo NETosis. 第 44 回日本免疫学会総会・学術集会, 札幌, 2015.11.
72. Nishioka Y, Yamaguchi M, Kawakami A, Munehiro M, Tomaru U, Ishizu A: Identification of autoantigen recognized by rat vascular endothelial cell-reactive vasculitis-inducible type II NKT cell clone. 第 44 回日本免疫学会総会・学術集会, 札幌, 2015.11.
73. Miyajima S, Tomaru U, Ishizu A, Kiuchi S, Kasahara M: Aberrant expression of proteasomes affects T cell selection. 第 44 回日本免疫学会総会・学術集会, 札幌, 2015.11.
74. 和田 淳, 鈴木 朗, 山本志緒里, 海道雅子, 越智康浩, 惠 淑萍, 千葉仁志, 平野賢一: 多項目自動血球分析装置 XN シリーズによる, 原発性中性脂肪蓄積心筋血管症由来の好中球脂肪滴の検出. 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015.11.19
75. 吉田 繁, 蜂谷敦子, 松田昌和, 橋本 修, 齊藤浩一, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 杉浦 互, 吉村和久: 2015 年度 HIV 薬剤耐性検査外部精度評価の報告. 第 29 回日本エイズ学会, 東京, 2015.12.
76. 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 瀧永博之, 渡邊 大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南 留美, 吉田 繁, 小島洋子, 森 治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 豊嶋崇徳, 伊藤俊広, 猪狩英俊, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 林田庸総, 岡 慎一, 松田昌和, 服部純子, 重見 麗, 保坂真澄, 横幕能行, 中谷安宏, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 藤井輝久, 高田 昇, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦 互, 吉村和久, 岩谷靖雅: 本邦の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の傾向. 第 29 回日本エイズ学会, 東京, 2015.12.
77. Okada K, Mikami T, Abiko R, Kaga S, Abe A, Nakabachi M, Nishino H, Ichikawa A, Yokoyama S, Nishida M, Hayashi T, Murai D, Iwano H, Sakakibara M, Yamada S, Tsutsui H: Novel parameters for estimating left ventricular end-diastolic pressure based on time-velocity integral measurement of pulmonary venous and transmitral flows. 第 80 回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016.3.
78. Okada K, Yamada S, Iwano H, Nishino H, Murai D, Hayashi T, Nakabachi M, Yokoyama S, Ichikawa A, Abe A, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Assessment of layer-specific myocardial strains and their relationships to

V. 研究活動

- left ventricular function in patients with hypertensive heart disease. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016.3.
79. Iwano H, Yamada S, Okada K, Hayashi H, Murai D, Yokoyama S, Nakabachi M, Nishino H, Ichikawa A, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Strain rate dispersion index has an additive predictive value of responses to cardiac resynchronization therapy: substudy from the START study. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016.3.
80. Nishino H, Yamada S, Okada K, Iwano H, Murai D, Hayashi T, Abe A, Ichikawa A, Nakabachi M, Yokoyama S, Kaga S, Nishida M, Shibuya H, Kahata K, Shimizu C, Mikami T, Tsutsui H: Determinants of cardiovascular complications in patients with hypertrophic cardiomyopathy: comparison between global and segmental myocardial strain. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016.3.
81. 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: メタゲノム解析による鶏肉表面細菌叢の経時的变化の検出. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
82. 山川和也, 山崎智拈, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 辛味成分カプサイシンはヒト株化細胞 HeLa 内での *Chlamydia trachomatis* の増殖を抑制する. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
83. 山崎すみれ, 松尾淳司, 山崎智拈, 大久保寅彦, 山口博之: 原始的なクラミジアと Mimivirus の比較ゲノム解析から紐解くクラミジアの多様性進化. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
84. 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 院内から株化されたアメーバ共生クラミジア *Protochlamydia* のヒト株化 HEP-2 細胞への炎症誘導能について. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
85. 米田千夏, 松尾淳司, 山崎智拈, 大久保寅彦, 中村眞二, 永井広樹, 山口博之: 原始クラミジア *Neochlamydia* 共生アメーバにおけるレジオネラ撃退に関わる責任分子の探索. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
86. 瀧 圭介, 山崎智拈, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 原始的なクラミジア *Parachlamydia acanthamoebae* Bn9 は何故ヒト株化細胞 HEP-2 内で増殖できないのか. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016.3.
87. 布田博敏, 上甲紗愛, 渡邊 貢, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質による抗酸化酵素群の遺伝子発現. 日本農芸学会 2016 年度大会, 札幌, 2016.3.

[地方会]

1. 何 倩, 惠 淑萍, 繁富(栗林)香織: Formation of 3D microstructure for HepG2 and 3T3 cells co-culture using cell origami. 第27回代用臓器・再生医学研究会, 札幌, 2015.2.
2. 河野圭伍, 村上 悟, 早田瑠架, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の末梢血検査に関するアンケート調査. 第50回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌, 2015.4.
3. 村上 悟, 河野圭伍, 早田瑠架, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の骨髓検査に関するアンケート調査. 第50回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌, 2015.4.
4. 早田瑠架, 河野圭伍, 村上 悟, 加賀早苗, 政氏伸夫: 北海道内主要病院の血液形態検査に使用する機器・設備に関するアンケート調査. 第50回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌, 2015.4.
5. 中鉢雅大, 山田 聡, 岩野弘幸, 林 大知, 村井大輔, 西野久雄, 横山しのぶ, 市川絢子, 阿部 歩, 岡田一範, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: 高度三尖弁逆流を伴うエ

V. 研究活動

- プスタイン奇形の1例：右室機能と手術適応に関する考察. 第19回北海道心血管エコー研究会, 札幌, 2015.7.
6. Umetsu S, Miyanaga S, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Analyses of hydroperoxide triglycerides in lipid droplets of oxidized HepG2 cell. The second FHS international conference: Gazing into the future of health sciences in Asia, 札幌, 2015.7.
7. Joko S, Fuda H, Watanabe M, Hui SP, Takeda S, Watanabe T, Chiba H: Hepatoprotective effect of antioxidant from the Pacific oyster via Keap1-Nrf2 pathway. The second FHS international conference: Gazing into the future of health sciences in Asia, 札幌, 2015.7.
8. 早坂孝宏, 布田博敏, 恵 淑萍, 千葉仁志: NASHモデルマウス腎組織における代謝変動の質量分析イメージングによる可視化. 第10回遺伝子栄養学研究会学術集会, 北広島, 2015.9.4
9. 武田晴治, 寺嶋 駿, 武笠幸一, 布田博敏, Shrestha Rojeet, 恵 淑萍, 千葉仁志: CNT電極を用いた脂質酸化抑制物質のスクリーニング. 第10回遺伝子栄養学研究会学術集会, 北広島, 2015.9
10. 大久保寅彦, 松尾淳司, 山崎智拓, 花輪智子, 中村眞二, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫との共培養で大腸菌から漏れ出すクオラムセンシング分子 autoinducer-2 について. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
11. 瀧 圭介, 山根千夏世, 山崎智拓, 中村眞二, 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: 原始クラミジア *Parachlamydia acanthamoebae* Bn9 の低温条件下におけるヒト上皮系細胞 HEp-2 内での増殖について. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
12. 山崎智拓, 松尾淳司, 中村眞二, 大久保寅彦, 山口博之: GFP発現 *Chlamydia trachomatis* 変異株の確立. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
13. 山川和也, 山崎智拓, 松尾淳司, 大久保寅彦, 山口博之: *Chlamydia trachomatis* 男性生殖器分離株における多型性外膜タンパク F (PmpF) の系統学的な特徴. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
14. 米田千夏, 松尾淳司, 山崎智拓, 大久保寅彦, 中村眞二, 永井宏樹, 山口博之: 原始クラミジア *Neochlamydia S13* が共生するアメーバはレジオネラを撃退する: トランスクリプトーム解析による責任遺伝子の探索. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
15. 松尾淳司, 中村眞二, 大久保寅彦, 山口博之: 院内環境から株化したアメーバ共生原始クラミジアのヒト株化細胞への二次感染能と炎症誘導能について. 第82回日本細菌学会北海道支部学術総会, 石狩, 2015.9.
16. 村上 悟, 河野圭吾, 早田瑠架, 菅野加奈絵, 橋ことみ, 後藤実早希, 前田里衣, 西 清孝, 加賀早苗, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた好中球アルカリホスファターゼ (NAP) 活性度判定システム. 第57回日本血液学会秋季北海道地方会, 札幌, 2015.9.
17. 河野圭伍, 村上 悟, 早田瑠架, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた骨髓球系前駆細胞の判定システム. 第57回日本血液学会秋季北海道地方会, 札幌, 2015.9.
18. 早田瑠架, 河野圭伍, 村上 悟, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた赤芽球系前駆細胞の判定システム. 第57回日本血液学会秋季北海道地方会, 札幌, 2015.9.
19. 村井大輔, 山田 聡, 岩野弘幸, 林 大知, 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 三神大世, 筒井裕之: 壁応力-ストレイン関係を考慮した長軸方向心筋短縮能の新しい評価法. 日本超音波医学会第45回北海道地方会学術集会, 札幌, 2015.9.

V. 研究活動

20. 安彦里佳, 岡田一範, 三神大世, 加賀早苗, 横山しのぶ, 西田 睦, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 肺静脈血流速度計測に基づく左室硬さの新しい指標の有用性. 日本超音波医学会第 45 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2015.9.
21. 早坂美咲, 加賀早苗, 三神大世, 喜田真由子, 岡田一範, 政氏伸夫, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 心エコー法による前毛細管性肺高血圧症と後毛細管性肺高血圧症との鑑別. 日本超音波医学会第 45 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2015.9.
22. 前田理菜, 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 樋岡拓馬, 村山迪史, 横山しのぶ, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 肺動脈弁逆流速度計測に基づく新しい肺血管抵抗の非侵襲的推定法. 日本超音波医学会第 45 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2015.9.
23. 黒壁大貴, 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 村山迪史, 樋岡拓馬, 横山しのぶ, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 連続波ドプラ法による肺動脈弁逆流速度計測に基づく肺動脈圧推定の意義. 日本超音波医学会第 45 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2015.9.
24. 小栗 聡, 松尾淳司, 秋沢宏次, 渋谷 斉, 清水 力, 花輪智子, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫を介した大腸菌クオラムセンシング分子 AI-2 の誘導に関する研究. 第 49 回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
25. 福元達也, 松尾淳司, 秋沢宏次, 渋谷 斉, 清水 力, 山口博之: 院内環境から株化したアメーバに共生する原始的なクラミジアのアメーバや株化ヒト細胞への二次感染能力に関する検討. 第 49 回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
26. Shrestha Rojeet, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano K, Chiba H: Analysis of medium-chain fatty acid in human plasma using HPLC. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
27. 八木亜希子, 宮永 賢, Shrestha Rojeet, 武田晴治, 千葉仁志, 神谷博文, 惠 淑萍: ヒト胚培養後の培養液における必須脂肪酸, 特にドコサヘキサエン酸の減少. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
28. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: 化学濃縮及びタグ交換反応(グライコブロットティング法)に基づく脂質アルデヒド類の定量解析法. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
29. 山本祐輔, 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: Glycoblotting 法による牛乳中遊離オリゴ糖の網羅的定量解析. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
30. 高橋遼地, 古川貴之, 惠 淑萍, 千葉仁志: 内部標準として用いるカルジオリピンの合成と定量分析へ向けた基礎的検討. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
31. 寺嶋 駿, 武田晴治, 宮永 賢, 吉田 繁, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化 LDL 由来マイクロパーティクルの脂質組成と生物学的性質. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
32. 武田晴治, Subagyo Agus, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 末岡和久, 千葉仁志: 酸化による LDL の硬さの変化について. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
33. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: システインによる LDL 酸化抑制に関する研究. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
34. 牧原圭佑, 中島進吾, 惠 淑萍, 千葉 仁志: ラット C6 グリア細胞株において脂肪滴は酸化ストレスに対する脆弱性を誘発する. 第 25 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.

V. 研究活動

35. 山本麻衣, 津久井隆行, 惠 淑萍, 千葉仁志:培養肝細胞における脂肪滴の成熟および酸化過程の可視化. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
36. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志:ヒト肝培養細胞(HepG2)を用いた酸化トリグリセリド分泌と脂肪滴形成の研究. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
37. 馬 逸興, 惠 淑萍, 古川貴之, 布田博敏, 千葉仁志:Oyster-derived DHMBA behaves as an exercise mimicry in C2C12 muscle cells. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
38. 宮永 賢, 小林美穂, 三浦佑介, 渡邊俊之, 西尾妙織, 渋谷 斉, 清水 力, 千葉仁志, 惠 淑萍:質量分析法による尿中コレステリルエステルの分子種解析. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
39. 三浦佑介, 惠 淑萍, 宮永 賢, 小林 美穂, 渡邊俊之, 西尾妙織, 渋谷 斉, 清水 力, 千葉 仁志:LC-MS/MSによる腎疾患検体中コレステリルエステルの定量. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
40. 吉田 繁, 蜂谷敦子, 松田昌和, 橋本 修, 齊藤浩一, 岡田清美, 伊部史朗, 和山行正, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 佐藤かおり, 藤澤真一, 杉浦 互, 吉村和久:継続的な外部精度評価によるHIV薬剤耐性検査の質向上の評価. 第49回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
41. 九笹めい, 吉田 繁, 佐藤かおり, 藤澤真一, 杉浦 互, 吉村和久:HIV薬剤耐性検査推奨法のシーケンスプライマーの設定. 第49回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
42. 田中智規, 佐藤かおり, 藤澤真一, 小栗 聡, 志賀麻衣子, 清水 力, 近藤 健, 吉田 繁:合成RNAスタンダードを用いたWT1 mRNA定量値の比較. 第49回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015.9.
43. 政氏伸夫, 村上 悟, 河野圭吾, 早田瑠架, 菅野加奈絵, 橋ことみ, 後藤実早希, 前田里衣, 西 清孝, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世:好中球アルカリホスファターゼ活性係数(NAP Score)の半自動解析. 第54回日本生体医工学会秋季北海道支部大会, 札幌, 2015.10.
44. 大久保寅彦:薬剤耐性E.coliとEnterococciのウガンダ固有牛からの分離. 京都府立大学生命環境科学研究科・マケレレ大学獣医畜産防疫学部交流協定締結記念ウガンダセミナー, 京都, 2016.1.
45. 村山迪史, 加賀早苗, 岡田一範, 樋岡拓馬, 阿部 歩, 市川絢子, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 山田 聡, 三神大世:肺動脈拡張期圧の推定は心房収縮の前後いずれで行うべきか. 日本超音波検査学会北海道地方会第28回学術集会, 札幌, 2016.3.
46. 喜田真由子, 加賀早苗, 岡田一範, 村山迪史, 阿部 歩, 市川絢子, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 山田 聡, 三神大世:心エコー法による肺高血圧症の診断と病型分類. 日本超音波検査学会北海道地方会第28回学術集会, 札幌, 2016.3.
47. 石津明洋, 中沢大悟, 志田玄貴, 三次有奈, 楠 由宏, 八反田文彦, 西尾妙織, 益田紗季子, 外丸詩野, 渥美達也:好中球細胞外トラップの異常とMPO-ANCA関連血管炎. 北大・部局横断シンポジウム「生体防御システムとその破綻」札幌, 2016.3.
48. 益田紗季子, 志田玄貴, 楠 由宏, 八反田文彦, 松尾淳司, 外丸詩野, 石津明洋:フローサイトメトリーを用いた末梢血NETs測定法の確立. 北大・部局横断シンポジウム「生体防御システムとその破綻」札幌, 2016.3.

V. 研究活動

49. 西岡佑介, 山口まどか, 川上 愛, 宗廣真矢, 山田真衣, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: 免疫反応を制御する自己反応性 type II NKT 細胞の機能失調と小型血管炎の発症. 北大・部局横断シンポジウム「生体防御システムとその破綻」札幌, 2016.3.
50. 楠 由宏, 中沢大悟, 八反田文彦, 三次有奈, 志田玄貴, 益田紗季子, 外丸詩野, 西尾妙織, 渥美達也, 石津明洋: MPO-ANCA 関連血管炎 (MPO-AAV) に対する peptidylarginine deiminase 4 (PAD4) 阻害薬の効果. 北大・部局横断シンポジウム「生体防御システムとその破綻」札幌, 2016.3.

■業績 (平成 25 年度)

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Maeda E, Noguchi H, Tohyama H, Yasuda K, Hayashi K: Biomechanical study of healing of patellar tendon after resection of the central one-third in an adult-mature rabbit model. *Biomed Mater Eng* 23:173-81, 2013.
2. Kitamura N, Ogawa M, Kondo E, Kitayama S, Tohyama H, Yasuda K: A novel medial collateral ligament reconstruction procedure using semitendinosus tendon autograft in patients with multiligamentous knee injuries: clinical outcomes. *Am J Sports Med* 41:1274-81, 2013.
3. Maeda E, Noguchi H, Tohyama H, Yasuda K, Hayashi K: Biomechanical study of healing of patellar tendon after resection of the central one-third in an adult-mature rabbit model. *Biomed Mater Eng* 23:173-81, 2013.
4. 戸塚満久, 萬井太規, 新崎真美子, 藤田博之, 菅田忠夫, 浅賀忠義: パーキンソン病患者における立位前後動揺時の圧中心と足圧分布との関連について. *理学療法科学* 28:601-606, 2013.
5. 伊藤裕子, 萬井太規, 甲斐千尋, 泉達也, 本間早苗, 武井麻子, 澤田晋輔, 森若文雄, 浅賀忠義: パーキンソン病患者における踵補高による歩行開始時の効果. *北海道理学療法* 30:25-32, 2013.
6. 瀧澤一騎, 田中孝之, 吉成哲, 奈良博之, 柴田啓介, 山中正紀, 鈴木善人: 形状の異なるスコップを使用した6週間の雪かき作業は体力テスト結果に影響を及ぼすのか? *日本生理人類学会誌* 18:87-92, 2013.
7. 越野裕太, 山中正紀, 武田直樹: 片脚着地動作における着地前筋活動と接地時の足関節肢位との関係. *理学療法科学* 28:527-532, 2013.
8. 佐々木浩子, 木下教子, 高橋光彦, 志度晃一: 大学生における睡眠の質と関連する生活習慣と精神的健康. *北方圏学術情報センター年報* 5:9-16, 2013.
9. 笠原敏史, 齊藤展士, 寒川美奈, 水鳥武藏, 廣瀬利彦, 戸塚満久: 荷重量移動課題の運動特性について. *理学療法科学* 28: 395-398, 2013.

B. 著書

1. 寒川美奈 (分担): 種目別の傷害予防トレーニングとその実際. *女性アスリートのための傷害予防トレーニング*, 医歯薬出版, 東京, 150-153, 2013.
2. 寒川美奈 (分担): スキー競技. *スポーツ理学療法学. 競技動作と治療アプローチ*. メジカルビュー, 東京, 247-260, 2013.

C. 総説, 解説, 論評

1. 浅賀忠義: バランス評価のピットフォール. *理学療法学* 40:597-598, 2013.
2. 高橋光彦, 笠原敏史: 筋疲労の測定法. *理学療法* 30:1149-1155, 2013.
3. 遠山晴一, 黄 于庭: 靭帯は完全に切れていなくても手術しなくても治りますか? *整形外科看護* 18:570-571, 2013.

V. 研究活動

4. 寒川美奈, 遠山晴一: 競技復帰を目指した膝関節の術後トレーニング. ACL 再建術後のリハビリテーションと注意点. 臨床スポーツ医学, 31: 106-109, 2013
5. 寒川美奈. スキー競技における膝前十字靭帯再建術後からの復帰. 理学療法学, 40: 624-625, 2013.

D. その他

[受賞]

1. 長谷川直哉, 萬井太規, Shih-Fen Hsiao, 戸塚満久, 津田章代, 伊藤久美子, 大橋哲朗, 諏訪原司, 武田賢太, 趙 静, 浅賀忠義: 感覚フィードバックの違いが動的バランスの運動学習に与える影響について. 第12回日本健康行動科学学術大会, 大会長優秀発表賞, 札幌, 2013.9.
2. 八幡健太郎, 萬井太規, 中西 徹, 小南由衣, 浅賀忠義: 床面水平刺激による姿勢筋シナジーの学習効果について. 理学療法科学学会, 平成24年度優秀論文賞, 2013.11.

E. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Samukawa M: Conditioning for winter sports injury prevention. The 1st FHS international conference, Sapporo, Japan, 2013.7.
2. Asaka T: Postural balance and rehabilitation. Lecture exchange and scientific meeting: "The role of rehabilitation on improving health and quality of life, Semarang, Indonesia, 2013.12

[国内学会]

1. 浅賀忠義: 「バランス評価のピットフォール」. 第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013.5.
2. 寒川美奈: スキー競技における膝前十字靭帯再建術後からの復帰. 第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013.5.
3. 浅賀忠義: 姿勢制御における筋活動パターンと協調性. 日本健康行動科学学会第12回学術大会, 札幌, 2013.9.
4. 浅賀忠義: 「バランス機能と臨床的アプローチ」. 第40回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会, 旭川, 2013.9.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Takeda N, Niki R, Kobayashi T, Yamanaka M, Kamada H: The position of the center of the mass from the knee center correlates closely with the knee adduction moment in patients with knee osteoarthritis. 2013 Osteoarthritis Research Society International, Philadelphia, USA, 2013.4.
2. Kou U, Tohyama H, Chiba T, Ikoma K, Yasuda K: Long-term effects of video-based home exercise on clinical and radiographic outcomes in subject with knee osteoarthritis. A two-year randomized controlled trial. 2013 Osteoarthritis Research Society International, Philadelphia, USA, 2013.4.
3. Saito H, Yamanaka M, Kasahara S: Postural control adaptation during a repeated load release task. The 20th ISPGR World Congress, Akita, Japan, 2013.5.

V. 研究活動

4. Kasahara S, Saito H, Samukawa M: Larger somatosensory stimuli contributes to the improvement of motor control and motor skill acquirement. The 20th ISPGR World Congress, Akita, Japan, 2013.6.
5. Tsuda A, Mochizuki T, Konishi T, Izumi T, Mani H, Hasegawa T, Totsuka M, Jing Z, Yamamoto K, Hsiao SF, Asaka T: Characteristics of Stability Limits and Distributions of Feet Pressure During Reaching Movements in Patients with Stroke, WCPT-AWP & ACPT 2013, Taichung, Taiwan, 2013.9.
6. Mani H, Konishi T, Tsuda A, Izumi T, Hasegawa T, Totsuka M, Jing Z, Hsiao SF, Asaka T: Adaptation of Postural Strategy with a Mobile Base of Support, WCPT-AWP & ACPT 2013, Taichung, Taiwan, 2013.9.

[国内学会]

1. 笠原敏史, 齋藤展士, 寒川美奈, 高橋優美: 加齢に伴う多関節筋の筋機能の変化. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
2. 齋藤展士, 笠原敏史, 山中正紀: 重錘落下課題の繰り返しによる姿勢制御の適応. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
3. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬邦晃, 野陳佳織, 大川麻衣子, 武田直樹: 人工膝関節全置換術後患者における両脚立位から片脚立位移行時の筋活動パターンについて. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
4. 堀内秀人, 山中正紀, 小林 巧, 井上雅之: 全人工膝関節置換術(TKA)前後における昇段動作時の最大体幹前傾角の経時的变化. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
5. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 越野裕太, 武田直樹, 松本 尚, 青木喜満: 着地動作時に生じる膝関節回旋パターンと膝関節外転運動の関係. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
6. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 武田直樹: 慢性足関節不安定性を有する者における歩行および方向転換動作時の下肢関節動態. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
7. 谷口翔平, 山中正紀, 石田知也, 武田直樹: Drop Vertical Jumpと側方ホップ時における膝外転角度および膝外転モーメントの関係. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
8. 上野 亮, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 武田直樹: 着地動作における膝外転, 内旋角速度の特性とその性差. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
9. 神成 透, 小林 巧, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬邦晃, 野陳佳織, 大川麻衣子, 山中正紀: 変形性膝関節症患者における歩行に関連するバランス能力の検討. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
10. 野陳佳織, 小林 巧, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬邦晃, 大川麻衣子, 高村雅二, 山中正紀: 変形性膝関節症患者の歩行能力に影響を与える機能因子の検討. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
11. 大川麻衣子, 小林 巧, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬那晃, 野陣佳織, 山中正紀, 加藤新司: 人工膝関節全置換術前後の立ち上がり機能に影響を与える因子の検討. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
12. 河江将司, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 伊藤俊貴, 入江 学, 小岩 幹, 清水 智, 石田直樹: 「膝の痛みリハビリ教室」の有効性の検討. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
13. 高橋優美, 笠原敏史, 齋藤展士, 寒川美奈: 低速度での運動停止課題への加齢の影響について. 第48回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013.5.
14. 山田律子, 萩野悦子, 大久保 沙織, 武田純子, 野村まゆみ, 小田 朗, 中里友彦, 宮本礼子, 宮本顕二: 認

V. 研究活動

- 知症終末期の高齢者が最期までおいしく口から食べるためのグループホームでの支援(その1). 身体兆候の特徴と食事支援. 第14回日本認知症ケア学会, 福岡, 2013.6.
15. 釘本真幸, 長山 唯, 細川來実, 山崎 肇, 寒川美奈: ウォームアップにおける筋温上昇および血流動態とその経時的変化. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013.9.
 16. 長山 唯, 釘本真幸, 細川來実, 寒川美奈: ウォームアップ方法の違いが腓腹筋筋腱複合体スティフネスに与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013.9.
 17. 三上兼太郎, 三森由麻, 寒川美奈: ダイナミックストレッチングが腱スティフネスに与える変化. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013.9.
 18. 細川來実, 釘本真幸, 長山 唯, 寒川美奈: ダイナミックストレッチング, バリスティックストレッチングが関節可動域およびスティフネスに与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 東京, 2013.9.
 19. 萬井太規, Shih-Fen Hsiao, 長谷川直哉, 戸塚満久, 津田章代, 武田賢太, 大橋哲朗, 諏訪原司, 伊藤久美子, 趙 静, 浅賀忠義: 片脚立位パフォーマンスの再現性における加齢の影響について. 第12回日本健康行動科学学術大会, 札幌, 2013.9.
 20. 長谷川直哉, 萬井太規, Shih-Fen Hsiao, 戸塚満久, 津田章代, 伊藤久美子, 大橋哲朗, 諏訪原司, 武田賢太, 趙 静, 浅賀忠義: 感覚フィードバックの違いが動的バランスの運動学習に与える影響について. 第12回日本健康行動科学学術大会, 札幌, 2013.9.
 21. 廣川 基, 山中正紀, 石垣智恒, 遠山晴一, 寒川美奈, 齊藤展士: 異なる運動方向における上肢挙上動作時の僧帽筋筋活動の変化. 第10回肩の運動機能研究会, 京都, 2013.9.
 22. 宮本顕二: 慢性呼吸器疾患の終末期医療. コンセンサスの確立を目指して. 追加発言. 欧米豪の終末期医療. 第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 東京, 2013.10.
 23. 栗本俊明, 宇佐美郁治, 大塚義紀, 岸本卓巳, 徳山猛, 福家聡, 宮本顕二: 特発性肺線維症やびまん性胸膜肥厚患者では安静時の呼吸機能から6分間歩行試験の結果を予測できない. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 東京, 2013.10.
 24. 堤 香織, 寒川美奈, 遠山晴一: ストレス負荷超音波撮影法により足関節不安定症の定量的評価の試み. 第24回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 熊本, 2013.10.
 25. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 越野裕太, 遠山晴一, 寒川美奈, 宝満健太郎, 松本尚, 青木喜満: Drop Vertical Jumpにおける膝関節運動の特徴. 第三報—Drop landing, 垂直跳びとの比較—. 第24回日本臨床スポーツ医学会, 熊本, 2013.10.
 26. 谷口翔平, 山中正紀, 石田知也, 江沢侑也, 遠山晴一: Landing Error Scoring System 各項目と着地動作時の最大膝外反角度, モーメントの関係. 第24回日本臨床スポーツ医学会, 熊本, 2013.10.
 27. 越野裕太, 江沢侑也, 石田知也, 寒川美奈, 井上雅之, 遠山晴一: 慢性足関節不安定性症例の歩行時における下肢筋活動の主成分分析を用いた検討. 第24回日本臨床スポーツ医学会, 熊本, 2013.10.
 28. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 小林 巧, 寒川美奈, 齊藤展士, 井上雅之, 遠山晴一: 慢性足関節不安定性症例における歩行時の下肢関節運動の主成分分析. 第40回日本臨床バイオメカニクス学会, 神戸, 2013.11.

[地方会]

1. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 松井直人, 角瀬邦晃, 野陳佳織: 人工膝関節全置換術後患者における姿勢移行課題時の筋活動パターン. 第64回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2013.11.

V. 研究活動

2. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 小林 巧, 遠山晴一:慢性足関節不安定性症例における方向転換動作時の足関節キネマティクスの主成分分析. 第64回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2013.11.
3. 河江将司, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 小岩 幹:当院における「膝の痛みリハビリ教室」の有効性の検討. 第64回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2013.11.
4. 伊藤俊貴, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 青木美佳, 小岩 幹:変形性膝関節症患者の外部膝関節内転モーメントに影響を与える因子の検討. 第64回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2013.11.
5. 大川麻衣子, 小林 巧, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 加藤新司:人工膝関節全置換術後の立ち上がり機能に影響を与える因子の検討. 第64回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2013.11.

■業績 (平成 26 年度)

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Miura T, Yamanaka M, Ukishiro K, Tohyama H, Saito H, Samukawa M, Kobayashi T, Ino T, Takeda N: Individuals with chronic low back pain do not modulate the level of transversus abdominis muscle contraction across different postures. *Man Ther* 19:534-540, 2014.
2. Koshino Y, Yamanaka M, Ezawa Y, Ishida T, Kobayashi T, Samukawa M, Saito H, Takeda N: Lower limb joint motion during a cross cutting movement differs in individuals with and without chronic ankle instability. *Phys Ther Sport* 15:242-248, 2014.
3. Mani H, Izumi T, Konishi T, Samukawa M, Yamamoto K, Watanabe K, Asaka T: Characteristics of Postural Muscle Activation Patterns Induced by Unexpected Surface Perturbations in Elite Ski Jumpers. *J Phys Ther Sci* 26: 833-839, 2014.
4. Wang Y, Watanabe K, Asaka T, Wan F: Muscle synergies in preparation to a step made with and without obstacle. *Eur J Appl Physiol* 114:2561-2569, 2014.
5. Takeda R, Lisco G, Fujisawa T, Gastaldi L, Tohyama H, Tadano S. Drift removal for improving the accuracy of gait parameters using wearable sensor systems. *Sensors (Basel)* 14:23230-23247, 2014.
6. Inagaki Y, Kitamura N, Kurokawa T, Tanaka Y, Gong JP, Yasuda K, Tohyama H.: Effects of culture on PAMPS/PDMAAm double-network gel on chondrogenic differentiation of mouse C3H10T1/2 cells: in vitro experimental study. *BMC Musculoskelet Disord* 15:320, 2014.
7. Ishigaki T, Yamanaka M, Hirokawa M, Tai K, Ezawa Y, Samukawa M, Tohyama H, Sugawara M : Rehabilitation Exercises to Induce Balanced Scapular Muscle Activity in an Anti-gravity Posture. *Journal of Physical Therapy Science*, 26:1871-1874, 2014
8. Saito H, Yamanaka M, Kasahara S, Fukushima J: Relationship between improvements in motor performance and changes in anticipatory postural adjustments during whole-body reaching training. *Hum Mov Sci.* 37:69-86. 2014.
9. 三浦拓也, 山中正紀, 金榮香子, 武田直樹: 体幹の回旋運動に対する腹横筋の寄与 - 健常者と慢性腰痛症例の比較. *理学療法科学* 29:207-212, 2014.
10. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人: 人工股関節全置換術後早期の姿勢移行課題における筋活動パターン. *理学療法科学* 29:771-774, 2014.
11. 伊藤 雄, 山中正紀, 松本 尚, 石田知也, 青木喜満: 片脚着地動作時の足底板使用が膝関節動態に与える影響について. *日本臨床スポーツ医学会誌* 23:33-38, 2014.
12. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人, 隈元庸夫: 股関節内転および外転筋の筋疲労が片脚立位時の重心動揺に与える影響. *北海道理学療法* 31:21-25, 2014.
13. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人, 隈元庸夫: 人工股関節全置換術後早期における片脚立位移行時の筋活動パターン. *北海道理学療法* 31: 26-30, 2014.
14. 河江将司, 小林 巧, 山中正紀, 伊藤俊貴, 小岩 幹, 武田直樹: ホームエクササイズと患者教育を主体とした変形性膝関節症リハビリプログラム(膝教室)の短期効果. *北海道理学療法* 31: 50-55,

V. 研究活動

2014.

15. 黄 于庭, 遠山晴一: ビデオプログラムによる運動療法の変形性膝関節症に対する長期的効果の検討. 運動器リハビリテーション学会誌 25:272-278, 2014.
16. 柚原千穂, 笠原敏史, 齊藤展士, 高橋光彦, 吉田美里: 高齢者のスクワット動作の特徴. 理学療法科学 29:765-769, 2014.
17. 笠原敏史, 吉田美里, 齊藤展士, 高橋光彦, 柚原千穂: 高齢者のスクワット動作時の下肢関節運動. 理学療法科学 29:911-915, 2014.

B. 総説, 解説, 論評

1. 浅賀忠義: バランス機能と臨床的アプローチ. 日本赤十字リハビリテーション協会誌 28:12-21, 2014.
2. 遠山晴一: 半月板損傷におけるバイオメカニクス. 臨床スポーツ医学 31:1120-1124, 2014.
3. 遠山晴一: 膝関節靭帯損傷における疾患・機能の評価方法とその活用. 関節外科 33 (10月増刊):82-97, 2014.
4. 寒川 美奈, 遠山 晴一: ACL 再建術後のリハビリテーションと注意点. 臨床スポーツ医学 31:106-109, 2014.
5. 寒川美奈: スキー選手の ACL 再建術後リハビリテーションと競技復帰. 臨床スポーツ医学 31:1088-1091, 2014.
6. 笠原敏史, 齊藤展士, 高橋光彦: エビデンスにつなげるための臨床場面で身近に使える測定法: 生体信号処理の方法. 理学療法 31:429-436, 2014.
7. 井野拓実, 石田知也, 山中正紀: 運動連鎖からみた前十字靭帯損傷と理学療法. 理学療法 31:829-839, 2014.

C. 報告書

1. 藤木直人, 田代 淳, 矢部一郎, 佐々木秀直, 森若文雄, 津坂和文, 高橋光彦, 粟井是臣, 松本昭久, 丸尾泰則, 橋本修二: 平成 25 年度の北海道地区スモン検診結果. 厚労科学研究費補助金スモンに関する調査研究班平成 25 年度総括・分担研究報告書, 2014.
2. 高橋光彦, 藤木直人, 笠原敏史: スモン患者の膝屈伸における両側・片側収縮力の差異. 厚労科学研究費補助金スモンに関する調査研究班平成 25 年度総括・分担研究報告書, 2014.
3. 藤木直人, 稲垣恵子, 高橋敦子, 阿部笑子, 近谷ひろみ, 矢部一郎, 森若文雄, 津坂和文, 高橋光彦, 粟井是臣: 高齢化と共に加重されるスモン患者の生活障害と苦痛. 厚労科学研究費補助金スモンに関する調査研究班平成 25 年度総括・分担研究報告書, 2014.

D. その他

[受賞]

1. 笠原敏史, 齊藤展士: スクワット動作への加齢の影響. 第 14 回日本抗加齢医学会総会優秀ポスター賞, 大阪, 2014.6.

E. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Asaka T: Postural control and clinical application. Lecture and scientific meeting, Kaohsiung, Taiwan, 2014.3.
2. Asaka T: House adaptation for elderly and disabled people. Lecture and scientific meeting, Kaohsiung, Taiwan, 2014.3.
3. Tohyama H, Kondo E, Fujiki H, Yasuda K: The effects of knocking out macrophage migration inhibitory factor (MIF) gene on healing of the tendon and ligament tissues. World Congress on Biomechanics, Boston, USA, 2014.7.
4. Samukawa M: The effects of static and dynamic stretching on stiffness of ankle plantar flexor muscle-tendon properties. World Congress on Biomechanics, Boston, USA, 2014.7.

[国内学会]

1. 前島 洋：予防的運動療法－その可能性と展開。日本基礎理学療法学会第4回学術大会，名古屋市，2014.11.
2. 寒川美奈：ソチ・オリンピックの医科学サポート。第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会，東京，2014.11.
3. 寒川美奈：ストレッチが筋腱構造に与える変化について。日本超音波骨軟組織学会第20回超音波ハンズオンセミナー，札幌，2014.11.

[地方会]

1. 浅賀忠義：中枢神経系障害の姿勢調節。北海道理学療法士会道南支部平成26年第4回研修会，函館，2014.11.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Mani H, Shih-Fen Hsiao, Hasegawa N, Takeda K, Asaka T: Age-related Changes in the Relative Distances from Center of Pressure to Center of Mass during One-leg Standing. The 67th Congress of the Taiwan Physical Therapy Association, Taipei, Taiwan, 2014.3.
2. Hasegawa N, Shih-Fen Hsiao, Mani H, Takeda K, Asaka T: Learning effects of dynamic postural balance by visual or auditory feedback exercise. The 67th Congress of the Taiwan Physical Therapy Association, Taipei, Taiwan, 2014.3.
3. Ishida T, Yamanaka M, Taniguchi S, Koshino Y, Homan K, Samukawa M, Saito H, Kobayashi T, Matsumoto H, Aoki Y, Tohyama H: The Effects of the Subsequent jump on Knee Kinematics during the First Landing in Drop Vertical Jump. 2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society, New Orleans, USA, 2014.3.
4. Koshino Y, Yamanaka M, Ezawa Y, Ishida T, Kobayashi T, Samukawa M, Saito H, Inoue M, Tohyama H: Principal Component Analysis of Kinematics and Myoelectrical Activities of the Lower Limb during

V. 研究活動

- Single Leg Landing in Subjects with Chronic Ankle Instability, 2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society, New Orleans, USA, 2014.3.
5. Miura T, Yamanaka M, Kobayashi T, Tohyama H : The Effect of Activation of the Deep Abdominal Muscle on the Activity of the Superficial Abdominal Muscle. A Comparison of Healthy Control with the Patients with Low Back Pain. 2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society, New Orleans, USA, 2014.3.
 6. Kobayashi T, Yamanaka M, Kannari T, Horiuchi H, Matsui N, Kakuse K, Nodin K, Okawa M, Chiba T: Muscle activation patterns following knee joint replacement during the postural control task. Osteoarthritis Research Society International, Paris, France, 2014.4.
 7. Chiba T, Yamanaka M, Kobayashi T, Hori K, Yuri M, Ezawa Y, Taniguchi S, Tohyama H : Can the kinematics of The pelvis and the trunk during single-leg standing predict the external adduction moment of the knee during walking? Osteoarthritis Research Society International, Paris, France, 2014.5.
 8. Mani H, Takeda K, Hasegawa N, Nanbu M, Totsuka M, Tsuda A, Ito K, Ohashi T, Suwahara T, Zhao J, Hsiao SF, Asaka T: Difference of the relative distances from center of pressure to center of mass between the young and elderly people during One-leg standing. The 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Sapporo, Japan, 2014.7.
 9. Hasegawa N, Sakuma M, Mani H, Totsuka M, Tsuda A, Ito K, Ohashi T, Suwahara T, Takeda K, Zhao J, Hsiao SF, Kasahara S, Asaka T: Different effects of motor learning between visual and auditory feedback exercises in dynamic postural balance. The 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Sapporo, Japan, 2014.7.
 10. Totsuka M, Ibuki A, Mani H, Hasegawa N, Ohashi T, Suwahara T, Takeda K, Ito K, Tsuda M, Zhao J, Asaka T: The relationship between center of mass and center of pressure in the limits of stability. The 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Sapporo, Japan, 2014.7.
 11. Wang Y, Watanabe K, Asaka T: Muscle synergies in preparation to a step made with and without obstacle. The 13th Asian Federation of Sports Medicine Congress, Beijing, China, 2014.10.

[国内学会]

1. 長谷川直哉, 萬井太規, Shih-Fen Hsiao, 戸塚満久, 津田章代, 伊藤久美子, 大橋哲朗, 諏訪原司, 武田賢太, 趙 静, 笠原敏史, 浅賀忠義: 感覚フィードバックの違いが動的バランスの学習効果に与える影響. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
2. 石垣智恒, 山中正紀, 廣川 基, 田井啓太, 遠山晴一: 立位における適切な肩甲骨周囲筋筋活動比を導く運動方法の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
3. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 小林 巧, 寒川美奈, 齊藤展士, 遠山晴一: 慢性足関節不安定性症例における片脚着地動作時の下肢関節運動パターン - 主成分分析を用いた検討 - : 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
4. 生田亮平, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 越野裕太, 上野 亮. 着地動作における膝周囲筋前活動と接地後早期の膝外反角度およびモーメントの関係: 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
5. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 宝満健太郎, 越野裕太, 寒川美奈, 齊藤展士, 小林 巧, 青木喜満, 遠山晴一: 着地後早期の膝関節外反, 内旋運動と下肢関節運動の関係. 第49回日本理学療法学会大会,

V. 研究活動

- 横浜, 2014.5.
6. 田井啓太, 山中正紀, 石垣恒智, 廣川 基: 上肢非荷重下での前鋸筋筋活動を強調した運動の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 7. 角瀬邦晃, 小林 巧, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 野陳佳織, 大川麻衣子, 山中正紀: 人工膝関節全置換術後の歩行速度に影響を与える術前の機能的因子とそのカットオフ値. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 8. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬邦晃, 野陳佳織, 大川麻衣子: 立位における適切な肩甲骨周囲筋活動比を導く運動方法の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 9. 大川麻衣子, 小林 巧, 神成 透, 堀内秀人, 松井直人, 角瀬邦晃, 野陳佳織, 加藤新司, 山中正紀: 人工膝関節全置換術後における立ち上がり機能に影響を及ぼす因子について. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 10. 河江将司, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 伊藤俊貴, 小岩 幹: 変形性膝関節症患者の疼痛改善に影響する治療手段について. 膝教室の有効性の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 11. 伊藤俊貴, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 青木美佳, 小岩 幹: 変形性膝関節症患者に有効な歩行修正パターンの検討 運動学的・運動力学的違いから. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 12. 谷口翔平, 山中正紀, 石田知也, 越野裕太, 江沢侑也, 生田亮平, 寒川美奈, 齊藤展士, 小林 巧, 遠山晴一: Star Excursion Balance Test リーチ時の下肢関節角度, 内的モーメントとリーチ距離との関係. 前方, 後内側, 後外側方向の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 13. 千葉 健, 山中正紀, 遠山晴一, 齊藤展士, 小林 巧, 江沢侑也, 谷口翔平, 堀 享一, 由利 真: 歩行中の膝関節内転モーメントと片脚立位移行動作における下肢体幹の運動学的挙動の関連性. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 14. 前島 洋, 金村尚彦, 国分貴徳, 村田健児, 高柳清美: GABA 受容体活性制御下の運動による皮質運動関連領域における神経栄養因子発現の修飾. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 15. 森井康博, 山中正紀, 三浦拓也, 齊藤展士, 寒川美奈, 小林 巧: 健常者における異なる座位姿勢時の胸椎矢状面アライメントと腹横筋筋厚の関係. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.7.
 16. 三浦拓也, 山中正紀, 齊藤展士, 寒川美奈, 小林 巧, 森井康博, 遠山晴一: 体幹深層筋群の活性化は体幹表層筋群の活動性を減少させるか. 慢性腰痛症例での検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 17. 金村尚彦, 国分貴徳, 村田健児, 武本秀徳, 藤野 努, 前島 洋, 林 弘之, 高柳清美: 末梢神経損傷モデルラットに対するバランス運動が神経栄養因子-細胞内増殖シグナル伝達系に与える影響. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 18. 三上兼太郎, 益田洋史, 大角侑平, 中田周兵, 中村実弓, 松本 尚, 寒川美奈, 青木喜満: 一般大学陸上競技選手に対するコンディショニングチェック～傷害実態とパフォーマンス, 柔軟性の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 19. 栗原元子, 寒川美奈, 菅野宏介, 奥秋 保: 変形性股関節症患者の健康関連 QOL と性格特性の関連. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 20. 笠原敏史, 齊藤展士, 高橋光彦: 垂直姿勢制御への加齢の影響. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 21. 柚原千穂, 笠原敏史, 齊藤展士, 吉田美里: スクワット動作への加齢の影響. 第49回日本理学療法学会大会,

V. 研究活動

- 横浜, 2014.5.
22. 吉田美里, 笠原敏史, 斎藤展士, 柚原千穂: スクワット動作時の関節運動への加齢の影響について. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 23. 斎藤展士, 川口みなみ, 山中正紀, 笠原敏史: 膝関節運動制限による股関節および足関節運動への影響. 支持面の前後傾斜刺激における立位保持戦略の検討. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014.5.
 24. 笠原敏史, 斎藤展士: スクワット動作への加齢の影響. 第14回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2014.6.
 25. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 越野裕太, 寒川美奈, 斎藤展士, 小林 巧, 松本 尚, 青木喜満, 遠山晴一: Drop vertical jump 着地後早期における膝関節外反運動の変化量の検討. 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 広島, 2014.7.
 26. 伊藤 雄, 山中正紀, 石田知也, 山本敬三, 松本 尚, 青木喜満: 過度な足部回内がカッティング動作中の下肢関節動態に与える影響について. 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 広島, 2014.7.
 27. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 越野裕太, 寒川美奈, 斎藤展士, 小林 巧, 松本 尚, 青木喜満, 遠山晴一: 着地後ジャンプ動作の有無が着地時の下肢関節運動に与える効果. 第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.9.
 28. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 井上雅之, 遠山晴一: 動的方向転換動作における慢性足関節不安定性症例の下肢筋活動. 第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.9.
 29. 高橋光彦, 笠原敏史, 藤木直人: スモン患者の膝屈伸における両側・片側収縮力について. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014.9.
 30. 諏訪原司, 武田賢太, 大橋哲朗, 萬井太規, 長谷川直哉, 戸塚満久, 津田章代, 趙静, 石川啓太, 伊吹愛梨, 佐久間萌, 前島 洋, 浅賀忠義: 口頭指示の違いが前方水平外乱における後方ステップに与える影響. 第1回日本基礎理学療法学会, 名古屋, 2014.11.
 31. 大橋哲朗, 萬井太規, 佐久間萌, 長谷川直哉, 戸塚満久, 津田章代, 諏訪原司, 伊吹愛梨, 武田賢太, 趙 静, 石川啓太, 前島 洋, 浅賀忠義: 着座動作の足関節可動域制限による姿勢と座面圧への影響について. 第1回日本基礎理学療法学会, 名古屋, 2014.11.
 32. 武田賢太, 萬井太規, 諏訪原司, 長谷川直哉, 戸塚満久, 津田章代, 大橋哲朗, 趙 静, 石川啓太, 伊吹愛梨, 佐久間萌, 前島 洋, 浅賀忠義: 視覚消失タイミングが歩行開始のタイミング予測に与える影響. 第1回日本基礎理学療法学会, 名古屋, 2014.11.
 33. 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 越野裕太, 寒川美奈, 松本 尚, 青木喜満, 遠山晴一: Drop Vertical Jump における着地動作時の股関節内旋が膝関節外反に与える影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
 34. 伊藤 雄, 山中正紀, 松本 尚, 石田知也, 青木喜満: 足底板使用が片脚着地時の下肢関節エネルギーに与える影響について. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
 35. 生田亮平, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 越野裕太, 上野 亮, 遠山晴一: Drop vertical jump における膝関節周囲筋の接地前筋活動が膝関節外反に与える影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
 36. 奥貫拓実, 山中正紀, 越野裕太, 江沢侑也, 遠山晴一: マルチセグメントモデルを用いた歩行時の内側縦アーチと足部運動の検討. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
 37. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 石田知也, 寒川美奈, 井上雅之, 遠山晴一: 慢性足関節不安定性症例

V. 研究活動

における機能的不安定性の重症度が片脚ジャンプ着地時の足関節キネマティクスに与える影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.

38. 寒川美奈, 宮部遥子, 遠山晴一: ウォーミングアップがダイナミックストレッチングの筋硬度に対する効果に与える影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
39. 宮部瑤子, 寒川美奈, 横山美翔, 遠山晴一: 立位姿勢が骨盤底筋収縮時の骨盤底挙上量へ与える影響. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
40. 三上兼太郎, 大角侑平, 伊藤 雄, 中田周兵, 寒川美奈, 石田知也, 松本 尚, 青木喜満: 大学陸上競技選手へのコンディショニングチェック～柔軟性, 垂直跳び高と障害状況の関連. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014.11.
41. 奥貫拓実, 山中正紀, 越野裕太, 江沢侑也, 遠山晴一: 歩行立脚相における足部キネマティクスおよび内側縦アーチの変化: 足部マルチセグメントモデルを用いた生体力学的検討. 第41回日本臨床バイオメカニクス学会, 2014.11.

[地方会]

1. 越野裕太, 山中正紀, 奥貫拓実, 江沢侑也, 寒川美奈, 遠山晴一: 超音波画像診断装置による足関節底屈 - 背屈運動時の距骨運動解析 A pilot study. 第65回北海道理学療法士学術大会, 帯広, 2014.10.
2. 小林 巧, 山中正紀, 神成 透, 堀内秀人, 角瀬邦晃, 野陳佳織: 変形性膝関節症患者の歩行速度に影響を与える因子とその基準値について. 第65回北海道理学療法士学術大会, 帯広, 2014.11.
3. 伊藤俊貴, 小林 巧, 山中正紀, 武田直樹, 青木美佳, 小岩 幹: 変形性膝関節症患者の種々の歩行修正パターンにおける前額面上での運動学・運動力学的な違いについて. 第65回北海道理学療法士学術大会, 帯広, 2014.12.
4. 佐橋健人, 山中正紀, 小林 巧, 千葉 健, 田村紘一: 歩行における Toe-out 角度の違いが膝関節負荷に与える影響. 第65回北海道理学療法士学術大会, 帯広, 2014.12.

■業績 (平成 27 年度)

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Wang Y, Watanabe K, Asaka T: Age effects on multi-muscle modes during voluntary body sway. *Res Sports Med* 23:88-101, 2015.
2. Wang Y, Watanabe K, Asaka T: Muscle synergies in preparation to a step made with obstacle in elderly individuals. *J NeuroEng Rehabil* DOI:10.1186/s12984-015-0005-9 (in press).
3. Mani H, Hsiao SF, Takeda K, Hasegawa N, Totsuka M, Tsuda A, Ohashi T, Suwahara T, Ito K, Asaka T: Age-related changes in distance from center of mass to center of pressure during one-leg standing. *J Mot Behav* 47:282-290, 2015.
4. Ishida T, Yamanaka M, Takeda N, Homan K, Koshino Y, Kobayashi T, Matsumoto H, Aoki Y. The effect of changing toe direction on knee kinematics during drop vertical jump: a possible risk factor for anterior cruciate ligament injury. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 23:1004-1009, 2015.
5. Ishigaki T, Ishida T, Samukawa M, Saito H, Hirokawa M, Ezawa Y, Sugawara M, Tohyama H, Yamanaka M: Comparing trapezius muscle activity in the different planes of shoulder elevation. *J Phys Ther Sci* 5:1495-1497, 2015.
6. Ishigaki T, Ishida T, Samukawa M, Saito H, Ezawa Y, Hirokawa M, Kato T, Sugawara M, Tohyama H, Yamanaka M: Does restriction of glenohumeral horizontal adduction reflect posterior capsule thickening of the throwing shoulder? *J Phys Ther Sci* 27:1299-1302, 2015.
7. Ino T, Ohkoshi Y, Maeda T, Kawakami K, Suzuki S, Tohyama H: Side-to-side differences of three-dimensional knee kinematics during walking by normal subjects. *J Phys Ther Sci* 27:1803-1807, 2015.
8. Kasahara S, Saito H: Effect of loading parameters on motor performance during a dynamic weight-shift task. *Gait Posture* 41:100-105, 2015.
9. Kasahara S, Saito H, Anjiki T, Osanai H: The effect of aging on vertical postural control during the forward and backward shift of the center of pressure. *Gait Posture* 42: 448-454, 2015.
10. Colley N, Asaka T, Sakai S, Nagata Y, Shimizu H, Honda C, Sasaki T, Nishioka T: Differences in visual attention between novice and expert nurses performing endotracheal suctioning (ES): A Simulation Study. *Therapeutics & Engineering* 27:97-105, 2015.
11. Wang Y, Watanabe K, Asaka T: Muscle synergies underlying control of taking a step during support surface translation, *Eur J Appl Physiol* 116:301-309, 2016.
12. Mani H, Hsiao SF, Konishi T, Izumi T, Tsuda A, Hasegawa N, Takeda K, Colley N, Asaka T: Adaptation of postural control while standing on a narrow unfixed base of support. *Int J Rehabil Res* 39:92-95, 2016.
13. Tadano S, Takeda R, Sasaki K, Fujisawa T, Tohyama H: Gait characterization for osteoarthritis patients using wearable gait sensors. *J Biomech* 49:684-90, 2016.
14. Koshino Y, Ishida T, Yamanaka M, Ezawa Y, Okunuki T, Kobayashi T, Samukawa M, Saito H, Tohyama H: Kinematics and muscle activities of the lower limb during a side-cutting task in subjects with chronic ankle instability. *Knee Surg, Sports Traumatol, Arthrosc.* DOI:10.1007/s00167-015-3745-y, in press.

V. 研究活動

15. 宮城島沙織, 浅賀忠義, 鎌塚香央里, 小林正樹, 五十嵐リサ, 小塚直樹: 修正1ヶ月における極低出生体重児の自発運動～抗重力運動に着目して～日本未熟児新生児学会雑誌 27: 59-64, 2015.
16. 長谷川直哉, 萬井太規, 武田賢太, 佐久間萌, 笠原敏史, 浅賀忠義: 視覚フィードバックと聴覚フィードバックによる動的バランスの学習効果の違い, 理学療法学 42:474-479, 2015.
17. 津田章代, 望月智行, 小西智也, 泉 達弥, 萬井太規, 山本敬三, Shih-fen Hsiao, 浅賀忠義: 片麻痺患者のリーチ動作における足圧中心の移動範囲と足圧分布の特性について, 理学療法科学 30:635-640, 2015.
18. 憲 克彦, 西向弘樹, 金子明義, 細川吉博, 池田 聡, 遠山晴一, 生駒一憲: 機能訓練強化型通所介護を利用した障害高齢者において生活空間評価(LSA)に影響を及ぼす因子の検討. 身体機能関連評価とアンケート調査から. J Clin Rehabil 24:1278-1283, 2015.
19. 生田亮平, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野亮, 越野裕太, 寒川美奈, 遠山晴一: Drop vertical jumpにおけるハムストリングスの着地前筋活動と着地中の膝関節外反角度および外反モーメントとの関係. 日本臨床スポーツ医学会誌 24: 71-77, 2016.

B. 著書

1. 浅賀忠義(分担): 姿勢. PT・OTのための運動学テキスト(小柳磨毅, 西村敦, 山下協子, 大西秀明編). 金原出版, 東京, 341-364, 2015.
2. 寒川美奈(分担): 関節南部組織性障害Ⅱ前十字靭帯・後十字靭帯損傷. 運動器障害理学療法学テキスト. 改訂第2版.(高柳清美, 中川法一, 木藤伸宏編). 南江堂, 東京, 97-105, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 前島 洋: 予防的運動療法—その可能性と展開—. 日本基礎理学療法学術誌 18: 9-11, 2015.
2. 寒川美奈: ダイナミックストレッチングの基礎と効果. 臨床スポーツ医学 325:452-455, 2015.
3. 片岡 義明, 遠山 晴一: 【膝関節靭帯損傷の保存療法】損傷靭帯の修復過程. 臨床スポーツ医学: 325:830-834, 2015.
4. 井野 拓実, 佐藤 洋一郎, 山中 正紀: 変形性膝関節症の理学療法 - 膝関節内転モーメントに着目して -. 理学療法 32:1109-1120, 2015.
5. 千葉 健, 山中正紀, 遠山晴一: 【変形性膝関節症の診断と治療】片脚立位移行動作の生体力学的検討. 別冊整形外科 67:76-79, 2015.

D. 報告書

1. 前島 洋: 中枢神経系抑制性シナプス伝達の制御による運動学習増強に関する実験動物学的研究. 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2015.3.

E. その他

[受賞]

1. Okunuki T, Koshino Y, Tohyama H, Igarashi M, Ezawa Y, Samukawa M, Saito H, Yamanaka M: Multi-segmental Foot Kinematics During Walking In Subjects With Medial Tibial Stress Syndrome. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Best Poster Award, Orlando, USA, 2015.3.
2. 萬井太規, 武田賢太, 伊吹愛梨, 長谷川直哉, 浅賀忠義: クロスステップ練習が片脚立位動作時の姿勢安

定性を向上させるか？第14回日本健康行動科学学会学術大会，大会長優秀発表賞，大阪，2015.9.

[特許]

1. 但野 茂，武田 量，遠山晴一，原田証英，佐野嘉彦：(国際出願) 歩行解析方法および歩行解析システム，PCT/JP2015/084034 2015.12.

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Asaka T: Postural Control and Environmental Coordination. The 1st International Symposium on Modern Health Sciences 2015, Kaohsiung, Taiwan, 2015.2.
2. Samukawa M: Conditioning to achieve optimal athletic performance. The 1st International Symposium on Modern Health Sciences 2015, Kaohsiung, Taiwan, 2015.2.
3. Samukawa M: Measuring performance in muscle flexibility. 2015 International collaborating teaching at Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan, 2015.12.
4. Samukawa M: Female athletes. 2015 International collaborating teaching at Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan, 2015.12.
5. Samukawa M: Research methods in movement sciences. 2015 International collaborating teaching at Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan, 2015.12.

[国内学会]

1. 前島 洋：姿勢制御のとらえ方と計測法. 日本理学療法士協会基礎体験フォーラム，札幌市，2015.3.
2. 浅賀忠義：姿勢制御における中枢神経機構. 第14回日本健康行動科学学会学術大会，大阪，2015.9.
3. 遠山 晴一：腱・靭帯組織のバイオメカニクス. 前十字靭帯再建術を中心に. 第42回日本臨床バイオメカニクス学会，東京，2015.11.
4. 寒川美奈：ストレッチング運動で健康な身体づくり. 第22回日本未病システム学会学術総会，札幌，2015.10.

[地方会]

1. 前島 洋：予防的運動療法—基礎理学療法の視点から—. 第3回姿勢制御研修会，札幌市，2015.3.
2. 寒川美奈：オーダーメイドの運動処方を目指して. 北海道専科教員合同研修会，2015.3.
3. 遠山晴一：膝OAの保存療法～エビデンスに基づく治療と効果～. 第13回石狩リハビリテーション地域連携懇話会，札幌，2015.10.
4. 寒川美奈：効果的なストレッチによる身体のコディショニング. 第12回大雪スポーツフォーラム，旭川，2015.10.
5. 浅賀忠義：バランス～姿勢制御の基礎から臨床応用～. 道北地区理学療法士会，旭川，2015.11.
6. 寒川美奈：国際大会のサポートで留意すべき点について. 北海道柔道整復師会トレーナー講習会，札幌，2016.2.
7. 寒川美奈：スポーツ傷害の発生予防. 北海道柔道整復師会トレーナー講習会，札幌，2016.2.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ikuta R, Ishida T, Tohyama H, Taniguchi S, Ueno R, Koshino Y, Samukawa M, Saito H, Yamanaka M: The pelvic lateral tilting at ground contact increases the knee abduction moment during A single leg landing task. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
2. Ueno R, Yamanaka M, Ishida T, Taniguchi S, Ikuta R, Tohyama H: Peak muscle forces around the knee joint do not significantly contribute to the peak valgus knee moment during a drop vertical jump task in female subjects. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting. Orlando, USA, 2015.3.
3. Ito Y, Yamanaka M, Matsumoto H, Ishida T, Aoki Yoshimitsu: The effects of foot orthoses on sagittal plane energetics in lower extremity during single-leg landing. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
4. Ishida T, Yamanaka M, Taniguchi S, Ueno R, Minami S, Koshino Y, Samukawa M, Saito H, Kobayashi T, Ito Y, Matsumoto H, Aoki Y, Tohyama H: The hip internal rotation is negatively correlated to valgus knee motion and internal tibial rotation in the early phase during a landing task in drop jumping. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
5. Ishigaki T, Yamanaka M, Ezawa Y, Hirokawa M, Samukawa M, Saito H, Sugawara M, Tohyama H: Side-specific differences in the supraspinatus muscle and tendon morphological properties in collegiate baseball players with and without shoulder injuries. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
6. Miura T, Yamanaka M, Morii Y, Saito H, Samukawa M, Kobayashi T, Ino T, Tohyama H: The relationship between transversus abdominis and lumbar multifidus during the lifting task. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
7. Ueno R, Yamanaka M, Ishida T, Taniguchi S, Ikuta R, Tohyama H: Comparison of angular velocities of knee abduction and tibial Internal rotation between female and male subjects during a landing task. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
8. Taniguchi S, Ishida T, Tohyama H, Ueno R, Ikuta R, Koshino Y, Samukawa M, Saito H, Yamanaka M: The effects of the lateral trunk lean and gender-difference on the peak moment of the knee and hip in the frontal plane during single leg landing. The 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Orlando, USA, 2015.3.
9. Okunuki T, Koshino Y, Tohyama H, Igarashi M, Ezawa Y, Samukawa M, Saito H, Yamanaka M: Multi-segmental Foot Kinematics During Walking In Subjects With Medial Tibial Stress Syndrome. 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting. Orlando, USA, 2015. 3.
10. Maejima H, Kanemura N, Kokubun N, Murata K, Takayanagi K: Effects of aging and exercise on the expression of neurotrophin and glutamate receptors in the hippocampus. Experimental Biology 2015, Boston, USA, 2015.4.
11. Chiba T, Yamanaka M, Saito H, Kobayashi T, Hori K, Yuri M, Tamura H, Sabashi K, Tohyama H : Do kinematic behaviors of the pelvis and trunk during single-leg standing reflect the peak knee adduction moment during walking? World Confederation for Physical Therapy 2015, Singapore, 2015.5.
12. Kasahara S, Saito H: The effect of aging on the vertical postural adjustment during the COP-shift task.

V. 研究活動

- The 17th WCPT Congress, Singapore, Singapore, 2015.5.
13. Saito H, Kasahara S, Yamanaka M, Chiba T: Changes in postural control during a repetitive reaching task. The 17th WCPT Congress, Singapore, 2015.5.
 14. Tanaka S, Suwahara T, Takeda K, Mani H, Saito H, Maejima H, Asaka T: Practice of predicted step responses improves postural stability during unpredicted step responses. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2015.7.
 15. Ishida Y, Yamaguchi M, Tsurubami R, Ohba K, Yokoyama M, Samukawa M: Sit and reach test and the movement of spines and pelvis. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2015.7.
 16. Yokoyama M, Samukawa M, Tsutsumi K, Tanaka M, Tohyama H: Ultrasonographic investigations of the difference in the ankle anterior drawer test using Telos stress device. The 2nd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2015.7.
 17. Maejima H, Kanemura N: Inhibition of GABAergic synapses removes exercise-induced expression of neurotrophins in the motor cortex. The Society for Neuroscience 44th Annual Meeting (Neuroscience 2015). Chicago, USA. 2015.10.
 18. Saito H, Kasahara S, Yamanaka M: Changes in muscle activities and joint movements in lower limbs during repeated reaching training. The 12th ICPA, Chiba, Japan, 2015.10.

[国内学会]

1. 笠原敏史, 齊藤展士: 加齢による運動停止課題への影響. 第14回日本抗加齢医学会, 福岡, 2015.5.
2. 千葉 健, 山中正紀, 齊藤展士, 田村紘一, 佐橋健人, 堀 享一, 由利 真, 遠山晴一: 片脚立位移行動作と歩行における骨盤・体幹の運動学的挙動および外的膝外転モーメントの関係. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
3. 佐橋健人, 山中正紀, 小林 巧, 千葉 健, 田村紘一: Toe-out 歩行時の膝内反モーメントピーク値に影響する因子の検討. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
4. 横山美翔, 寒川美奈, 堀 香織, 田中茉衣, 遠山晴一: テロスストレス装置を用いたX線足関節前方引き出しテストにおける性差の検討. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
5. 湊恵理子, 笠原敏史, 齊藤展士, 秋山 新: 傾斜板上の足関節肢位の変化による立位バランスへの影響. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
6. 秋山 新, 笠原敏史, 齊藤展士, 湊恵理子: 若年者と高齢者のスクワット動作の比較. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
7. 齊藤展士, 山中正紀, 笠原敏史, 千葉 健: 膝関節可動域制限による股関節・足関節運動と姿勢筋の筋活動への影響. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015.6.
8. 生田亮平, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野 亮, 南 茂幸, 越野裕太, 遠山晴一: 片脚着地における接地後早期の膝関節外反と股関節 kinematics との相関性の検討. 第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS), 札幌, 2015.6.
9. 南 茂幸, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 上野 亮, 生田亮平, 越野裕太, 遠山晴一: Drop vertical jump 着地動作修正介入が膝関節 kinetics およびジャンプパフォーマンスに与える効果. 第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS), 札幌, 2015.6.
10. 生田亮平, 石田知也, 谷口翔平, 上野 亮, 馬場 周, 越野裕太, 寒川美奈, 遠山晴一, 山中正紀: 片

V. 研究活動

- 脚着地動作における接地時の骨盤傾斜角度が接地後早期の膝関節外反運動に与える影響. 第4回日本アスレティックトレーニング学会学術集会, 神戸, 2015.7.
11. 石塚利光, 岡橋優子, 寒川美奈: 骨盤底筋群への感覚入力エクササイズが骨盤底筋収縮時の骨盤底挙上量に及ぼす影響. 第17回日本女性骨盤底学会, 東京, 2015.8.
 12. 萬井太規, 武田賢太, 伊吹愛梨, 長谷川直哉, 浅賀忠義: クロスステップ練習が片脚立位動作時の姿勢安定性を向上させるか? 第14回日本健康行動科学学会学術大会, 大阪, 2015.9.
 13. 伊吹愛梨, 萬井太規, 長谷川直哉, 武田賢太, 浅賀忠義: 優れた静的バランス能力のメカニズム解明に関する研究. 第14回日本健康行動科学学会学術大会, 大阪, 2015.9.
 14. 武田賢太, 長谷川直哉, 伊吹愛梨, 萬井太規, 浅賀忠義: ターゲット消失タイミングが歩行開始におけるタイミング予測に与える影響. 第14回日本健康行動科学学会学術大会, 大阪, 2015.9.
 15. 寒川美奈, 磯貝紗織: 地域在住高齢者における尿失禁の実態調査. 第22回日本未病システム学会学術集会, 札幌, 2015.10.
 16. 下田智子, 寒川美奈, 小笠原克彦, 良村貞子: 特別豪雪地帯に住む高齢者の積雪時および非積雪時の活動量と体組成の実態調査. 第22回日本未病システム学会学術集会, 札幌, 2015.10.
 17. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 奥貫拓実, 石田知也, 寒川美奈, 井上雅之, 遠山晴一: 片脚スクワット動作時の前足部, 後足部, 下腿の coupling motion の検討. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 18. 谷口翔平, 山中正紀, 石田知也, 生田亮平, 上野 亮, 越野裕太, 江沢侑也, 井上雅之, 遠山晴一: 片脚着地動作時の体幹側屈は膝関節外反モーメントを増加させる. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 19. 生田亮平, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野 亮, 越野裕太, 寒川美奈, 遠山晴一: Drop vertical jump における着地後早期の膝関節外反増加量は着地動作中の膝関節最大外反モーメントと相関する. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 20. 上野 亮, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 生田亮平, 遠山晴一: Drop vertical jump における膝外反モーメントと脛骨前方剪断力に対する膝関節周囲筋筋張力の影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 21. 大須賀聡, 山中正紀, 三浦拓也, 森井康博, 斎藤展士, 寒川美奈, 遠山晴一: 体幹インナーユニットにおける筋厚と筋活動の関連について. 第23回日本腰痛学会. 東京, 2015.11.
 22. 奥貫拓実, 山中正紀, 越野裕太, 五十嵐将斗, 江沢侑也, 寒川美奈, 堤 香織, 遠山 晴一: Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル走行時の足部 kinematics の特徴. 第1報. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 23. 石田優子, 寒川美奈, 大場健裕, 鶴喰 涼, 横山美翔, 山中正紀, 遠山晴一: Sit and Reach test の有用性. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 24. 大場健裕, 寒川美奈, 石田優子, 鶴喰 涼, 山中正紀, 遠山晴一: コンスタントトルクストレッチングがハムストリングス筋腱複合体の力学的特性に及ぼす影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 25. 鶴喰 涼, 寒川美奈, 石田優子, 大場健裕, 山中正紀, 遠山晴一: ウォームアップの種類による大腿四頭筋の筋温の経時的変化の違い. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
 26. 五十嵐将斗, 山中正紀, 越野裕太, 奥貫拓実, 江沢侑也, 寒川美奈, 遠山晴一: 裸足走行時の foot strike

V. 研究活動

- pattern が内側縦アーチの動態に与える影響の検討. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.
27. 前島 洋, 沖本敦志, 鳥山 実, 出家正隆: 高齢者の股関節運動減少に依存したリーチ長の超過予測. 第 2 回 JPTA 日本基礎理学療法学会・JPTF 日本基礎理学療法学会第 20 回学術集会合同学会, 横須賀, 2015.11.
28. 佐久間萌, 萬井太規, 長谷川直哉, 武田賢太, 伊吹愛梨, 石川啓太, 田中晨太郎, 佐藤祐樹, 呉 瑕, 前島 洋, 浅賀忠義: 口頭指示の違いが姿勢バランスに与える影響—姿勢安定性と周波数特性に着目して—. 第 2 回 JPTA 日本基礎理学療法学会・JPTF 日本基礎理学療法学会第 20 回学術集会合同学会. 横須賀, 2015.11.
29. 齋藤優輝, 山中正紀, 小谷征輝, 原 清和: Abdominal drawing in maneuver と red cord での prone lumber setting の超音波画像診断装置を用いた体幹筋厚変化率の比較. 第 18 回日本レッドコード研究会学術集会, 東京, 2016.2.

[地方会]

1. 越野裕太, 山中正紀, 奥貫拓実, 江沢侑也, 石田知也, 遠山晴一: 片脚スクワット動作時の前足部, 後足部, 下腿の coupling motion の検討. 第 66 回北海道理学療法士学術大会, 旭川, 2015.10.
2. 石田知也, 松本 尚, 藤堂 愛, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: 着地後に続くジャンプ動作が膝前十字靭帯再建術後の着地動作時膝外反角度に与える影響～二次元動作解析による検討～. 第 66 回北海道理学療法士学術大会, 旭川, 2015.10.
3. 松本 尚, 石田知也, 山中正紀, 金子 知, 青木喜満: 小学生バスケットボール選手に対する下肢傷害予防プログラムが着地動作時の動的下肢アライメントに与える経時的効果. 第 66 回北海道理学療法士学術大会, 旭川, 2015.10.
4. 横山美翔, 寒川美奈, 堤香織, 田中茉衣, 山中正紀, 遠山晴一. 超音波画像診断装置を用いた足関節前方引き出しテストにおける性差の検討. 第 66 回北海道理学療法士学術大会, 旭川, 2015.10.
5. 三上兼太郎, 石田知也, 渡邊 南, 鈴木 信, 松本 尚, 寒川美奈, 金子 知, 井上千春, 青木喜満: 自家膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術後患者の膝関節屈曲角度による等速性膝関節屈伸トルクの違い. 第 130 回北海道整形災害外科学会, 旭川, 2016.2.
6. 石田知也, 松本 尚, 藤堂 愛, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術後の着地動作における前額面膝関節運動の検討. 第 130 回北海道整形災害外科学会, 旭川, 2016.2.
7. 松本 尚, 石田知也, 山中正紀, 金子知, 青木喜満: 小学生バスケットボール選手に対する 1 年間の下肢傷害予防プログラム実施が下肢動的アライメントおよび身体機能に与える効果. 第 130 回北海道整形災害外科学会, 旭川, 2016.2.

■業績 (平成 25 年度)

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Yoshida K, Asakawa K, Yamauchi T, Sakuraba S, Sawamura D, Murakami Y, Sakai S: The flow state scale for occupational tasks: development, reliability, and validity. *Hong Kong J Occup Ther* 23:54-61, 2013. (IF 0.19)
2. Kimura H, Osaki A, Kawashima R, Inoue T, Nakagawa S, Suzuki K, Asakura S, Tanaka T, Kitaichi Y, Masui T, Kitagawa N, Kako Y, Abekawa T, Kusumi I, Yamanaka H, Denda K, Koyama T: Differences between bipolar and unipolar depression on Rorschach testing. *Neuropsychiatric Disease and Treatment*, 9: 619-627, 2013. (IF 2.00)
3. Sakuraba S, Kobayashi H, Sakai S, Yokosawa K: Alpha-band Rhythm Modulation under the Condition of Subliminal Face Presentation: MEG Study. 35th Annual International Conference of the IEEE Eng Med Biol Soc:6909-6912, 2013.
4. 傳田健三：子どものうつと発達障害. *日本医事新報*, 4645: 40-46, 2013.
5. 井上貴雄, 佐藤祐基, 宮島真貴, 傳田健三：小・中・高校生における抑うつ症状, 躁症状および自閉傾向. *児童青年精神医学とその近接領域*, 54: 571-587, 2013.
6. 浮田徳樹, 八田達夫, 岸上博俊：標準型車いす上の骨盤後傾姿勢における圧力分布および姿勢の特徴について. *Rehabilitation Engineering* 28: 233-238, 2013.
7. 桑島大輔, 村田和香, 八田達夫, 藤本将太, 東野玄：健康な高齢者がヘルスプロモーションに必要としていること. *作業療法* 32: 462 - 471, 2013.
8. 亀田珠希, 八田達夫, 岸上博俊：サービス担当者会議における情報処理過程の分析と OT の可能性. *北海道作業療法* 30: 38-44, 2013.
9. 澤田紀子, 八田達夫：高齢者の車いす使用に関する受動的な満足特性の検討. *リハビリテーション・エンジニアリング* 28(4)：210-219, 2013.
10. 浮田徳樹, 八田達夫, 岸上博俊：標準型車いす上の骨盤後傾姿勢における圧力分布および姿勢の特徴について. *リハビリテーション・エンジニアリング* 28 (4)：233-238, 2013.

B. 著書

1. 境 信哉 (分担)：重症心身障害. *標準作業療法学 発達過程作業療法学 (第2版)*. 172-190, 医学書院, 東京, 2013.

C. 総説, 解説, 論評

1. 村田和香：レビュー論文の読み方. *作業療法ジャーナル* 47: 1028 - 1032, 2013.
2. 河野仁志：「精神病院」入院ということ. 「精神障害」を抱えて生きる人たち 51 回. *北海道経済*. 16-22, 2013.
3. 河野仁志：「虫けら」として扱う社会. 「精神障害」を抱えて生きる人たち 52 回. *北海道経済*. 21-27, 2013.

V. 研究活動

4. 河野仁志:人との対話そして自分自身との対話。「精神障害」を抱えて生きる人たち 53 回. 北海道経済. 23-29, 2013.
5. 河野仁志:「これから地獄へ行く」。「精神障害」を抱えて生きる人たち 54 回. 北海道経済. 29-34, 2013.

[学会研究会の主催]

1. 北海道児童青年精神保健学会 2013.

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Sakai S: Visual assessment and rehabilitation for children with cerebral visual impairment. LECTURER EXCHANGE AND SCIENTIFIC MEETING, “The role of rehabilitation on improving health and quality of life”, Semarang Indonesia, 2013.12.

[国内学会]

1. 境 信哉, 星有理香, 加藤光広:「CVI 重症度評価スケールの紹介」, 滑脳症親の会定例会 / 厚労科研 PPS 班 共催合同シンポジウム, 大分, 2013.6.
2. 境 信哉:シンポジウム:発達障害と視覚 - 基礎研究から臨床応用に向けて「重度心身障害児の視機能評価への挑戦」, 日本視覚学会 2013 年夏季大会, 札幌, 2013.7.
3. 傳田健三:シンポジウム講演:「児童青年期の気分障害とコモビディティ」(シンポジウム:児童青年期の気分障害), 第 10 回日本うつ病学会, 北九州市, 2013.7.
4. 傳田健三:シンポジウム講演:「発達障害をもつ若者に対する支援ー児童精神科医として, 大学教員としてー」(シンポジウム:「発達」をめぐる支援者のタテの連携を目指して), 第 29 回日本精神衛生学会, 宮城県黒川郡, 2013.9.
5. 傳田健三:シンポジウム講演:「うつ病をもつ子どもへの精神療法的アプローチ」(シンポジウム:子どもの精神療法), 第 54 回日本児童青年精神医学会, 札幌市, 2013.10.
6. 傳田健三:シンポジウム講演:「思春期・青年期の抑うつ傾向・自殺傾向の実態とその対処について」, (シンポジウム:思春期・青年期の危機ー自殺に傾く心理の理解とその支援), 第 56 回日本病院・地域精神医学会, 札幌市, 2013.10.
7. 傳田健三:教育講演:「子どもの精神科診断学ーうつ病と発達障害をめぐるー」. 第 33 回日本精神科診断学会, 大津市, 2013.11.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Denda K, HOHmiya H, Miyajima M, Inoue T: Relations with bipolar disorders, ADHD and ASD in childhood and adolescence. 4th World Congress on ADHD, Milan, Italy, 2013.6.
2. Ito A, Fujii T, Abe N, Kawasaki I, Hayashi A, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Mugikura S, Takahashi S, Mori E: Gender differences in the patterns of vmPFC activity associated with preference judgments for faces. International Neuropsychological Society 2013 Mid-Year Meeting, Amsterdam, Nederland, 2013.7.

V. 研究活動

3. Murakami Y, Ito A, Kawasaki I, Ueno A, Kawachi Y, Mugikura S, Matsue Y, Sakai S, Takahashi S, Fujii T: Effects of cosmetics use and gaze direction on facial attractiveness: an fMRI study. International Neuropsychological Society 2013 Mid-Year Meeting, Amsterdam, Nederland, 2013.7.
4. Ueno A, Ito A, Kawasaki I, Kawachi Y, Yoshida K, Murakami Y, Sakai S, Iijima T, Matsue Y, Fujii T: Neural correlates of facial recognition with and without cosmetics: an fMRI study. International Neuropsychological Society 2013 Mid-Year Meeting, Amsterdam, Nederland, 2013.7.
5. Sakuraba S, Kobayashi H, Sakai S, Yokosawa K: Alpha-Band Rhythm Modulation under the Condition of Subliminal Face Presentation: MEG Study. 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Osaka, 2013.7.
6. Denda K, Ohmiya H, Miyajima M, Inoue T: Phenomenology of children and adolescents with bipolar spectrum disorders in Japan. The 4th World Congress of Asian Psychiatry, Bangkok, Thailand, 2013.8.
7. Ito A, Abe N, kawachi Y, Kawasaki I, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Matsue Y, Fujii T: Dissociable roles of the nucleus accumbens and the ventromedial prefrontal cortex in preference formation for consciously and subconsciously perceived targets. Beauty & Value, Berlin, Germany, 2013.10.

[国内学会]

1. 藤川恵子, 井上 馨, 越山隆恵, 相原一, 山岸麗子: 自然発症高眼圧を呈する V a v 遺伝子欠損マウスの眼圧の特徴. 第 117 回日本眼科学会, 東京, 2013.4.
2. 星由理香, 桜庭聡, 佐々木千穂, 吉田一生, 境直子, 加藤光広, 佐藤洋子, 真木誠, 境 信哉: 脊髄性筋萎縮症 (I 型) 児のコミュニケーション発達に関する里程表の作成, 第 55 回日本小児神経学会学術集会, 大分市, 2013.5.
3. 星有理香, 佐々木千穂, 境 直子, 佐藤洋子, 吉田一生, 桜庭 聡, 真木 誠, 境 信哉, 加藤光広: 脊髄性筋萎縮症 1 型児のコミュニケーション手段について - 親へのアンケート調査より -, 第 55 回日本小児神経学会学術集会, 大分, 2013.5.
4. 村田和香, 東野玄, 庄子翼, 桑島大輔: 定年退職した高齢者の生活の質および社会参加. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪市, 2013.6.
5. 浅野葉子, 村田和香: 認知症高齢者を支援する地域におけるネットワーク. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪市, 2013.6.
6. 東野玄, 村田和香, 桑島大輔, 庄子翼: 「将来展望プログラム」に参加した地域在住高齢者の老後の生活への思い. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪市, 2013.6.
7. 八田達夫, 岸上博俊: 側彎をもつ成人の重症心身障害者へのシーティング介入の分析. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
8. 小名 忍, 岸上 博俊: デイケアにおいて家庭で「やりたいこと」を実現した一事例. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
9. 白木祐子, 岸上博俊, 八田達夫: 就労しているアスペルガー障害をもつ成人当事者のこれまでの経験を理解する (第 2 報) B 氏の事例を通して. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
10. 岸上博俊, 八田達夫: 地域生活を送る高齢者がリハビリテーション介入を拒絶する理由 3 名のインタビュー調査から. 第 47 回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
11. 谷本健治, 岸上博俊, 鎌田康広, 井上麻美: ALS 患者の身体機能への不安に配慮した環境調整. 第 47 回

V. 研究活動

- 日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
12. 佐々木卓也, 岸上博俊: 認知症を呈する終末期患者の環境適応について. 第47回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
 13. 浮田徳樹, 西村重男, 岸上博俊, 澤田紀子, 八田達夫: 標準型車いす骨盤部接触面の実態. 第47回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
 14. Ito A, Fujii T, Abe N, Kawasaki I, Hayashi A, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Mugikura S, Takahashi S, Mori E: Gender differences in the patterns of vmPFC activity associated with preference judgments for faces. Neuro 2013, 京都, 2013.6.
 15. 澤村大輔, 境 信哉, 小川圭太, 堀 享一, 生駒一憲: Moss Attention Rating Scale 日本語版の鋭敏性の検討, 第47回日本作業療法学会, 大阪, 2013.6.
 16. 澤田紀子, 八田達夫, 岸上博俊: 座位姿勢変化における筋疲労評価の有効性. 第28回日本リハビリテーション工学カンファレンス, 岩手, 2013.8.
 17. 岸上博俊, 八田達夫, 澤田紀子, 浮田徳樹: 車いす・シーティング介入に対するセラピストの意識調査. 第28回日本リハビリテーション工学カンファレンス, 岩手, 2013.8.
 18. 佐々木千穂, 境 信哉, 宮永敬市, 五島徳宏, 星有理香, 高田政夫, 森本誠司, 野尻明子, 坂本淑江, 伊佐地隆: SMA I型児のコミュニケーション支援に関する研究—SNS等を活用した遠隔支援の試み—, 第5回日本ヘルスコミュニケーション学会, 岐阜, 2013. 8.
 19. 村上優衣, 伊藤文人, 川崎伊織, 上野 彩, 河地庸介, 麦倉俊司, 松江克彦, 境 信哉, 高橋昭喜, 藤井俊勝: 顔の魅力度に対する化粧品の使用と視線の影響: fMRIによる脳機能画像研究, 第37回日本神経心理学会総会, 札幌, 2013.9.
 20. 村川孝彰, 阿部正之, 永井義樹, 鴻上雄一, 小島孝郎, 杉原俊一, 大槻美佳, 平山和美, 境 信哉: 言語性と動作性の解離を考慮した新しい片麻痺病態失認評価スケールの提案. 第37回日本神経心理学会総会, 札幌, 2013.9.
 21. 八田達夫, 岸上博俊, 合田央志, 澤田紀子: 脳卒中患者の車いす座位姿勢は変えることができるのか? 第44回北海道作業療法学会, 札幌, 2013.10.
 22. 土屋 語, 佐村淳知, 戸田真弘, 八田達夫, 岸上博俊: 老健夕張における看取り対象者への関わり～チームにおける作業療法士の取り組み～. 第44回北海道作業療法学会, 札幌, 2013.10.
 23. 戸田真弘, 佐村淳知, 土屋 語, 八田達夫, 岸上博俊: 通所リハビリテーションにおけるリハマネ訪問評価の活用方法. 第44回北海道作業療法学会, 札幌, 2013.10.
 24. 横山航太, 木賊弘明, 境 信哉: パーキンソン病患者一例を対象とした触覚的 cueによる矛盾性運動の検討と日常生活支援, 第7回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 東京, 2013.10.
 25. 澤田紀子, 八田 達夫, 岸上博俊: 座位姿勢変化における筋疲労評価の有効性の検討. 第28回リハ工学カンファレンス, 盛岡, 2013.11.
 26. 岸上博俊, 八田達夫, 澤田紀子, 浮田徳樹: 車いす・シーティング介入に対するセラピストの意識調査. 第28回リハ工学カンファレンス, 盛岡, 2013.11.

[地方会]

1. 工藤梨紗, 沼田士嗣, 岡崎里恵, 齋藤朝文, 村田和香: 在宅生活支援における外来作業療法のあり方. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.

V. 研究活動

2. 柳澤嘉奈, 氏家 武, 村田和香: 発達障害があるこどもの意志に沿ってプログラム展開ができた事例についての紹介. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
3. 荒城洋介, 沼田士嗣, 岡崎里恵, 福士史人, 村田和香: 閉じこもり高齢者の作業従事の支援. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
4. 大島亨介, 庄子翼, 雲杉, 村田和香: 参加者の視点による老人大学の評価に関する文献研究. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
5. 雲杉, 庄子翼, 大島亨介, 村田和香: 慢性疾患に対する自己管理介入プログラムに関する文献研究. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
6. 土屋 語, 佐村淳知, 八田達夫, 岸上博俊, 戸田真弘: 老健夕張における看取り対象者への関わり チームにおける作業療法士の取り組み. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
7. 大橋あい, 沼田士嗣, 岡崎里恵, 長谷川真奈, 村田和香: 箸操作が上手く行えない対象者の作業従事を支援する作業療法. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
8. 内山明日香, 柳澤嘉奈, 岩野亜美, 菅原勇太, 村田和香: 他職種が関わる発達障害領域グループセラピーにおける作業療法士のリーズニング. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
9. 齋藤朝文, 沼田士嗣, 岡崎里恵, 杉本隆, 村田和香: 園芸の再開に向けて語りに働きかけた作業療法. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
10. 本家寿洋, 沼田士嗣, 村田和香: 人間作業モデル事例検討会. ワークショップ. 第44回北海道作業療法学会, 札幌市, 2013.10.
11. 清水麻衣子, 八田達夫, 岸上博俊, 朝日まどか: 要介助高齢者の食事困難状況の分析 食事介助に関する介護職員アンケートより. 北海道作業療法, 札幌, 2013.
12. 八田達夫, 岸上博俊, 合田央志, 澤田紀子: 脳卒中患者の車いす座位姿勢は変えることができるのか? 北海道作業療法, 札幌, 2013.
13. 依田泰知, 八田達夫, 岸上博俊: 特別支援学校教員の車いすに対する意識調査. 北海道作業療法, 札幌, 2013.
14. 戸田真弘, 佐村淳知, 八田達夫, 岸上博俊, 土屋 語: 通所リハビリテーションにおけるリハマネ訪問評価の活用方法. 北海道作業療法, 札幌, 2013.

■業績 (平成 26 年度)

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Ueno A, Ito A, Kawasaki I, Kawachi Y, Yoshida K, Murakami Y, Sakai S, Iijima T, Matsue Y, Fujii T: Neural activity associated with enhanced facial attractiveness by cosmetics use. *Neurosci Lett* 566C:142-146, 2014. (IF 2.03)
2. Yoshida K, Sawamura D, Inagaki Y, Ogawa K, Ikoma K, Sakai S: Brain activity during the flow experience: a functional near-infrared spectroscopy study. *Neurosci Lett* 573C:30-34, 2014. (IF 2.055)
3. Sawamura D, Ikoma K, Yoshida K, Inagaki Y, Ogawa K, Sakai S: Active inhibition of task-irrelevant sounds and its neural basis in patients with attention deficits after traumatic brain injury. *Brain Inj* 28:1455-1460, 2014. (IF 1.861)
4. 佐藤祐基, 傳田健三, 石川 丹: 児童・青年期の双極性障害に関する臨床的研究. *児童青年精神医学とその近接領域*, 55: 1-14, 2014.
5. 合田央志, 八田達夫, 岸上博俊, 澤田紀子, 浮田徳樹: 片麻痺患者の車いす座位と端座位における頸部角度の違い. *北海道作業療法* 30 (4): 21-24, 2014.
6. 池田 歩, 境信哉, 星有理香, 桜庭聡, 吉田雅紀, 平元東, 加藤光広, 八田達夫, 平山和美: 重症心身障害児(者)を対象とした大脳性視覚障害重症度評価スケールの開発. *日本重症心身障害学会誌* 39: 397-404, 2014.
7. 佐々木千穂, 境 信哉, 星有理香, 高田政夫, 森本誠司, 野尻明子, 坂本淑江, 伊佐地 隆: 脊髄性筋萎縮症 I 型児に対するコミュニケーション支援の 1 経験. *保健科学研究誌* (11): 81-90, 2014.
8. 大宮秀淑, 山家研司, 松本 出, 松井三枝, 傳田健三: 慢性統合失調症患者に対する認知機能改善療法 (CRT) の効果研究—前頭葉/実行機能プログラム (FEP) による症例報告—. *精神科治療学* 29: 811-816, 2014.
9. 安井勇輔, 西川瑞枝, 長谷川理絵子, 善養寺圭子, 傳田健三: 電話・面接相談の相談内容と社会情勢との関連—北海道家庭生活総合カウンセリングセンターの実態から—. *こころの健康* 29: 96-104, 2014.
10. 船越俊一, 大野高志, 小高 晃, 奥山純子, 本多奈美, 井上貴雄, 佐藤祐基, 宮島真貴, 富田博秋, 傳田健三, 松岡洋夫: 自然災害の諸要因が高校生の心理状態に及ぼす影響の検討—東日本大震災から 1 年 4 ヶ月後の高校生実態調査—. *精神神経学雑誌* 116: 541-554, 2014.
11. 大宮秀淑, 山下聖子, 宮田友樹, 畠山雪恵, 山家研司, 松本 出, 松井三枝, 豊巻敦人, 傳田健三: 統合失調症患者に対する前頭葉/実行機能プログラム (FEP) を用いた認知機能改善療法 (CRT) に関する実践的研究. *臨床精神医学* 43: 1525-1532, 2014.
12. 大澤茉莉恵, 井上貴雄, 安井勇輔, 傳田健三: 一般市民における抑うつ傾向—自殺予防対策としてのうつスクリーニング事業から—. *臨床精神医学* 43: 249-257, 2014.
13. 大宮秀淑, 山家研司, 松本 出, 松井三枝, 傳田健三: 慢性統合失調症患者に対する認知機能改善療法 (CRT) の効果研究—前頭葉/実行機能プログラム (FEP) による症例報告—. *精神科治療学* 29: 811-816, 2014.
14. 安井勇輔, 西川瑞枝, 長谷川理絵子, 善養寺圭子, 傳田健三: 電話・面接相談の相談内容と社会情勢と

V. 研究活動

- の関連—北海道家庭生活総合カウンセリングセンターの実態から—。こころの健康 29: 96-104, 2014.
15. 澤村大輔, 境 信哉, 桜庭 聡, 杉 正明, 戸島雅彦: 独居の脳卒中片麻痺患者が自宅退院を果たすための重要な因子。北海道作業療法 31: 73-80, 2014.
 16. 池田 歩, 境 信哉, 星有理香, 桜庭 聡, 吉田雅紀, 平元 東, 加藤光広, 八田達夫, 平山和美: 重症心身障害児(者)を対象とした大脳性視覚障害重症度評価スケールの開発。日本重症心身障害学会誌 39: 397-404, 2014.

B. 著書

1. 村田和香(分担): 第7章 活動レベル。標準理学療法学 病態運動学(星文彦・他編)。213-217, 医学書院, 東京, 2014.
2. 傳田健三: 子どものうつ 心の治療—外来診療のための5ステップアプローチ—。1-152, 新興医学出版社, 東京, 2014.
3. 傳田健三(分担): 薬物療法: 抗うつ薬。子どもの心の処方箋ガイド(齋藤万比古編)。131-132, 中山書店, 東京, 2014.
4. 傳田健三(分担): 大うつ病性障害。子どもの心の処方箋ガイド(齋藤万比古編)。268-271, 中山書店, 東京, 2014.
5. 傳田健三(分担): 子どものうつにはどのように対応したらよいか。子どものこころの医学(中村和彦編)。154-163, 金芳堂, 京都, 2014.
6. 傳田健三(分担): 重篤気分調節症 Disruptive Mood Dysregulation Disorder。DSM-5を読み解く—伝統的精神病理, DSM-IV, ICD-10をふまえた新時代の精神科診断—(神庭重信編)。pp138-144, 中山書店, 東京, 2014.
7. 境 信哉(分担): 視覚・眼球運動。コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 第3版(福田恵美子編)。149-157, 中外医学社, 東京, 2014.
8. 境 信哉(分担): ハンドスキル。コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 第3版(福田恵美子編)。158-165, 中外医学社, 東京, 2014.
9. 傳田健三(訳): 第37章 児童・青年期のうつ病性障害。新版 児童青年精神医学(長尾圭造監訳), 明石書店, pp761-795, 2014. In: Depressive disorders in childhood and Adolescence. In: Rutter's Child and Adolescent Psychiatry, Fifth Edition, Blackwell Publishers Limited, Oxford, UK, 2009
10. 村田和香(訳): 作業療法実践の理論(山田孝監訳) 第10章 機能的グループモデル, pp129-146, 第11章 生体力学モデル。pp147-164, 第15章 医学モデル, pp218-224, 医学書院, 東京, 2014. In: Conceptual Foundations of Occupational Therapy Practice, 4th Edition, Chapter 10 The Functional Group Model, Chapter 11 The Biomechanical Model, Chapter 15 The Medical Model. The F.A. Davis Company, Pennsylvania, USA, 2009.
11. 井上 馨: 消して忘れない解剖学要点整理ノート, 井上馨, 松村譲児編, PT・OT 必修シリーズ, 羊土社, 東京(分担: 井上馨「第6章 内臓学」: 181-239), 2014.

V. 研究活動

C. 総説, 解説, 論評

1. 村田和香：臨床家のための実践と報告のすすめ：高齢期. 作業療法 33：4－10, 2014
2. 傳田健三：発達障害をもつ若者に対する支援－児童精神科医として, 大学教員として－. こころの健康, 29(1): 67-68, 2014.
3. 傳田健三：子どもの気分障害をめぐって. 発達, 139: 20-25, 2014.
4. 傳田健三：DSM-5における発達障害の理解. Depression Strategy, 4(3): 4-6, 2014.
5. 傳田健三：子どものうつへの精神療法的アプローチ. 北海道児童青年精神保健学会誌, 28: 94-104, 2014.
6. 傳田健三, 阿部隆明, 岡田 俊：小児のうつ病. DEPRESSION JOURNAL, 2(1): 9-13, 2014.
7. 河野仁志：「ともだち」って. 23-28, 北海道経済, 北海道経済研究所. 札幌, 2014.
8. 河野仁志：「精神病院」入院ということ. 10-11, かつこう, 札幌市精神障害者家族連合会. 札幌, 2014.
9. 河野仁志：安達克己先生を追悼して. 30-35, 北海道経済, 北海道経済研究所. 札幌, 2014.
10. 河野仁志：「40年間も入院していた60才男性の退院と青春」. 21-27, 北海道経済, 北海道経済研究所. 札幌, 2014
11. 河野仁志：関わりの姿勢について. 19-26, 北海道経済, 北海道経済研究所. 札幌, 2014.
12. 河野仁志：躁うつ病からの新たな人生. 10-11, かつこう, 札幌市精神障害者家族連合会. 札幌, 2014.
13. 河野仁志：「虫けら」扱いをする社会. 10-11, かつこう, 札幌市精神障害者家族連合会. 札幌, 2014.
14. 河野仁志：人との対話そして自分の中の対話. 10-11, かつこう, 札幌市精神障害者家族連合会. 札幌, 2014.
15. 河野仁志：「同情の鎖」につながれた人たち. 「精神障害」を抱えて生きる人たち 55回. 北海道経済. 39-44, 2014.
16. 河野仁志：「生き心地の良い町」の特徴. 「精神障害」を抱えて生きる人たち 56回. 北海道経済. 27-32, 2014.
17. 傳田健三：子どものうつ病－元気が出ない, 好きなことにもやる気が出ない－. 児童心理, 981: 56-61, 2014.

D. 報告書

1. 和田彩芳, 八田達夫, 西村重男：アクティブ・バランス・シーティング仕様車いすによって姿勢が改善した事例. リハビリテーション・エンジニアリング 29 (1) :35-38, 2014.

E. その他

[学会研究会の主催]

1. 傳田健三：第30回日本精神衛生学会, 2014.
2. 傳田健三：第39回北海道児童青年精神保健学会, 2014

[特許]

1. 八田達夫, 岸上博俊, 西村重男, 佐々木充, 池田啓子(発明者)：特許権者または出願人：北海道大学, 特殊衣料, 北進医療機器, 西村重男, 座位姿勢改善装置およびこれを備えた椅子体, 出願, 特願 2014-157264号, 2014

F. 学会発表

A) 招待講演

[国内学会]

1. 傳田健三：シンポジウム講演：「子どもの摂食障害—うつと発達障害の視点から—」(シンポジウム：摂食障害若年化への対応)，第17回日本摂食障害学会，神戸市，2013.11.
2. 傳田健三：シンポジウム「地方公務員のうつ病休職者にどのように対応するのか—リワークの意義について—」. 第7回うつ病リワーク研究会年次研究会，札幌，2014.6.
3. 傳田健三：シンポジウム「児童思春期のうつ病—発達障害の視点から—」. 感情・行動・認知研究会(ABC研究会)，大阪市，2014.10.
4. 傳田健三：大会長講演「若者のうつと自殺に傾く心理—その実態と対策について—」. 第30回日本精神衛生学会総会，札幌，2014.11.
5. 傳田健三：パネルディスカッション「若者の現在，そしてこれから」. 第30回日本精神衛生学会，札幌，2014.11.
6. 傳田健三：シンポジウム「DMDDと青年成人期の精神疾患」. 第34回日本精神科診断学会，松山，2014.11.

[地方会]

1. 傳田健三：特別講演「子どもの気分障害の診断と治療について—発達障害の視点から—」，みやぎ児童思春期医療研究会，仙台市，2014.9.
2. 傳田健三：特別講演「子どもの発達障害の見立て」，北海道精神神経学会学術研修会，小児精神医療札幌研修会，札幌市，2014.10.
3. 傳田健三：特別講演「若者のうつ—発達障害の視点から—」，平成26年度北海道作業療法士会現職者選抜研修会，札幌市，2014.11.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Sawamura D, Ikoma K, Yoshida K, Inagaki Y, Ogawa K, Sakai S: Active inhibition for task-irrelevant sound in patients with attention deficits after traumatic brain injury: An fNIRS study. 30th International Congress of Clinical Neurophysiology. Berlin, Germany, 2014.3.
2. Fujikawa K, Inoue K, Koshiyama T, Yamagishi R, Aihara M: Characterization of CFP-expressed Vav2-deficient mice with spontaneous IOP elevation to evaluate pressure-dependent RGC death, 2014 ARVO, Orlando FL, USA, 2014.5.
3. Yoshida K, Sawamura D, Ogawa K, Ikoma K, Asakawa K, Yamauchi T, Sakai S: Flow experience during attentional training improves function: an exploratory case study two patients following traumatic brain injury. 9th Annual Brain Injury Rehabilitation Conference, San Diego, USA, 2014.5.
4. Yoshida K, Sawamura D, Inagaki Y, Ogawa K, Ikoma K, Sakai S: Brain activity during the flow experience: a functional near-infrared spectroscopy study. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
5. Sawamura D, Ikoma K, Ogawa K, Kakui Y, Hori K, Sakai S: Factors contributing to estimation of the

- possibility of working in patients with higher brain dysfunction: a case-control study using a logistic regression model. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
6. Yokoyama K, Tokusa H, Sakai S: A patient with apraxia who acquired eating behavior using crossmodal and monomodal sensory integration tasks. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 7. Ikeda A, Sakuraba S, Yoshida M, Hatta T, Sakai S: Visual severity scale for patients with severe motor and intellectual disabilities and cerebral visual impairment: reliability and validity. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 8. Murata W, Takehara S, Higashino G & Shoji T: Content analysis of newspaper articles regarding the Great East Japan Earthquake from the perspective of Occupational Therapy. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 9. Shoji T, Murata W, Asano Y, Oshima K & Yun Shan: The current state of supports by the interdisciplinary team in palliative care. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 10. Higashino G, Murata W, Shoji T & Yun Shan: Development of the Future Time Perspective Program for the promotion of the health of community. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 11. Numata H, Murata W, Miyao K, Tiba Y, Arima Y: Effectiveness of occupational therapy promoting task performance. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 12. Numata H, Murata W: potential of visiting occupational therapy focusing on tasks for homebound elderly. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 13. Asano Y, Shoji T, Oshima K Yun Shan & Murata W: Meaning of "turn and whereabouts" in the social participation of elderly. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.
 14. Hatta T, Kishigami T, Gouda H: Possible changes in the sitting position of stroke patients- An analysis of the dynamic relationship between sitting position and chair design. WFOT, Yokohama, 2014.6.
 15. Kishigami H, Asahi M: The situation of the community based occupational therapy to elderly people in Japan, WFOT, 2014.6.
 16. Ukita A, Horoya H, Abe M, Kishigami H, Hatta T: Small adjustments in footrest length affect wheelchair seated pressure. 31th International Seating Symposium. 2015.3
 17. Asahi M, Kishigami H: The Thinking Process of Handicapped Elderly Persons Who Negatively View Day Care Services, WFOT, 2014.6.
 18. Sawada N, Hatta T, Kishigami H: The relationship between change of temporal sitting posture and muscle fatigue. Yokohama, WFOT, 2014.6.
 19. Denda K, Ohmiya H, Inoue T, Miyajima M: Field survey of Depressive symptoms, manic symptoms and autistic tendencies among elementary, junior and senior high school students in Japan. XVI World

V. 研究活動

Congress of Psychiatry, Madrid, Spain, 2014.9.

20. Ohmiya H, Yamashita K, Miyata T, Hatakeyama Y, Yambe K, Matsumoto I, Matsui M, Toyomaki A, Miyajima M, Denda K: A practical study on cognitive remediation therapy (CRT) using the frontal/executive program (FEP) for patients with schizophrenia, Madrid, Spain, 2014.9.

[国内学会]

1. 伊藤文人, 藤井俊勝, 阿部修士, 川崎伊織, 林亜希子, 上野彩, 吉田一生, 境 信哉, 麦倉俊司, 高橋昭喜, 森悦朗: 性差と加齢がもたらす他者の顔に対する価値表象に関わる神経基盤への影響. 第16回日本ヒト脳機能マッピング学会, 仙台, 2014.3.
2. 藤川恵子, 井上 馨, 越山隆恵, 山岸麗子, 相原 一: Vav2 欠損 CFP 発現遺伝子改変マウスを用いた眼圧の影響と RGC 障害の解析, 第118回日本眼科学会, 東京, 2014.4.
3. 浮田徳樹, 阿部正之, 二階堂雅元, 有澤克晃, 岸上博俊, 八田達夫: バックサポート形状の違いが片麻痺患者の車いす座位姿勢に与える影響. 第29回リハビリテーション工学カンファレンス, 広島, 2014.8.
4. 大坂麻美, 岸上博俊, 八田達夫: 最も平均圧力の低いウレタンフォームの組み合わせと ABS (アクティブバランスシーティング) 仕様車椅子の背形状の効果. 第29回リハビリテーション工学カンファレンス, 広島, 2014.8.
5. 清水麻衣子, 八田達夫, 岸上博俊: 椅子の機能と構造を反映する主観評価表の試作～予備的研究～ 第29回リハビリテーション工学カンファレンス, 広島, 2014.8.
6. 岸上博俊, 八田達夫, 浮田徳樹: 骨盤サポートつき車いすの臨床評価の一例. 第29回リハビリテーション工学カンファレンス, 広島, 2014.8.
7. 大島亨介, 村田和香, 雲杉, 吉良千里, 齊藤耕子: 高齢者が学習を継続していくための要因. 日本精神衛生学会, 札幌, 2014.11.
8. 吉良千里, 村田和香, 大島亨介, 雲杉, 齊藤耕子: ケア提供者の認知症周辺症状への介入とその目的. 日本精神衛生学会, 札幌, 2014.11.
9. 大澤茉莉恵, 安井勇輔, 井上貴雄, 傳田健三: 自殺予防としてのうつスクリーニングー北海道千歳市での取り組みからー, 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.
10. 佐藤祐基, 傳田健三, 石川 丹: 児童・青年期のうつ病性障害の comorbidity と自殺念慮に関する臨床的研究, 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.
11. 安井勇輔, 四日谷利子, 傳田健三: うつ病により休職した地方公務員に対する職場復帰支援プログラムの検討, 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.
12. 宮島真貴, 大宮秀淑, 宮田友樹, 山下聖子, 山家研司, 傳田健三: 統合失調症と広汎性発達障害患者における認知機能の比較. 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.
13. 井上貴雄, 船越俊一, 大宮秀淑, 安井勇輔, 傳田健三: 東日本大震災後の高校生による心理状態の変化ー心理的支援による1年後の変化からー. 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.
14. 遠藤咲子, 柴山智枝, 青木華那, 岡林敦子, 田中雅子, 本間睦美, 大澤茉莉恵, 安井勇輔, 傳田健三: 千歳市における自殺予防対策ーうつスクリーニングと保健師による支援ー. 第30回日本精神衛生学会, 札幌市, 2014.11.

V. 研究活動

[地方会]

1. 井上貴雄, 傳田健三: 児童青年期の抑うつ症状, 躁症状, および自閉傾向に関する疫学的研究. 第38回北海道児童青年精神保健学会, 札幌市, 2014.2.
2. 中井麻梨子, 八田達夫, 岸上博俊: 骨盤サポート付き車椅子が頭頸部に及ぼす影響. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
3. 土屋 語, 佐村淳知, 八田達夫, 岸上博俊, 戸田真弘: 夕張における期間を決めた訪問リハビリの取り組み第1報. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
4. 戸田真弘, 佐村淳知, 八田達夫, 岸上博俊, 土屋 語: 夕張における期間を決めた訪問リハビリの取り組み第2報. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
5. 浮田徳樹, 袈屋美佳, 阿部正之, 岸上博俊, 八田達夫: 車いすフットレスト長が座面圧に与える影響. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
6. 吉良千里, 村田和香, 大島亨介, 雲杉, 齊藤耕子: 認知症の周辺症状に対する介入法の文献研究. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
7. 雲杉, 村田和香, 大島亨介, 吉良千里, 齊藤耕子: 慢性疾患日垂売る自己管理介入プログラムの効果. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.
8. 本家寿洋, 沼田士嗣, 村田和香: 人間作業モデル事例検討会. ワークショップ. 第45回北海道作業療法学会, 札幌, 2014.10.

■業績 (平成 27 年度)

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Yoshida K, Sawamura D, Ogawa K, Ikoma K, Asakawa K, Yamauchi T, Sakai S: Flow experience during attentional training improves function: an exploratory case study. *Hong Kong Journal of Occupational Therapy* 24:81-87, 2015. (IF 0.652)
2. Ito A, Abe N, Kawachi Y, Kawasaki I, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Matsue Y, Fujii T: Distinct neural correlates of the preference-related valuation of supraliminally and subliminally presented faces. *Human Brain Mapping* 36(8): 2865-77, 2015. (IF 6.926)
3. Sawada N, Hatta T, Kishigami H, Shimizu M, Yoda T, Goda H: The effect of a newly developed wheelchair with thoracic and pelvic support on cervical movement and muscle activity in healthy elderly women. *Eurogeriatrics* 6: 286-290, 2015. (IF 0.733)
4. Ukita A, Nishimura S, Kishigami H, Hatta T: Backrest shape affects head-neck alignment and seated pressure. *Journal of Health Engineering* 6:179-192, 2015. (IF 0.755)
5. Goda H, Hatta T, Kishigami H, Suzuki A, Ikeda T: Does a Novel-Developed Product of Wheelchair Incorporating Pelvic Support Prevent Forward Head Posture during Prolonged Sitting? *PLOS ONE* 10(11): e0142617, 2015. (IF 3.234)
6. Takashima R, Murata W, Saeki K: Movement changes due to hemiplegia in stroke survivors: a hermeneutic phenomenological study. *Disability and Rehabilitation*, DOI: 10.3109/09638288.2015.1107629, 2016. (IF 1.985)
7. Kawasaki I, Ito A, Fujii T, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Mugikura S, Takahashi S, Mori E: Differential activation of the ventromedial prefrontal cortex between male and female givers of social reputation. *Neuroscience Research* 103: 27-33, 2016. (IF 1.937)
8. Colley N, Asaka T, Sakai S, Nagata Y, Shimizu H, Honda C, Sasaki T, Nishioka T: Differences in Visual Attention between Novice and Expert Nurses Performing Endotracheal Suctioning (ES): A Simulation Study. *Therapeutics & Engineering* 27: 2015.
9. Omiya H, Yamashita K, Miyata T, Hatakeyama Y, Miyajima M, Yambe K, Matsumoto I, Matsui M, Toyomaki A, Denda K: Pilot study of the effects of cognitive remediation therapy using the frontal/executive program for treating chronic schizophrenia. *The Open Psychology Journal*, (in press)
10. 八田達夫, 岸上博俊, 合田央志, 澤田紀子: ABS 車いすは片麻痺患者の座位姿勢を改善するか? 予備的研究. *リハビリテーション・エンジニアリング* 30: 28-31, 2015.
11. 傳田健三: 児童・思春期のうつ病ー発達障害の視点からー. *分子精神医学*, 15(2): 145-148, 2015.
12. 傳田健三: 児童・青年期における不安障害とうつ病ー発達障害の視点からー. *MEDICAMENT NEWS*, 2195: 4-6, 2015.
13. 井上貴雄, 船越俊一, 本多奈美, 傳田健三: 高校生に対する震災後の抑うつおよび自殺予防について. *児童青年精神医学とその近接領域*, 56(2): 199-208, 2015.
14. 傳田健三: 若者のうつと自殺に傾く心理ーその実態と対策についてー. *こころの健康*, 59(1): 2-8, 2015.

V. 研究活動

15. 遠藤咲子, 柴山智枝, 青木華那, 岡林敦子, 田中雅子, 本間睦美, 大澤茉莉恵, 安井勇輔, 傳田健三: 千歳市における自殺予防対策—うつスクリーニングと保健師による支援—. こころの健康, 30(1): 17-21, 2015.
16. 宮島真貴, 大宮秀淑, 山下聖子, 松井三枝, 山家研司, 傳田健三: 前頭葉/実行機能プログラムが有効であった成人期自閉スペクトラム症の1例. 最新精神医学 20: 169-175, 2015.
17. 傳田健三: 重篤気分調節症 (DMDD) とはどんな病態か. 精神科診断学, 8(1): 64-69, 2015.
18. 安井勇輔, 四日谷利子, 傳田健三: うつ病により休職した地方公務員に対する職場復帰支援プログラムの検討. 臨床精神医学 44: 437-444, 2015.
19. 宮島真貴, 大宮秀淑, 山下聖子, 松井三枝, 山家研司, 傳田健三: 前頭葉/実行機能プログラムが有効であった成人期自閉スペクトラム症の1例. 最新精神医学 20: 169-175, 2015.
20. 傳田健三: うつ病の子どもへの精神療法的アプローチ. 児童青年精神医学とその近接領域, 56: 54-63, 2015.
21. 傳田健三: 若者のうつ—「新型うつ病」とは何か, どのように対応するか—. 日本未病システム学会雑誌, 22(1): 20-24, 2016.
22. 傳田健三: 子どもの摂食障害の現状. 教育と医学, 64(3): 184-194, 2016.
23. 谷本健治, 岸上博俊: 筋萎縮性側索硬化症患者への不安に配慮した環境調整. 北海道作業療法 32, 172-176, 2016.
24. 工藤梨紗, 沼田士嗣, 村田和香: 意味のある作業への支援が役割獲得をもたらし習慣の変化に至った一症例. 作業療法 34: 473-480, 2015.
25. 湯浅充, 村田和香: 生活の場における作業従事が認知症高齢者の社会参加に結びついた一事例. 北海道作業療法 33: 36 - 41, 2016.

B. 著書

1. 傳田健三 (分担): 子どもに対する非言語的精神療法. 子どもの精神医学入門セミナー (傳田健三・氏家武・齋藤卓弥編著). pp159-183, 岩崎学術出版社, 東京, 2015.
2. 傳田健三 (分担): 子どもの精神医学入門—発達精神病理学の視点から. 子どもの精神医学入門セミナー (傳田健三・氏家武・齋藤卓弥編著). pp11-33, 岩崎学術出版社, 東京, 2015.
3. 武山雅代, 山田孝, 村田和香, 小林法一 (共著): 在宅に復帰した超高齢女性からみた回復期リハビリテーション病棟での作業療法の意味. 事例でわかる人間作業モデル. 28 - 38, 協同医書出版社, 東京, 2015.
4. 井上 馨: 人間科学の百科事典, 日本生理人類学会編, 丸善出版, 東京, (分担: 井上馨「QOLとADL」, 「神経系」), 2015.
5. 井上 馨: 解剖学 (第4版) 野村巖編集, 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野, 奈良勲, 鎌倉矩子シリーズ監修, 医学書院, 東京, (分担: 井上馨, 「第6章 感覚器系」: 327-337, 「第7章 循環器系」 339-361), 2015.

C. 総説, 解説, 論評

1. 河野仁志:人間らしく接すること―「ユマニチュード」の紹介. 13-19,北海道経済,北海道経済研究所.札幌, 2015.
2. 河野仁志:「地獄」への出頭とは. 10-11,かっこう,札幌市精神障害者家族連合会.札幌, 2015.
3. 河野仁志:「同情の鎖」につながれた人たち. 10-11,かっこう,札幌市精神障害者家族連合会.札幌, 2015.
4. 村田和香:わかりやすい論文を書くために―文献の読み方使い方―「学会発表から論文へ」.作業療法 35:4-10, 2016.

D. 報告書

1. 傳田健三(分担):児童・思春期うつ病の薬物治療ガイドライン作成に関する研究,研究事業:長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成と普及),2015.

E. その他

[学会研究会の主催]

1. 傳田健三:第39回北海道児童青年精神保健学会,札幌,2015.
2. 傳田健三:第40回北海道児童青年精神保健学会,札幌,2016.

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Hatta H: Development of a new wheelchair component to improve seated posture of elderly individuals. The Second FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.

[国内学会]

1. 傳田健三:教育講演:「子どものうつ病」再考. 第56回児童青年精神医学会,横浜,2015.10.

[地方会]

1. 傳田健三:特別講演「児童思春期のうつ病について―発達障害の視点から―」,苫小牧うつ病治療研究会,苫小牧市,2015.2.
2. 傳田健三:特別講演「児童思春期のうつ病―発達障害の視点から」,第7回愛宕小児神経精神研究会,東京都港区,2015.3.
3. 八田達夫,岸上博俊:超高齢化社会へ向けた車いすデザインの提案.北海道大学大学院保健科学研究院公開講座2015,2015.11.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ukita A, Horoya H, Abe M, Kishigami H, Hatta T: Small adjustments in footrest length affect wheelchair

V. 研究活動

- seated pressure. 31th International Seating Symposium, Nashville, USA, 2015.2.
2. Fujikawa K, Inoue K, Koshiyama T, Yamagishi R, Aihara M: Characterization of RGC death in Rho-GTPases activating proteins Vav proteins, deficient mice. 2015 ARVO, Denver USA, 2015.5.
 3. Fujikawa K, Inoue K, Koshiyama T, Yamagishi R, Aihara M: Investigation of Rho GTPases activating proteins, Vav2 and Vav3 involvement in RGC death. 2015 WGC, Hong Kong, China, 2015.6.
 4. Sawamura D, Ikoma K, Sugimori H, Inagaki Y, Ogawa K, Yoshida K, Abiko K, Sakai S: Neurological basis of impaired associated with persistent deficits after TBI. Organization for Human Brain Mapping, Honolulu, USA, 2015.6.
 5. Murakami Y, Sakai S, Liu Q, Chitose R, Pihko E, Hari R, Yokosawa K: Does the suppression of tau-rhythm reflect the emotional valence of sounds? The 2nd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2015.7.
 6. Hatta H: Development of a new wheelchair component to improve seated posture of elderly individuals. The Second FHS International Conference, Sapporo, 2015.7.
 7. Denda K, Miyajima M, Arai K: A clinical study of eating disorders in childhood and adolescence from the viewpoints of mood and developmental disorders. 23rd World Congress on Psychosomatic Medicine, Glasgow, UK, 2015.8.
 8. Kim K, Hirayama K, Yano R, Otsuki M, Sakuraba S, Yoshida K, Murakami Y, Sakai S: Effects of exposure to blue light on susceptibility to motion sickness. The 1st Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation, Seoul, Korea, 2015.9.
 9. Hatta H, Nishimura S, Kishigami H, Fujimoto K, Sato K: New Wheelchair Accessory Prevents a Hunched Forward Head Posture While Seated. 32nd International Seating Symposium, Vancouver, Canada, 2016.3.

[国内学会]

1. 藤川恵子, 井上 馨, 越山隆恵, 山岸麗子, 相原 一: Rho GTPase 活性化分子 Vav2,3 欠損マウスにみられる RGC 障害の検討, 第 119 回日本眼科学会, 札幌, 2015. 4.
2. 吉良千里, 村田和香, 大島亨介, 雲杉, 齊藤耕子: クライエントの感情に焦点を当てた環境評価. 第 49 回日本作業療法学会, 神戸市, 2015.6.
3. 大島亨介, 村田和香, 雲杉, 吉良千里, 齊藤耕子: 高齢者が学習を続けていくことが出来ると判断した理由. 第 49 回日本作業療法学会, 神戸市, 2015.
4. 齊藤耕子, 村田和香, 大島亨介, 雲杉, 吉良千里: 地域在住の虚弱高齢者を対象とした介入プログラムに関する文献研究. 第 49 回日本作業療法学会, 神戸市, 2015.6
5. 雲杉, 村田和香, 大島亨介, 吉良千里, 齊藤耕子: 中国フフホト市大学退職者の生活変化に関する調査. 日本老年社会科学会第 57 回大会, 横浜市, 2015.6.
6. 岸上博俊, 八田達夫: 片麻痺患者の車椅子姿勢の違いによる呼吸機能への影響. 第 30 回日本リハビリテーション工学カンファレンス. 2015.11.
7. 合田央志, 八田達夫, 岸上博俊: 高齢障害者の頭頸部のアライメントと上肢の屈曲運動に対する骨盤サポート付き車いすの効果. 第 30 回日本リハビリテーション工学カンファレンス. 2015.11
8. 依田泰知, 八田達夫, 岸上博俊: 重症心身障害児へのシーティング介入効果に関する事例研究. 第 30 回日本リハビリテーション工学カンファレンス. 2015.11

V. 研究活動

9. 土屋 語, 高木健太郎, 八田達夫, 岸上博俊: 夕張における期間を決めた訪問リハビリの取り組み. 第 49 回日本作業療法学会. 2015.6
10. 谷本健治, 岸上博俊, 鎌田康広: ALS 患者への家族とのメールを活用したコミュニケーション手段. 第 49 回日本作業療法学会. 2015.6
11. 小名 忍, 岸上博俊: 病前の趣味を軸とすることで社会参加への手がかりとなった一事例. 第 49 回日本作業療法学会. 2015.6
12. 合田央志, 八田達夫, 岸上博俊, 鈴木綾華: 高齢障害者の頭頸部のアライメントと上肢の屈曲運動に対する骨盤サポート付き車いすの効果. 第 30 回リハビリテーション工学カンファレンス, 沖縄, 2015.11.
13. 依田泰知, 八田達夫, 岸上博俊, 西村重男: 重症心身障害児へのシーティング介入効果に関する事例研究. 第 30 回リハビリテーション工学カンファレンス, 沖縄, 2015.11.
14. 岸上博俊, 八田達夫: 片麻痺患者の車椅子姿勢の違いによる呼吸機能への影響. 第 30 回日本リハビリテーション工学カンファレンス, 沖縄, 2015.11.
15. 池田 歩, 境 信哉: 大脳性視覚障害重症度評価スケール を通じた介入により 視覚反応に改善を示した重障者例. 第 41 回日本重症心身障害学会, 東京, 2015. 9.
16. 金 京室, 平山和美, 矢野理香, 大槻美佳, 桜庭 聡, 吉田一生, 村上優衣, 境 信哉: 短波長光が motion sickness に及ぼす影響. 日本生理人類学会第 72 回大会, 札幌, 2015.5
17. 吉田一生, 澤村大輔, 稲垣侑士, 小川圭太, 生駒一憲, 境 信哉: Flow 時の脳活動: 近赤外線分光法を用いた検討. 日本生理人類学会第 72 回大会, 札幌, 2015.5.
18. 浮田徳樹, 吉田圭介, 小野大輔, 阿部正之, 岸上博俊, 八田達夫: なぜ座るだけで泣いていたのか? - 車いすシーティング困難症例と圧力マッピング. 回復期リハビリテーション病院協会第 27 回研究大会, 2016.3.

[地方会]

1. 塩田麻有, 村田和香, 尾崎慎, 古川あゆみ: 家族の働きかけにより自宅退院となった主婦の一例. 第 46 回北海道作業療法学会, 札幌市, 2015.10.
2. 関明日香, 村田和香: 退院後に作業参加の拡大が認められた高齢女性の事例. 第 46 回北海道作業療法学会, 札幌市, 2015.10.
3. 本家寿洋, 沼田土嗣, 村田和香: 人間作業モデル事例検討会. ワークショップ. 第 46 回北海道作業療法学会, 札幌市, 2015.10.
4. 戸田真弘, 八田達夫, 岸上博俊, 土屋 語: 期間を定めた訪問リハとデイケア利用で活動性が向上した一例. 第 46 回北海道作業療法学会. 2015.10.
5. 八田達夫, 岸上博俊: 超高齢化社会へ向けた車いすデザインの提案. 北海道大学大学院保健科学研究院公開講座 2015, 2015.11.

■業績 (平成 25 年度)

健康科学分野

A. 学術論文

1. Hui SP, Sakurai T, Takeda S, Jin S, Fuda H, Kurosawa T, Chiba H: Analysis of triacylglycerol hydroperoxides in human lipoproteins by Orbitrap mass spectrometer. *Anal Bioanal Chem* 405(14):4981-4987, 2013.
2. Takeda S, Ohkawa F, Hui SP, Sakurai T, Jin S, Fuda H, Sueoka K, Chiba H: Evaluation of oxidized low-density lipoproteins using Kelvin Force microscopy. *IEEE Sens J* 13:3449-3453, 2013.
3. Sakurai T, Wada N, Takahashi Y, Ichikawa A, Ikuta A, Furumaki H, Hui SP, Jin S, Takeda S, Fuda H, Fujikawa M, Shimizu C, Nagasaka H, Furukawa H, Kobayashi S, Chiba H: Immunological detection of large and oxidized lipoproteins in hypertriglyceridemic sera. *Ann Clin Biochem* 50(5):465-472, 2013.
4. Jin S, Wada N, Takahashi Y, Hui SP, Sakurai T, Fuda H, Takeda S, Fujikawa M, Yanagisawa K, Ikegawa S, Kurosawa T, Chiba H: Quantification of urinary 18-hydroxycortisol using LC-MS/MS. *Ann Clin Biochem* 50(5):450-456, 2013.
5. Sakurai T, Takeda S, Takahashi J, Takahashi Y, Wada N, Trirongjitmoan S, Namita T, Shigeki J, Ikuta A, Furumaki H, Hui SP, Fuda H, Fujikawa M, Shimizu K, Chiba H: Measurement of single low-density lipoprotein particles by atomic force microscopy. *Ann Clin Biochem* 50(6):564-570, 2013.
6. Omatsu M, Obata T, Minowa K, Yokosawa K, Inagaki E, Ishizaka K, Shibayama K, Yamamoto T: Magnetic displacement force and torque on dental keepers in the static magnetic field of a magnetic resonance scanner. *J Magn Reson Imaging (online) Technical note*, 2013.
7. Kuriki S, Yokosawa K, Takahashi M: Neural representation of scale illusion: magnetoencephalographic study on the auditory illusion induced by distinctive Tone sequences in the two ears. *PLoS ONE* 8: e75990, 2013.
8. Yokosawa K, Pamilo S, Hirvenkari L, Hari R, Pihko E: Activation of auditory cortex by anticipating and hearing emotional sounds: an MEG study. *PLoS ONE* 8: e80284, 2013.
9. Yokosawa K, Watanabe T, Kukuzawa D, Aoyama G, Takahashi M, Kuriki S: Amplitude modulation of alpha-band rhythm caused by mimic collision: MEG study. *Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC)* 6187-6190, 2013.
10. Sakuraba S, Kobayashi H, Sakai S, Yokosawa K: Alpha-band rhythm modulation under the condition of subliminal face presentation: MEG study. *Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC)*: 6909-6912, 2013.
11. Sikder Md T, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: River pollution in developed and developing countries: comparison of physicochemical characteristics and heavy metals. *CLEAN-Soil Air Water* 41: 60-68, 2013.
12. Sikder Md T, Kikuchi T, Suzuki J, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: Removal of cadmium and chromium ions using modified α , β , and γ -cyclodextrin polymers. *Separation Science and Technology* 48:4 587-597, 2013.
13. Sun Y, Mukai Y, Tanaka M, Saito T, Sato S, Kurasaki M: Green tea extract increases mRNA expression of

- enzymes which influence epigenetic marks in newborn female offspring from undernourished pregnant mother. PLoS ONE 8: e74559, 2013.
14. Miyajima, M, Minoshima, M, Tanaka, M, Nishimura, R, Hishioka, N, Numata, T., Hosokawa, T, Kurasaki, M, Saito T: Increase in tetrahydrobiopterin concentration with aging in the cerebral cortex of the senescence-accelerated mouse prone 10 strain caused by abnormal regulation of tetrahydrobiopterin biosynthesis. Biogerontology 14:491-501, 2013.
 15. Sun Y, Guo Z, Iku S, Saito T, Kurasaki M: Diethyl phthalate enhances expression of SIRT1, DNMT3a and DNMT3b during apoptosis in PC12 Cells. Journal of Applied Toxicology 33: 1484-1492, 2013.
 16. Araseki M, Yokooka Y, Ishikawa T, Ogasawara K. The number of Japanese radiologic technologists will be increased in 40 years. Radiological Physics and Technology 6(2): 467-473, 2012. (※平成24年度記載漏れ)
 17. Ishikawa T, Ohba H, Yokooka Y, Nakamura K, Ogasawara K. Forecasting the absolute and relative shortage of physicians in Japan using a system dynamics model approach. Human Resources for Health 11:41, 2013.
 18. Iwata K, Nakagawa S, Ogasawara K. The prognostic value of normal stress cardiovascular magnetic resonance imaging -A systematic review and meta-analysis-. Journal of Computer Assisted Tomography 38:36-43, 2013.
 19. Yoshida K, Asakawa K, Yamauchi T, Sakuraba S, Sawamura D, Murakami Y, Sakai S: The flow state scale for occupational tasks: Development, reliability, and validity. Hong Kong Journal of Occupational Therapy 23:54-61, 2013.
 20. Yamauchi T, Sato H, Kawamura K: Nutritional status and physical fitness of Pygmy hunter-gatherers living in the African rainforests. African Study Monographs 47: S25-S34, 2014.
 21. Sato H, Hayashi K, Inai H, Yamaguchi R, Kawamura K, Yamauchi T: A controlled foraging trip in a communal forest of southeastern Cameroon. African Study Monographs 47: S5-S24, 2014.
 22. Hagino I, Sato H, Yamauchi T: The demographic characteristics and nutritional status for a hunter-gatherer society with social transitions in southeastern Cameroon. African Study Monographs 47: S45-S57, 2014.
 23. Kawamura K, Yamauchi T, Hayashi K, Sato H: Blood pressure of Baka Pygmies living in southeastern Cameroon. African Study Monographs 47: S35-S44, 2014.
 24. 角屋智香, 竹下悠哉, 栗城眞也, 横澤宏一: 音楽的旋律の期待に伴う聴覚性定常応答の変調. 電子情報通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report 113: 203-208, 2014.
 25. 桑原智美, 寺下貴美, 石川智基, 小笠原克彦: 北海道における小児の医療施設へのアクセスの不平等性評価の試み. 北海道公衆衛生学会雑誌 26: 75-79, 2013.

B. 著書

1. Ogasawara K, Asaka R, Sase Y, Ishikawa T, Fujimori K: Analysis of hospital function for neuronal and circulatory disease in secondary medical service area in Hokkaido. Globalism and Regional Economy (Ed: Susumu Egashira). pp 195-207. Routledge (NY), 2013.
2. 千葉仁志, 恵 淑萍: 医用質量分析ガイド 内分泌・代謝疾患, 診断と治療. 108-114, 診断と治療社, 東京,

2013.

3. 小笠原克彦：新版医療情報第2版 情報処理技術編（編集責任者）（編集：日本医療情報学会医療情報技師育成部会）。篠原出版新社（東京），2013.

C. 総説，解説，論評

1. Yamauchi T, Saka K, Nakazawa M, Pitakaka F, Hagihara J, Kawabe T: Assessment of obesity in urban youth in the Solomon Islands: evaluation of obesity indices as alternatives for body fat percentage. Congress Proceedings. 11th International Congress of Physiological Anthropology, 2013.
2. Hagihara J, Nakazawa M, Yamauchi T, Ishimori D, Kawabe T: Nutritional status of the urban residents at Solomon Islands from the aspect of the bone density. Congress Proceedings. 11th International Congress of Physiological Anthropology, 2013.
3. Hagino I and Yamauchi T: Gender-age difference in daily time-space use and activity pattern of African rainforest forager's children in Cameroon. Conference Proceedings. 10th International Conference on Hunter-Gatherer Society, 2013.
4. Yamauchi T, Hagino I, Kawamura K, Sato H: Height growth spurt and nutritional status of Pygmy hunter-gatherers' children in Cameroon. Conference Proceedings. 10th International Conference on Hunter-Gatherer Society, 2013.
5. Mitsunaga A, Kozai H, Yamauchi T: Assessment of diet and nutritional intake of rural children living in the semi-arid regions of Zambia, sub-Saharan Africa. The 28th Japan Association for International Health Congress, Programs and Proceedings, Design and act together for global health, p.74, 2013.
6. Hagino I, Yamauchi T: Population structure and fertility of African rainforest hunter-gatherers: Baka in southeast Cameroon. The 28th Japan Association for International Health Congress, Programs and Proceedings, Design and act together for global health, p.78, 2013.
7. Hasegawa J, Yamauchi T: Local health surveillance assistants' awareness of people with disabilities in Malawi. The 28th Japan Association for International Health Congress, Programs and Proceedings, Design and act together for global health, p.75, 2013.
8. Hagihara J, Nakazawa M, Yamauchi T, Ishimori D, Nakayama Y, Kawabe T: Nutritional status from the aspect of the bone density in residents living at Asia-Pacific area. The 28th Japan Association for International Health Congress, Programs and Proceedings, Design and act together for global health, p.101, 2013.
9. 千葉仁志，恵 淑萍，武田晴治：脂質酸化の新しい評価系の開発 未病の理解と予防を目指して（解説）。日本未病システム学会雑誌 19:53-59, 2013.
10. 西本尚樹，小笠原克彦，伊藤陽一：教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -5. 2群の比較 (2). 日本放射線技術学会雑誌 69(2): 208-216, 2013.
11. 大場久照，西本尚樹，小笠原克彦，伊藤陽一：教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -6. 2群の比較 (3). 日本放射線技術学会雑誌 69(4): 434-441, 2013.
12. 谷川原綾子，西本尚樹，小笠原克彦，伊藤陽一：教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -7. 2群の比較 (4). 日本放射線技術学会雑誌 69(5): 568-574, 2013.
13. 西本尚樹，小笠原克彦，伊藤陽一：教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -8. 多群の比較 (1). 日本放

V. 研究活動

放射線技術学会雑誌 69(6): 679-688, 2013.

14. 西本尚樹, 小笠原克彦, 伊藤陽一: 教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -9. 多群の比較 (2). 日本放射線技術学会雑誌 69(7): 806-815, 2013.
15. 谷川琢海, 西本尚樹, 小笠原克彦, 伊藤陽一: 教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -10. 多群の比較 (3)- ノンパラメトリック検定. 日本放射線技術学会雑誌 69(8): 885-894, 2013.
16. 西本尚樹, 小笠原克彦, 伊藤陽一: 教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -11. 信頼性の解析 (κ 係数と ICC). 日本放射線技術学会雑誌 69(11): 1320-1330, 2013.
17. 谷 祐児, 大場久照, 西本尚樹, 小笠原克彦, 伊藤陽一: 教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 -12. サンプルサイズ. 日本放射線技術学会雑誌 69(12): 1436-1443, 2013.
18. 小笠原克彦: 未病社会における ICT の活用 - 地域社会における ICT の活用と問題点. 未病と抗老化 22: 19-22, 2013.
19. 伊藤早織, 山内太郎, 佐藤弘明: アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の基礎代謝量. 民族衛生, 79, 92-93, 2013.
20. 山村凌大, 山内太郎, 安藤啓司, 宇佐美眞, 中澤 港: 日本人の健康情報に対する関心: WHO 疫学週報トピックスの利用状況解析. 民族衛生, 79, 104-105, 2013.
21. 郝 明, 韓 威, 山内太郎: 中国東北部における乳幼児の生後 3 ヶ月までの栄養方法と 3 歳までの身体発育. 民族衛生, 79, 116-117, 2013.
22. 満永有美, 香西はな, 山内太郎: ザンビア共和国の半乾燥地域農村部に居住する子どもの食事と栄養摂取. 第 28 回国際保健医療学会学術大会抄録集, P228, 2013.
23. 萩野 泉, 山内太郎: カメルーン共和国南東部における狩猟採集民 Baka の人口構造と出生力. 第 28 回国際保健医療学会学術大会抄録集, P232, 2013.
24. 長谷川純子, 山内太郎: マラウイ共和国における保健従事者の障がい者に対する意識調査. 第 28 回国際保健医療学会学術大会抄録集, P229, 2013.
25. 萩原 潤, 中澤 港, 山内太郎, 石森大知, 中山優子, 河辺俊雄: アジア - 環太平洋地域住民の骨密度から見る栄養状態. 第 28 回国際保健医療学会学術大会抄録集, P255, 2013.

D. 報告書

1. 山内太郎: ネアンデルタールのライフステージと栄養生態: サピエンスとの学習能力差の基盤の解明. ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究. 第 7 回研究報告書. 青木健一 (編). 52-53, 2013.

E. その他

[受賞]

1. 山内太郎: サステナビリティウィーク 2013 学生ポスターコンテスト第 1 回国際大会, 最優秀賞. Towards the Realization of Community Based Rehabilitation in Malawi.
2. 山内太郎: サステナビリティウィーク 2013 学生ポスターコンテスト総長賞 (最優秀賞). Dietary patterns and energy intake of rural population in Zambia.

V. 研究活動

[学会研究会の主催]

1. 小笠原克彦：第 69 回日本放射線技術学会北海道部会春季学術大会 (札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2013. 4. 20-21.
2. 小笠原克彦：第 69 回日本放射線技術学会北海道部会秋季学術大会 (大雪クリスタルホール, 旭川市), 2013. 11. 9-10.
3. 山内太郎：4th Lusaka Resilience Workshop: Towards Comprehensive Food Security: Bridging Climate Resilience and Disaster Resilience. Kariba Room, Golfview Hotel, Lusaka, Zambia, 2013. 8. 29.
4. 山内太郎：First FHS International Conference: Evolving Health Sciences in Asia. Clinical Medicine Lecture Building, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 2013. 7. 5.
5. 山内太郎：新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇」研究会, 小樽, 2013. 7. 13-14.

[特許]

国内 (出願)：1 件

国際 (出願)：1 件 (米国)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Wada N, Jin S, Hui S-P, Kurosawa T, Chiba H: Serum and urine 18-hydroxycortisol measured by LC-MS/MS in the diagnosis of primary aldosteronism and its subtypes. International Symposium of Aldosterone and Related Substances in Hypertension 2013 (ISARSH2013), Sendai, 2013. 4.
2. Yamauchi T, Mitsunaga A, Kubo H, Umetsu C: Nutritional status of rural children in sub-Saharan Africa: Secular changes in child growth in Southern Province, Zambia. 4th Lusaka Resilience Workshop: "Towards Comprehensive Food Security: Bridging Climate Resilience and Disaster Resilience" Venue: Kariba Room, Golfview Hotel, Lusaka, Zambia, 2013. 8.
3. Yokosawa K, Takahashi M, Kuriki S, Pihko E, Hari R: Brain functions associated with sociality measured by magnetoencephalography. The 7th East Asia Symposium on Superconductivity Electronics (EASSE), Taipei, Taiwan, 2013. 10. 23-26.
4. Yamauchi T, Uemura A, Mexitalia M: Influence of lifestyle change during Ramadan fasting on weight loss in Indonesian adolescents, Faculty of Public Health, Diponegoro University, Semarang, Indonesia, 2013. 12.
5. Yamauchi T: Research methods and case studies in Health and Human Ecology. Lecture exchange and scientific meeting "The role of rehabilitation on improving health and quality of life" Collaboration between Faculty of Health Sciences Hokkaido University – Dr. Kariadi Hospital – Faculty of Medicine Diponegoro University, Deponogoro University, Semarang, Indonesia, 2013. 12.
6. Yamauchi T: Introduction of Faculty/Graduate School/Department of Health Sciences, Hokkaido University, Deponogoro University, Semarang, Indonesia, 2013. 12.
7. Yamauchi T: Field research on nutritional adaptation of local populations in developing countries/ Nutritional Ecology of Tonga, Southern Zambia: Nutritional status, dietary intake and physical activity of

adults living in contrasting ecological zones, Hitotsubashi University, Tokyo, 2013. 12.

[国内学会]

1. 横澤宏一:「脳磁計(MEG)による社会性評価の可能性」"Possibility of detecting sociality as brain functions by means of magnetoencephalography". 科学研究費補助金 特別推進研究「神経ダイナミクスから社会的相互作用へ至る過程の理解と構築による構成的発達科学」研修会, 苫小牧, 2013. 7. 8.
2. 横澤宏一:「SQUID 磁束計の低雑音設計と生体磁場計測」. S-イノベ「スピン流」第1回ブレインストーミング, 松島, 2013. 7. 16.
3. 横澤宏一:「計測と解析の基礎」. 日本臨床脳磁図コンソーシアム 第1回教育研修セミナー, 札幌, 2013. 8. 26.
4. 和田典男, 神 繁樹, 恵 淑萍, 柳澤克之, 黒澤隆夫, 千葉仁志: シンポジウム2「ハイブリッドステロイド質量分析による原発性アルドステロン症の鑑別診断」. 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2013. 10.

[地方会]

1. 横澤宏一:「シーケンシャル短期記憶課題遂行中の脳活動の脳磁計(MEG)による評価」. 明治大学 ランチミーティング, 東京, 2013. 8. 26.
2. 小笠原克彦: 情報にだまされないための医療情報学. 稚内放射線技師会特別講演. 稚内市立図書館(稚内市). 2013. 5. 11.
3. 小笠原克彦: 放射線技師のための医学統計学入門. 釧路放射線技師会特別講演. 釧路市民文化会館(釧路市). 2013. 9. 13.
4. Yamauchi T: Human ecological fieldwork: methods and case studies, Special lecture for Graduate School Students, Kobe University, Kobe, 2013. 10.
5. 横澤宏一:「情動音やその予測に伴う脳活動のMEGによる評価」. 第11回脳科学研究教育センターシンポジウム, 札幌, 2013. 11. 29.
6. 小笠原克彦: 医療情報の管理について. 室蘭保健所看護管理者交流検討会特別講演. 胆振総合振興局(室蘭市). 2013. 12. 3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Hui SP, Hirano K, Shrestha R, Suzuki A, Yamaguchi S, Nagasaka H, Fukuzawa S, Chiba H: Analysis of triglycerides in skin fibroblast from TGCV by LC/MS. The 2nd International Symposium on Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy/Neutral Lipid Storage Disease, Osaka, 2013. 4.
2. Hagino I, Yamauchi T: Gender-age difference in daily time-space use and activity pattern of African rainforest forager's children in Cameroon. 10th International Conference on Hunter-Gatherer Society, Liverpool, UK, 2013. 6.
3. Yamauchi T, Hagino I, Kawamura K, Sato H: Height growth spurt and nutritional status of Pygmy hunter-gatherers' children in African rainforest. 10th International Conference on Hunter-Gatherer Society, Liverpool, UK, 2013. 6.

4. Yokosawa K, Watanabe T, Kukuzawa D, Aoyama G, Takahashi M, Kuriki S: Amplitude modulation of alpha-band rhythm caused by mimic collision: MEG study. 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. Osaka, 2013. 6. 3-7.
5. Sakuraba S, Kobayashi H, Sakai S, Yokosawa K: Alpha-band rhythm modulation under the condition of subliminal face presentation: MEG study. 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. Osaka, 2013. 6. 3-7.
6. Shrestha R, Hui SP, Sakurai T, Takahashi Y, Ohkawa F, Miyazaki R, Xiao N, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Qualitative determination of triacylglycerol hydroperoxide in VLDL, intermediate density lipoprotein and human plasma using Orbitrap mass spectrometer. 2013 AACC Annual Meeting, Houston, USA, 2013. 7.
7. Hui SP, Shrestha R, Sakurai T, Takahashi Y, Xiao N, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Detection and characterization of lipid hydroperoxides in human lipoproteins by LC/MS. 2013 AACC Annual Meeting, Houston, USA, 2013. 7.
8. Ogasawara K, Abe T: WTP (willingness to pay) for tele-health consultation service in Hokkaido, Japan. Medinfo 2013, Copenhagen, Denmark, 2013. 8.
9. Tamura N, Terashita T, Ogasawara K: A pilot study measuring changes in student impressions before and after clinical training using a questionnaire based on the semantic differential technique. Medinfo 2013, Copenhagen, Denmark, 2013. 8.
10. Tsuji S, Fukuda A, Yagahara A, Homma K, Nishimoto N, Uesugi M, Ogasawara K: An ontology design for visualizing implicit knowledge of the radiotherapy risk. Medinfo 2013, Copenhagen, Denmark, 2013. 8.
11. Yagahara A, Tsuji S, Fukuda A, Yokooka Y, Nishimoto N, Kurowarabi K, Ogasawara K: Constructing mammography examination process ontology using affinity diagram and hierarchical task analysis. Medinfo 2013, Copenhagen, Denmark, 2013. 8.
12. Yamauchi T, Saka K, Nakazawa M, Pitakaka F, Hagihara J, Kawabe T: Assessment of obesity in urban youth in the Solomon Islands: Evaluation of obesity indices as alternatives for body fat percentage. 11th International Congress of Physiological Anthropology. Banff Centre, Alberta, Canada, 2013. 8.
13. Hagihara J, Nakazawa M, Yamauchi T, Ishimori D, Kawabe T: Nutritional status of the urban residents at Solomon Islands from the aspect of the bone density. 11th International Congress of Physiological Anthropology. Banff Centre, Alberta, Canada, 2013. 8.
14. Kadoya T, Matsunaga R, Kimura K, Yokosawa K: Amplitude modulation of transient MEG responses caused by unexpected chord progressions. International Society for the Advancement of Clinical Magnetoencephalography, Sapporo, 2013. 8. 28-30.
15. Saito T, Tanaka M, Hishioka N, Sun Y, Hosokawa T, Kurasaki M: The interactions of hydrophobic polyphenol with metal ions have biological effects involving anti-cancer properties. 7th International Workshop on Anthocyanins, Porto, Portugal, 2013. 9. 10-11.
16. Sun Y, Saito T, Hosokawa T, Kurasaki M: Effects of green tea-derived catechin on epigenetic factors in female infants of pregnancy rats with low-protein diet. 7th International Workshop on Anthocyanins, Porto, Portugal, 2013. 9. 10-11.
17. Kuramitz H, Sazawa K, Yustiawati, Kurasaki M, Sulmin G, Ardianor, Saito T, Hosokawa T, M. Suhaemi Syawal, Tanaka S: Effect of fire on properties of organic matter in tropical soil. 4th International

Workshop on "Wild Fire and Carbon Management in Peat-Forest in Indonesia", Palangka Raya, Indonesia, 2013. 9. 24-26.

18. Takeda S, Sakurai T, Ohkawa F, Jin S, Hui SP, Fuda H, Mukasa K, Sueoka K, Chiba H: Effects of acid oxidation on carbon nanotube based electrodes for detection of oxidized LDL. IEEE Sens 2013, Baltimore, USA, 2013. 11.

[国内学会]

1. 横澤宏一, 千年涼太, 馬場聡美, 榎木拓也, 高橋誠, 栗城眞也: 短期記憶課題の記録時 α 波脳磁場振幅の変調. 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会, 東京, 2013. 3.
2. 平塚美奈, 岡崎光洋, 小笠原克彦, 下田智子, 良村貞子, 中安一幸, 吉町昌子, 後藤輝明: 地域住民からの健康相談対応に期待される看護師と薬剤師の連携に関する調査研究. 日本薬学会第133年会(横浜), 2013. 3.
3. 福田晋久, 辻真太郎, 谷川原綾子, 西本尚樹, 本間勝美, 上杉正人, 小笠原克彦: 医学・医療分野におけるオントロジーに関する文献の調査. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会(横浜), 2013. 4.
4. Tsuji S, Fukuda A, Yagahara A, Nishimoto N, Homma K, Uesugi M, Ogasawara K: Constructing an ontology for visualization of radiotherapy-related risks. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会(横浜), 2013. 4.
5. Yagahara A, Yokooka Y, Tsuji S, Fukuda A, Nishimoto N, Kurowarabi K, Ogasawara K: Construction of mammography ontology: Process and mammogram evaluation. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会(横浜), 2013. 4.
6. 西本尚樹, 伊藤陽一, 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 谷川琢海, 小笠原克彦: 放射線技術領域における非劣性検定の症例数設計. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会(横浜), 2013. 4.
7. Tani Y, Ogasawara K: Profit analysis for replacement of medical equipment by using an ARIMA model. 日本放射線技術学会第69回総会学術大会(横浜), 2013. 4.
8. 山内太郎: ネアンデルタールのライフステージと栄養生態: サピエンスとの学習能力差の基盤の解明. 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」第7回研究大会, 東京大学, 東京, 2013. 5.
9. 角屋智香, 横澤宏一, 松永理恵: 和音進行中の期待による脳磁場の変調. 第28回日本生体磁気学会大会, 新潟, 2013. 6. 7-8.
10. 劉 闖, 孫 永琨, 田中将登, 齋藤 健, 蔵崎正明: PC12細胞における銅誘導アポトーシスによるエピジェネティック因子の変化. 第23回微量元素学会, 大阪, 2013. 6. 29-30.
11. 菱岡なお子, 西村 亮, 田中将登, 蔵崎正明, 齋藤 健: ポリフェノールと金属の相互作用によるPC12細胞へのアポトーシス誘導. 第23回微量元素学会, 大阪, 2013. 6. 29-30.
12. 寺嶋 駿, 武田晴治, 山田理絵, 大川芙多葉, 惠 淑萍, 布田博敏, 櫻井俊宏, 神 繁樹, 千葉仁志: 金属酸化LDLに由来する粒子の電気化学的検討. 第53回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.
13. Rojeet Shrestha, 惠 淑萍, 櫻井俊宏, 高橋祐司, 武田晴治, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: Qualitative analysis of triacylglycerol hydroperoxide in VLDL and IDL by LC/MS. 第53回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.
14. 惠 淑萍, 三浦佑介, 池川繁男, 千葉仁志: グリセリンカブリン酸エステル合成. 第53回日本臨床化学学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.

V. 研究活動

15. 武田晴治, 櫻井俊宏, 大川芙多葉, 惠 淑萍, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: 原子間力顕微鏡による LDL 酸化状態評価. 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.
16. 高橋祐司, 櫻井俊宏, 惠 淑萍, 神繁樹, 武田晴治, 布田博敏, 伊藤康樹, 千葉仁志: apoE-containing HDL-cholesterol 直接法の開発. 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.
17. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡辺 貢, 神 繁樹, 惠 淑萍, 武田晴治, 櫻井俊宏, 渡邊孝之, 千葉仁志: マキガ由来の新規抗酸化物質における肝保護作用. 第 53 回日本臨床化学会年次学術集会, 徳島, 2013. 8.
18. 惠 淑萍, 八木亜希子, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: 高度生殖医療に用いられるミネラルオイル中の過酸化脂質. 第 61 回質量分析総合討論会, 筑波, 2013. 9.
19. 千年涼太, 横澤宏一, 程野翔太, 藪田貴博, 榎木拓也, 栗城真也: 短期記憶課題の記録時 α 波脳磁場による正解 / 不正解の予測. 生体医工学シンポジウム 2013, 福岡, 2013. 9. 20-21.
20. Rojeet Shrestha, 惠 淑萍, 櫻井俊宏, 八木亜希子, 高橋祐司, 武田晴治, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: Quantitative analysis of cholesteryl ester hydroperoxide in plasma, VLDL and IDL by LC/MS. 第 60 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2013. 10.
21. 布田博敏, 渡辺 貢, 神 繁樹, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 櫻井俊宏, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来の新規抗酸化物質における肝保護作用. 第 20 回日本未病システム学会, 東京, 2013. 11.
22. 惠 淑萍, 武田晴治, 神 繁樹, 布田博敏, 千葉仁志: リポ蛋白における過酸化リン脂質と抗酸化脂質に関する研究. 第 20 回日本未病システム学会. 東京, 2013. 11.
23. 石田 博, 小笠原克彦, 西本尚樹, 横井英人, 古川裕之: 医療技術のライフサイクルにおける評価への医療情報学の役割を考える. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
24. 藤原健祐, 忠 竜宏, 小笠原克彦: Gini Index と Herfindahl-Hirschman Index を併用した放射線診療資源の偏在評価 - 北海道の経時的変化. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
25. 忠 竜宏, 谷川原綾子, 小笠原克彦: ベイズ補正標準化死亡比を用いた 4 疾病の現状分析 - 北海道を対象として. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
26. 西本尚樹, 伊藤陽一, 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 小笠原克彦: 臨床試験登録データベースを用いた試験情報の探索的解析. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
27. 佐々木翔平, 南須原康行, 遠藤 晃, 佐久嶋研, 辻真太郎, 谷川原綾子, 小笠原克彦: インシデントデータに基づいた放射線治療業務のリスクに影響を与える要因分析. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
28. 谷 祐児, 佐瀬雄治, 小笠原克彦: ARIMA モデルを利用した医療機器更新による収益性の検討. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
29. 高橋拓也, 西本尚樹, 小笠原克彦: マルチレベル分析による遠隔健康相談システムの支払意思額への影響要因の抽出. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
30. 鈴木千裕, 佐久嶋研, 南須原康行, 遠藤 晃, 小笠原克彦: 電子カルテにおける医師による診療記事の類似性についての検討. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
31. 太田瑞紀, 小笠原克彦: TF-IDF 法による福島第一原発事故以降の新聞報道における放射線関連用語の分析. 第 33 回医療情報学連合大会 (第 14 回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.

V. 研究活動

32. 桑原智美, 寺下貴美, 小笠原克彦: 地理情報システムを用いた救急医療整備体制の検討 —北海道における脳血管疾患・虚血性心疾患への対応—. 第33回医療情報学連合大会(第14回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
33. 寺下貴美, 田村菜穂美, 小笠原克彦: 問題解決型学習を導入した実習の前後における学生の概念の変化: Semantic Differential 法. 第33回医療情報学連合大会(第14回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
34. 小笠原克彦, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 岡崎光洋, 後藤輝明, 吉町昌子, 岩丸宏明, 田村信吾, 森山広行, 黄瀬信之: 大学と調剤薬局を結んだ遠隔健康相談-400例の相談内容と今後の展開-. 第33回医療情報学連合大会(第14回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
35. 田村菜穂美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者の積雪時・非積雪時の活動量変動と全死因死亡率との関連. 第33回医療情報学連合大会(第14回日本医療情報学会学術大会)(神戸), 2013. 11.
36. 萩原 潤, 中澤 港, 山内太郎, 石森大知, 中山優子, 河辺俊雄: アジア-環太平洋地域住民の骨密度から見る栄養状態. 第28回国際保健医療学会, 名桜大学, 名護, 2013. 11.
37. 長谷川純子, 山内太郎: マラウイ共和国における保健従事者の障がい者に対する意識調査. 第28回国際保健医療学会, 名桜大学, 名護, 2013. 11.
38. 萩野 泉, 山内太郎: カメルーン共和国南東部における狩猟採集民 Baka の人口構造と出生力. 第28回国際保健医療学会, 名桜大学, 名護, 2013. 11.
39. 伊藤早織, 山内太郎, 佐藤弘明: アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の基礎代謝量. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀大学, 佐賀, 2013. 11.
40. 山村凌大, 山内太郎, 安藤啓司, 宇佐美眞, 中澤 港: 日本人の健康情報に対する関心: WHO 疫学週報トピックスの利用状況解析. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀大学, 佐賀, 2013. 11.
41. 郝 明, 韓 威, 山内太郎: 中国東北部における乳幼児の生後3ヶ月までの栄養方法と3歳までの身体発育. 第78回日本民族衛生学会総会, 佐賀大学, 佐賀, 2013. 11.
42. 満永有美, 香西はな, 山内太郎: ザンビア共和国の半乾燥地域農村部に居住する子どもの食事と栄養摂取. 第28回国際保健医療学会, 名桜大学, 名護, 2013. 11.
43. 山内太郎: シンポジウム3 ライフヒストリーから見た学習能力・学習行動の進化—身体と心の成長・発達/ヒトの体と脳の成長: 人類進化の視座から. 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」第8回研究大会, 京都大学, 京都, 2013. 12.

[地方会]

1. 三浦佑介, 惠 淑萍, 平野賢一, 池川繁男, 千葉仁志: アシルグリセロールカプリン酸エステルの化学合成. 第23回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013. 12.
2. 平塚美奈, 岡崎光洋, 下田智子, 良村貞子, 小笠原克彦: 地域住民からの健康相談対応に期待される看護師と薬剤師の連携に関する調査研究. 第60回北海道薬学大会(札幌), 2013. 5.
3. 山内太郎: ネアンデルタールとサピエンスの学習能力・行動差の基盤の解明. 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 小樽商工会議所, 小樽, 2013. 7.
4. 岡崎光洋, 小笠原克彦: SCOPE 中間成果発表(平成24年度 地域 ICT 振興型研究開発採択課題) 研究課題「自律型健康増進・生活支援のための地域サポート技術の開発検証」, 平成25年度 ICT 普及・研究開発推

V. 研究活動

- 進セミナー, 2013. 8.
5. 山内太郎: カメルーン熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の人口調査と乳幼児の行動調査—2013夏期フィールド調査報告. 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 大阪大学, 大阪, 2013. 10.
 6. 安渡大輔, 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 本間勝美, 小笠原克彦: 形容詞を対象とした共起する用語の可視化—放射線治療のリスクと安全に関する文献のテキストマイニング—. 第 69 回日本放射線技術学会北海道部会秋季学術大会 (旭川), 2013. 11.
 7. 谷 祐児, 小笠原克彦, 越智伸司, 寺田克広: 病院情報システム導入時におけるモチベーション醸成施策に関する考察. 第 69 回日本放射線技術学会北海道部会秋季学術大会 (旭川), 2013. 11.
 8. 岩田邦弘, 村上 昇, 鈴木達也, 森谷俊春, 谷川琢海, 小笠原克彦: 肝細胞特異性 MRI 造影剤 Gd-EOB-DTPA 検査の転移性肝腫瘍検出能の評価 —システムティックレビューの手法による, 検討. 第 69 回日本放射線技術学会北海道部会秋季学術大会 (旭川), 2013. 11.
 9. Shrestha R, Hui SP, Hirano K, Suzuki A, Yamaguchi S, Yagi A, Chiba H: Identification of medium-chain triglyceride in fibroblast from adipose triglyceride lipase deficiency by LC/MS. 第 23 回 日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013. 12.
 10. 八木亜希子, 恵 淑萍, Rojeet Shrestha, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: LC/MS による ART に用いられるミネラルオイル中の過酸化脂質の検出. 第 23 回 日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2013. 12.

■業績 (平成 26 年度)

健康科学分野

A. 学術論文

1. Hirano K, Tanaka T, Ikeda Y, Yamaguchi S, Zaima N, Kobayashi K, Suzuki A, Sakata Y, Sakata Y, Kobayashi K, Toda T, Fukushima N, Ishibashi-Ueda H, Tavian D, Nagasaka H, Hui SP, Chiba H, Sawa Y, Hori M: Genetic mutations in adipose triglyceride lipase and myocardial up-regulation of peroxisome proliferated activated receptor- γ in patients with triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. *Biochem Biophys Res Commun* 443(2):574-579, 2014.
2. Ohkawa F, Takeda S, Hui SP, Sakurai T, Jin S, Fuda H, Chiba H: Evaluation of antioxidant activity of natural and synthetic compounds against LDL oxidation using CNT electrodes. *IEEE Sensors J* 14:532-537, 2014.
3. Nishimukai M, Maeba R, Yamazaki Y, Nezu T, Sakurai T, Takahashi Y, Hui SP, Chiba H, Okazaki T, Hara H: Serum choline plasmalogens, particularly those with oleic acid in sn-2, are associated with proatherogenic state. *J Lipid Res* 55(5):956-965, 2014.
4. Nishimukai M, Maeba R, Ikuta A, Asakawa N, Kamiya K, Yamada S, Yokota T, Sakakibara M, Tsutsui H, Sakurai T, Takahashi Y, Hui SP, Chiba H, Okazaki T, Hara H. Serum choline plasmalogens-those with oleic acid in sn-2-are biomarkers for coronary artery disease. *Clinica Chimica Acta* 437:147-154, 2014.
5. Suzuki A, Nagasaka H, Ochi Y, Kobayashi K, Nakamura H, Nakatani D, Yamaguchi S, Yamaki S, Wada A, Shirata Y, Hui SP, Toda T, Kuroda H, Chiba H, Hirano K: Peripheral leukocytes' anomaly detected with routine automated hematology analyzer sensitive to adipose triglyceride lipase deficiency manifesting neutral lipid storage disease with myopathy/triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. *Mol Genet Metab Reports* 1:249-253, 2014.
6. Shiino T, Hattori J, Yokomaku Y, Iwatani Y, Sugiura W; Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Phylodynamic analysis reveals CRF01_AE dissemination between Japan and neighboring Asian countries and the role of intravenous drug use in transmission. *PLoS One* 9(7):e102633, 2014.
7. Shrestha R, Hui SP, Sakurai T, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Jin S, Fuda H, Chiba H: Identification of molecular species of cholesteryl ester hydroperoxides in very low-density and intermediate-density lipoproteins. *Ann Clin Biochem* 51(6):662-671, 2014.
8. Matsunaga R, Yokosawa K, Abe J: Functional modulations in brain activity for the first and second music: A comparison of high- and low-proficiency bimusicals. *Neuropsychologia* 51:1-10, 2014.
9. Yukawa S, Yustiawati, Syawal, MS, Kobayashi K, Hosokawa T, Saito T, Tanaka S, Kurasaki M: Contents of hepatic and renal metallothioneins in *Hyposarcus pardalis*: For construction of biomarker for heavy metal contamination in environments. *Environmental Earth Sciences* 71:1945-1952, 2014.
10. Sikder MT, Mihara Y, Islam MS, Saito T, Tanaka S, Kurasaki M: Preparation and characterization of chitosan-carboxymethyl- β -cyclodextrin entrapped nano zero-valent iron composite for Cu (II) and Cr (IV) removal from wastewater. *Chemical Engineering Journal* 236: 378-387, 2014.
11. Horio Y, Sun Y, Liu C, Saito T, Kurasaki M: Aspartame-induced apoptosis in PC12 cells. *Environmental*

- Toxicology and Pharmacology 37:158-165, 2014.
12. Sikder MT, Islam MS, Kikuchi T, Suzuki J, Saito T, Kurasaki M: Removal of copper ions from water using epichlorohydrin cross-linked β -cyclodextrin polymers. *Water Environment Research* 86:296-304, 2014.
 13. Kihara Y, Yustiawati, Tanaka M, Gumiri S, Ardianor, Hosokawa T, Tanaka S, Saito T, Kurasaki M: Mechanism of the toxicity induced by natural humic acid on human vascular endothelial cells. *Environmental Toxicology* 29(8):916-925, 2014.
 14. Masuma R, Okuno T, MSK Choudhuri, Saito T, Kurasaki M: Effect of *tinospora cordifolia* on the reduction of ultraviolet radiation-induced cytotoxicity and DNA damage in PC12 cells. *Journal of Environmental Science and Health part B* 49:1-6, 2014.
 15. Sun Y, Liu C, Song Y, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: Changes in the expression of epigenetic factors during copper-induced apoptosis in PC12 cells. *Journal of Environmental Science and Health part A* 49:1023-1028, 2014.
 16. Sikder MT, Tanaka S, Saito T, Kurasaki M: Application of zerovalent iron impregnated chitosan-caboxymethyl- β -cyclodextrin composite beads as arsenic sorbent. *Journal of Environmental Chemical Engineering* 2: 370-376, 2014.
 17. Ogasawara K, Ogasawara K: Adjustment of Gradation Characteristics in Chest Radiography obtained by Two Computed Radiography Models through Luminance Measurement. *J Med Imaging Health Inf* 4:733-736, 2014.
 18. Yoshida K, Sawamura D, Ogawa K, Ikoma K, Asakawa K, Yamauchi T, Shinya Sakai S: Flow experience during attentional training improves cognitive functions in patients with traumatic brain injury: An exploratory case study. *Hong Kong Journal of Occupational Therapy* 24(2):81-87, 2014.
 19. Hayashi N, Ujihara T, Jin S: Recognition of caffeine by a water-soluble acyclic phane compound. *Tetrahedron* 70:845-851, 2014.
 20. 角屋智香, 竹下悠哉, 栗城真也, 横澤宏一: 音楽的旋律の期待に伴う聴覚性定常応答の変調. 電子情報通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report 113:203-208, 2014.
 21. 横地将文, 寺下貴美, 小笠原克彦: 仮想評価法を用いた3地域におけるドクターヘリの存続に対する支払意志額の比較. *日本医療・病院管理学会誌* 51:41-52, 2014.
 22. 松尾 睦, 武藤浩史, 小笠原克彦: 診療放射線技師の経験学習プロセス. *日本診療放射線技師会誌* 61:269-276, 2014.
 23. 田村奈穂美, 寺下貴美, 小笠原克彦: Semantic Differential 法による態度測定指標の開発: 診療放射線技術学科学生の持つX線撮影の概念の特定. *日本放射線技術学会雑誌* 70:206-212, 2014.
 24. 佐藤香苗, 川上貴代, 山内太郎: 在宅知的障害者の栄養状態と QOL との関連予測因子. *Health Sciences* 30(1):9-16, 2014.

B. 著書

1. Yamauchi T, Hagino I: Estimation of the period of childhood and child growth characteristics of Pygmy hunter-gatherers in southeast Cameroon. In: T Akazawa, N Ogihara, HC Tanabe, H Terashima (eds.), *Dynamics of Learning in Neanderthals and Modern Humans, Vol. 2 Cognitive and Physical Perspectives*.

Springer, pp. 99-103. 2014.

2. Hagino I, Yamauchi T: Daily physical activity and time-space using of Pygmy hunter-gatherers' children in southeast Cameroon. In: T Akazawa, N Ogiwara, HC Tanabe, H Terashima (eds.), Dynamics of Learning in Neanderthals and Modern Humans, Vol. 2 Cognitive and Physical Perspectives. Springer, pp. 91-98, 2014.
3. Umetsu C, Lekprichakul T, Sakurai T, Yamauchi T, Ishimoto Y, Miyazaki H: Dynamics of social-ecological systems: The case of farmers' food security in semi-arid tropics. In: S Sakai, C Umetsu (eds.) Social-Ecological Systems in Transition, Springer, 157-178, 2014.
4. 山内太郎: 5.2 身体・栄養. 地球環境学マニュアル2—はかる・みせる・読みとく— 84-85, 朝倉書店, 東京, 2014.
5. 山内太郎: 「ヒトとネアンデルタールの生活史と学習」『ホモ・サピエンスと旧人2—考古学からみた学習』六一書房, 150-162, 2014.
6. 武田晴治, 恵 淑萍, 千葉仁志: バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発, 第13章第9節「過酸化脂質・酸化LDL測定のためのバイオセンサ」(株)技術情報教会, 504-509, 2014

C. 総説, 解説, 論評

1. Hagino I, Hayashi K, Kawamura K, Sato H, Yamauchi T: The transition of demographic characteristics and nutritional status for hunter-gatherer society in southeast Cameroon. Conference Proceedings. 2nd International Conference on Nutrition and Growth. P55, 2014.
2. Yamauchi T: Assessing the impact of improved sanitation on health and QOL. Forum Proceedings. Africa Water Forum 2014, 2014.
3. Hagino I, Hayashi K, Yamauchi T: Growth status and anthropometric characteristics of Baka Pygmies in southeast Cameroon. Congress Proceedings. XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, pp. 91, 2014.
4. Yamauchi T, Mitsunaga A, Kubo H, Umetsu C: Nutritional status of children in sub-saharan arid areas: a growth chart of children in southern province of Zambia and verification of secular trends. Congress Proceedings. XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, pp. 82, 2014.
5. Hagihara J, Yamauchi T, Nakazawa M, Kawabe T: The diversity of growth of children in Asia-Pacific region from parameters estimated from Preece-Baines model. Congress Proceedings. XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, pp.49, 2014.
6. Hagino I and Yamauchi T: Fertility and population dynamics of Baka hunter-gatherers in southeast Cameroon. Conference Proceedings. The Second International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, 2014.
7. Yamauchi T: Evolution of Learning Capacity and Acquired Behaviors of Modern Humans From the Perspective of Life History and Brain Development. Conference Proceedings. The Second International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, 2014.
8. Ito S, Yamauchi T: Childcare and health of hunter-gatherer infants and caregivers in African rainforest. Conference Proceedings. The 29th Annual Meeting of the Japan Association for International Health. p.

V. 研究活動

- 274, 2014.
9. Seta H, Yoshimura A, Yamauchi T: Physical fitness performance and body composition of urban elementary students and their rural counterparts in Central Java, Indonesia. Conference Proceedings. The 29th Annual Meeting of the Japan Association for International Health. p. 275, 2014.
 10. Hasegawa J, Yamauchi T: The factor of nutritional condition of children living in rural villages in Republic of Zambia. Conference Proceedings. The 29th Annual Meeting of the Japan Association for International Health. p. 300, 2014.
 11. Nagahori C, Tchuani PJ, Yamauchi T: Prevalence of malnutrition and associated factors among children aged 5-24 months in the Eastern Province of the Republic of Cameroon. Conference Proceedings. The 29th Annual Meeting of the Japan Association for International Health. p. 310, 2014.
 12. Hagino I, Yamauchi T: Daily behavior and contribution to the food procurement of Baka hunter-gatherer's children in southeast Cameroon. Conference Proceedings. The 29th Annual Meeting of the Japan Association for International Health. p. 335, 2014.
 13. 千葉仁志: 認定技師の現在と未来 日本臨床化学会と認定臨床化学者 (解説), 臨床検査学教育 6:79-83, 2014.
 14. 横澤宏一: 江戸末期の和本. 生体医工学 (リレー随筆), 52:50, 2014.
 15. 西本尚樹, 大場久照, 小笠原克彦, 伊藤陽一: 教育講座 - 放射線技術学で必要な基礎統計学 - 13. まとめ - データの品質と解析結果の解釈 -. 日本放射線技術学会雑誌 70(2): 155-162, 2014.
 16. 中澤 港, 萩原 潤, 山内太郎, 山村凌大, 河辺俊雄: パプアニューギニア・ギデラの伝統医療—30年間に変わったこと, 変わらないこと—. 第31回日本オセアニア学会抄録集.
 17. 山内太郎: 肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち—日本と世界の子どもの体格とフィットネス—. 思春期学, 32(1), 160-167, 2014.
 18. 山内太郎, 満永有美, 香西はな, 梅津千恵子: ザンビア共和国農村部に居住する子どもの食事と栄養—食物摂取頻度調査票の開発と栄養評価—. 第51回日本アフリカ学会第51回学術大会研究発表要旨集, p.132, 2014.
 19. 萩野 泉: カメルーン熱帯雨林に暮らす狩猟採集民 Baka の子どもの健康とライフスタイル. 北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2014 北大アフリカ研究会シンポジウム「アフリカで活躍する北大の研究者たちⅡ ～アフリカに展開する北大研究ネットワーク～」要旨集, 2014.
 20. 郝 明, 贾 麓红, 山内太郎: 中国東北部に暮らす小学生の食物摂取, 栄養状態と体力—農村部と都市部の比較調査—. 民族衛生, 80, 98-99, 2014.
 21. 佐藤香苗, 菅野美奈子, 山内太郎, 松村康弘, 佐藤ゆき, 中山祥嗣: 北海道上川地区3歳児の栄養状態並びに主要食品のポーションサイズ. 民族衛生, 80, 134-135, 2014.
 22. 伊藤早織, 山内太郎: アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民における乳幼児の健康と育児. 第29回日本国際保健医療学会抄録集, p.90, 2014.
 23. 萩野 泉, 山内太郎: カメルーン熱帯雨林狩猟採集民 Baka の子どもにおける時間利用と食物獲得. 第29回日本国際保健医療学会抄録集, p.151, 2014.
 24. 勢田英果, 吉村 彩, 山内太郎: インドネシアに居住する子どもの運動能力と身体組成—都市部と農村部の比較—. 第29回日本国際保健医療学会抄録集, p.91, 2014.
 25. 長堀智香子, Jean Paul TCHUANI, 山内太郎: カメルーン共和国東部州における生後5～24ヶ月の子ど

V. 研究活動

もの栄養不良と関連要因. 第 29 回日本国際保健医療学会抄録集, p.126, 2014.

26. 長谷川純子, 山内太郎: ザンビア共和国農村部における子どもの栄養状態と関連因子の検証. 第 29 回日本国際保健医療学会抄録集, p.116, 2014.

D. 報告書

1. 山内太郎: ライフヒストリーから見た学習能力・学習行動の進化—身体と心の成長・発達—. ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究. 第 8 回研究報告書. 寺嶋秀明(編). 31-33, 2014.
2. 山内太郎: ヒトの体と脳の成長: 人類進化の視座から. ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究. 第 8 回研究報告書. 寺嶋秀明(編). 34-35, 2014.
3. 山内太郎: ヒトの体と脳の成長: 人類進化の視座から. 交替劇 A02 班研究報告書 NO. 4, 61-66, 2014.
4. 山内太郎: ネアンデルタールのライフステージと栄養生態: サピエンスとの学習能力差の基盤の解明(2014 年度研究計画). ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究. 第 9 回研究報告書. 西秋良宏(編). 66-67, 2014.

E. その他

[受賞]

1. 横澤宏一: 生体医工学シンポジウムベストリサーチアワード, 聴覚性定常脳磁界応答の音楽的期待による変調(共同演者)
2. 齋藤 健: 若手優秀演題賞, 母ラットの食事制限による仔ラットへの影響に対するポリフェノールの効果(共同演者)

[学会研究会の主催]

1. 小笠原克彦: 第 70 回日本放射線技術学会北海道支部学術大会春季大会(札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2014.4.19-20.
2. 小笠原克彦: 第 71 回日本放射線技術学会北海道支部学術大会春季大会, 札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌, 2014. 4. 25-26.
3. 山内太郎: 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇」研究会, 支笏湖, 2014.7.12-13.
4. 小笠原克彦: 第 42 回日本放射線技術学会秋季学術大会(札幌コンベンションセンター, 札幌市), 2014.10.9-11.
5. 小笠原克彦: 医用画像情報学会平成 27 年度秋季(第 173 回)大会, 北海道大学大学院保健科学研究所, 札幌, 2014. 10. 17.
6. 小笠原克彦: 第 71 回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会, 北海道大学臨床講義棟, 札幌, 2014. 11. 14-15.

[特許]

- 国内(出願): 1 件
国際(出願): 1 件(米国)
国際(取得): 1 件(米国)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yamauchi T: Evolving Health Sciences: Our Mission to the Future, Mafikeng, South Africa, 2014. 2.
2. Yamauchi T: Human ecological fieldwork in developing countries: child growth, nutrition, and physical activity of local populations, Mafikeng, South Africa, 2014. 2.
3. Yamauchi T: Assessing the impact of improved sanitation on health and QOL. Africa Water Forum 2014, Institut International d'Ingenierie de l'Eau et de l'Environnement (2iE), Ouagadougou, Burkina Faso, 2014. 6.
4. Yamauchi T: Influence of lifestyle change during Ramadan fasting on weight loss in Indonesian adolescents. Special lecture of Faculty of Public Health, Diponegoro University, Semarang, Indonesia, 2014. 8.
5. Yamauchi T: Introduction of Hokkaido University and Faculty/Graduate School of Health Sciences. Special lecture of Department of Rehabilitation, Dr. Kariadi Hospital, Semarang, Indonesia, 2014. 8.
6. Yamauchi T: Global health fieldwork in small communities. Special lecture of Department of Nursing, Faculty of Medicine, Diponegoro University, Semarang, Indonesia, 2014. 8.
7. Yamauchi T: Introduction of Hokkaido University and Faculty/Graduate School of Health Sciences. Special lecture of China Medical University, Shenyang, China, 2014. 9.
8. Yamauchi T: Fieldwork in small societies: adaptation of local population to the living environment. Special lecture of China Medical University, Shenyang, China, 2014. 9.

[国内学会]

1. 小笠原克彦: [専門講座 10(医療情報)] 臨床経済学の考え方と動向. 日本放射線技術学会第70回総会学術大会, 横浜, 2014. 4.
2. 千葉仁志: 教育講演「食生活と脂質代謝異常」第68回日本栄養・食糧学会大会, 札幌, 2014. 5. 31.
3. 小笠原克彦: 医療情報分野における研究の進め方とエッセンス. 第42回日本医療情報学会秋季学術大会, 札幌, 2014. 10.
4. 小笠原克彦: 自律型健康増進・生活支援のための地域サポート技術の開発検証. 平成26年度ICT普及・研究開発推進セミナー, 札幌, 2014. 7.
5. 小笠原克彦: 自律型健康増進・生活支援のための地域サポート技術の開発検証. 総務省ICTイノベーション・フォーラム2014, 千葉, 2014. 10.
6. 小笠原克彦: 診療放射線技師における研究の進め方. 第19回オータムセミナー(文部科学省全国国立大学放射線技術者研修会), 札幌, 2014. 10.
7. 千葉仁志: 基調講演「脂質酸化の評価系開発未病医療に向けて」, 第8回GFRG研究会, 東京, 2014. 11. 26.
8. 山内太郎: 発展途上国における栄養アセスメントーコミュニティーレベルのアプローチ. JICA青年研修「タイ職業訓練教育コース」2014. 12. 2.

[地方会]

1. 小笠原克彦: 高度専門職業人養成のための大学院教育課程(カリキュラムデザイン)構築に向けて～北海道大学保健科学院の実際～. 天使大学大学院 FD 研修会, 天使大学(札幌市), 2014.2.13.
2. 小笠原克彦: 医療資源配置の諸問題を情報技術で考える. 医療資源配置の諸問題を情報技術で考える - 地図情報システムとダイナミクスを用いて -. 第6回日本医療情報学会東北支部総会・学術研究会, 東北大学医学部(仙台市), 2014.3.23.
3. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano KI, Chiba H. Quantification of plasma capric acid concentration using high-performance liquid chromatography. The 3rd International Symposium on Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy Neutral Lipid Storage Disease, Tokyo, 2015. 3.
4. 小笠原克彦: 健康な地域コミュニティ形成に向けて. ICT利活用セミナー-産学官連携で拓く新しい岩見沢, 岩見沢, 2014.5.
5. 小笠原克彦: 医療資源配置の諸問題を情報技術で考える. 第9回日本医療情報学会北海道支部春季学術大会, 江別, 2014.7.
6. 小笠原克彦: 放射線技術学のための研究の基礎. 第4回東北放射線医療技術学術大会, 新潟, 2014.10.
7. 山内太郎: ヒトの学習能力と学習行動の進化—生活史と脳の成長・発達の視座から. 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 北九州市立大学, 北九州, 2014. 10.
8. 小笠原克彦: 研究倫理の基礎. 第33回日本放射線技術学会東京部会秋期学術大会, 東京, 2014.11.
9. 萩野 泉: カメルーン熱帯雨林に暮らす狩猟採集民 Baka の子どもの健康とライフスタイル. 北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2014 北大アフリカ研究会シンポジウム「アフリカで活躍する北大の研究者たちⅡ ～アフリカに展開する北大研究ネットワーク～」, 北海道大学, 札幌, 2014. 11.
10. 山内太郎: 子どもの成長: 評価方法, 日本の現状, 進化的視点とライフステージ. 環境健康科学研究教育センター平成26年度公開セミナー, 北海道大学, 札幌, 2-13. 10.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Hagino I, Hayashi K, Kawamura K, Sato H, Yamauchi T: The transition of demographic characteristics and nutritional status for hunter-gatherer society in southeast Cameroon. Poster presentation. 2nd International Conference on Nutrition and Growth, Barcelona, Spain, 2014. 1.
2. Yamauchi T: Evolution of learning capacity and learned behaviors of modern humans from the perspective of life history, International Workshop for Hunter-Gatherers Studies, Kobe Gakuin University, Kobe, 2014. 3.
3. Terashima S et al. Properties of oxidized LDL were investigated by a carbon nanotube based electrode. SFRRRI 2014, Kyoto, 2014. 3.
4. Hui SP et al. Identification of lipid hydroperoxides in human lipoproteins. SFRRRI 2014, Kyoto, 2014. 3.
5. Fuda H et al. Hepatoprotective effects of a new antioxidant isolated from Pacific oyster. SFRRRI 2014, Kyoto, 2014. 3.
6. Iwata K, Moriya T, Tanikawa T, Ogasawara K: Detectability of liver metastases: comparison between Gd-EOB-DTPA -enhanced MRI and contrast-enhanced multidetector. The European Congress of Radiology

- 2014, Vienna, Austria, 2014.3.
7. Han R, Miyazaki A, Kadoya T, Takahashi T, Yokosawa K: Correlation between impulsivity and auditory sustained field strength measured by magnetoencephalography. 30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN), Berlin, Germany, 2014. 3. 20-23.
 8. Toyomura A, Fujii T, Yokosawa K, Kuriki S: Neural correlates of stuttering under external rhythm and face-to-face communication. Human Brain Mapping 2014, Hamburg, Germany, 2014. 6.
 9. Matsunaga R, Takeshita Y, Sugino Y, Yokosawa K, Abe J: Bimusical brains revealed by magnetoencephalography studies. The 19th International Conference on Biomagnetism, Halifax, Canada, 2014. 8.
 10. Yokosawa K, Han R, Kadoya T, Miyazaki A, Takahashi T: Left auditory sustained fields representing individual time perception. The 19th International Conference on Biomagnetism, Halifax, Canada, 2014. 8.
 11. Chitose R, Yokosawa K, Kuriki S: Serial-position curve of alpha-band amplitude shown in a short-term memory task. The 19th International Conference on Biomagnetism, Halifax, Canada, 2014. 8.
 12. Ohta M, Nishimoto N, Ogasawara K: Sentiment analysis for Twitter about radiation after the Fukushima nuclear power plant accident. 1st educational symposium on radiation and health by young scientists, Hirosaki, 2014.9.
 13. Nishimoto N, Ohta M, Ogasawara K: Estimating information attenuation on nuclear radiation accident among population. 1st educational symposium on radiation and health by young scientists, Hirosaki, 2014.9.
 14. Yamauchi T, Mitsunaga A, Kubo H, Umetsu C: XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, Maribor, Slovenia, 2014. 9.
 15. Hagihara J, Yamauchi T, Nakazawa M, Kawabe T: The diversity of growth of children in Asia-Pacific region from parameters estimated from Preece-Baines model. XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, Maribor, Slovenia, 2014. 9.
 16. Hagino I, Hayashi K, Yamauchi T: Growth status and anthropometric characteristics of Baka Pygmies in southeast Cameroon. XIII International Congress of Human Growth and Clinical Auxology, Maribor, Slovenia, 2014. 9.
 17. Yamauchi T: Assessing the impact of improved sanitation on health and happiness of local population. 1st Research Meeting for JSPS Core-to-Core program (Asia-Africa Science Platforms), Resources Oriented Sanitation Model for Developing Regions, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 2014. 10.
 18. Ohta M, Ogasawara K, Nishimoto N: Sentiment analysis of newspaper reports about radiation after the Fukushima nuclear power plant Incident The 2nd International Conference on Radiological Science and Technology, Sapporo, 2014.10.
 19. Yagahara A, Nishimoto N, Tsuji S, Katahata J, Ogasawara K, Tsuzuki T: Visualizing the Relationships among MRI Protocols and Diseases, Signs and Symptoms Coded by ICD-10 Using Network Analysis. 100th Scientific Assembly and Annual Meeting of Radiological Society of North America, Chicago, USA, 2014.12.
 20. Hagino I and Yamauchi T: Fertility and population dynamics of Baka hunter-gatherers in southeast

V. 研究活動

Cameroon. 2nd International Conference Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, Cultural Center, Date City, Japan, 2014. 12.

21. Yamauchi T: Evolution of Learning Capacity and Acquired Behaviors of Modern Humans From the Perspective of Life History and Brain Development. 2nd International Conference Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, Cultural Center, Date City, Japan, 2014. 12.

[国内学会]

1. 千年涼太, 横澤宏一, 栗城眞也: シーケンシャル記憶課題の記録中に見られる α 帯域脳律動振幅の変調. 第30回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 福岡, 2014. 1. 11-12.
2. 武田晴治, 武笠幸一, 恵 淑萍, 布田博敏, 神 繁樹, 末岡和久, 千葉仁志: 走査型プローブ顕微鏡を利用した一粒子レベルでの低比重リボ蛋白質の酸化状態の評価. 電気化学会第81回大会, 大阪, 2014. 3.
3. 中澤 港, 萩原 潤, 山内太郎, 山村凌大, 河辺俊雄: パプアニューギニア・ギデラの伝統医療—30年間に変わったこと, 変わらないこと—. 第31回日本オセアニア学会, 高知, 2014. 3.
4. 角屋智香, 竹下悠哉, 栗城眞也, 横澤宏一: 音楽的旋律の期待に伴う聴覚性定常応答の変調. 電子情報通信学会 ニューロコンピューティング研究会, 東京, 2014. 3. 17-18.
5. 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 西本尚樹, 本間勝美, 小笠原克彦: 放射線治療におけるエラーの分類に対する標準化を目指したオントロジーの適用. 日本放射線技術学会第70回総会学術大会, 横浜, 2014. 4.
6. 谷川原綾子, 辻真太郎, 安渡大輔, 瀧端純也, 濱口裕行, 小笠原克彦, 仲知保: ネットワーク分析を用いたMRI 申込書記載内容と撮影プロトコルの関係の可視化. 日本放射線技術学会第70回総会学術大会, 横浜, 2014. 4.
7. 福田晋久, 辻真太郎, 谷川原綾子, 西本尚樹, 本間勝美, 小笠原克彦: 共起行列を用いた放射線防護に関する文献情報の体系化の試み. 日本放射線技術学会第70回総会学術大会, 横浜, 2014. 4.
8. Naoki Nishimoto, Toichi Ito, Ayako Yagahara, Shintaro Tsuji, Akihisa Fukuda, Takumi Tanikawa, Katsuhiko Ogasawara: Sample size determination based on the confidence interval and threshold in the radiologic technology domain. 日本放射線技術学会第70回総会学術大会, 横浜, 2014. 4.
9. 宮崎 茜, 韓 若康, 角屋智香, 高橋泰城, 久住一郎, 横澤宏一: 時間知覚と聴覚 sustained field の相関. 第29回日本生体磁気学会大会, 大阪, 2014. 5.
10. 千年涼太, 栗城眞也, 横澤宏一: シーケンシャル短期記憶課題の記録時における α 波脳磁場の変調. 第29回日本生体磁気学会大会, 大阪, 2014. 5.
11. 松永理恵, 横澤宏一, 阿部純一: 音楽の bimusicals と言語の bilinguals に共通する脳の可塑的变化. 第29回日本生体磁気学会大会, 大阪, 2014. 5.
12. 溝部佳代, 横澤宏一, 澤部祐貴, 太田早紀, 河村優生, 半谷早紀枝, 下條暁司, 尾崎倫孝: 絶食ストレス下における情動刺激に伴う生理的・心理的变化 —快・不快画像による脳磁図・脈拍・呼吸・主観的評価の比較—. 第29回日本生体磁気学会大会, 大阪, 2014. 5.
13. 萩野泉, 山内太郎: カメルーン南東部の Baka ピグミーにおける出生力と時代変化. 第51回アフリカ学会, 京都大学, 京都, 2014. 5.
14. 山内太郎, 満永有美, 香西はな, 梅津千恵子: ザンビア共和国農村部に居住する子どもの食事と栄養—食

V. 研究活動

- 物摂取頻度調査票の開発と栄養評価一. 第51回日本アフリカ学会, 京都大学, 京都, 2014. 5.
15. 劉 闢, 田中將登, 齋藤 健, 蔵崎正明: PC12 細胞に誘導されたアポトーシスに及ぼすノニルフェノールエソキシレート類の影響, 第84回日本衛生学会, 岡山, 2014. 5. 27.
 16. 田中將登, 北 朋美, 上野祐可子, 菱岡なお子, 佐藤 伸, 細川敏幸, 蔵崎正明, 齋藤 健: 母ラットの食事制限による仔ラットへの影響に対するポリフェノールの効果, 第84回日本衛生学会, 岡山, 2014. 5. 27.
 17. 北 朋美, 岡部 純, 樋口朝霞, 菱岡なお子, 田中將登, 上野祐可子, 佐藤 伸, 蔵崎正明, 齋藤 健: 妊娠期低タンパク食, 授乳期のレスベラトロール投与が仔ラットの成長に与える影響, 第84回日本衛生学会, 岡山, 2014. 5. 27.
 18. Usón Rachael A, 田中將登, 齋藤 健, 細川敏幸, 蔵崎正明: フルクトース投与妊娠ラットの新生仔の糖代謝へのメリンジョ抽出物の及ぼす影響, 第84回日本衛生学会, 岡山, 2014. 5. 27.
 19. 豊村 暁, 藤井哲之進, 横澤宏一, 栗城眞也: 対面・非対面会話時の神経活動の計測. 第53回日本生体医工学会大会, 仙台, 2014. 6.
 20. 小野弓絵, 稲岡翼, 菊池龍, 恩田壮恭, 千年涼太, 横澤宏一: SPM8によるMEG逆問題解析の試み. 第10回マルチモーダル脳情報研究会, 東京, 2014. 7.
 21. 上野祐可子, 菱岡なお子, 田中將登, 北 朋美, 蔵崎正明, 小森幹育子, 齋藤 健: レスベラトロールと銅の相互作用がPC12細胞における活性酸素代謝に及ぼす影響, 第25回日本微量元素学会, 岡山, 2014. 7. 3.
 22. 豊村暁, 藤井哲之進, 横澤宏一, 栗城眞也: 吃音者が他者と会話する際の脳活動計測の試み. 日本吃音・流暢性障害学会第2回大会, さいたま, 2014. 8.
 23. 横澤宏一, 千年涼太, 栗城眞也: シーケンシャルな記憶課題遂行時の α 帯域脳律動変調メカニズム. 第31回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 修善寺, 2014. 9.
 24. 木村勁介, 角屋智香, 竹下悠哉, 栗城眞也, 横澤宏一: 聴覚性定常脳磁界応答の音楽的期待による変調-聴取音及び前音の影響の評価. 生体医工学シンポジウム2014, 小金井, 2014. 9.
 25. 竹下悠哉, 横澤宏一: 音楽聴取中のリズム変化に対する脳活動の評価. 生体医工学シンポジウム2014, 小金井, 2014. 9.
 26. 三浦佑介, 惠 淑萍, 池川繁男, 千葉仁志: 多重重水素標識コレステロールの合成. 第54回日本臨床化学会年次学術集会, 東京, 2014. 9.
 27. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 池川繁男, 比留間貴久, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: LC-MS/MSによるマガキ由来フェノール性抗酸化物質の定量. 第54回日本臨床化学会年次学術集会, 東京, 2014. 9.
 28. Takeda S, Subagyó A, Hui SP, Fuda H, Sueoka K, Chiba H: Mechanical properties of oxidized low-density lipoprotein particles disclosed with AFM. 第52回生物物理学学会, 札幌, 2014. 9.
 29. 俵紀行: 筋機能的MRIを用いた運動に誘発された体幹部腹斜筋の筋活動検出の試み. 第42回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014. 9.
 30. 岩田邦弘, 森谷俊春, 谷川琢海, 小笠原克彦. Gd-EOB-DTPA検査の転移性肝腫瘍検出能の評価: Systematic Reviewの手法による造影MDCT検査との比較. 第42回磁気共鳴医学会, 京都, 2014. 9.
 31. 谷 祐児, 佐瀬雄治, 小笠原克彦: 中小規模病院における病院情報システム選定・導入手法における考察～現場モチベーション醸成の観点より～. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014. 10.
 32. 寺下貴美, 小笠原克彦, 横地将文: 撮影技術学実習における問題解決型学習導入による評価. 第42回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2014. 10.
 33. 西本尚樹, 伊藤陽一, 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 上杉正人, 小笠原克彦: 臨床試験登録データベ-

V. 研究活動

- スを用いた試験件数増加の変化点検出. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
34. 岩田邦弘, 村上昇, 鈴木達也, 森谷俊春, 谷川琢海, 小笠原克彦: 画像診断検査による大腸癌肝転移の術前検索における効率の評価. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
35. 谷 祐児, 佐瀬雄治, 小笠原克彦: 中小規模病院における病院情報システム選定・導入手法における考察～現場モチベーション醸成の観点より～. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
36. 田村菜穂美, 寺下貴美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者への支援に向けた健康影響評価. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
37. 太田瑞紀, 西本尚樹, 小笠原克彦: Twitter と新聞記事の放射線関連用語を対象とした語句の持つ印象の分析. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
38. 鈴木千裕, 佐久嶋研, 南須原康行, 遠藤 晃, 小笠原克彦: 電子カルテにおける診療科ごとの記載内容の類似性についての検討. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
39. 高橋拓也, 谷川琢海, 小笠原克彦: 札幌市における診療科ごとの患者集積分析. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
40. 佐々木健太, 小笠原克彦: 北海道三次医療圏を対象とした自治体病院の経営効率性評価. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
41. 忠 竜宏, 藤原健祐, 小笠原克彦: ベイズ補正標準化死亡比を用いた死亡と医療資源の関連性の分析—北海道を対象として. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
42. 藤原健祐, 忠 竜宏, 小笠原克彦: ジニ係数とハーフィンダール - ハーシュマン指数を援用した高性能画像診断装置の偏在評価. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
43. 佐瀬雄治, 谷 祐児, 小笠原克彦: 最終更新日から見る医療機関 Web サイトの活用実態調査. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
44. 谷川原綾子, 辻真太郎, 瀧端純也, 小笠原克彦, 仲知 保: ネットワーク分析による病名とMRI撮影プロトコル間の関係性分析. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
45. 寺下貴美, 小笠原克彦: テキストマイニングを用いた問題基盤型学習を導入したX線撮影実習のレポートからの特徴抽出の試み. 第34回医療情報学連合大会, 千葉, 2014. 11.
46. 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 平野賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: 機能性脂肪酸に関する分析. 第21回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014. 11.
47. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: Keap1-Nrf2 経路活性化によるマガキ由来の抗酸化物質の肝臓保護作用. 第21回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014. 11.
48. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 布田博敏, 大谷晋太郎, 渡辺孝之, 渡辺 貢, 千葉仁志: マガキ抽出液中のフェノール性抗酸化物質の定量. 第21回日本未病システム学会学術総会, 大阪, 2014. 11.
49. 惠 淑萍, シュレスタ ロジート, 平野賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: 中鎖脂肪酸のHPLC法による定量分析. 第61回臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014. 11.
50. 鈴木 朗, 和田 淳, 長坂博範, 越智康浩, 千葉仁志, 惠 淑萍, 平野賢一: 中性脂肪蓄積心筋血管症における Jordans'anomaly を自動血球分析装置で検出する. 第61回臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014. 11.
51. 和田 淳, 鈴木 朗, 山本志緒里, 越智康浩, 惠 淑萍, 千葉仁志, 平野賢一: 他項目自動血球分析装置XE-5000 WBC/BASO チャンネルによる, 中性脂肪蓄積心筋血管症判別原理の検証. 第61回臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014. 11.

V. 研究活動

52. 郝明, 贾麓红, 山内太郎: 中国東北部に暮らす小学生の食物摂取, 栄養状態と体力, 第79回日本民族衛生学会—農村部と都市部の比較調査—, つくば, 2014. 11.
53. 佐藤香苗, 菅野美奈子, 山内太郎, 松村康弘, 佐藤ゆき, 中山祥嗣: 北海道上川地区3歳児の栄養状態並びに主要食品のポーションサイズ, 第79回日本民族衛生学会, つくば, 2014. 11.
54. 伊藤早織, 山内太郎: アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民における乳幼児の健康と育児, 第29回日本国際保健医療学会, 東京, 2014. 11.
55. 萩野泉, 山内太郎: カメルーン熱帯雨林狩猟採集民 Baka の子どもにおける時間利用と食物獲得, 第29回日本国際保健医療学会, 東京, 2014. 11.
56. 勢田英果, 吉村彩, 山内太郎: インドネシアに居住する子どもの運動能力と身体組成～都市部と農村部の比較～, 第29回日本国際保健医療学会, 東京, 2014. 11.
57. 長堀智香子, Jean Paul TCHUANI, 山内太郎: カメルーン共和国東部州における生後5～24ヶ月の子どもの栄養不良と関連要因, 第29回日本国際保健医療学会, 東京, 2014. 11.
58. 長谷川純子, 山内太郎: ザンビア共和国農村部における子どもの栄養状態と関連因子の検証. 第29回日本国際保健医療学会, 東京, 2014. 11.
59. 八木亜希子, 惠淑萍, 小林清一, 千葉仁志, 神谷博文: ミネラルオイルへの培養液溶出現象に関する検討. 第59回日本生殖医学会学術講演会, 東京, 2014. 12.

[地方会]

1. 太田瑞紀, 小笠原克彦: 新聞報道における放射線関連用語と健康情報に関する研究. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
2. 鈴木千裕, 佐久嶋研, 南須原康之, 遠藤晃, 小笠原克彦: 電子カルテにおける診療記事の類似性についての検討. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
3. 高橋拓也, 阿部保, 西本尚樹, 小笠原克彦: マルチレベルモデルによる遠隔健康相談システムの利用可能性についての検討. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
4. 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線技術領域における用語集構築に向けた基礎的調査. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
5. 藤原健祐, 小笠原克彦: 北海道における放射線診療資源の偏在評価. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
6. 田村菜穂美, 小笠原克彦: [SCOPE 研究紹介] 北海道農村に住む高齢者の健康支援に向けた健康影響評価の試み-活動量を中心としたシミュレーション分析. 第7回日本医療情報学会北海道支部学術大会(札幌), 2014. 2.
7. 布田博敏, 渡邊貢, 上甲紗愛, 神繁樹, 川西範明, 吉田繁, 惠淑萍, 武田晴治, 櫻井俊宏, Rojeet Shrestha, 三木恵美子, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来の抗酸化物質における培養肝細胞保護作用. 日本農芸化学会2014年度大会, 東京, 2014. 3.
8. 武田晴治, 武笠幸一, 惠淑萍, 布田博敏, 神繁樹, 末岡和久, 千葉仁志: 走査型プローブ顕微鏡を利用した一粒子レベルでの低比重リポ蛋白質の酸化状態の評価. 第81回電気化学会, 吹田, 2014. 3.
9. 太田瑞紀, 西本尚樹, 小笠原克彦: Twitter と新聞記事を対象とした放射線関連用語の印象度の比較. 第9回日本医療情報学会北海道支部講演会, 江別, 2014. 7.
10. 佐々木健太, 桑原智美, 小笠原克彦: 北海道三次医療圏を対象とした自治体病院の効率性評価. 第9回日

V. 研究活動

本医療情報学会北海道支部講演会, 江別, 2014. 7.

11. 伊藤早織, 山内太郎: 狩猟採集社会における育児行動と乳幼児の発育 - 2014 年度夏調査に向けて - . 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 千歳市, 2014. 7.
12. 山内太郎: コンポストトイレの導入が地域住民の健康と QOL におよぼす影響を評価する. JICA-JST 地球規模課題対応 国際科学技術協力事業「アフリカサヘル地域の持続可能な水・衛生システム開発」H26 年度 第 2 回全体会議, 北海道大学, 札幌, 2014. 8.
13. 山内太郎: 国際保健学・人類生態学フィールド調査. H26 年度 第 2 回看護学研究情報交換会, 北海道大学, 札幌, 2014. 9.
14. 萩野 泉: 定住的集落における Baka の身体活動量と時間利用 (カメルーン・ロミエのバカの調査報告). 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 北九州市立大学, 北九州, 2014. 10.
15. 上甲紗愛, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: Keap1-Nrf2 経路活性化によるマガキ由来の抗酸化物質の肝臓保護作用. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
16. 大谷晋太郎, 惠 淑萍, 岡部浩昭, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の定量法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
17. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 山本麻衣子, 菊地 玲, 南 昭子, 清水 力, 千葉仁志: LC-MS/MS による血中 25-hydroxy vitamin D の定量法の開発, 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
18. 林 沙紀, 宮永 賢, 八木亜希子, 小林清一, 神谷博文, 千葉仁志, 惠 淑萍: HILIC-LC/MS による体外受精用培養液におけるアミノ酸の分析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
19. シュレスタ ロジート, 惠 淑萍, 平野賢一, 鈴木 朗, 千葉仁志: HPLC 法によるカプリン酸の定量分析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
20. 宮永 賢, 小林美穂, 早坂孝宏, 清水 力, 千葉仁志, 惠 淑萍: 尿脂質の質量分析法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
21. 小林美穂, 宮永 賢, 藤田和華子, 柴 瀨, 中島 収, 山下直樹, 安田慶子, 渋谷 斉, 渡邊俊之, 千葉仁志, 惠 淑萍, 清水 力: 尿沈渣中に脂質成分を認めた尿の高分解能質量分析計による脂質成分分析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
22. 早坂孝宏, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 質量分析イメージングによる NASH モデルマウス腎組織の脂質解析. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
23. 小林 悠, 吉田 繁, 川西範明, 惠 淑萍, 千葉仁志: 筋管細胞における脂肪滴形成とミトコンドリア機能に関する研究. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
24. 高橋遼地, 三浦佑介, 惠 淑萍, 千葉仁志: 重水素標識コレステロールの化学合成. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.
25. 三浦佑介, 高橋遼地, 惠 淑萍, 千葉仁志: コレステリルエステルの重水素標識体の化学合成と LC-MS 法の開発. 第 24 回日本臨床化学会北海道支部総会, 札幌, 2014. 10.

■業績 (平成 27 年度)

健康科学分野

A. 学術論文

1. Fuda H, Watanabe M, Hui SP, Joko S, Okabe H, Jin S, Takeda S, Miki E, Watanabe T, Chiba H: Anti-apoptotic effects of novel phenolic antioxidant isolated from the Pacific oyster (*Crassostrea gigas*) on cultured human hepatocytes under oxidative stress. *Food Chem* 176:226-233, 2015.
2. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano KI, Chiba H: Plasma capric acid concentrations in healthy subjects determined by high-performance liquid Chromatography. *Ann Clin Biochem* 52(5):588-596, 2015.
3. Shrestha R, Hui SP, Miura Y, Yagi A, Takahashi Y, Takeda S, Fuda H, Chiba H: Identification of molecular species of oxidized triglyceride in plasma and its distribution in lipoproteins. *Clin Chem Lab Med* 53(11):1859-1869, 2015.
4. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H(*CA): Elastic modulus of low-density lipoprotein as potential indicator of its oxidation. *Ann Clin Biochem* 52:647-653, 2015.
5. Matsuo J, Nakamura S, Takeda S, Ishida K, Yamazaki T, Yoshida M, Chiba H, Hui SP, Yamaguchi H: Synergistic Costimulatory Effect of *Chlamydia pneumoniae* with Carbon Nanoparticles on NLRP3 Inflammasome-Mediated Interleukin-1 β Secretion in Macrophages. *Infect Immun* 83:2917-2925, 2015.
6. Okabe H, Hui SP, Fuda H, Furukawa T, Takeda S, Shrestha R, Miura Y, Watanabe M, Chiba H: Mass Spectrometric Quantification of Amphipathic, Polyphenolic Antioxidant of the Pacific Oyster (*Crassostrea gigas*). *Anal Sci* 31:1341-1344, 2015.
7. Miura Y, Hui SP, Shrestha R, Hiruma T, Takeda S, Fuda H, Ikegawa S, Hirano K, Chiba H: Synthesis of ($2\beta, 3\alpha, 6$ -(2)H₃)cholesteryl linoleate and cholesteryl oleate as internal standards for mass spectrometry. *Steroids* 107:1-9, 2016
8. Takahashi Y, Ito Y, Wada N, Nagasaka A, Fujikawa M, Sakurai T, Shrestha R, Hui SP, Chiba H: Development of homogeneous assay for simultaneous measurement of apoE-deficient, apoE-containing, and total HDL-cholesterol. *Clin Chim Acta* 454:135-142, 2016.
9. Yagi A, Miyanaga S, Shrestha R, Takeda S, Kobayashi S, Chiba H, Kamiya H, Hui SP: A fatty acid profiling method using liquid chromatography-high resolution mass spectrometry for improvement of assisted reproductive technology. *Clin Chim Acta* 456:100-106, 2016.
10. Trirongjitmoah S, Iinaga K, Sakurai T, Chiba H, Sriyudthsak M, Shimizu K: Practical technique to quantify small, dense low-density lipoprotein cholesterol using dynamic light scattering. *Optic Review* 23:265-272, 2016.
11. Fuda H, Watanabe M, Okabe H, Joko S, Miura Y, Hui SP, Yimin, Hamaoka N, Miki E, Chiba H: Oyster extracts attenuate pathological changes in non-alcoholic steatohepatitis (NASH) mouse model. *J Funct Foods* 20:516-531, 2016.
12. Han R, Takahashi T, Miyazaki A, Kadoya T, Kato S, Yokosawa K: Activity in the left auditory cortex is associated with individual impulsivity in time discounting. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*: 6646-6649,

2015.

13. Takeshita Y and Yokosawa K: Acoustic pressure reduction at rhythm deviants causes magnetoencephalographic response. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*: 6650-6653, 2015.
14. Kimura K, Chitose R, Yokosawa K: Alpha-band Amplitude During Memory Encoding Is an Index of Memory Performance. *Advanced Biomedical Engineering* 5: 43-48, 2016.
15. Tanaka M, Miyajima M, Hishioka N, Nishimura R, Kihara Y, Hosokawa T, Kurasaki M, Tanaka S, Saito T: Humic acid induces the endothelial nitric oxide synthase phosphorylation at Ser1177 and Thr495 via Hsp90 upregulation in human umbilical vein endothelial cells. *Environmental Toxicology* 30(2):223-31, 2015.
16. Islam MS, Saito T, Kurasaki M: Phytofiltration of arsenic and cadmium by using an aquatic plant, *Micranthemum umbrosum*: phytotoxicity, uptake kinetics, and mechanism. *Ecotoxicology and Environmental Safety* 112:193-200, 2015.
17. Yustiawati, Kihara Y, Sazawa K, Kuramitz H, Kurasaki M, Saito T, Hosokawa T, Syawal MS, Hendri I LW, Tanaka S: Effects of peat fires on the characteristics of humic acid extracted from peat soil in Central Kalimantan, Indonesia. *Environmental Science and Pollution Research international* 22(4):2384-2395, 2015.
18. Liu C, Sun, Y, Song Y, Saito T, Kurasaki M: Nonylphenol Diethoxylate Inhibits Apoptosis Induced in PC12 Cells. *Environmental Toxicology*, in press DOI: 10.1002/tox.22144.
19. Sikder, MT, Tanaka, S, Saito, T, Hosokawa, T, Gumiri, S, Ardianor, Uddin, MK, Tareq, SM, Shammi, M, Kamal, AK, Kurasaki, M: Vulnerability Assessment of Surface Water Quality with an Innovative Integrated Multi-Parameter Water Quality Index (IMWQI). *Pollution* 1(3):333-346, 2015.
20. Islam MD, Uddin MK, Tareq SM, Shammi M, Kamal AKI, Sugano T, Kurasaki M, Saito T, Tanaka S, Kuramitz H: Alteration of water pollution level with the seasonal changes in mean daily discharge in three main rivers around Dhaka city, Bangladesh. *Environments* 2:280-294, 2015.
21. Shimoda T, Yoshimura S, Yoshida Y, Okazaki M, Gotou T, Tamura S, Ogasawara K: Development and current status of an advances telehealth consultation system in Japan. *J Telmed Telecare* 21:176-178, 2015.
22. Yagahara A, Sato H, Tsuji S, Yokooka Y, Kurowarabi K, Ogasawara K: Proposal for Bottom-up Hierarchical Task Analysis: Application to the Mammography Examination Process. *J Med Imaging Health Informatics* 5: 1429-1434, 2015
23. Yokooka Y, Yagahara A, Tsuji S, Nishimoto N, Uesugi M, Okuda Y, Ogasawara K: Visualization of the X-ray radiography technical process by hierarchical task analysis. *Journal of Medical Imaging and Health Informatics* 6: 532-536, 2016
24. Tsuji S, Yagahara A, Wakabayashi Y, Horita K, Fujita K, Ogasawara K: Developing and Evaluating Radiotherapy Ordering System applied JJ1017 Codes. *Journal of Medical Imaging and Health Informatics* (Accept).
25. Nagahori C, Tchuani JP, Yamauchi T: Factors associated with nutritional status in children aged 5-24 months in Cameroon. *Nursing and Health Sciences* 17(2):229-235, 2015.
26. Nakajima S, Hira T, Hara H: Postprandial glucagon-like peptide-1 secretion is increased during the

V. 研究活動

- progression of glucose intolerance and obesity in high-fat/high-sucrose diet-fed rats. *Br J Nutr* 113:1477-1488, 2015.
27. Adachi N, Numakawa T, Nakajima S, Fukuoka M, Odaka H, Katanuma Y, Ooshima Y, Hohjoh H, Kunugi H: Glucocorticoid affects dendritic transport of BDNF-containing vesicles. *Sci Rep* 5:12684, 2015.
28. Nakajima S, Numakawa T, Adachi N, Ooshima Y, Odaka H, Yoshimura A, Kunugi H: Self-amplified BDNF transcription is a regulatory system for synaptic maturation in cultured cortical neurons. *Neurochem Int* 91:55-61, 2015.
29. Nakajima S, Numakawa T, Adachi N, Yoon HS, Odaka H, Ooshima Y, Kunugi H: The inactivation of extracellular signal-regulated kinase by glucagon-like peptide-1 contributes to neuroprotection against oxidative stress. *Neurosci Lett* 616:105-110, 2016.
30. 竹下悠哉, 角屋智香, 木村勁介, 松永理恵, 栗城眞也, 横澤宏一: 聴覚性定常脳磁界応答の音楽的期待による変調. *生体医工学会誌, 生体医工学*, 53: 84-89, 2015.
31. 竹下悠哉, 田村菜月, 横澤宏一: リズム変化音列に対する脳磁界応答. *電子情報通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report* 114:229-232, 2015.
32. 千年涼太, 山路 萌, 栗城眞也, 横澤宏一: シーケンシャル記憶課題の記銘時における α 波帯域脳律動の変調メカニズム. *電子情報通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report* 114:177-182, 2015.
33. 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 西本尚樹, 本間勝美, 小笠原克彦: 放射線技術学領域における用語オントロジーの構築に向けた分析. *日本放射線技術学会雑誌* 71:186-193, 2015 .
34. 寺下貴美, 小笠原克彦: 単純 X 線撮影のポジショニング実習における問題基盤型学習の導入と実践. *日本放射線技術学会雑誌* 71:216-221, 2015.
35. 谷祐児, 佐瀬雄治, 小笠原克彦: ARIMA モデルを利用した医療機器更新による収益性の検討. *医療情報学* 35:55-61, 2015.
36. 鈴木哲平, 佐々木彩乃, 林和輝, 谷川原綾子, 小笠原克彦: 医療機関 Web サイトの医療情報充実度. *医療情報学* 35:133-140, 2015.
37. 福田晋久, 辻真太郎, 谷川原綾子, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線技術分野への応用に向けたオントロジーの分類. *日本放射線技術学会雑誌* 71:505-511, 2015.

B. 著書

1. Y ustiawati, Sazawa K, Syawal MS, Kuramitz H, Saito T, Hosokawa T, Kurasaki M, Tanaka S. Chapter 18: Peat fire impact on water quality and organic matter in peat soil. pp. 281-296, In "Tropical peatland ecosystems" (Eds. Mitsuru Osaki and Nobuyuki Tsuji), (p651) Springer, Tokyo, Japan, 2016 (分担) .
2. 津久井隆行 (分担): 肥満誘導性慢性炎症に対するフコキサンチンの抗炎症作用. 機能性食品表示への科学的なデータの取り方と表示出来る許容範囲 (技術情報協会編). 355-357, 技術情報協会, 東京, 2015.

C. 総説, 解説, 論評

1. Yamauchi T: Global health field research: bottom-up approach in developing countries. *Symposium Proceedigns. International Symposium on Modern Health Sciences*, 2015.
2. Nagahori C, Tchuani J P and Yamauchi T: Child Undernutrition and Associated Factors in The Republic of

- Cameroon. Conference Proceedings. The First International Conference on Nursing, 2015.
3. Yamauchi T: Body growth and life history of modern humans and Neanderthals from the perspective of human evolution. Congress Proceedings. The 12th International Congress of Physiological Anthropology, 2015.
 4. Yamauchi T: Developing a new sanitation program, improving health and QOL: action research by children. Forum Proceedings. 5th Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE) Yamauchi T (2015) Health and Happiness of Children in Finland and Japan. Session 2: Population in the Arctic. Symposium Proceedings. Hokkaido University - Finnish Universities Joint Symposium, 2015.
 5. Yamamura R, Kato A, Hirai N, Maeda S, Yamauchi T: Lifestyle and body weight changes over two years in female nursing students. Congress Proceedings. 12th Asian Congress of Nutrition, 2015.
 6. Yamamura R, Isono A, Sakurai C, Yamauchi T: Lifestyle and bowel habits in female college students: Risk of the Pre-Constipation group. Conference Proceedings. 2nd FHS International Conference, 2015.
 7. Seta H, Yoshimura A, Mexitalia M, Yamauchi T: Physical fitness performance and body composition of urban and rural students in Central Java, Indonesia. Conference Proceedings. 2nd FHS International Conference, 2015.
 8. Hasegawa J, Yamauchi T: Child nutritional status and related factors in Zambia. Conference Proceedings. 2nd FHS International Conference, 2015.
 9. Hao M, Han W, Jia LH, Yamauchi T: Nutritional status, food consumption and physical fitness of rural and urban elementary school children in Northeast China. Conference Proceedings. 2nd FHS International Conference, 2015.
 10. Ito S and Yamauchi Y: Cooperative Infant Care among the Baka Hunter-Gatherers. Conference Proceedings. 11th Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS11), 2015.
 11. Yamamura R, Kaneyasu A, Tanaka H, Nishikawa A, Yamauchi T: The Relationships among Physical Characteristics, Lifestyle and Health Status in Female Nursing Students. Congress Proceedings. The 12th International Congress of Physiological Anthropology, 2015.
 12. Nagahori C, Tchuani JP, Yamauchi T: Prevalence of Malnutrition and Associated Factors among Children under the age of five in the Eastern Region of the Republic of Cameroon. Conference Proceedings. Third International Conference on Global Public Health 2015 (GPH 2015), 2015.
 13. Seta H, Pramono A, Pratiwi R, Mexitalia M, Yamauchi T: Relationship between nutrient intake from breast milk and complementary food with nutritional status of infants in suburban of Indonesia. Congress proceedings. The 30th Japan Association for International Health Congress 2015, p. 302, 2015.
 14. Yamamura R, Kaneyasu A, Tanaka H, Nishikawa A, Yamauchi T: Correlation among physical characteristics, lifestyle and health status in female nursing student. Congress proceedings. The 30th Japan Association for International Health Congress 2015, p. 306, 2015.
 15. Hao M, Han W, Yamauchi T: A validation study on the effect of food education and exercise intervention against an increase in obesity of elementary school children in Northeast China. Congress proceedings. The 30th Japan Association for International Health Congress 2015, p. 307, 2015.
 16. Hira T, Nakajima S, Hara H: The calcium-sensing receptor in intestinal cells. Calcium: Chemistry, Analysis, Function and Effects. 396-412, 2015.

V. 研究活動

17. 布田博敏, 岡部浩昭, 惠 淑萍, 千葉仁志: 抗酸化物質の概念の変化と新しい抗酸化食品開発戦略. JSBMS Letters 41:7-13, 2016.
18. 横澤宏一, 杉町 勝, 木村裕一: 生体医工学シンポジウム 2015 論文の掲載に当たって. 生体医工学 53: 291, 2015.
19. 萩野 泉, 山内太郎: カメルーン南東部の Baka ピグミーにおける出生力と時代変化. 第 51 回日本アフリカ学会第 51 回学術大会研究発表要旨集, p.133, 2015.
20. 山内太郎: ネアンデルタール人の成長・発達と栄養生態. 公開講演会「ネアンデルタール人の絶滅の謎に迫る」要旨集, 2015.
21. 山内太郎: 余暇 Leisure. 「人間科学の百科事典」(日本生理人類学会編), 426-428, 丸善, 東京, 2015.
22. 山内太郎: 狩猟採集民を生理と生態の視座から再考する～理想か幻想か～. 日本生理人類学会第 72 回大会要旨集, 2015.
23. 山内太郎: 異文化フィールドワークと人材育成. 札幌北ロータリークラブ 会報, 2015.
24. 山内太郎: 伝統社会に暮らす人々の生活と健康: 異文化フィールドワーク入門. UHB 大学 一般教養講座要旨集, 2015.
25. 山内太郎: 肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち. 日本生理人類学会・健康栄養科学研究部会 第 1 回研究会要旨集, 2015.
26. 山内太郎: アグロ・サニテーションは地域住民の健康と幸福にどう貢献できるか. 日本アフリカ学会第 52 回学術大会要旨集, 2015.
27. 山内太郎, 佐藤香苗, 菅野未奈子, 松村康弘: 北海道上川地区に居住する幼児の体型評価と肥満化傾向. 日本生理人類学会第 72 回大会要旨集, 2015.
28. 勢田英果, 吉村 彩, Maria Mexitalia, 山内太郎: インドネシア共和国中部ジャワ州に居住する小中学生の身体特性と運動能力の関連性. 日本生理人類学会第 72 回大会要旨集, 2015.
29. 山村凌大, 磯野晃照, 櫻井ちひろ, 山内太郎: 女子大学生の生活習慣と排便状況—便秘予備群のリスク—. 日本生理人類学会第 72 回大会要旨集, 2015.
30. 郝 明, 韩 威, 贾 丽红, 山内太郎: 中国東北部の都市部, 農村部に暮らす小学生の体格, 食物摂取と体力. 日本生理人類学会第 72 回大会要旨集, 2015.
31. 郝 明, 山村凌大, 韩 威, 贾 丽红, 山内太郎: 中国東北部の都市部・農村部に暮らす小学生の肥満に影響する因子の検討. 第 22 回未病システム学会要旨集, 2015.
32. 山村凌大, 磯野晃照, 櫻井ちひろ, 山内太郎: 女子大生の食習慣, 身体活動と排便状況: 便秘予備群のリスク. 第 22 回未病システム学会要旨集, 2015.
33. 勢田英果, Adriyan Pramono, Rina Pratiwi, Maria Mexitalia: インドネシアの都市郊外に居住する乳児の栄養素摂取量の関連—母乳および補完食の観点から—. 第 30 回日本国際保健医療学会要旨集, p.140, 2015.
34. 山村凌大, 金安顕子, 田中穂乃佳, 西川明里, 山内太郎: 女子看護学生の身体特性, 生活習慣, 健康状態の関連. 第 30 回日本国際保健医療学会要旨集, p.144, 2015.
35. 郝 明, 韩 威, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生の肥満に対する食育と運動介入の効果の検証. 第 30 回日本国際保健医療学会要旨集, p.145, 2015.

V. 研究活動

D. 報告書

1. 横澤宏一：フィンランド海外派遣「脳機能イメージング実習」報告．北海道大学大学院保健科学研究所「広報」14:10, 2015.
2. 萩野 泉, 山内太郎：狩猟採集民 Baka の子どもにおける食物獲得への参与と成果 —16 日間の狩猟キャンプにおける観察から—．ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究．第 10 回研究報告書．赤澤威（編）．73-74, 2015.
3. 山内太郎, 萩野 泉, 伊藤早織：ネアンデルタールのライフステージと栄養生態 — 現代の狩猟採集民のフィールド調査とネアンデルタールのエネルギー適応戦略仮説．ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究．第 10 回研究報告書．赤澤威（編）．75-76, 2015.
4. 山内太郎：ネアンデルタールとサピエンスの交替劇：脳の成長・成熟およびロコモーションのエネルギー効率の視座から．「交替劇」A02 班研究報告書 No.5, 87-91, 2015.
5. 萩野 泉, 山内太郎：狩猟採集民 Baka の子どもにおける生態：食物獲得への参与と成果．「交替劇」A02 班研究報告書 No.5, 93-99, 2015.
6. 櫻井武司, 山内太郎：経済成長下のアフリカにおける食品企業の子どもの対象とした栄養改善事業：CSV の観点からのインパクト評価．平成 27 年度農林水産政策研究委託事業研究報告書, 2015.
7. 山内太郎ほか：国際的視野をもった高度医療専門職・研究者育成のための国際交流事業．北海道大学平成 27 年度海外教育交流支援事業, 2015.

E. その他

[受賞]

1. 横澤宏一：生体医工学シンポジウム，ベストリサーチアワード，Alpha-band amplitude during memory encoding is an index of memory performance（共同演者）．
2. 萩 明, 山内太郎：日本生理人類学会第 72 回大会 優秀発表賞，中国東北部の都市部，農村部に暮らす小学生の体格，食物摂取と体力

[学会研究会の主催]

1. 山内太郎：2014 年度狩猟採集民研究会，北海道大学，2015. 2. 12-13.
2. 山内太郎：中部アフリカ研究会合同研究会，北海道大学，2015. 3. 23-24.
3. 山内太郎：日本生理人類学会，第 72 回大会，2015. 5. 30 - 31.
4. 山内太郎：The 2nd FHS International Conference: Gazing into the Future of Health Sciences in Asia. 2015. 7. 3.
5. 齋藤 健：第 26 回日本微量元素学会学術集会，札幌，2015. 7. 4-5.
6. 千葉仁志：第 22 回日本未病システム学会学術総会，札幌，2015. 11. 12-13.
7. 山内太郎：第 21 回生態人類学会，2016. 3. 22 - 23.
8. 山内太郎：新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交代劇」研究会，小樽，2015. 12. 5 - 6.
9. 山内太郎：中部アフリカ研究会，札幌，2016. 3. 21 - 22.

[特許]

国内（出願）： 1 件

V. 研究活動

国内(取得): 1件

国際(出願): 2件(Malaysia, 米国)

国際(取得): 3件(米国2件, 豪州1件)

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yamauchi T: Global health field research: bottom-up approach in developing countries. International Symposium on Modern Health Sciences, Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan, 2015. 2.
2. Yamauchi T: Evolving health sciences and global health fieldwork in developing countries. International Workshop for Studying in Japan, University of Zambia, Lusaka, 2015. 3.
3. Yamauchi T: Water, Sanitation and Health: global burden of diarrhoeal disease. JSPS e-learning program lecture, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 7. 22.
4. Yamauchi T: Body growth and life history of modern humans and Neanderthals from the perspective of human evolution. The 12th International Congress of Physiological Anthropology, Tokyo Bay Makuhari Hall, Chiba, 2015. 10. 27-30.
5. Yamauchi T: Developing a new sanitation program, improving health and QOL: action research by children. 5th Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE), Government Complex, Lusaka, Zambia, 2015. 11. 2-3.
6. Yamauchi T: Health and Happiness of Children in Finland and Japan. Session 2: Population in the Arctic, Hokkaido University - Finnish Universities Joint Symposium, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 11. 11.
7. Yamauchi T: Evolving Health Sciences: Our Mission to the Future / Field Research in Global Health and Human Ecology. University of Dar es Salaam, Dar es Salaam, 2016. 2. 12.

[国内学会]

1. 釜江常好, 羽根田直樹, 小笠原克彦, 藤野雄一, 水島洋: ICT資源の利活用による新時代の地域完結・自立循環型福祉社会の実現に向けて. 第21回NORTHインターネットシンポジウム2015, 札幌, 2015. 2.
2. 小笠原克彦: 診療放射線技師における研究の進め方. 京都大学病院放射線部学術セミナー, 京都, 2015. 2.
3. 山内太郎: ネアンデルタール人の成長・発達と栄養生態. 公開講演会「ネアンデルタール人の絶滅の謎に迫る」, 東京大学, 東京, 2015. 2. 7.
4. 横澤宏一: 「脳磁計による内因性脳活動の計測」. 超伝導エレクトロニクス146委員会第94回研究会, 東京, 2015. 4.
5. 山内太郎: 狩猟採集民を生理と生態の視座から再考する～理想か幻想か～. 日本生理人類学会第72回大会, 北海道大学, 札幌, 2015. 5. 30-31.
6. 千葉仁志: 会長講演「新しい評価系に基づく確かな未病医療を目指して」. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
7. 小笠原克彦: 地域医療と未病対策 - 疫学とICTの視点から - 北海道岩見沢市での健康ICTの試み. 第22

V. 研究活動

回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.

8. 横澤宏一:「短期記憶過程の α 波帯域脳律動計測」. 第15回マルチモーダル脳情報応用研究会, 東京, 2016. 1.

[地方会]

1. 山内太郎, 萩野泉: アフリカ熱帯雨林に暮らす狩猟採集民 Baka の子どもの成長と森林キャンプにおける栄養生態. 2014 年度 狩猟採集民研究会, 北海道大学, 札幌, 2015. 2. 12-13.
2. 山内太郎: ネアンデルタールのライフステージと栄養生態, 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 神戸学院大学, 明石, 2015. 3.
3. 山内太郎: カメルーン狩猟採集民調査:1996-2014. 中部アフリカ研究会合同研究会, 北海道大学, 札幌, 2015. 3.
4. 山内太郎: 未来のサニテーション—地域住民の健康と幸福に貢献できるか. 地球研インキュベーション研究「ポストモダン・サニテーションの提案」第1回ワークショップ, 総合地球環境学研究所, 京都, 2015. 7. 1.
5. 山内太郎: 進化するサニテーション—地域住民の健康と幸福を支えるシステムの提案. FS 段階の研究計画を作成するワークショップ, 北海道大学, 札幌, 2015. 7. 9.
6. 山内太郎: フィールドワークからみた地域住民の生活の質と健康. 第1回 地域生活価値勉強会, 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所, 2015. 9. 16.
7. 山内太郎: 異文化フィールドワークと人材育成. 札幌北ロータリークラブ 第2028回 例会 卓話, センチュリーロイヤルホテル, 2015. 9. 28.
8. 山内太郎: 伝統社会に暮らす人々の生活と健康:異文化フィールドワーク入門. UHB 大学 一般教養講座, 道新ホール, 2015. 10. 13.
9. 山内太郎: 新しいサニテーションプログラム: 子どものアクションリサーチによる健康と QOL の向上. 地球研プロジェクト 研究者会合, 北海道大学, 札幌, 2015. 11. 7.
10. 小笠原克彦: OBS が育ててくれたもの - 産・学・官・地域の連携による健康イノベーションの挑戦 -. 第16回 OBS フォーラム, 札幌, 2015. 11.
11. 恵 淑萍, 宮永 賢, 千葉仁志:「細胞内脂質・脂肪滴代謝異常と病態」. 福岡大学病院 腎臓セミナー, 福岡, 2015. 12. (招待講演)
12. 山内太郎: ネアンデルタールの生理・生態. 交替劇プロジェクト A02 班メモリアル研究会, 朝里川温泉, 小樽, 2015. 12. 5-6.
13. 山内太郎: 肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち. 日本生理人類学会・健康栄養科学研究部会 第1回研究会, 天使大学, 札幌, 2015. 12. 19-20.
14. 小笠原克彦: 産学地域で創る”健康コミュニティ”. 平成28年度札幌市食生活改善推進員協議会冬期研修会特別講演, 札幌, 2016. 2.
15. 山内太郎: ザンビア南部州における栄養・健康に関するフィールド調査: レビューと展望. フューチャーアース企画ワークショップ「半乾燥熱帯農村部における気候変動レジリエンス構築へ向けた総合的支援策策定のための超学際的研究の可能性」, 長崎大学, 長崎, 2016. 3. 14.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Nagahori C, Tchuani J P, Yamauchi T: Child Undernutrition and Associated Factors in The Republic of Cameroon. 1st International Conference on Nursing, Malang, Indonesia, 2015. 2.
2. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki S, Yamaguchi S, Hirano KI, Chiba H: Quantification of plasma capric acid concentration using high-performance liquid chromatography. The 3rd International Symposium on Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy Neutral Lipid Storage Disease, Tokyo, 2015. 3.
3. Tawara N: Muscle functional MRI using Thee-dimensional double-echo steady-state (3D-DESS) sequence at 3.0T: flip angles for calculation of muscle T2. the 20th Annual Scientific Meeting of Korea Society for Magnetic Resonance in Medicine (KSMRM), Seoul, Korea, 2015. 3.
4. Tsukui T, Tokiwa Y, Endo Y: Effect of inhibition on cancer cell growth by glycolipid and phospholipid from *Torreya* seed. 12th Asian Congress of Nutrition (a joint meeting with The 69th Annual Meeting of Japan Society of Nutrition and Food science), Yokohama, 2015. 5.
5. Yamamura R, Kato A, Hirai N, Maeda S, Yamauchi T: Lifestyle and body weight changes over two years in female nursing students. 12th Asian Congress of Nutrition, Pacifico Yokohama, Yokohama, 2015. 5. 14-18.
6. Hayasaka T, Fuda H, Chiba H, Hui SP: Imaging Mass Spectrometry Reveals the Decrease of Cardiolipin on Kidney of NASH model Mous. 63rd Conference on Mass Spectrometry and allied topics. St. Louis, Missouri, USA, 2015. 6.
7. Murakami Y, Liu Q, Chitose R, Pihko E, Hari, R, Yokosawa K: Suppression of tau rhythm depending on emotional valence of sounds. 5th Biennial Meeting of the International Society for the Advancement of Clinical Magnetoencephalography (ISACM), Helsinki, Finland, 2015. 6.
8. Kimura K, Chitose R, Yamaji M, Yokosawa K, Kuriki S: Mechanisms of alpha-band rhythm modulation during sequential short-term memory encoding. 5th Biennial Meeting of the International Society for the Advancement of Clinical Magnetoencephalography (ISACM), Helsinki, Finland, 2015. 6.
9. Toyomura A, Fujii T, Yokosawa K, Kuriki S: Neural activity elicited by context-dependent speech dysfluency. 8th World Congress on Fluency Disorders, Lisbon, Portugal, 2015, 7.
10. Takeshita Y, Boasen J F, Yokosawa K: The effects of rhythm changes during music listening on neuromagnetic response. The 2nd Faculty of Health Sciences International Conference, Sapporo, Japan, 2015, 7.
11. Kimura K, Chitose R, Yokosawa K: Serial position effects and alpha-rhythm modulation during sequential short-term memory encoding. The 2nd Faculty of Health Sciences International Conference, Sapporo, Japan, 2015, 7.
12. Murakami Y, Sakai S, Liu Q, Chitose R, Pihko E, Hari R, Yokosawa K: Does the suppression of tau-rhythm reflect the emotional valence of sounds? The 2nd Faculty of Health Sciences International Conference, Sapporo, Japan, 2015, 7.
13. Yamamura R, Isono A, Sakurai C, Yamauchi T: Lifestyle and bowel habits in female college students: Risk of the Pre-Constipation group. 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 7.

- 3.
14. Seta H, Yoshimura A, Mexitalia M, Yamauchi T: Physical fitness performance and body composition of urban and rural students in Central Java, Indonesia. 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 7. 3.
15. Hasegawa J, Yamauchi T: Child nutritional status and related factors in Zambia. 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 7. 3.
16. Hao M, Han W, Jia LH, Yamauchi T: Nutritional status, food consumption and physical fitness of rural and urban elementary school children in Northeast China. 2nd FHS International Conference, Hokkaido University, Sapporo, 2015. 7. 3.
17. Han R, Takahashi T, Miyazaki A, Kadoya T, Kato S, Yokosawa K: Activity in the left auditory cortex is associated with individual impulsivity in time discounting. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 37th Annual International Conference of IEEE, Milano, Italy, 2015. 8.
18. Takeshita Y, Yokosawa K: Acoustic pressure reduction at rhythm deviants causes magnetoencephalographic response. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 37th Annual International Conference of IEEE, Milano, Italy, 2015. 8.
19. Kikuchi R, Ono Y, Yokosawa K, Ishiyama A: Detection of change in time-course of cortical connectivity during short-term memory test. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 37th Annual International Conference of IEEE, Milano, Italy, 2015. 8.
20. Ito S and Yamauchi Y: Cooperative Infant Care among the Baka Hunter-Gatherers. 11th Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS11), University of Vienna, Vienna, Austria, 2015. 9. 7-11.
21. Yamamura R, Kaneyasu A, Tanaka H, Nishikawa A, Yamauchi T: The Relationships among Physical Characteristics, Lifestyle and Health Status in Female Nursing Students. The 12th International Congress of Physiological Anthropology, Tokyo Bay Makuhari Hall, Chiba, 2015. 10. 27-30.
22. Nagahori C, Tchuani JP, Yamauchi T: Prevalence of Malnutrition and Associated Factors among Children under the age of five in the Eastern Region of the Republic of Cameroon, Third International Conference on Global Public Health 2015 (GPH 2015), Taj Samudra Hotel, Colombo, Sri Lanka, 2015. 12. 10-11.

[国内学会]

1. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 恵 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化による肝臓保護作用. 日本農芸化学会 2015 年度大会, 岡山, 2015. 3.
2. 竹下悠哉, 田村菜月, 横澤 宏一: リズム変化音列に対する脳磁界応答. 電子情報通信学会 ニューロコンピューティング研究会, 東京, 2015. 3.
3. 千年涼太, 山路萌, 栗城真也, 横澤宏一: シーケンシャル記憶課題の記録時における α 波帯域脳律動の変調メカニズム. 電子情報通信学会 ニューロコンピューティング研究会, 東京, 2015. 3.
4. 山内太郎, 萩野 泉, 伊藤早織: ネアンデルタールのライフステージと栄養生態 — 現代の狩猟採集民のフィールド調査とネアンデルタールのエネルギー適応戦略仮説. 交替劇プロジェクト第 10 回研究大会, 高知会館, 高知, 2015. 3.
5. 萩野 泉, 山内太郎: 狩猟採集民 Baka の子どもにおける食物獲得への参与と成果 — 16 日間の狩猟キャンプにおける観察から—. 交替劇プロジェクト第 10 回研究大会, 高知会館, 高知, 2015. 3.

V. 研究活動

6. 北 朋美, 田中將登, 上野祐可子, 蔵崎正明, 佐藤 伸, 齋藤 健: ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットに対する小豆ポリフェノール投与効果, 第 85 回日本衛生学会, 和歌山, 2015. 3. 27.
7. 小川万梨野, 井上進也, 竹内祐子, 田中將登, 北 朋美, 上野祐可子, 蔵崎正明, 佐藤 伸, 齋藤 健: 授乳期の母ラットへのレスベラトロール投与が成熟期の仔ラットの脂質代謝に与える影響, 第 85 回日本衛生学会, 和歌山, 2015. 3. 27.
8. 蔵崎正明, Islam Md. Shariful, 細川敏幸, 齋藤 健: *Micranthemum umbrosum* を用いた水圏環境中よりのヒ素及びカドミウムの浄化, 第 85 回日本衛生学会, 和歌山, 2015. 3. 27.
9. 本間太郎, 阿部周司, 津久井隆行: 水産練り製品のゲル形成に及ぼすワカメ脂質添加の影響. 第 60 回日本低温生物工学会大会, 東京都, 2015. 5.
10. 山内太郎: アグロ・サニテーションは地域住民の健康と幸福にどう貢献できるか. 日本アフリカ学会第 52 回学術大会, 犬山国際観光センター「フロイデ」, 犬山, 2015. 5. 23-24.
11. 山内太郎, 佐藤香苗, 菅野未奈子, 松村康弘: 北海道上川地区に居住する幼児の体型評価と肥満化傾向. 日本生理人類学会第 72 回大会, 北海道大学, 札幌, 2015. 5. 30-31.
12. 勢田英果, 吉村彩, Maria Mexitalia, 山内太郎: インドネシア共和国中部ジャワ州に居住する小中学生の身体特性と運動能力の関連性. 日本生理人類学会第 72 回大会, 北海道大学, 札幌, 2015. 5. 30-31.
13. 山村凌大, 磯野晃照, 櫻井ちひろ, 山内太郎: 女子大学生の生活習慣と排便状況—便秘予備群のリスク—. 日本生理人類学会第 72 回大会, 北海道大学, 札幌, 2015. 5. 30-31.
14. 郝 明, 韩 威, 贾 丽红, 山内太郎: 中国東北部の都市部, 農村部に暮らす小学生の体格, 食物摂取と体力. 日本生理人類学会第 72 回大会, 北海道大学, 札幌, 2015. 5. 30-31.
15. 竹下悠哉, 横澤宏一: 音楽聴取中のリズムパターン変化に対する脳磁界活動の評価. 第 30 回日本生体磁気学会大会, 旭川, 2015. 6.
16. 木村勁介, 千年涼太, 山路 萌, 栗城眞也, 横澤宏一: 記憶課題の記銘時における α 波帯域脳活動の変調メカニズム. 第 30 回日本生体磁気学会大会, 旭川, 2015. 6.
17. 佐藤華織, 下條暁司, 横澤宏一, 前澤仁志, 山口泰彦: 歯根膜感覚と脳内活動の関連性の検討 - 脳磁図による評価. 第 30 回日本生体磁気学会大会, 旭川, 2015. 6.
18. 村上優衣, 劉 青子, 千年涼太, 横澤宏一: 情動音の聴取時における τ 波脳磁場の変調. 第 30 回日本生体磁気学会大会, 旭川, 2015. 6.
19. 稲岡翼, 寺本将平, 菊池 龍, 横澤宏一, 小野弓絵: SPM8 を用いた開閉眼時の脳波と脳磁場からの脳内活動源推定. 第 30 回日本生体磁気学会大会, 旭川, 2015. 6.
20. 竹下悠哉, 木村勁介, Jared Boasen, 横澤宏一: 音楽聴取中のリズム変化に対する脳磁界応答 -SPM による検討. 日本音楽知覚認知学会平成 27 年度春季研究発表会, 札幌, 2015. 6.
21. 村上優衣, 劉 青子, 千年涼太, Elina Pihko, Riitta Hari, 横澤宏一: τ 波脳磁場は音の情動価を反映するか? 第 1 回作業療法神経科学研究会, 札幌, 2015.7.
22. 三浦真理, 上野祐可子, 北 朋美, 菱岡なお子, 蔵崎正明, 齋藤 健: 亜鉛過剰摂取による銅吸収阻害機構の解明, 第 26 回日本微量元素学会, 札幌, 2015.7.
23. 劉闢, 宋雨桐, 齋藤 健, 蔵崎正明: 銅曝露された PC12 細胞中のアポトーシス因子変動に及ぼすノニルフェノールエソキシレートの影響, 第 26 回日本微量元素学会, 札幌, 2015.7.
24. 上野祐可子, 北朋美, 小森幹育子, 菱岡なお子, 田中將登, 蔵崎正明, 齋藤健: 未分化および分化 PC12 細胞の活性酸素代謝酵素に及ぼすレスベラトロールの作用の違い, 第 26 回日本微量元素学会, 札幌,

V. 研究活動

2015.7.

25. Md . Mostafizur Rahman, 浮穴純貴, 齋藤 健, 蔵崎正明: PC12 細胞における Cu, Cd 及び Zn の細胞毒性に対する複合効果の評価, 第 26 回日本微量元素学会, 札幌, 2015.7.
26. 竹下悠哉, 横澤宏一: 音楽聴取時のリズムパターンが心身に与える影響～セッション時のリズム変更の重要性について～. 第 15 回日本音楽療法学会学術大会学術大会, 札幌, 2015. 9.
27. Kimura K, Chitose R, Yokosawa Y: Alpha-band amplitude during memory encoding is an index of memory performance. 生体医工学シンポジウム 2015, 岡山, 2015. 9.
28. Mizobe K, Yokosawa K, Shimojo A, Ozaki M: Fasting modulates physio-psychological responses to emotional pictures: An analysis by MEG, VAS and biological markers (pulse and SpO2). 生体医工学シンポジウム 2015, 岡山, 2015. 9.
29. 惠 淑萍, 繁富 (栗林) 香織, 小林 悠, 千葉仁志: 脂肪細胞の脂肪滴における過酸化トリグリセリドの分析. 第 40 回日本医用マスペクトル学会年会, 浜松, 2015. 9.
30. 大谷晋太郎, 惠 淑萍, 岡部浩昭, 布田博敏, 渡辺 貢, 千葉仁志: LC-MS/MS によるマガキ由来フェノール性抗酸化物質の測定法の開発とその応用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
31. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡邊 貢, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化による肝保護作用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
32. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: システインは LDL を安定化させて酸化を抑制する. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
33. Shrestha Rojeet, 惠 淑萍, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志: Analysis of phosphatidylcholine hydroperoxides in plasma and triglyceride-rich lipoproteins by LC/MS. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
34. 山本祐輔, 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: Glycoblotting 法を用いた牛乳中遊離オリゴ糖の網羅的定量解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
35. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: プロッティング技術に基づく脂質アルデヒド類の網羅的定量解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
36. 中藪拓哉, 岡部浩昭, 古川貴之, 惠 淑萍, 千葉仁志: 牛乳ビタミン D 類の定量に向けた新規ラベル化試薬の合成と応用. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
37. 三浦佑介, 惠 淑萍, 小林美穂, 清水 力, 千葉仁志: 尿中コレステリルエステル腎脂質代謝を反映する. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
38. 寺嶋 駿, 武田晴治, 宮永 賢, 吉田 繁, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化 LDL 由来の酸化分解物質の組成と性質. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
39. 早坂孝宏, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: NASH モデルマウスの腎組織の質量分析イメージング解析. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
40. 中島進吾, 牧原圭佑, 惠 淑萍, 千葉仁志: ラット C6 グリア細胞株における脂肪滴形成とその影響. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
41. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化された HepG2 細胞による酸化トリグリセリド分泌と脂肪滴形成. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
42. 馬 逸興, 惠 淑萍, 古川貴之, 布田博敏, 千葉仁志: DHMBA increases mitochondrial function and fatty acid utilization in muscle cells. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.

V. 研究活動

43. 惠 淑萍, 繁富(栗林) 香織, 小林 悠, 千葉仁志: 脂肪細胞に蓄えられた脂肪滴より過酸化トリグリセリドを検出した. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
44. 菊地 玲, 南 昭子, 道又理恵, 山下直樹, 安田慶子, 澁谷 斉, 加畑 馨, 岡部浩昭, 惠 淑萍, 千葉仁志, 清水 力: 一年を通しての貯蔵型ビタミンDと紫外線量との関連性. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
45. 布田博敏, 渡邊 貢, 上甲紗愛, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来の抗酸化物質における肝細胞保護作用. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
46. 岡部浩昭, 惠 淑萍, 布田博敏, 大谷晋太郎, 渡邊孝之, 渡邊 貢, 千葉仁志: マガキ抽出物中の両親媒性抗酸化フェノールの定量. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
47. 林 沙紀, 宮永 賢, 千葉仁志, 八木亜希子, 神谷博文, 惠 淑萍: メタボロミクスによる体外受精用培養液のアミノ酸の解析. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
48. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: グライコブロットィング法を用いた脂質アルデヒドの定量測定法の開発. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
49. 林 沙紀, 宮永 賢, 千葉仁志, 八木亜希子, 神谷博文, 惠 淑萍: HILIC-LC/MSによる体外受精用培養液におけるアミノ酸のメタボローム解析. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
50. 高橋遼地, 古川貴之, 惠 淑萍, 千葉仁志: 内部標準物質として用いる非天然型カルジオリピンの合成研究と定量分析へ向けた基礎的検討. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
51. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: LDL酸化に及ぼすアミノ酸の影響に関する研究. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
52. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化ストレスによるヒト肝培養細胞の脂肪滴形成と脂質分泌に及ぼす影響. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
53. Rojeet Shrestha, 惠 淑萍, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志: Detection and identification of cholesteryl ester hydroperoxides by LC/MS. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
54. 上甲紗愛, 布田博敏, 渡邊 貢, 惠 淑萍, 武田晴治, 渡邊孝之, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質, DHMBAによるKeap1-Nrf2経路活性化. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
55. 三浦佑介, 惠 淑萍, 高橋遼地, 千葉仁志: LC-MS/MSによるコレステリルエステル定量法の開発. 第55回日本臨床化学会年次学術集会, 大阪, 2015. 10.
56. 北川 剛, 井上 剛, 藤原健祐, 谷川原綾子, 福田晋久, 西本尚樹, 小笠原克彦: コンジョイント分析による診療放射線技師を対象とした労働環境の選好に関する調査. 第43回日本放射線技術学会秋季学術大会, 金沢, 2015. 10.
57. 岩田邦弘, 中川貞裕, 森谷俊春, 高瀬峻研, 谷川琢海, 小笠原克彦: Gd-EOB-DTPA造影MRI検査の大腸癌術前肝転移検索における効率の評価. 第43回日本放射線技術学会秋季学術大会, 金沢, 2015. 10.
58. 辻真太郎, 谷川原綾子, 西本尚樹, 谷川琢海, 川真田実, 島井健一郎, 星野修平, 小笠原克彦: 放射線技術学分野における用語辞書の構築を目指した知識基盤の整備. 第43回日本放射線技術学会秋季学術大会, 金沢, 2015. 10.
59. 藤原健祐, 高橋拓也, 小笠原克彦: CT・MRI保有施設へのアクセシビリティ分析 - 北海道における現状と将来予測 -. 第43回日本放射線技術学会秋季学術大会, 金沢, 2015. 10.
60. 田村菜穂美, 寺下貴美, 下田智子, 吉田祐子, 良村貞子, 小笠原克彦: 北海道農村部に住む高齢者への思念方法に関する健康影響評価. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.

V. 研究活動

61. 下田智子, 寒川美奈, 小笠原克彦, 良村貞子: 特別豪雪地帯に住む高齢者の積雪時および非積雪時の活動量と体組成の実態. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
62. 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線治療領域におけるエラーに関するオントロロジーの構築. 医用画像情報学会平成27年度秋季(第173回)大会, 札幌, 2015. 10.
63. 谷川原綾子, 横岡由姫, 辻真太郎, 福田晋久, 西本尚樹, 黒藏邦夫, 小笠原克彦: オントロロジー技術を用いたマンモグラフィ撮影技術の構造化と画像評価. 医用画像情報学会平成27年度秋季(第173回)大会, 札幌, 2015. 10.
64. 津久井隆行, 渡辺梨央, 遠藤泰志: 脂肪細胞の脂肪蓄積に対するカヤ油由来シアドン酸の抑制効果. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015. 10.
65. 郝明, 山村凌大, 韩威, 贾丽红, 山内太郎: 中国東北部の都市部・農村部に暮らす小学生の肥満に影響する因子の検討. 第22回未病システム学会, 北海道大学, 札幌, 2015. 10. 11-12.
66. 山村凌大, 磯野晃照, 櫻井ちひろ, 山内太郎: 女子大生の食習慣, 身体活動と排便状況: 便秘予備群のリスク. 第22回未病システム学会, 北海道大学, 札幌, 2015. 10. 11-12.
67. 安藤 裕, 坂本 博, 野津 勤, 坂野隆明, 寺地大貴, 河野 亨, 大越 厚, 齋須 亨, 小笠原克彦: 画像の外部保存の安全管理 -現状と課題-. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015.11.
68. 星本弘之, 小笠原克彦, 古川裕之, 池田和之, 小塚和人, 近藤博史, 下堂蘭権洋, 谷川琢海, 大原信: 食物アレルギー情報交換の標準化に向けたコード体系と交換様式の提案. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015.11.
69. 佐々木健太, 谷 祐児, 小笠原克彦: Super-SBM モデルによる全国自治体病院の経営効率性評価. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
70. 青木智大, 谷川原綾子, 小笠原克彦: 原子力発電所関連 Tweet における放射線関連語句の地域間印象度調査. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
71. 福田晋久, 安渡大輔, 辻真太郎, 谷川原綾子, 小笠原克彦: N-gram を用いた放射線技術領域へのオントロロジー技術利用に関する文献の調査. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
72. 寺下貴美, 横地将文, 小笠原克彦: ドクターヘリ継続に関する支払意思額調査における居住地域と支払意思の関係抽出の試み: 仮想評価法の自由記述文のテキストマイニング. 第35回医療情報学連合大会(沖縄), 2015. 11.
73. 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 西本尚樹, 谷川琢海, 上杉正人, 小笠原克彦, 横井英人: 医療機器不具合用語集の現状調査と問題点抽出. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
74. 藤原健祐, 高橋拓也, 小笠原克彦: 地理情報システムを利用した高性能画像診断装置へのアクセシビリティ分析. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
75. 谷 祐児, 小笠原克彦: 中小規模医療法人(民間)病院経営改善に対する医療情報の寄与に関する考察—中小規模病院経営改善アンケート調査結果より—. 第35回医療情報学連合大会, 沖縄, 2015. 11.
76. 和田 淳, 鈴木 朗, 山本志緒里, 海道雅子, 越智康浩, 恵 淑萍, 千葉仁志, 平野賢一: 多項目自動血球分析装置 XN シリーズによる, 原発性中性脂肪蓄積心筋血管症由来の好中球脂肪滴の検出. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015. 11.
77. 竹下悠哉, 横澤宏一: 旋律中のリズムパターン変化に対する脳磁界応答. 第32回日本脳電磁図トポグラフィ研究会(JESBET) / 第3回宮古島神経科学カンファレンス(MiCoNS), 宮古島, 2015. 11.
78. 勢田英果, Adriyan Pramono, Rina Pratiwi, Maria Mexitalia: インドネシアの都市郊外に居住する乳児の栄

V. 研究活動

- 養素摂取量の関連—母乳および補完食の観点から—. 第30回日本国際保健医療学会, 金沢大学, 金沢, 2015. 11. 21-22.
79. 山村凌大, 金安顕子, 田中穂乃佳, 西川明里, 山内太郎: 女子看護学生の身体特性, 生活習慣, 健康状態の関連. 第30回日本国際保健医療学会, 金沢大学, 金沢, 2015. 11. 21-22.
80. 郝明, 韓威, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生の肥満に対する食育と運動介入の効果の検証. 第30回日本国際保健医療学会, 金沢大学, 金沢, 2015. 11. 21-22.
81. 竹下悠哉, 東原将大, 鈴木杏梨, 横澤宏一: リズム知覚実験中に生じる脳賦活部位の時間的变化. 第15回マルチモーダル脳情報応用研究会, 東京, 2016.1.
82. 竹下悠哉, 横澤宏一: リズム逸脱に対する脳磁界応答 ～旋律と音列を用いた実験の比較～. 第18回日本ヒト脳機能マッピング大会, 京都, 2016. 3.
83. Boasen J, Takeshita Y, Jousmaki V, Yokoswa K: A model for exploring the neuromagnetic underpinnings of creativity in magnetoencephalography using improvisational music. 第18回日本ヒト脳機能マッピング大会, 京都, 2016. 3.
84. 中島進吾, 比良徹, 岩谷一史, 原博: 亜鉛は消化管内分泌細胞からのCCK分泌を誘導する. 日本農芸化学会, 札幌, 2016. 3.

[地方会]

1. 太田瑞紀, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線関連用語を対象とした語句の持つ印象の分析. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015.2.
2. 鈴木千裕, 佐久嶋研, 南須原康行, 遠藤晃, 小笠原克彦: 診療記事における類似度の妥当性についての検討. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015.2.
3. 青木智大, 太田瑞紀, 高橋拓也, 小笠原克彦: 放射線関連 Tweet 数の地域性に関する分析. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015. 2.
4. 藤原健祐, 忠竜宏, 小笠原克彦: 高性能CT・MRIの分布と画像診断に関する格差の評価. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015. 2.
5. 高橋拓也, 谷川琢海, 小笠原克彦: 札幌市を対象とした診療科ごとの徒歩到達圏分析. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015. 2.
6. 俵紀行, 藤原健祐, 小笠原克彦: 介護・高齢者福祉における資源配分状況の調査. 第8回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015. 2.
7. 小笠原克彦. 自律型健康増進・生活支援のための地域サポート技術の開発検証. 第21回NORTHインターネットシンポジウム2015, 札幌, 2015. 2.
8. 俵紀行: 介護・高齢者福祉における資源配分状況の調査. 第10回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2015. 2.
9. 萩野泉, 山内太郎: 森キャンプにおける狩猟採集民Bakaの子どもの食物獲得, 中部アフリカ研究会合同研究会, 北海道大学, 札幌, 2015. 3.
10. 萩野泉, 山内太郎: カメルーン熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の子どもの生態: 新学術領域「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」A02 班会議, 神戸学院大学, 明石, 2015. 3.
11. 山内太郎: 北海道大学人類生態学研究室による, 近年のカメルーン調査について. 2015年度カメルーン連絡会議, 京都大学, 京都, 2015. 4. 18.

V. 研究活動

12. Shrestha R, Hui SP, Imai H, Hashimoto S, Uemura N, Takeda S, Fuda H, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano KI, Chiba H: Analysis of medium-chain fatty acid in human plasma using HPLC. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
13. 八木亜希子, 宮永 賢, Shrestha Rojeet, 武田晴治, 千葉仁志, 神谷博文, 惠 淑萍: ヒト胚培養後の培養液における必須脂肪酸, 特にドコサヘキサエン酸の減少. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
14. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: 化学濃縮及びタグ交換反応(グライコブロットティング法)に基づく脂質アルデヒド類の定量解析法. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
15. 山本祐輔, 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: Glycoblotting 法による牛乳中遊離オリゴ糖の網羅的定量解析. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
16. 高橋遼地, 古川貴之, 惠 淑萍, 千葉仁志: 内部標準として用いるカルジオリピンの合成と定量分析へ向けた基礎的検討. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
17. 寺嶋 駿, 武田晴治, 宮永 賢, 吉田 繁, 惠 淑萍, 千葉仁志: 酸化 LDL 由来マイクロパーティクルの脂質組成と生物学的性質. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
18. 武田晴治, Subagyo Agus, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 末岡和久, 千葉仁志: 酸化による LDL の硬さの変化について. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
19. 橋本咲月, 武田晴治, 寺嶋 駿, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: システインによる LDL 酸化抑制に関する研究. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
20. 牧原圭佑, 中島進吾, 惠 淑萍, 千葉仁志: ラット C6 グリア細胞株において脂肪滴は酸化ストレスに対する脆弱性を誘発する. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
21. 山本麻衣, 津久井隆行, 惠 淑萍, 千葉仁志: 培養肝細胞における脂肪滴の成熟および酸化過程の可視化. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
22. 梅津里美, 宮永 賢, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: ヒト肝培養細胞(HepG2)を用いた酸化トリグリセリド分泌と脂肪滴形成の研究. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
23. 馬 逸興, 惠 淑萍, 古川貴之, 布田博敏, 千葉仁志: Oyster-derived DHMBA behaves as an exercise mimicry in C2C12 muscle cells. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
24. 宮永 賢, 小林美穂, 三浦佑介, 渡邊俊之, 西尾妙織, 渋谷 斉, 清水 力, 千葉仁志, 惠 淑萍: 質量分析法による尿中コレステリルエステルの分子種解析. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
25. 三浦佑介, 惠 淑萍, 宮永 賢, 小林美穂, 渡邊俊之, 西尾妙織, 渋谷 斉, 清水 力, 千葉仁志: LC-MS/MS による腎疾患検体中コレステリルエステルの定量. 第25回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2015. 9.
26. Takeda S, Terashima S, Mukasa K, Fuda H, Shrestha R, Hui SP, Chiba H: CNT 電極を用いた脂質酸化抑制物質のスクリーニング. 第10回遺伝子栄養学会, 北広島, 2015. 9.
27. 青木智大, 谷 祐児, 谷川原綾子, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線関連 Tweet の現状と印象度調査の試み. 第71回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会, 札幌, 2015. 11.
28. 藤原健祐, 谷川原綾子, 北川 剛, 井上 剛, 福田晋久, 西本尚樹, 小笠原克彦: コンジョイント分析による診療放射線技師を対象とした就労環境の選好に関する調査. 第71回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会, 札幌, 2015. 11.

V. 研究活動

29. 郝明, 贾丽红, 山内太郎: 中国東北部農村部の肥満小学生に対する栄養教育と運動介入. 日本生理人類学会・健康栄養科学研究部会 第1回研究会, 天使大学, 札幌, 2015.12.19-20.
30. 山村凌大, 磯野晃照, 金安顕子, 櫻井ちひろ, 田中穂乃佳, 西川明里, 山内太郎: 女子看護学生の栄養状態, ライフスタイル, 排便状況の関連. 日本生理人類学会・健康栄養科学研究部会 第1回研究会, 天使大学, 札幌, 2015.12.19-20.
31. 小川美弥子, 山部秀子, 岡部哲子, 白幡亜希, 工藤啓子, 長谷部理子, 谷祐児, 小笠原克彦: 天使大学における給食経営管理実習における指導教員が抱える問題点の構造化—ISM法による分析—. 第9回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
32. 山田晋太郎, 佐々木健太, 谷祐児, 小笠原克彦: DEAを用いた自治体病院の経営効率性評価: 平成20年度と25年度の比較. 第9回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
33. 中尾侑史, 藤原健祐, 谷祐児, 小笠原克彦: 人口の変化を考慮した北海道の医療資源偏在の将来予測: 脳卒中と心筋梗塞について. 第9回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
34. 花井敬里, 青木智大, 谷川原綾子, 小笠原克彦: 放射線関連 Tweet 間の関係性 - 共起ネットワークによる可視化の試み -. 第9回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.

V. 研究活動

ii 外部資金等の獲得及び受入状況(平成25年度～平成27年度)

外部資金等の獲得状況

科学研究費補助金交付一覧(平成25年度～平成27年度)

(単位:千円)

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
特別研究員 奨励費	新規	石田 香澄	病原性クラミジアのリンパ球細胞を巧みに利用した感染防御回避機構の解明	900	0	900	0		
基盤研究(B)	新規	西岡 健	がん細胞は自身の生存をかけ放射線域を逃れるべく上皮間葉移行をなすのか	2,100	630	1,700	510		
基盤研究(B)	新規	矢野 理香	回復期脳血管障害患者に手の動きの自覚と語りを促す手浴ケアの成果モデルの効果検証	2,000	600	1,500	450		
基盤研究(B)	継続	良村 貞子	潜在看護職者の在宅ワークと連携する遠隔健康相談システムの開発と検証	3,300	990	2,800	840		
特別研究員 奨励費	新規	山崎 智弘	混合感染が病原性クラミジアの細胞修飾機構に与える影響とその分子基盤の解明	1,200	0	1,200	0	1,200	
特別研究員 奨励費	新規	萩野 泉	ビグミー系狩猟採集民の人口動態と生活史:人口変遷の歴史からみる集団存続の未来予測	1,000	0	1,000	0		
新学術領域研究	新規	山内 太郎	ネアンデルタールのライフステージと栄養生態:サピエンスとの学習能力差の基盤の解明	1,500	450	1,500	450		
基盤研究(B)	新規	山内 太郎	狩猟採集社会の子どもの身体とフィットネス:人類進化の視座から子どもの健康を見直す	2,300	690	1,900	570	1,900	570
基盤研究(C)	継続	福島 順子	片麻痺患者に対するイメージ訓練の有効性とその脳内機構—機能的磁気共鳴画像—	200	60	0	0		
基盤研究(C)	継続	境 信哉	重度心身障害を伴う大脳性視覚障害児・者を対象とした視覚行動評価尺度の開発	100	30	0	0		
基盤研究(C)	継続	小笠原 克彦	G I Sに組み込んだシステム・ダイナミクスによる医療環境の予測と可視化	500	150	0	0		
基盤研究(C)	継続	武田 晴治	一粒子レベルでのリポ蛋白質酸化状態解析	400	120	0	0		
基盤研究(C)	継続	傳田 健三	児童・青年期の双極性障害に関する臨床的、疫学的研究	800	240	500	150	600	180
基盤研究(C)	継続	藤川 恵子	高眼圧性RGC障害新規評価系の開発:緑内障疾患モデルVavマウスを用いた研究	500	150	0	0		
基盤研究(C)	継続	岩本 幹子	医療系大学院におけるインタープロフェッション教育プログラムの構築と評価	500	150	0	0		
基盤研究(C)	継続	高山 望	高次脳機能障害患者を支える主介護者の退院時指導プログラムの構築	200	60	0	0		
基盤研究(C)	継続	青柳 道子	がん患者の配偶者が受けるソーシャルサポート—尺度開発と精神的健康との関係—	500	150	0	0		
基盤研究(C)	継続	進藤 ゆかり	オピオイド鎮痛薬を使用している難治性非癌性疼痛患者の慢性疼痛との共存の過程	1,100	330	800	240		
基盤研究(C)	継続	佐藤 洋子	小児医療における子どもの意思決定と看護支援に関する基礎的研究	1,000	300	800	240		

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(C)	継続	安積 陽子	早産で生まれた子どもへのスリープマネージメントによる睡眠習慣確立プログラムの構築	900	270	0	0		
若手研究(B)	継続	渡辺 玲奈	総合周産期母子医療センターの安全性を保証した施設計画ガイドラインの開発	800	240	0	0		
若手研究(B)	継続	本田 光	子育て世代における「地域とつながる力」の概念構築	900	270	400	120		
基盤研究(C)	継続	笠原 敏史	加齢に伴う姿勢と運動制御の不安定化メカニズムの解明	500	150	600	180		
基盤研究(C)	継続	神島 保	関節リウマチ超音波検査：毛細血管ファントムの再現性検討と機種間キャリブレーション	1,000	300	400	120		
基盤研究(C)	継続	加藤 知恵次	3テスラMRIを用いた心筋血流定量および梗塞病変の定量検出	1,300	390	1,300	390		
基盤研究(C)	継続	佐伯 和子	行政保健師の多様なキャリアに対応したキャリア総合的な発達測定尺度の開発	1,200	360	500	150	700	210
挑戦的萌芽研究	継続	山本 徹	MRI複素誘電率画像は細胞内水分子のネットワーク構造を反映するか？	1,000	300	1,000	300		
挑戦的萌芽研究	継続	石津 明洋	自己血管内皮細胞反応性NK/T細胞による中小型血管炎発症モデル	1,200	360	0	0		
挑戦的萌芽研究	継続	井上 馨	眼圧コントロール作用点の同定：高眼圧性疾患モデルマウスの原因分子Vavによる研究	1,400	420	400	120		
挑戦的萌芽研究	継続	荒木 奈緒	胎児異常を診断された女性に対する妊娠期から育児期への助産学的アプローチの検討	1,100	330	1,100	330		
挑戦的萌芽研究	継続	大内 潤子	好物を食べると摂食・嘔下運動は向上するのか：生理学的指標を用いた検討	600	180	400	120		
若手研究(B)	継続	齊藤 展士	上肢の運動パフォーマンス改善に寄与する姿勢学習メカニズムの解明	500	150	500	150		
基盤研究(C)	新規	横澤 宏一	記憶成績低下メカニズムの脳磁場計測による探究	2,000	600	1,100	330	700	210
基盤研究(C)	新規	浅賀 忠義	外乱刺激に対する運動学習の制御メカニズムに関する研究：転倒予防の視点から	1,500	450	700	210	500	150
基盤研究(C)	新規	布田 博敏	マガキで発見された新規抗酸化物質による肝臓保護作用に関する研究	1,500	450	1,300	390	1,200	360
基盤研究(C)	新規	神 繁樹	原発性アルドステロン症鑑別における新たなバイオマーカーの可能性	1,000	300	1,300	390	1,000	300
基盤研究(C)	新規	恵 淑萍	プラズマローゲンの網羅的解析と免疫測定法の開発	1,500	450	1,300	390	1,100	330
基盤研究(C)	新規	佐藤 三穂	糖尿病患者の自己管理行動に影響する要因の生態学的アプローチを用いた解明	500	150	500	150	700	210
挑戦的萌芽研究	新規	真木 誠	成人の自閉症スペクトラム障がいをもつ当事者の内的世界を理解する	700	210	600	180		
挑戦的萌芽研究	新規	山内 太郎	ピグミー系狩猟採集民の低身長解明：思春期スパートの証明と存在意義	1,000	300	1,000	300	1,000	300

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
挑戦的萌芽研究	新規	矢野 理香	LAMP法を用いた看護ケア環境累積微生物汚染度の新評価システム構築	1,100	330	1,200	360	600	180
挑戦的萌芽研究	新規	宮島 直子	バーチャルコミュニティで展開する対人スキル小集団訓練プログラムの開発と試行評価	1,000	300	600	180	600	180
挑戦的萌芽研究	新規	溝部 佳代	多重ストレス時における精神活動変化の可視化とストレスマネジメント方略	1,200	360	1,600	480		
若手研究(B)	新規	寺下 貴美	放射線技術学教育における問題解決型学習の評価および教育効果の評価手法開発	1,100	330	600	180		
若手研究(B)	新規	松尾 淳司	肺炎クラミジアとカーボンナノ粒子による相乗的な気管支喘息の増悪化機序	1,600	480	1,600	480		
若手研究(B)	新規	下田 智子	周術期食道がん患者の回復過程と経時的栄養評価の検証	1,200	360	1,100	330	800	240
若手研究(B)	新規	コリー 紀代 (伊藤紀代)	多重タスク問題における学習者の視線と学習効果に関するオントロジーの構築	1,400	420	600	180	500	150
基盤研究(B)	新規	石津 明洋	顕微鏡的多発血管炎の克服に向けた基礎・臨床包括的アプローチ			4,600	1,380	4,200	1,260
基盤研究(B)	新規	繁富 香織	細胞折紙-折紙の折畳み技術を利用した細胞の3次元組織の構築			3,100	930		
若手研究(B)	新規	吉田 祐子	日本における皮下注射前の皮膚消毒実施の有無に関わる要因の構造			600	180	500	150
基盤研究(B)	新規	俵 紀行	運動に誘発された筋活動の総合的な解明と対象筋拡大のための筋機能的MRIの改良			1,128	305	1,900	570
基盤研究(B)	新規	結城 美智子	福島原子力災害避難者の住民交流と健康支援のためのコミュニティサロンの運営と評価			483	145		
挑戦的萌芽研究	新規	結城 美智子	エビデンスに基づいた住宅がん患者の治療に伴う家族への抗がん剤曝露予防対策			2,200	660	500	150
挑戦的萌芽研究	新規	山口 博之	原始クラミジアが共生するアメーバは何故レジオネラの感染から回避できるのか			1,600	480	1,300	390
挑戦的萌芽研究	新規	芳賀 早苗	光による細胞機能制御による新規細胞療法の開発			1,700	510	800	240
挑戦的萌芽研究	新規	八田 達夫	片麻痺患者の車いす上の傾き姿勢は変えることができるか			2,300	690	500	150
挑戦的萌芽研究	新規	小笠原 克彦	放射線健康情報はどのように時間的・空間的に広がるのか?			2,700	810	200	60
基盤研究(C)	新規	渡辺 玲奈	確実な周産期救急医療環境確保のための総合周産期母子医療センター施設計画指針の構築			1,500	450	1,500	450
基盤研究(C)	新規	前島 洋	中枢神経系抑制性シナプス伝達の制御による運動学習増強に関する実験動物学的研究			1,880	360		
基盤研究(C)	新規	平野 美千代	転換期にある要支援高齢者の介護予防ケアに効果的な社会活動尺度の開発と有用性の検証			900	270	1,000	300
基盤研究(C)	新規	野口 真貴子	幼児を育てている母親の食生活に関する研究			1,700	510	900	270

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(C)	新規	鷺見 尚己	外来がん治療におけるオーラルマネジメントに基づいた看護実践モデルの開発			600	180	800	240
基盤研究(C)	新規	安積 陽子	体動計による早産児の多動性・睡眠障害の評価と母親のメンタルヘルスに関する研究			1,400	420	1,200	360
基盤研究(C)	新規	遠山 晴一	術後下肢キネマティクスが再建前十字靭帯の機能に与える影響に関する運動解析学的研究			1,800	540	1,100	330
研究活動 スタート支援	新規	藤田 和佳子	タンザニアにおける妊婦中心の出産準備教育の開発			700	210	1,000	300
基盤研究(B)	新規	石川 正純	線量勾配を考慮した新しい線量分布解析法の確立					3,050	1,050
基盤研究(B)	新規	矢野 理香	脳卒中手浴ケアプログラムのランダム化試験による長期的効果の実証とガイドライン作成					3,350	1,260
基盤研究(B)	新規	良村 貞子	病院と連携する在宅遠隔相談看護師のアセスメント能力向上プログラムの開発と検証					2,000	1,380
若手研究(A)	新規	芳賀 早苗	分子標的治療薬の非侵襲的・時空間的モニタリングに向けた革新的イメージング技術開発					3,745	1,890
研究活動 スタート支援	新規	大久保 寅彦	市販鶏肉の表面で繰り広げられる細菌と原生動物の相互作用の可視化と応用					1,200	360
基盤研究(C)	新規	齊藤 展士	運動学習に寄与する姿勢制御の学習メカニズムと加齢の影響の解明					1,500	450
基盤研究(C)	新規	堤 香織	ポリリン酸によって骨芽細胞の石灰化が促進する情報伝達分子メカニズムの解明					1,300	390
基盤研究(C)	新規	武田 晴治	酸化によるLDL粒子の硬さの分布の変化と加齢の関係					1,100	330
基盤研究(C)	新規	早坂 孝宏	質量分析イメージングを用いた慢性腎臓病の脂質定量解析					1,500	450
基盤研究(C)	新規	松尾 淳司	クラミジア感染によって誘導される炎症応答の制御システムの探索					1,100	330
基盤研究(C)	新規	加藤 知恵次	ダイナミックCTによる虚血性心疾患の定量評価と被ばく量軽減の試み					1,200	360
基盤研究(C)	新規	進藤 ゆかり	長期にオピオイド鎮痛薬治療を受けている難治性非がん慢性疼痛患者の生活体験の軌跡					1,500	450
基盤研究(C)	新規	青柳 道子	終末期がん患者の家族間コミュニケーションを促進する看護師教育プログラムの構築					800	240
基盤研究(C)	新規	荒木 奈緒	胎児異常を診断された妊婦の子どもを産み育てていくための支援体制の構築					800	240
挑戦的萌芽研究	新規	前島 洋	運動療法による中枢神経系退行抑制におけるエビジェネティック制御の解明					900	270
挑戦的萌芽研究	新規	石津 明洋	糖尿病血管障害の発症における好中球細胞外トラップの関与について					1,400	420
挑戦的萌芽研究	新規	野田 なつみ	光スイッチ遺伝子発現制御による非侵襲的な膵癌治療法の開発					708	212

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
挑戦的萌芽研究	新規	塚本 美奈	リアルタイム感情分析による認知症高齢者のための快刺激コミュニケーション技術の開発					1,300	390
若手研究(B)	新規	本田 光	乳幼児を持つ母親の地域との関係性構築支援のための尺度開発					700	210
若手研究(B)	新規	吉田 一生	訓練課題への没頭が外傷性脳損傷患者の注意機能の改善に与える影響：無作為化比較試験					717	150

V. 研究活動

寄付金受入状況一覧(平成25年度～平成27年度)

(単位:千円)

受入年度	受入教員	受入金額	寄付者の名称
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	尾崎 倫孝	2,000	藤川 博康 (青森県)
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	山口 博之	1,000	ミヤリサン製薬株式会社
平成25年度	恵 淑萍	1,000	医療法人社団 神谷レディースクリニック
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	青柳 道子	900	公益財団法人 笹川記念保健協力財団
平成25年度	政氏 伸夫	200	政氏 伸夫
平成25年度	高橋 光彦	500	医療法人 札幌山の上病院
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	小笠原克彦	3,500	株式会社 S B S 情報システム
平成25年度	森山 隆則	10	森山 隆則
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	石津 明洋	300	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
平成25年度	井上 馨	400	井上 馨
平成25年度	政氏 伸夫	150	政氏 伸夫
平成25年度	高橋 光彦	500	医療法人 札幌山の上病院
平成25年度	石津 明洋	150	医療法人 王子総合病院
平成25年度	芳賀 早苗	500	公益財団法人 日本膵臓病研究財団
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫

V. 研究活動

(単位：千円)

受入年度	受入教員	受入金額	寄付者の名称
平成25年度	千葉 仁志	11,000	株式会社 渡辺オイスター研究所
平成25年度	福島 順子	17	福島 順子
平成25年度	小林 清一	500	小林 清一
平成25年度	小笠原 克彦	500	株式会社はまなすインフォメーション
平成25年度	芳賀 早苗	1,000	日本臓器保存生物医学会
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	尾崎 倫孝	3,000	公益財団法人 上原記念生命科学財団
平成25年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成25年度	寄附分野	1,000	社会医療法人北斗 北斗病院
平成26年度	寺下 貴美	200	寺下 貴美
平成26年度	堤 香織	100	堤 香織
平成26年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	小笠原 克彦	3,500	株式会社 SBS 情報システム
平成26年度	高橋 光彦	500	医療法人札幌山の上病院
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	寒川 美奈	250	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
平成26年度	コリー 紀代	300	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
平成26年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	尾崎 倫孝	500	尾崎 倫孝

V. 研究活動

(単位：千円)

受入年度	受入教員	受入金額	寄付者の名称
平成26年度	惠 淑萍	250	早坂 孝宏
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成26年度	佐川 正	72	株式会社ジェネティックラボ
平成26年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成26年度	高橋 光彦	500	医療法人札幌山の上病院
平成26年度	佐藤 洋子	100	佐藤 洋子
平成26年度	尾崎 倫孝	1,000	株式会社メディカ出版
平成26年度	小畑 慶子	500	小畑 慶子
平成26年度	千葉 仁志	1,000	デンカ生研株式会社
平成26年度	山本 徹	1,000	スミス・アンド・ニューオーソペディックス株式会社
平成26年度	千葉 仁志	11,000	株式会社 渡辺オイスター研究所
平成26年度	藤川 恵子	100	藤川 恵子
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	石津 明洋	150	医療法人 王子総合病院
平成26年度	藤川 恵子	50	藤川 恵子
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成26年度	加賀 早苗	100	加賀 早苗
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	俵 紀行	400	公益社団法人 日本放射線技術学会

V. 研究活動

(単位：千円)

受入年度	受入教員	受入金額	寄付者の名称
平成27年度	寺下 貴美	200	寺下 貴美
平成27年度	齋藤 健	1,000	平和中島財団研究助成金
平成27年度	津久井 隆行	1,800	公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成27年度	小笠原 克彦	3,500	株式会社 SBS 情報システム
平成27年度	山口 博之	1,000	ミヤリサン製薬(株)
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	松尾 淳司	200	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
平成27年度	藤川 恵子	300	藤川 恵子
平成27年度	尾崎 倫孝	300	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成27年度	恵 淑萍	100	日生バイオ株式会社
平成27年度	石津 明洋	500	公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団
平成27年度	芳賀 早苗	500	公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	尾崎 倫孝	300	有限会社エクスプローラー
平成27年度	尾崎 倫孝	1,000	株式会社メディカ出版

V. 研究活動

(単位：千円)

受入年度	受入教員	受入金額	寄付者の名称
平成27年度	尾崎 倫孝	1,000	公益財団法人鳥取バイオサイエンス振興会
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	尾崎 倫孝	5,000	日昭アルミ工業株式会社
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	寒川 美奈	120	一般財団法人日本コアコンディショニング協会
平成27年度	千葉 仁志	150	早坂 孝宏
平成27年度	恵 淑萍	120	独立行政法人国立病院機構刀根山病院
平成27年度	佐藤 洋子	200	佐藤 洋子
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	早坂 孝宏	300	一般社団法人機能性健康米協会
平成27年度	藤川 恵子	200	藤川 恵子
平成27年度	千葉 仁志	11,000	株式会社 渡辺オイスター研究所
平成27年度	神 繁樹	300	早川 輝
平成27年度	政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
平成27年度	青柳 道子	422	青柳 道子

V. 研究活動

受託研究受入状況一覧(平成25年度～平成27年度)

(単位:千円)

受入年度	研究題目	区分	相手先	代表者	金額
平成25年度	自律型健康増進・生活支援のための地域サポート技術の開発検証	受託研究	北海道総合通信局	小笠原 克彦	4,922
平成25年度	25 保受 2/ 地域イノベ:腸内環境評価による食の新機能が拓く健康・医療イノベーション	受託研究	振替増予算	森山 隆則	3,059
平成25年度	25 保受 3:細胞内脂肪滴の酸化評価系の作製と食品開発への応用	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	惠 淑萍	1,700
平成25年度	25 保受 4/ 医療従事者と妊産婦の関係性が出産・出生ケアの質に与える影響	受託研究	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	野口 真貴子	3,430
平成25年度	25 保受 5/ 平成25年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務	受託研究	環境省	宮本 顯二	4,567
平成25年度	25 保受 6/ 新しい体内埋入器具(インプラント)の開発ー装着患者のMRI画像診断の画期的向上ー	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	山本 徹	910
平成25年度	25 保受 07: 研究成果展開事業COIプログラム COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点」(保・惠)	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	惠 淑萍	4,000
平成25年度	25 保受 08: 研究成果展開事業COIプログラム COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点」(保・小笠原)	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	350
平成26年度	26 保受 1 研究成果展開事業COIプログラム COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点」(保・惠)	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	惠 淑萍	6,100
平成26年度	26 保受 2 研究成果展開事業COIプログラム COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点」(保・小笠原)	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	2,650
平成26年度	26 保受 3/ アクティブバランスシーティング(ABS)理論に基づく、いすの傾斜動作の検証	受託研究	㈱クオリ	八田 達夫	540
平成26年度	26 保受 4 新しい体内埋入器具(インプラント)の開発ー装着患者のMRI画像診断の画期的向上ー	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	山本 徹	2,600
平成26年度	26 保受 5 金属系バイオマテリアルの生体機能化ー運動骨格系健康長寿の要ー	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構 分任研究契約担当者	山本 徹	8,000
平成26年度	26 保科 7 医療従事者と妊産婦の関係性が出産・出生ケアの質に与える影響	受託研究	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	野口 真貴子	1,450
平成26年度	26 保受 6/ 地域イノベ:腸内環境評価による食の新機能が拓く健康・医療イノベーション	受託研究	文部科学省	森山 隆則	2,712
平成27年度	改良版いす傾斜動作装置のアクティブバランスシーティング(ABS)理論に基づく検証および新規いす設計の指標策定	受託研究	㈱クオリ	八田 達夫	540
平成27年度	金属系バイオマテリアルの生体機能化ー運動骨格系健康長寿の要ー	受託研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	山本 徹	5,500
平成27年度	COIプログラム COI 拠点「食と健康の達人」拠点	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	16,740
平成27年度	地域医療の質向上と看護職の健康管理のためのICT技術の開発とクラウドサービス活用の実証実験	受託研究	北海道総合通信局	矢野 理香	3,536

V. 研究活動

(単位：千円)

受入年度	研究題目	区分	相手先	代表者	金額
平成27年度	放射線治療多施設共同試験における包括医学物理検証体制の構築と投与線量の品質保証に関する研究	受託研究	国立研究開発法人 国立がん研究センター	石川 正純	200
平成27年度	経済成長下のアフリカにおける食品企業の子どもを対象とした栄養改善事業：CSVの観点からのインパクト評価	受託研究	国立大学法人 東京大学	山内 太郎	1,350
平成27年度	食品機能性成分の吸収・活性評価プラットフォームの構築	受託研究	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	森山 隆則	10,000
平成27年度	脂質の酸化状態を評価する電極素子の特性歩留まりの向上	受託研究	国立研究開発法人 科学技術振興機構	武田 晴治	650

V. 研究活動

共同研究受入状況一覧(平成25年度～平成27年度)

(単位:千円)

受入年度	研究題目	区分	相手先	代表者	金額
平成25年度	ApoE rich HDL-C 測定試薬に関する研究	共同研究	デンカ生研(株)	千葉 仁志	500
平成25年度	北海道産素材の抗酸化能評価(※継続)	共同研究	日生バイオ株式会社	千葉 仁志	506
平成25年度	ローヤルゼリーの品質評価法の確立と機能性蛋白質の解明	共同研究	ジャパンローヤルゼリー株式会社	森山 隆則	5,875
平成25年度	新規サケ白子加水分解物の機能性分析と血中動態	共同研究	日生バイオ株式会社	惠 淑萍	2,483
平成25年度	自己反応性NKT細胞の制御による血管炎症候群に対する新規治療法の開発	共同研究	アステラス製薬株式会社	石津 明洋	1,672
平成26年度	北海道産素材の抗酸化能評価(※継続)	共同研究	日生バイオ株式会社	千葉 仁志	506
平成26年度	ニンニクのもつ脂質抗酸化機能の解明とその加工利用	共同研究	ホクレン農業協同組合連合会	惠 淑萍	500
平成26年度	ローヤルゼリーの新品質評価法の確立と主要蛋白質の機能性解明	共同研究	ジャパンローヤルゼリー株式会社	森山 隆則	3,300
平成26年度	地域医療連携を推進するICTを活用した支援システムの構築と評価に関する研究	共同研究	東日本メディコム株式会社	小笠原克彦	3,200
平成26年度	肝臓代謝系を指標とした機能性食品等の機能性・安全性の解析法の開発	共同研究	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	尾崎 倫孝	5,000
平成27年度	北海道産素材の抗酸化能評価(※継続)	共同研究	日生バイオ株式会社	千葉 仁志	506
平成27年度	膝サポーターの開発	共同研究	三井化学(株)	山中 正紀	1,100
平成27年度	ビルベリーエキスの体内での働きとそのメカニズムの解明	共同研究	株式会社わかさ生活	尾崎 倫孝	1,500
平成27年度	エゾシカ肉の健康機能性脂質の解明	共同研究	日中物産株式会社	惠 淑萍	500
平成27年度	SOF 検出器プローブの改良研究に関する研究	共同研究	株式会社トクヤマ	石川 正純	500
平成27年度	道内農水産物の有効成分可視化と利用に関する研究	共同研究	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	惠 淑萍	1,540
平成27年度	①医療用直線加速器にPET装置を融合する放射線治療装置の実現②PET搭載型医療用直線加速器の臨床的意義に関する研究に関する研究	共同研究	三菱重工業(株)	石川 正純	4,545
平成27年度	医療用X線被曝線量測定器専用プローブの量産化技術開発	共同研究	太宝電子株式会社	石川 正純	1,080

V. 研究活動

その他外部資金等受入状況一覧(平成25年度～平成27年度)

(単位:千円)

受入年度	事業名	代表者	金額
平成25年度	ようこそ不思議な細菌の世界へ2013 -身の回りの細菌を見てふやして感じてみよう!!	松尾 淳司	274
平成25年度	平成25年度 地域別研修「母子保健(フランス語)(B)」研修コース	佐藤 洋子	311
平成25年度	合理的根拠に基づいた標準型車いす付属部品・ABS骨盤サポートの開発と評価	八田 達夫	1,910
平成25年度	膝前十字靭帯損傷の危険が高い着地動作を生じさせる因子の検討	石田 知也	500
平成25年度	高度脂質分析ラボを拠点とする食と運動による健康機能改善を支援する新規技術の開発	惠 淑萍	22,287
平成25年度	高度脂質分析ラボを拠点とする地域・広域・国際ネットワーク形成	惠 淑萍	14,375
平成25年度	保健科学院 H25 国際会議等出席促進事業二期(山中)	山中 正紀	100
平成25年度	保健科学院 H25 博士学生海外派遣支援事業(山内)	山内 太郎	589
平成25年度	留学生への大学院教育の広報:部局及び専攻等 Web サイトの整備	伊達 広行	768
平成25年度	広報戦略の強化:部局及び研究室等 Web サイトの整備	伊達 広行	3,000
平成25年度	産休・育休期間中研究補助人材支援事業	寒川 美奈	259
平成26年度	ようこそ不思議な細菌の世界へ2014 -身の回りの細菌を見てふやして感じてみよう	山口 博之	311
平成26年度	JICA 外国人受託研修員研修料 (平成26年度課題別研修「母子保健(B)」コース)	佐藤 洋子	726
平成26年度	ABS骨盤サポートの製品化に向けた改良と臨床的効果の検証	八田 達夫	1,298
平成26年度	高度脂質分析ラボを拠点とする食と運動による健康機能改善を支援する新規技術の開発	惠 淑萍	20,950
平成26年度	高度脂質分析ラボを拠点とする地域・広域・国際ネットワーク形成	惠 淑萍	13,513
平成26年度	トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業(小笠原)	小笠原克彦	1,125
平成26年度	トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業(浅賀)	浅賀 忠義	1,879
平成26年度	研究室等 WEB サイトの整備にかかる支援経費	伊達 広行	3,484
平成26年度	優れた若手研究者の採用拡大(スタートアップ経費)	伊達 広行	12,000
平成27年度	ひらめき☆ときめきサイエンス「ようこそ不思議な細菌の世界へ2015」	山口 博之	311
平成27年度	JICA 外国人受託研究員研修料 (平成27年度課題別研修「母子保健(B)」コース)	佐藤 洋子	3,718
平成27年度	最新技術 MS イメージングを応用した体内吸収動態評価に関する研究	惠 淑萍	3,000
平成27年度	高度脂質分析ラボを拠点とする食と運動による健康機能改善を支援する新規技術の開発	惠 淑萍	18,739
平成27年度	高度脂質分析ラボを拠点とする地域・広域・国際ネットワーク形成	惠 淑萍	12,087
平成27年度	優れた若手研究者の採用拡大(スタートアップ経費)	伊達 広行	12,000

VI. 教育活動

i 大学院担当教員一覧

■大学院担当教員教員一覧(修士課程)

保健科学コース・生体量子科学

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラントの開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 加藤 千恵次	1) 医用画像解析プログラムの開発: 病理組織像や超音波像等の画像解析 2) 医用画像解析プログラムの開発: 断層画像再構成法の研究 3) 医用画像解析プログラムの開発: 動態画像のコンパートメントモデル解析
教授 伊達 広行	1) 生体組織における放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における最適分割照射の検討
教授 神島 保	1) 超音波や MR 画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定
教授 石川 正純	1) 放射線医学における先進医学物理工学 2) 放射線治療計測学 3) 診断放射線計測学 4) 放射線治療における精度管理に関する研究
准教授 坂田 元道	1) 画像による生体微細構造の解析 2) 側頭骨画像技術と画像診断 3) 画像技術による形態構造学的研究

保健科学コース・生態情報科学

特任教授 三神 大世	1) 心疾患患者の左室拡張機能の非侵襲的評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる検討 3) 超音波による動脈硬化と血管機能の評価
教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎をはじめとする自己免疫疾患の病因・病態解析 2) ジェノミクス・トランスクリプトミクスを用いた感染症・炎症疾患の病態解析 3) 免疫担当細胞間の相互作用に関する研究
教授 惠 淑萍	1) 過酸化脂質代謝に関する研究 2) 生理活性物質に関する研究 3) バイオマーカーの探索
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 様々な肝病態の分子生物学的解析と全身状態への影響(細胞・臓器機能および全身状態に関する包括的研究) 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
准教授 政氏 伸夫	1) 血液塗抹標本の染色と形態観察に関する医療工学的研究 2) 検査検体の長時間保管に関する医療工学的研究 3) ヘモグロビン F 陽性赤血球に関する研究

VI. 教育活動

保健科学コース・リハビリテーション科学

教授 山 中 正 紀	1) 膝前十字靭帯損傷の予防に関する研究 2) 体幹の安定性と体幹深部筋の機能に関する研究 3) 変形性膝関節症における姿勢制御に関する研究
教授 浅 賀 忠 義	1) 姿勢制御のメカニズムに関する研究 2) 運動学習と定量的評価に関する研究 3) 加齢および神経疾患のバランス障害に関する研究
教授 遠 山 晴 一	1) 運動器リハビリテーションに関する研究 2) アスレチックリハビリテーションに関する研究 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前 島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究 3) 高齢者における姿勢制御と転倒予防に関する研究
教授 八 田 達 夫	1) 車いす・いすシーティング(アクティブバランスシーティング)の開発研究 2) 青年期障害者の雇用・就労支援、障害学生支援に関する研究 3) 作業遂行発達支援のための実践的研究
教授 井 上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 傳 田 健 三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に対するリハビリテーション 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHDに対するリハビリテーション 3) 児童・青年期精神障害に対する新しいリハビリテーションの探求
教授 村 田 和 香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
准教授 境 信 哉	1) 脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒 川 美 奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) 運動療法の効果に関する研究 3) ウォーミングアップ効果に関する研究

保健科学コース・健康科学

教授 千 葉 仁 志	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 生理活性脂質の研究 2) バイオマーカー・検査試薬・バイオセンサーの開発 3) 機能的食品の研究
教授 齋 藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横 澤 宏 一	1) 記憶や認知機能(音楽認知, 時間感覚など)の無侵襲計測とイメージング 2) 電気生理学的手法による内因性脳活動(感情や衝動, ストレスなど)の定量計測に関する研究 3) 高次脳機能情報の医工学的応用に関する研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山 内 太 郎	・海外フィールド調査によって人々の健康増進に資する 1) 国際保健学: ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学: 生態学的アプローチにより集団の栄養適応を評価 3) 子どもの体格・体組成, 成長, 食・栄養, 身体活動, 体力, QOL
准教授 大 槻 美 佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)の臨床研究 2) 機能画像, 関連事象電位等を用いた高次脳機能のメカニズム解明 3) 言語の脳内メカニズムに関する研究
准教授 荒 木 敦 子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

■大学院担当教員教員一覧 (博士後期課程)

保健科学コース・先進医療科学領域

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラント材の開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 加藤 千恵次	1) 医用画像解析プログラムの開発: 病理組織像や超音波像等の画像解析 2) 医用画像解析プログラムの開発: 断層画像再構成法の研究 3) 医用画像解析プログラムの開発: 動態画像のコンパートメントモデル解析
教授 伊達 広行	1) 生体組織中の放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体細胞の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における効果的照射法の検討
教授 神島 保	1) 超音波や MR 画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定
教授 石川 正純	1) 放射線医学における先進医学物理工学 2) 放射線治療計測学 3) 診断放射線計測学 4) 放射線治療における精度管理に関する研究
准教授 坂田 元道	1) 画像による生体微細構造の解析 2) 側頭骨画像技術と画像診断 3) 画像技術による形態構造学的研究
特任教授 三神 大世	1) 心疾患患者の左室拡張機能の非侵襲的評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる検討 3) 超音波による動脈硬化と血管機能の評価
教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎をはじめとする自己免疫疾患の病因・病態解析 2) ジェノミクス・トランスクリプトミクスを用いた感染症・炎症疾患の病態解析 3) 免疫担当細胞間の相互作用に関する研究
教授 恵 淑萍	1) 過酸化脂質代謝に関する研究 2) 脂肪酸に関する研究 3) プラズマローゲン代謝に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 様々な肝病態の分子生物学的解析と全身状態への影響 (細胞・臓器機能と全身状態に関する包括的研究) 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
准教授 政 氏 伸 夫	1) 血液塗抹標本の染色と形態観察に関する医療工学的研究 2) 検査検体の長時間保管に関する医療工学的研究 3) ヘモグロビン F 陽性赤血球に関する研究
客員教授 安藤 裕 (放射線医学総合研究所)	1) 医療情報の標準化に関する研究 2) 臓器 Registration の画像処理および放射線治療線量分布等に関する研究
客員教授 辻 比呂志 (放射線医学総合研究所)	1) 粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 放射線治療における先進技術に関する研究

VI. 教育活動

保健科学コース・総合健康科学領域

教授 山 中 正 紀	1) 膝前十字靭帯損傷の予防に関する研究 2) 体幹の安定性と体幹深部筋の機能に関する研究 3) 変形性膝関節症における姿勢制御に関する研究
教授 浅 賀 忠 義	1) 姿勢制御と運動学習に関する研究 2) 筋シナジーとシナジー間の協調性に関する研究 3) バランス障害に対する理学療法に関する研究
教授 遠 山 晴 一	1) 前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション 2) スポーツ傷害に関するバイオメカニクス 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前 島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 神経栄養因子によるシナプス可塑性に関する研究 3) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究
教授 八 田 達 夫	1) 車いす・いすシーティング (アクティブバランスシーティング) の開発研究 2) 青年期障害者の雇用・就労支援、障害学生支援に関する研究 3) 作業遂行発達支援のための実践的研究
教授 傳 田 健 三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に対するリハビリテーション 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHD に対するリハビリテーション 3) 児童・青年期精神障害に対する新しいリハビリテーションの探求
教授 村 田 和 香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
准教授 境 信 哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒 川 美 奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) 運動療法の効果に関する研究 3) ウォーミングアップと運動パフォーマンスに関する研究
教授 千 葉 仁 志	1) リポ蛋白、過酸化脂質、生理活性脂質の研究 2) バイオマーカー・検査試薬・バイオセンサーの開発 3) 機能的食品の研究
教授 齋 藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横 澤 宏 一	1) ヒトの認知機能の無侵襲計測とイメージング 2) 高次脳機能の読み出しと工学的応用 3) 脳機能情報の時空間解析による精神状態評価の基礎的研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山 内 太 郎	・海外フィールド調査によって人々の健康増進に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチにより集団の栄養適応を評価 3) 子どもの体格・体組成、成長、食・栄養、身体活動、体力、QOL
准教授 大 槻 美 佳	1) 高次脳機能障害 (失語、失行、失認、記憶障害等) のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 荒 木 敦 子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護科学領域

教授 良村 貞子	1) 看護職者の法的責任に関する日米比較 2) 学生の実践能力を高める教育方略に関する研究 3) 保健医療福祉における専門職者間の連携と役割分担に関する研究
教授 佐伯 和子	1) 地域看護アセスメントと政策に関する教育方法の開発 2) 地域保健従事者のキャリア発達と基礎教育・現任教育 3) 高齢者の健康とヘルスプロモーション
教授 佐川 正	1) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響 2) 過期妊娠・予定日超過妊娠とその対策 3) 北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 様々な肝病態の分子生物学的解析と全身状態への影響(細胞・臓器機能と全身状態に関する包括的研究) 3) 「光」を利用した非侵襲的・経時的生体イメージングによる生体機能・生体環境評価法の開発と医療への応用
教授 結城 美智子	1) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究 2) がん患者の化学療法に伴う家族への抗がん剤曝露予防 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 災害後の高齢者の生活と健康に関する研究
教授 傳田 健三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に関する脳科学研究 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHDに関する脳科学研究 3) 児童・青年期精神障害に関する脳科学研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	・海外フィールド調査によって人々の健康増進に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチにより集団の栄養適応を評価 3) 子どもの体格・体組成, 成長, 食・栄養, 身体活動, 体力, QOL
准教授 宮島 直子	1) 精神に障害がある人の発症前生活エピソードに関する質的研究 2) 高齢者の精神機能を高める看護コミュニケーション・スキルの開発
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するバースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的, 量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的な方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 安積 陽子	1) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 2) 乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 矢野 理香	1) 看護ケアの成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
准教授 鷲見 尚己	1) 退院支援, 移行ケア, 地域連携におけるプログラム開発と標準化 2) 外来看護, 継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3) がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 在宅高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

ii 保健科学院卒業研究課題一覧 (平成25年度～平成27年度)

大学院修士課程 論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成25年度	生体量子科学	江刈内 英輝	RF発熱予測撮像技術の実用化研究	山本教授	神島教授
平成25年度	リハビリテーション科学	江沢 侑也	足部アライメントならびに足部柔軟性と両足着地動作における足部・足関節運動の関連の検討	山中教授	遠山教授 寒川准教授
平成25年度	リハビリテーション科学	大澤 茉梨恵	千歳市におけるうつ病・自殺予防対策—うつスクリーニングの実践的研究—	傳田教授	八田教授
平成25年度	生体情報科学	越智 典樹	The Impact of Smoking on Coronary and Peripheral Artery Endothelial Function using Oxygen-15 Labeled Water PET and Brachial Artery Ultrasound (喫煙による血管内皮機能・最大血管拡張反応性の検討:上腕動脈超音波と酸素15標識水PETの比較)	加藤教授	三神教授
平成25年度	健康科学	角屋 智香	音楽進行に伴う期待による聴覚性脳磁界応答の変調評価	横澤教授	竹内准教授
平成25年度	生体情報科学	川上 愛	自己血管内皮細胞反応性NKT細胞による血管炎発症機序の解明	石津教授	小林教授
平成25年度	リハビリテーション科学	金 京室	短波長光がmotion sicknessに及ぼす影響	境准教授	大槻准教授
平成25年度	リハビリテーション科学	栗本 俊明	6分間歩行試験における低酸素血症評価の問題点と新たな評価法の提案	宮本教授	高橋准教授
平成25年度	生体量子科学	黒下 裕次	磁場歪みに起因する未知のアーチファクトの解析—MRI検査のピットフォール—	山本教授	神島教授
平成25年度	健康科学	桑原 智美	北海道における医療資源偏在の可視化と産業構造との関連性	小笠原教授	齋藤教授
平成25年度	健康科学	佐々木 翔平	ベイジアンネットワークを用いた放射線治療業務のリスク要因分析	小笠原教授	坂田准教授
平成25年度	リハビリテーション科学	庄子 翼	末期がん患者に対する医療従事者の実践の体系化と理論構築—“最期までその人らしさを支援する”ための実践に関する研究—	村田教授	佐伯教授
平成25年度	生体量子科学	白石 祐太	モンテカルロシミュレーションによるCT検査における線量評価	伊達教授	堤助教
平成25年度	リハビリテーション科学	谷口 翔平	Star Excursion Balance Testのリーチ距離に関連する要因の検討	山中教授	遠山教授 寒川准教授

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成25年度	健康科学	田村 菜穂美	北海道農村部に住む高齢者の健康支援に向けた健康影響評価の試み ー活動量を中心としたシミュレーション分析ー	小笠原教授	良村教授
平成25年度	生体情報科学	辻 香菜子	大動脈弁狭窄症患者の心不全発生機序における左室肥大と左室拡張障害の意義	三神教授	加藤教授
平成25年度	リハビリテーション科学	戸塚 満久	安定性限界における重心と足圧中心の関連について	浅賀教授	井上教授
平成25年度	生体情報科学	中野 彩	連続波ドプラ法による肺動脈弁逆流流速波形にみられる心房収縮期窪みとその近傍の波形変化	三神教授	加藤教授
平成25年度	生体量子科学	中野 聡	コーンビーム X 線 CT における実効エネルギー分布と吸収線量の実験的検討	伊達教授	堤助教
平成25年度	生体情報科学	西岡 佑介	ローヤルゼリーの免疫調節機能に関する研究	小林教授	石津教授
平成25年度	リハビリテーション科学	長谷川 直哉	感覚フィードバックの違いが動的バランスの運動学習に与える影響	浅賀教授	笠原助教
平成25年度	健康科学	菱岡 なお子	Elucidation of effects of the resveratrol or resveratrol with copper on the metabolism of reactive oxygen species in PC12 cells. (レスベラトロール単独および銅との相互作用が PC12 細胞における活性酸素代謝に及ぼす影響の解明)	齋藤教授	山内教授
平成25年度	リハビリテーション科学	宝満 健太郎	Drop vertical jump における立脚時間は膝前十字靭帯損傷に寄与するか	山中教授	寒川准教授
平成25年度	生体量子科学	三浦 貴智	光子線の線質の違いが生体組織に及ぼす影響	伊達教授	堤助教
平成25年度	健康科学	満永 有美	サブサハラ乾燥地域の農村部に暮らす子どもの低栄養状態の要因	山内教授	齋藤教授
平成25年度	生体量子科学	森 祐希	Quantification of Regional Myocardial Blood Flow using 11C-Acetate PET (11C-Acetate PET による局所心筋血流定量プログラム開発)	加藤教授	山本教授
平成25年度	生体量子科学	山崎 雄太	ベイズ推定による脳血流量法の誤差評価	伊達教授	加藤教授 坂田准教授
平成25年度	生体情報科学	山根 千夏世	太古の細菌はどのように病原体へと進化したのか：低温条件下におけるアメーバ共生細菌原始クラミジア Parachlamydia acanthamoebae Bn9 の株化ヒト上皮系細胞 HEP-2 内での増殖とその機序について	山口教授	松尾講師
平成26年度	リハビリテーション科学	石垣 智恒	中高齢者における肩峰下腔狭小化と腱板形態特性との関連	山中教授	寒川准教授

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成26年度	リハビリテーション科学	伊藤 久美子	東日本大震災の被災高齢者における被災後の居住住宅の種類と運動機能低下に関する前向き研究	浅賀教授	山内教授
平成26年度	健康科学	伊藤 早織	アフリカ狩猟採集民における身体活動と育児協働—基礎代謝量推定式の開発と育児活動観察	山内教授	野口准教授
平成26年度	リハビリテーション科学	上野 亮	Drop vertical jump における膝外反が ACL 伸長に与える影響	山中教授	遠山教授
平成26年度	リハビリテーション科学	大島 亨介	高齢者の学習継続評価方法の検討—学習継続に影響を及ぼす要因の視点から—	村田教授	八田教授
平成26年度	健康科学	太田 瑞紀	新聞記事と Twitter における放射線関連用語の印象度分析	小笠原教授	神島教授
平成26年度	リハビリテーション科学	大橋 哲朗	着座動作の足関節可動域制限による座面圧と動作パフォーマンスへの影響について	浅賀教授	齊藤助教
平成26年度	生体情報科学	面 すみれ	蛍光ディファレンスゲル二次元電気泳動法を利用したラット小腸上皮細胞に対する MRJP1 の細胞増殖作用機序の解析	森山特任教授	小林特任教授
平成26年度	健康科学	カク 明	中国東北部に暮らす小学生の栄養状態, 食事, 体力—農村部と都市部の比較調査	山内教授	齋藤教授
平成26年度	健康科学	黒川 清博	失語症において, いわゆる「意図性と自動性の解離」と称されてきた現象に対する定量的評価への試み	大槻准教授	境准教授
平成26年度	生体情報科学	黒木 靖敏	原始的なクラミジアが共生するアメーバのレジオネラ撃退に関わる分子機構の探索	山口教授	松尾講師
平成26年度	生体量子科学	坂野 稜典	関節リウマチのパンヌス血流を想定した毛細血管ファントムを用いることによる超音波装置機器間のパワードブラ信号校正	神島教授	横澤教授
平成26年度	生体量子科学	佐々木 亮祐	単純 X 線写真におけるリウマチ患者の関節裂隙狭小化の変化—経時差分技術を用いた検討—	神島教授	坂田准教授
平成26年度	リハビリテーション科学	清水 麻衣子	椅子の構造を反映する主観評価用紙の作成	八田教授	岸上助教
平成26年度	生体量子科学	菅野 康貴	放射線治療における分割照射方式最適化の検討	伊達教授	堤助教
平成26年度	健康科学	鈴木 千裕	電子カルテにおける診療記事の類似性についての検討	小笠原教授	神島教授
平成26年度	リハビリテーション科学	諏訪原 司	口頭指示の違いが前方水平外乱における後方ステップに与える影響	浅賀教授	齊藤助教
平成26年度	健康科学	高倉 祐樹	定量的指標を用いたアナルトリーの下位分類とその病態の発現機序に関する研究	大槻准教授	境准教授

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成26年度	生体量子科学	高橋 紗綾	脳脊髄液 MR 信号解析－溶存タンパク濃度変化の検出可能性－	山本教授	神島教授 堤助教
平成26年度	健康科学	高橋 拓也	札幌市における地理的影響を考慮した患者集積分析	小笠原教授	齋藤教授
平成26年度	リハビリテーション科学	武田 賢太	視覚刺激の消失タイミングが歩行開始におけるタイミング予測に与える影響	浅賀教授	笠原助教
平成26年度	生体情報科学	竹村 盛二郎	心エコー法による肝硬変患者の心形態・機能異常の検討	三神教授	加藤教授
平成26年度	リハビリテーション科学	田村 紘一	歩行修正による下肢関節の運動学的変化が膝関節負荷に及ぼす影響	山中教授	齋藤助教
平成26年度	健康科学	千年 涼太	記憶課題における初頭性効果・新近性効果の脳内機序の解明	横澤教授	大槻准教授
平成26年度	健康科学	忠 竜宏	ベイズ補正標準化死亡比と医療資源の関連性の分析	小笠原教授	齋藤教授
平成26年度	リハビリテーション科学	趙 静	Characteristics of Postural Balance during Single-leg Reach Movements in Tai Chi Practitioners (太極拳経験者の下肢リーチ運動時の姿勢バランスの特徴)	浅賀教授	笠原助教
平成26年度	生体情報科学	西田 翼	機能的三尖弁逆流の成因と機序の分析	三神教授	加藤教授
平成26年度	健康科学	長谷川 純子	Nutritional Status and related factors among children under 2 years old in Zambia (ザンビアに居住する2歳未満児の栄養状態と関連因子)	山内教授	浅賀教授
平成26年度	リハビリテーション科学	廣川 基	上肢挙上時における肩甲骨上方回旋角度と肩峰下腔の関連性	山中教授	寒川准教授
平成26年度	健康科学	藤原 健祐	放射線診療資源の配分に関する考察－ジニ係数とハーフィンダール・ハーシュマン指数による分析－	小笠原教授	齋藤教授
平成26年度	リハビリテーション科学	保科 和正	自動車運転時の危険認知能力と脳機能の関係：高次脳機能障害者の運転再開判定指標作成に関する予備的研究	境准教授	傳田教授
平成26年度	生体情報科学	堀岡 希衣	血栓様物質の実態を捉える～マーチス・スカレットブルー染色の法医学的応用～	政氏准教授	小林特任教授
平成26年度	生体情報科学	増田 裕弥	血小板・単球におけるCD36分子発現の多様性	森山特任教授	政氏准教授
平成26年度	生体量子科学	松谷 悠佑	QUANTITATIVE ANALYSIS OF CELL DAMAGE CAUSED BY X-RAY IRRADIATIONS (X線照射がもたらす細胞損傷効果の定量的解析)	伊達教授	堤助教

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成26年度	リハビリテーション科学	南 茂幸	着地動作への介入によるパフォーマンスの即時のおよび短期的効果の検討	山中教授	遠山教授
平成26年度	リハビリテーション科学	安井 勇輔	うつ病により休職した地方公務員に対する職場復帰支援プログラムの検討 —地方都市におけるうつ病・自殺予防対策より—	傳田教授	八田教授
平成26年度	リハビリテーション科学	雲 杉	A survey of personal life changes for university retirees in Hohhot city -Pre-study for developing lifestyle-based intervention for young olds in China (フフホト市の大学退職者におけるライフスタイルの変化に対する調査)	村田教授	鷺見准教授
平成27年度	生体情報科学	熊谷 翔大	男性生殖器から分離された性器クラミジアの多型性外膜蛋白 PmpF の系統解析に関する研究	山口教授	松尾講師
平成27年度	リハビリテーション科学	生田 亮平	着地動作に対する指導介入による生体力学的変化と筋電図学的変化の関係	山中教授	遠山教授
平成27年度	リハビリテーション科学	石川 啓太	脳卒中片麻痺患者の起立動作に関する研究—荷重対称性に着目して—	浅賀教授	前島教授
平成27年度	リハビリテーション科学	伊吹 愛梨	優れた静的姿勢制御のメカニズムに関する研究—クラシックバレエ経験者と非経験者の比較—	浅賀教授	前島教授
平成27年度	生体量子科学	大沼 高大	Computed tomography (CT) による体脂肪・骨格筋量測定	神島教授	坂田准教授
平成27年度	リハビリテーション科学	奥貫 拓実	Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル歩行および走行時の足部 kinematics の検討	山中教授	寒川准教授
平成27年度	生体量子科学	小野 陽平	トモシンセシスをういた手指の関節リウマチ評価	神島教授	坂田准教授
平成27年度	生体情報科学	片山 拓也	腎障害の合併が大動脈弁狭窄症患者の左室の形態と機能に及ぼす影響	三神特任教授	政氏准教授
平成27年度	健康科学	北 朋美	Study on the changes of autophagy in the heart of Streptozotocin-induced type 1 diabetes model rat and the improvement effect by azuki bean extract (ストレプトゾトシン誘導 I 型糖尿病モデルラットの心臓におけるオートファジーの変化および小豆抽出物による改善効果に関する研究)	齋藤教授	石津教授
平成27年度	健康科学	木村 勁介	加齢に伴う短期記憶中の脳内メカニズムの変化	横澤教授	大槻准教授
平成27年度	リハビリテーション科学	吉良 千里	介護職員が認知症高齢者と築く「良好な関係」—介護老人福祉施設で働く介護職員へのインタビューから—	村田教授	佐伯教授
平成27年度	生体量子科学	権 池勲	Monte Carlo Simulation of Dose Enhancement around a Gold Nanoparticle in Proton Beam Irradiation (金ナノ粒子による陽子線照射時の線量増大に関するモンテカルロシミュレーション)	伊達教授	堤助教

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成27年度	リハビリテーション科学	齊藤 耕子	高齢者ボランティアにおける活動の意味づけと活動満足度との関係—ソーシャルネットワークを含む個人的背景を踏まえて—	村田教授	平野准教授
平成27年度	生体量子科学	坂下 太郎	Assessment of Rheumatoid Synovitis Using Magnetic Resonance Imaging (MRI を用いた関節リウマチ滑膜炎評価)	神島教授	山本教授
平成27年度	リハビリテーション科学	佐久間 萌	口頭指示の違いが姿勢バランスに与える影響	浅賀教授	前島教授
平成27年度	健康科学	佐々木 健太	自治体病院の経営効率性評価 —領域制限法と Super-SBM モデルを用いた分析—	小笠原教授	齋藤教授
平成27年度	リハビリテーション科学	佐橋 健人	膝 OA 患者における Knee sleeve がバランス能力に与える影響	山中教授	遠山教授
平成27年度	健康科学	上甲 紗愛	Comparison in indirect antioxidant activity and cytoprotection between the Pacific oyster-derived phenolic compound and other natural antioxidants (マガキ由来のフェノール化合物と既存の抗酸化物質における間接的抗酸化活性と細胞保護作用の比較)	千葉教授	惠教授
平成27年度	リハビリテーション科学	鈴木 綾華	電動アシスト車椅子の性能評価—より多くの人への適応を目指して—	八田教授	岸上助教
平成27年度	健康科学	勢田 英果	Feeding Practices and Nutritional Status of Children Aged 1–23 Months in a Suburban Area of Indonesia (インドネシア共和国都市郊外に居住する生後1～23か月の乳幼児の栄養状態と母乳・補完食の摂食の現状)	山内教授	齋藤教授
平成27年度	生体量子科学	竹内 桂介	¹¹ C-Methionine PET, ADC-map の複合指標による神経膠腫の悪性度評価の検討	加藤教授	山本教授
平成27年度	健康科学	寺嶋 駿	酸化リポタンパク質の特性の評価	千葉教授	惠教授
平成27年度	生体量子科学	西 慶悟	MRI による大脳細動脈機能の定量化およびその応用	山本教授	神島教授
平成27年度	生体情報科学	樋岡 拓馬	高度三尖弁逆流が連続波ドプラ法による収縮期右室・右房圧較差計測に及ぼす影響とその対策	三神特任教授	政氏准教授
平成27年度	生体量子科学	藤盛 陽介	MRI 酸素コントラストの研究	山本教授	神島教授
平成27年度	生体情報科学	三浦 佑介	質量分析による分子種別コレステリルエステル定量法の開発と臨床応用	惠教授	千葉教授
平成27年度	健康科学	山村 凌大	Factors associated with bowel habits in Japanese female nursing students. (女子看護学生における排便状況とその関連因子)	山内教授	伊達教授
平成27年度	リハビリテーション科学	横山 美翔	月経前症候群に対するストレッチング介入効果の検討	寒川准教授	山中教授 遠山教授
平成27年度	リハビリテーション科学	依田 泰知	重症心身障害児者へのシーティング介入効果に関する研究	八田教授	岸上助教

VI. 教育活動

【看護学コース】

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成25年度	看護学	中田 亜由美	小児の歯科恐怖の要因に関する検討	佐藤教授	宮島准教授
平成25年度	看護学	伊藤 由美	周産期における母児の身体的リスクの分娩体位による比較	良村教授	佐川教授
平成25年度	看護学	上野 祐可子	1歳半児の咀嚼力の実態とその関連要因—食品の硬さに焦点を当てて—	佐伯教授	良村教授
平成25年度	看護学	川上 有紀	母親が参加するプレパレーションの実態と母子への影響	佐藤教授	野口准教授 荒木講師
平成25年度	看護実践	松野 千代美	大学病院で2年目を迎える看護師が認識する身体侵襲を伴う看護技術の課題—「看護技術を支える要素」の評価をもとに—	良村教授	岩本准教授
平成25年度	看護学	山本 航平	大学生の飲酒状況と関連要因～未成年大学生と成人大学生において～	佐伯教授	平野准教授
平成26年度	看護実践	池田 千聖子	健診機関の看護職によるメンタルヘルスケアの実践と関連する要因	佐伯教授	平野准教授
平成26年度	看護学	石黒 毅	大学生のメンタルヘルスリテラシー—うつ状態にある友人への支援の意識に焦点を当てて—	佐伯教授	宮島准教授
平成26年度	看護学	及川 真子	高齢者事業参加者の身近な地域における社会参加の実態—札幌市A区在住者を対象に—	佐伯教授	平野准教授
平成26年度	看護学	木村 宣哉	市区町村保健師が重要と認識する健康増進の施策化における栄養・食生活アセスメント項目—食習慣を中心とした健康増進と糖尿病対策における重要性—	佐伯教授	平野准教授
平成26年度	看護学	蔵満 美奈	若年認知症の配偶者を介護する家族介護者の地域を基盤とした人とのつながり—家族の会参加者を通じて—	佐伯教授	平野准教授
平成26年度	看護学	萩村 英樹	看護師が認識する終末期がん患者の困難な外出・外泊を実現させる看護介入とは	良村教授	矢野准教授
平成26年度	看護実践	丸山 梨紗	がん化学療法および放射線療法を受ける患者の口腔管理における看護実践と歯科連携に関する研究	鷺見准教授	良村教授 佐藤講師
平成26年度	看護学	森本 友香	公衆衛生看護学実習における家庭訪問指導—実習指導者への調査—	佐伯教授	平野准教授
平成27年度	助産学	秋元 彩花	助産外来担当助産師に対する超音波検査に関する教育の実態と助産師が望む教育内容	佐川教授	野口准教授
平成27年度	看護実践	石橋 紀子	35歳を過ぎて初めて出産した母親の1歳6か月児健診時における肯定的な思い	良村教授	野口准教授 鷺見准教授
平成27年度	看護学	葛西 理沙	在宅療養する虚血性心疾患患者のライフスタイルに関する調査	鷺見准教授	結城教授 佐藤講師
平成27年度	看護学	穴戸 穂	高齢者への清拭時における温タオルの短時間貼用の有効性	矢野准教授	良村教授
平成27年度	公衆衛生看護学	鈴木 志穂	一般企業における上司とのインフォーマルコミュニケーションとソーシャルサポートの関連	佐伯教授	平野准教授

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成27年度	看護学	田中 裕子	在宅から精神科病院に入院した若年性認知症者の退院先に関する家族の意思決定について	佐伯教授	村田教授
平成27年度	看護学	榎本 常子	留置針を用いた点滴静脈内注射時の部位選定に関する看護師のアセスメントの特徴－臨床経験年数による比較－	矢野准教授	八田教授
平成27年度	公衆衛生看護学	三宅 杏	自閉症スペクトラム障害の傾向を持つ児の母親が療育開始前に育児を通して経験する心理	佐伯教授	平野准教授
平成27年度	看護学	李 雪麗	日本の大都市における介護リーダーの職場対人関係と職業性ストレス	佐伯教授	平野准教授

VI. 教育活動

大学院博士後期課程 論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成25年度	総合健康科学	井上 貴雄	児童・青年期の抑うつ症状、躁症状、および自閉傾向に関する臨床的・疫学的研究	傳田教授	八田教授
平成25年度	先進医療科学	岡田 一範	スペックルトラッキング心エコー法を用いた心筋機能分析に基づく左室拡張機能の研究	三神教授	加藤教授
平成25年度	総合健康科学	越野 裕太	慢性足関節不安定性症例における下肢関節運動および神経筋制御の検討	山中教授	齊藤助教
平成25年度	総合健康科学	櫻庭 聡	文の読みにおける背側視覚経路の働きに関する研究-Continuous Flash Suppression を用いた検討-	境准教授	横澤教授
平成25年度	総合健康科学	澤村 大輔	外傷性脳損傷後注意障害患者における注意の能動的制御とその神経基盤に関する研究	境准教授	山中教授
平成25年度	先進医療科学	山崎 理衣	肺の定位放射線治療における呼吸の影響に関する臨床研究	伊達教授	西岡教授
平成26年度	先進医療科学	石田 香澄	偏性細胞内寄生性細菌クラミジアの宿主細胞への適応機構に関する研究	山口教授	松尾講師
平成26年度	総合健康科学	石田 知也	着地動作時の膝関節外反角度およびモーメントに影響する要因の検討 -膝前十字靭帯損傷予防の観点から-	山中教授	遠山教授
平成26年度	総合健康科学	大宮 秀淑	慢性期統合失調症患者に対する認知機能改善療法(CRT) -前頭葉/実行機能プログラム(FEP)による実践的研究-	傳田教授	村田教授
平成26年度	総合健康科学	澤田 紀子	車いすのバックレスト形状の違いによる高齢者の頭頸部アライメント及び頸部運動の比較	八田教授	浅賀教授
平成26年度	先進医療科学	中村 麻名美	3.0Tesla MRI装置による新しいk-space 充填法を使用した頸動脈プラーク性状評価に関する技術的・臨床的研究	坂田准教授	山本教授
平成26年度	総合健康科学	萩野 泉	Ecology of Baka hunter-gatherers' children in southeast Cameroon. - nutritional status, physical activities, and daily behaviors - (カメルーン南東部に居住するピグミー系狩猟採集民の子どもにおける生態学的研究-栄養状態・身体活動・生活行動-)	山内教授	齋藤教授
平成26年度	総合健康科学	萬井 太規	立位バランス制御の加齢の影響に関する研究 -片脚立位動作の姿勢制御に着目して-	浅賀教授	寒川准教授
平成26年度	総合健康科学	三浦 拓也	健常者および慢性腰痛症例における体幹ローカル筋群とグローバル筋群の関連性	山中教授	齊藤助教
平成26年度	総合健康科学	吉田 一生	Flow 時の脳活動：近赤外線分光法(fNIRS)を用いた検討	境准教授	山内教授
平成27年度	先進医療科学	吉井 勇治	放射線粒子輸送シミュレーションによるDNA二本鎖切断数の推定	伊達教授	堤助教
平成27年度	総合健康科学	浮田 徳樹	バックサポート形状が車いす座位姿勢に及ぼす効果に関する研究：脳卒中者における検討	八田教授	岸上助教

VI. 教育活動

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成27年度	先進医療科学	小栗 聡	環境での病原細菌の生存戦略: 絨毛虫を介した大腸菌間の遺伝子伝播とクオラムセンシングの誘導	山口教授	松尾講師
平成27年度	先進医療科学	小栗 聡	環境での病原細菌の生存戦略: 絨毛虫を介した大腸菌間の遺伝子伝播とクオラムセンシングの誘導	山口教授	松尾講師
平成27年度	総合健康科学	合田 央志	頭部前方位姿勢に対する骨盤サポート付き車いすの影響: 持続的座りと嚥下機能への効果	八田教授	岸上助教
平成27年度	総合健康科学	辻 真太郎	放射線治療におけるヒューマンエラー防止のための情報システムの構築	小笠原教授	神島教授
平成27年度	総合健康科学	長堀 智香子	Prevalence of Malnutrition and Associated Factors among Young Children in the Eastern Region of the Republic of Cameroon (カメルーン東部州に居住する年少の子どもの栄養不良と関連要因)	山内教授	安積准教授
平成27年度	総合健康科学	盛田 真貴	自閉スペクトラム症に対する Frontal/Executive Program の有効性の検討	傳田教授	村田教授
平成27年度	先進医療科学	山崎 智弘	病原性クラミジアの感染宿主細胞での生存戦略に関する研究	山口教授	松尾講師

【看護学コース】

年度	科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
平成25年度	看護科学	高島 理沙	障害を持って生きるクライアントを支援する作業療法士の専門職アイデンティティの構造	佐伯教授	河原田教授
平成25年度	看護科学	工藤 禎子	都市部の独居高齢者における危機管理としての近隣との交流	佐伯教授	八田教授

VI. 教育活動

論文提出による学位申請 論文・研究課題一覧

年度	授与学位	氏名	論文・研究課題	申請教員
平成27年度	博士(保健科学)	Rojeet Shrestha	Analytical approach for the measurement of oxidized lipids and medium-chain fatty acids: Emerging lipids in human health and nutrition (酸化脂質と中鎖脂肪酸の測定のための分析的アプローチ: ヒトの健康と栄養に関する新規脂質)	千葉教授

iii 保健科学院・医学部保健学科 FD 研修開催状況 (平成 25 年度～平成 27 年度)

保健科学院・医学部保健学科 FD 研修

【平成25年度】	
日 時	平成25年8月20日(火) 17:50～21:10
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所 3-1 講義室
受 講 者	56名
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none">・「クリッカーを利用した講義」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所教授・山本 徹・「ELMS を利用した講義」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所准教授・竹内 文也・「講義の英語化と高等教育推進機構による支援の現状」 講師：北海道大学高等教育推進機構教授・細川 敏幸



VI. 教育活動

【平成26年度】	
日 時	①平成26年8月21日(木) 18:00～19:00 ②平成26年9月9日(火) 19:00～20:30
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所多目的室Ⅱ
受 講 者	70名
テ ー マ	①「ELMSを使った講義改善事例」 講師：北海道大学情報基盤センター准教授・重田 勝介 ②「効果的なプレゼンテーションとは」 講師：株式会社アムリプラザ代表取締役・岡山 洋一



VI. 教育活動

【平成27年度】	
日 時	①平成27年9月4日(金) 18:00～19:30 ②平成27年9月14日(月) 19:35～20:35
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所大会議室
受 講 者	71名
テ ー マ	①「英語論文執筆・投稿の Tips : Nature Masterclasses ワークショップ参加報告会」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所教授・山内 太郎 北海道大学大学院保健科学研究所教授・横澤 宏一 北海道大学大学院保健科学研究所助教・藤田和佳子 ②「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所教授・傳田 健三



VI. 教育活動

iv 保健科学セミナー開催状況(平成25年度～平成27年度)

平成24年度保健科学セミナー開催状況

月 日		時 間	所 属	講演者	演 題
平成25年4月18日	(木)	14:00～14:45	北海道大学大学院保健科学研究院 北海道大学大学院保健科学院(2名)	松尾淳司 石田香澄 西岡佑介	台北医学大学における学生交流について
平成25年4月18日	(木)	13:15～14:00	北海道大学大学院保健科学研究院	惠 淑萍	北海道大学交流デー(中国 厦門, 大連)に関する報告
平成25年6月6日	(木)	17:30～18:30	元よしもとクリエイティブ・エージェンシー	向坂匡喬	「お笑いとプレゼンテーション」
平成25年7月26日	(金)	17:00～18:30	①早稲田大学スポーツ科学学術院 ②北海道大学大学院保健科学研究院	①鈴木克彦 ②川西範明	①運動誘発性筋損傷とその予防に寄与する機能性食品の探索 ②免疫細胞の動態に注目した運動による慢性炎症の改善効果
平成25年8月22日	(木)	17:00～18:30	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・臨床栄養学分野	武田 英二	「食後高血糖を制御する臨床栄養学的研究」
平成26年1月24日	(金)	16:30～18:00	日本原子力発電株式会社 社長室秘書グループマネージャー	岸本直衛	「低線量被曝について考える」 ～皆さんの考えをお聞かせください～
平成26年4月17日	(木)	14:00～14:45	北海道大学大学院保健科学院 北海道大学医学部保健学科(6名)	葛西理沙 福居真緒 小川万梨野 中谷亮太 小田川将之 前田明里 山本千尋	国際交流報告(看護学専攻, 看護学コース)
平成26年6月12日	(木)	16:30～17:30	北海道大学附属図書館学術システム課	HUSCUP 担当職員	HUSCUP での博士論文の公表に関する諸問題に関して
平成26年6月26日	(木)	18:00～19:00	同上	同上	同 上
平成26年6月30日	(月)	18:15～19:45	北海道大学大学院医学研究科	豊巻敦人	「認知神経科学から統合失調症はどう見えるか?」
平成26年8月1日	(金)	17:30～19:30	東北大学大学院医工学研究科	西條芳文	「超音波 でこまわかる! 組織と血流の新しい評価法」
平成26年8月21日	(木)	19:00～20:30	株式会社アムリブラザ	岡山洋一	効果的な プレゼン テーションプレゼンテーションとは
平成26年9月9日	(火)	同上	同上	同上	同 上
平成26年10月7日	(火)	16:30～18:30	北海道大学大学院保健科学研究院 チュラロンコン大学	伊達広行 アンチャリ	北海道大学・チュラロンコン大学 放射線技術科学領域 国際連携研究セミナー

VI. 教育活動

月 日		時 間	所 属	講演者	演 題
平成 26 年 11 月 4 日	(火)	18:30 ~ 19:10	北海道大学大学院保健科学院 (3名)	萬井太規 浮田徳樹 武田賢太	学生国際交流経費助成報告 (総合健康科学, リハビリテーション科学)
平成 26 年 11 月 28 日	(金)	16:30 ~ 18:00	日本原子力発電株式会社 社長室秘書グループマネージャー	岸本直衛	「エネルギー政策に関心ありますか？」 ～電力(電気)は無尽蔵ではありません～
平成 27 年 3 月 10 日	(火)	18:00 ~ 20:00	教育学研究院	室橋春光	「発達障害の心理生学的基盤と社会環境」
平成 27 年 3 月 17 日	(火)	9:30 ~ 11:00	北海道大学大学院保健科学院 高麗医学大学 (2名)	傳田健三 Li-Fang Wang Wang Hui-Yi	International Exchange of Researches (保健科学領域の国際連携研究セミナー)
平成 27 年 4 月 30 日	(木)	16:30 ~ 17:30	北海道大学大学院保健科学院 (4名) 北海道大学医学部保健学科 (9名)	金安顕子 西川明里 荒木望実 加我友寛 小野真如月 山崎尚二郎 島田詩絵奈 荒生智美 斎藤実津奈 西村紗弥花 武田賢太 伊吹愛梨 佐久間萌	海外教育交流支援事業報告
平成 27 年 8 月 29 日	(土)	13:00 ~ 17:00	①北海道大学大学院保健科学研究院 ②西フィンランド大学 ③北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門	①コリー紀代 ② Mari Kangasniemi ③石村源生	①「日本の少子高齢化対策としての看護ロボットの現状」 ②「フィンランドの看護事情と看護ロボットにおける倫理」 ③「理想の未来像を考える」
平成 27 年 9 月 4 日	(金)	17:50 ~ 20:35	北海道大学大学院保健科学院 研究院	①山内太郎 横澤宏一 藤田和佳子 ②傳田健三	①「英語論文執筆・投稿の Tips : Nature Masterclasses ワークショップ参加報告会」 ②「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
平成 27 年 11 月 12 日	(木)	16:30 ~ 18:00	日本原子力発電株式会社総務室	岸本直衛	「電力システム改革について」 ～私たちの生活にどのような影響があるのでしょうか～

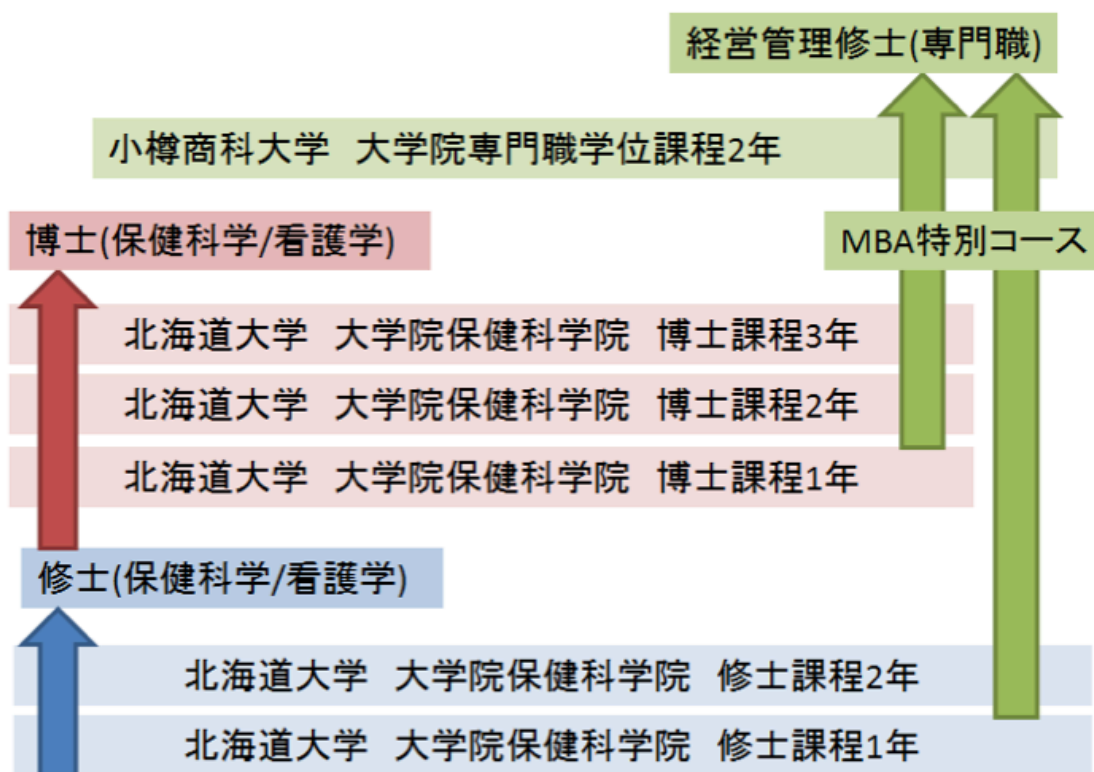
v 保健科学院－ M.B.A Double Degree

M.B.A. 特別コース

1. 概要

M.B.A. 特別コースは、保健科学院修士課程および博士課程に在籍している大学院生が、小樽商科大学商学研究科専門職課程アントレプレナー専攻(以下、小樽商大ビジネススクール)の一部科目を選択科目(単位互換)として6科目12単位を受講するものである。M.B.A. 特別コースを修了した学生は、保健科学院にて修士(保健科学/看護学)または博士(保健科学/看護学)取得した後、小樽商大ビジネススクールに入学し、保健科学院在籍中に小樽商大ビジネススクールで取得した単位と保健科学院で取得した一部の単位を単位数に加えることで、通常2年かかるM.B.A.取得が在籍期間1年間で取得可能となる。修士課程の場合、3年で修士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、博士課程の場合、4年で博士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、取得できるメリットを有する。

小樽商大ビジネススクールは、平日、札幌駅西口の札幌サテライトで開講しており、保健科学院との移動は概ね10分程度と移動の負担も少ない。



2. 連携のメリット

近年、医療経営のニーズが高まっており、大学院保健科学院の修了者の多くが高度専門職となる中で、医療専門職としてのマネジメント能力が求められている。北海道大学大学院保健科学院と小樽商科大学大学院商学研究科が連携することにより、保健科学教育・看護学教育において経営管理教育が可能となる。それに伴い、北大と小樽商大の強みを生かした人材育成が可能となり時代の要請に対応した高度専門職教育の充実が可能となる。

VI. 教育活動

3. MBA 特別プログラム修了後の進路

平成 27 年度までに、10 名以上が修了している。主な進路は、助産師や診療放射線技師などの医療専門職の他、医療経営コンサルタント、大学教員(医療情報系、保健系)、経営管理職(医療機関)、医療情報職、研究支援職、情報関連企業、等である。今後、医療行政職の他、検査技術・情報技術・リハビリテーション技術など保健科学をベースとした健康産業での起業家(アントレプレナー)に期待したい。

資料提供者 小笠原克彦

vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況 (平成25年度～平成27年度)

【平成25年度】	
日 時	平成25年6月6日(木)
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院棟2-1講義室
内 容	「保健科学の”力”札幌で大震災発生！保健科学は何ができるのか？」をテーマに、学生が6グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	61名



VI. 教育活動(保健科学院・合同シンポジウム)

【平成26年度】	
日 時	平成26年5月29日(木)
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所 E棟多目的室2
内 容	「保健科学の”力” 保健科学の国際展開 - 将来に向けて、今、何が必要か?」をテーマに、学生が6グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	48名



VI. 教育活動(保健科学院・合同シンポジウム)

【平成27年度】	
日 時	平成27年6月4日(木)
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所E棟多目的室
内 容	「保健科学の”力” 原子力発電所で大規模災害発生 その時、保健科学は何ができるのか？」をテーマに、学生が6グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	36名



Ⅶ. 社会貢献

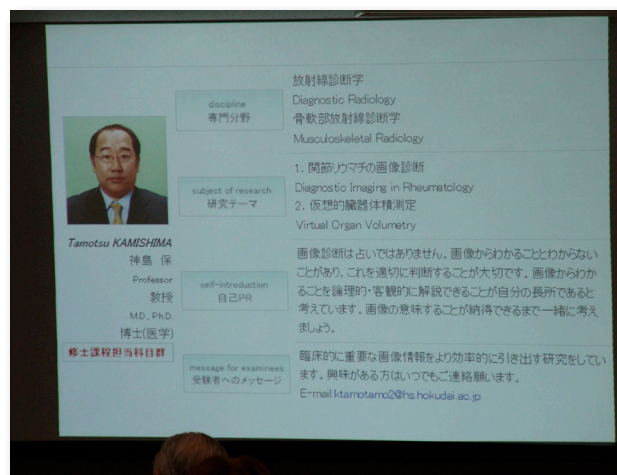
i 公開講座開催状況 (平成25年度～平成27年度)

公開講座

【平成25年度】	
日 時	平成25年11月3日(日) 13:00～16:00
場 所	北海道大学中央キャンパス総合研究棟1号館 共同講義室-1
受講者	55名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ 〔北海道大学サステナビリティウィーク2013参加企画〕 〔国立大学フェスタ2013事業〕
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「リウマチ診療の進歩と画像診断」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・神島 保 ・「超音波でみる心臓の動きと血液の流れ」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・三神 大世 ・「子どものうつと自殺に傾く心理—その実態と対策について—」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・傳田 健三



* 講演をする傳田教授



* 講演資料

VII. 社会貢献

【平成26年度】	
日 時	平成25年11月3日(日) 13:00～21:10
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所 E 棟 1 階多目的室
受 講 者	63名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ 〔北海道大学サステナビリティウィーク2014参加企画〕 〔国立大学フェスタ2014事業〕
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境と健康一次世代への影響を考える」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所教授・齋藤 健 ・「“光”を通して今見えること、そして将来出来ること～医療へ、そして日常へ～」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所教授・尾崎 倫孝 ・「パーキンソン病のリハビリテーションについて」 講師：北海道大学大学院保健科学研究所准教授・高橋 光彦



* 挨拶をする伊達研究院長



* 講演風景

VII. 社会貢献

【平成27年度】	
日 時	平成25年11月3日(日) 13:00～21:10
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院E棟1階多目的室
受 講 者	66名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ 〔北海道大学サステナビリティウィーク2015参加企画〕 〔国立大学フェスタ2015事業〕
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「最後まで住み慣れた家で過ごすために」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院講師・青柳 道子 ・「病原菌と戦う好中球の必殺技ー好中球細胞外トラップ」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・石津 明洋 ・「超高齢化社会へ向けた車いすデザインの提案」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・八田 達夫 北海道大学大学院保健科学研究院助教・岸上 博俊



* 講演風景



* 司会風景

Ⅳ. 顕彰及び研究助成制度

i 顕彰制度 (平成25年度～平成27年度)

保健科学研究院顕彰制度

【平成25年度】		
顕彰制度	職名等	受賞者名
保健科学研究院院長賞	病態解析学分野・教授	小林 清 一
保健科学研究院優秀論文賞	(該当者なし)	
保健科学院院長賞	修士課程(保健科学コース)	満 永 有 美
	博士後期課程(保健科学コース)	岡 田 一 範
保健科学院研究奨励賞	博士後期課程(保健科学コース)	岡 田 一 範
保健科学院修士課程研究発表賞	(該当者なし)	
保健学科長賞	看護学専攻	白 木 七 瀬
	放射線技術科学専攻	小 野 雅 人
	検査技術科学専攻	三 浦 佑 介
	理学療法学専攻	伊 吹 愛 梨
	作業療法学専攻	藤 原 夏 希
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻	高 橋 冨 冨
	看護学専攻	古 矢 華 江
	看護学専攻	松 橋 なつ美
	看護学専攻	青 木 梨理子
	看護学専攻	浅 井 真里亜
	看護学専攻	吉 田 鈴
	看護学専攻	岩 切 夏 希
	看護学専攻	穴 戸 穂
	看護学専攻	武 田 さちか
	看護学専攻	細 川 裕 也
	放射線技術科学専攻	横 浜 拓 実
	放射線技術科学専攻	伊 原 陸
	検査技術科学専攻	小 松 廣 匡
	検査技術科学専攻	山 崎 すみれ
	理学療法学専攻	牟 田 奈 央
作業療法学専攻	大 坂 麻 美	

VIII. 顕彰及び研究助成制度

【平成26年度】		
顕彰制度	職名等	受賞者名
保健科学研究所長賞	(該当者なし)	
保健科学研究所優秀論文賞	病態解析学分野・教授	石津明洋
保健科学院長賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース) 博士後期課程(保健科学コース)	松谷悠佑 蔵満美奈 石田香澄
保健科学院研究奨励賞	博士後期課程(保健科学コース)	萩野泉
保健科学院修士課程研究発表賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース)	面すみれ 長谷川純子 蔵満美奈
保健学科長賞	看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	栗田優 市川翔太 坂井七緒子 鶴喰涼 畑香里
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 放射線技術科学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	志賀はるか 八木亜李寿 山根綾華 吉澤日芙美 三宮実涉 中村典子 庭野美貴 久富咲貴子 宮田莉英 山口由香 福田千晶 細山千晴 林沙紀 黒羽紗代 田中晨太郎 浜名ありさ

VIII. 顕彰及び研究助成制度

【平成27年度】		
顕彰制度	職名等	受賞者名
保健科学研究所長賞	基盤看護学分野・教授	尾崎倫孝
保健科学研究所優秀論文賞	(該当者なし)	
保健科学院長賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース) 博士後期課程(保健科学コース)	権池勲 穴戸穂 山崎智拓
保健科学院研究奨励賞	博士後期課程(保健科学コース)	山崎智拓
保健科学院修士課程研究発表賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース)	三浦佑介 上甲紗愛 梶本常子
保健学科長賞	看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	西村紗弥花 宮田賢人 松下瑞江 千々松雅人 酒井優里
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 放射線技術科学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	斎藤実津菜 川俣聡美 松井春菜 西川明里 佐藤浩章 波多野克哉 山本祐輔 白澤憲典 高羅正成 伊藤大貴

ii 研究助成制度 (平成25年度～平成27年度)

研究助成制度 (平成25年度～平成27年度)

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成25年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Prediction of response to treatment by gene expression profiling of peripheral blood in patients with microscopic polyangiitis	PLoS ONE	first author
平成25年度	健康科学分野・特任准教授	武田晴治	evaluation of oxidized low-density lipoproteins using kelvin force microscopy	IEEE Sensors journal	first author
平成25年度	健康科学分野・教授	千葉仁志	evaluation of oxidized low-density lipoproteins using kelvin force microscopy	IEEE Sensors journal	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	小笠原克彦	The prognostic value of normal stress cardiovascular magnetic resonance imaging-A systematic review and meta-analysis-	Journal of Computer Assisted Tomography	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	齋藤 健	Humic acid induces the endothelial nitric oxide synthase phosphorylation at Ser1177 and thr495 via Hsp90 α and Hsp90 β upregulation in human umbilical vein endothelial cells	Environmental Toxicology	corresponding author
平成25年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Possible implication of Fc γ receptor-mediated trogocytosis in susceptibility to systemic autoimmune disease	Clinical and Developmental Immunology	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	齋藤 健	Increase in tetrahydrobiopterin concentration with aging in the cerebral cortex of the senescence-accelerated mouse prone 10 strain caused by abnormal regulation of tetrahydrobiopterin biosynthesis	Bio gerontology	corresponding author
平成25年度	病態解析学分野・教授	山口博之	High-temperature adapted primitive Protochlamyda found in Acanthamoeba isolated from a hot spring can grow in immortalized human epithelial Hep-2 cells	Environmental Microbiology	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	小笠原克彦	Forecasting the absolute and relative shortage of physicians in Japan using a system dynamics model approach	Human Resources for Health	corresponding author
平成25年度	健康イノベーションセンター高度脂質分析ラボ・特任助教	Rojeet shrestha	identification of molecular species of cholesteryl ester hydro peroxides in very low-density and intermediate-density lipoproteins	annals of clinical biochemistry	first author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成25年度	病態解析学分野・教授	惠淑萍	identification of molecular species of cholesteryl ester hydro peroxides in very low-density and intermediate-density lipoproteins	annals of clinical biochemistry	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	千葉仁志	Evaluation of antioxidant activity of natural and synthetic compounds against LDL oxidation using CNT elecrododes	IRRR Sensor Journal	corresponding author
平成25年度	生活機能学分野・准教授	境 信哉	The flow state scale for occupational tasks: development reliability and validity	Hong Kong Journal of Occupational Therapy	corresponding author
平成25年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Enhanced formation and disordered regulation of NETs in MPO-ANCA-associated microscopic polyangiitis	Journal of American Society of Nephrology	corresponding author
平成25年度	健康科学分野・教授	横澤宏一	Activation of auditory cortex by anticipating and hearing emotional sounds: an MEG study	PLoS ONE	first author
平成25年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Possible linkage microscopic polyangiitis and thrombosis via neutrophil extracellular traps	Clinical and Experimental Rheumatology	corresponding author
平成25年度	医用生理工学分野・教授	西岡 健	Ambient-temperature fusible filter: a preliminary experiment and a proposal for a filtration process	AIChE J	corresponding author
平成25年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	The effect of changing toe direction on knee kinematics during drop vertical jump: a possible risk factor of anterior cruciate ligament injury	Knee surgery Sports Traumatology Arthroscopy	corresponding author
平成25年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	Lower Limb Joint Motion During a Cross Cutting Movement Differs in Individuals With and Without Chronic Ankle Instability	Physical Therapy in Sport	corresponding author
平成25年度	医用生理工学分野・教授	伊達広行	Quantitative Estimation of DNA Damage by Photon Irradiation Based on Microdosimetric-Kinetic Model	Journal of Radiation Research	corresponding author
平成25年度	医用生理工学分野・助教	堤 香織	Morphogenetic study on the maturation of osteoblastic cell as induced by inorganic polyphosphate	PLOS ONE	first author
平成26年度	医用生理工学分野・教授	山本 徹	Magnetic Displacement Force and Torque on Dental Keepers in the Static Magnetic Field of a Magnetic Resonance Scanner	Journal of Magnetic Resonance Imaging	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成26年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Amoebal endosymbiont Neochlaydia genome sequence illuminates the bacterial role in the defense of the host amoebae Legionella Pneumophila	PLOS ONE	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Effect of Urea plasma parvum co-incubation on Chlamydia trachomatis maturation in human epithelial Hela cells treated with interferon- γ	Journal of Infection and Chemotherapy	corresponding author
平成26年度	医用生理工学分野・教授	西岡 健	Cell type-specific reciprocal regulation of HIF1A gene expression is dependent on 5'-and 3'-UTRs	Biochemical and Biophysical Research Communications	corresponding author
平成26年度	生活機能学分野・准教授	境 信哉	Active inhibition of task-irrelevant sounds and its neural basis in patients with attention deficits after traumatic injury	Brain Injury	corresponding author
平成26年度	生活機能学分野・准教授	境 信哉	Brain activity during the flow experience: a functional near infrared spectroscopy study	Neuroscience Letters	corresponding author
平成26年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	Individuals With Chronic Low Back Pain Do Not Modulate the Level of Traverses Abdominis Muscle Contraction Across Different Postures	Manual Therapy	corresponding author
平成26年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	Rehabilitation exercises to induce balanced scapular muscle activity in an anti-gravity posture	The Journal of Physical Therapy Science	corresponding author
平成26年度	基盤看護学分野・教授	尾崎倫孝	Anoikis Induction and Inhibition of Peritoneal Metastasis of Pancreatic Cancer Cells by a Nuclear Factor-kB Inhibitor,(-)-DHMEQ	Oncology Research	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・助教	加賀早苗	Quantitative and Pattern Analyses of Continuous-Wave Doppler Derived Pulmonary Regurgitant Flow Velocity for the Diagnosis of Constrictive Pericarditis	Journal of American Society Echocardiography	first author
平成26年度	病態解析学分野・教授	三神大世	Quantitative and Pattern Analyses of Continuous-Wave Doppler Derived Pulmonary Regurgitant Flow Velocity for the Diagnosis of Constrictive Pericarditis	Journal of American Society Echocardiography	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・教授	三神大世	decreased aorto-septal angle may contribute to left ventricular diastolic dysfunction in healthy subjects	journal of clinical ultrasound	corresponding author
平成26年度	創成看護学分野・准教授	平野美千代	Development of a social activities scale for community-dwelling older women requiring support in Japan: a preliminary study	Public Health Nursing	first author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成26年度	医用生理工学分野・教授	伊達広行	Evaluation of cell survival curve under radiation exposure based on the kinetics of lesions considering dose-delivery time	Journal of Radiation Research	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from tar model of autoimmune vasculitis	International Immunology	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Overexpression of TNF- α converting enzyme promotes adipose tissue inflammation and fibrosis induced by high fat diet	Experimental and Molecular Pathology	corresponding author
平成26年度	創成看護学分野・助教	藤田和佳子	Quality of partogram monitoring at a primary health center in Zambia	Midwifery	first author
平成26年度	健康科学分野・教授	山内太郎	Factors Associated with Nutritional Status in Children Aged 5-24Months in Cameroon	Nursing and Health Sciences	corresponding author
平成26年度	医用生理工学分野・教授	西岡 健	coalescence effect of a fusible filter using centrifugal filtration for the separation of oil from marine animals	Journal of chemical engineering japan	corresponding author
平成26年度	基盤看護学分野・教授	尾崎倫孝	p62/SQSTM1 plays a protective role in oxidative injury of steatotic liver in a mouse hepatectomy model	Antioxidants and Redox Signaling	corresponding author
平成26年度	基盤看護学分野・講師	佐藤三穂	Factors Related to Self-efficacy Among Men and Women Undergoing Outpatient Chemotherapy in Japan	Scandinavian Journal of Caring Sciences	first author
平成26年度	機能回復学分野・教授	浅賀忠義	Characteristics of Postural Muscle Activation Patterns Induced by Unexpected Surface Perturbations in Elite Ski Jumpers	Journal of Physical Therapy Science	corresponding author
平成26年度	機能回復学分野・教授	浅賀忠義	Age-related changes in distance from center of mass to center of pressure during one-leg standing	Journal of Motor Behavior	corresponding author
平成26年度	健康科学分野・教授	小笠原克彦	Adjustment of Gradation Characteristics in Chest Radiography Obtained by Two Computed Radiography Models Through Luminance Measurement	Journal of Medical Imaging and Health Informatics	corresponding author
平成26年度	生活機能学分野・教授	八田達夫	The effect of a newly developed wheelchair with thoracic and pelvic support on cervical movement and muscle activity in healthy elderly women	European Geriatric Medicine	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成26年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Amoebal endosymbiont Parachlamydia acanthamoebae Bn9 can grow in immortal human epithelial Hep-2 cells at low temperature: an in vitro model system to study chlamydial evolution	PLoS ONE	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Chlamydia pneumoniae effector Chlamydial outer protein N sequesters fructose bisphosphate aldolase A, providing a benefit to bacterial growth	BMC Microbiology	corresponding author
平成26年度	食品機能解析学・保健栄養学分野(寄附分野)・特任准教授	布田博敏	Anti-apoptotic Effects of Novel Phenolic Antioxidant Isolated from the Pacific Oyster (<i>Crassostrea gigas</i>) on Cultured Human Hepatocytes under Oxidative Stress	Food Chemistry	first author
平成26年度	病態解析学分野・教授	惠淑萍	Anti-apoptotic Effects of Novel Phenolic Antioxidant Isolated from the Pacific Oyster (<i>Crassostrea gigas</i>) on Cultured Human Hepatocytes under Oxidative Stress	Food Chemistry	first author
平成26年度	健康科学分野・教授	千葉仁志	Anti-apoptotic Effects of Novel Phenolic Antioxidant Isolated from the Pacific Oyster (<i>Crassostrea gigas</i>) on Cultured Human Hepatocytes under Oxidative Stress	Food Chemistry	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・特任教授	森山隆則	Heat-Resistant Characteristics of Major Royal Jelly Protein 1 (MRJP1) Oligomer	PLoS ONE	first author
平成26年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	Dose The Restriction of The Glenohumeral Horizontal Adduction Reflect Thickening of The Posterior Capsule in The Throwing Shoulder?	The Journal of Physical Therapy Science	corresponding author
平成26年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	Comparing Trapezius Muscle Activity in the Different Planes of Shoulder Elevation	The Journal of Physical Therapy Science	corresponding author
平成26年度	病態解析学分野・講師	吉田 繁	Japanese external quality assessment program to standardize HIV-1 drug-resistance testing using in vitro transcribed RNA as reference material	AIDS research and human retroviruses	first author
平成26年度	生活機能学分野・准教授	境 信哉	Flow Experience During Attentional Training Improves Cognitive Functions in Patients with Traumatic Brain Injury: An Exploratory Case study	Hong Kong Journal of Occupational Therapy	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成26年度	病態解析学分野・特任教授	森山隆則	Diverse CD36 expression among Japanese population: defective CD36 mutations cause platelet and monocyte CD36 reductions in not only deficient but also normal phenotype subjects	Thrombosis Research	corresponding author
平成26年度	機能回復学分野・助教	斉藤展士	Relationship between improvements in motor performance and changes in anticipatory postural adjustments during whole-body reaching training	Human Movement Science	first author
平成26年度	機能回復学分野・助教	笠原敏史	Effect of loading parameters on motor performance during a dynamic weight-shift task	Gait Posture	first author
平成26年度	医用生理工学分野・教授	伊達広行	cluster analysis for the probability of DSB site induced by electron tracks	Nuclear inst. and methods in physics in physics research,B	corresponding author
平成27年度	医用生理工学分野・教授	伊達広行	Study of electron transport in hydrocarbon gase	Journal of applied physics	corresponding author
平成27年度	健康イノベーションセンター高度脂質分析ラボ・特任助教	Rojeet shrestha	identification of molecular species of oxidized triglyceride in plasma and its distribution in lipoproteins	clin chem lab med	first author
平成27年度	病態解析学分野・教授	惠淑萍	identification of molecular species of oxidized triglyceride in plasma and its distribution in lipoproteins	clin chem lab med	corresponding author
平成27年度	健康イノベーションセンター高度脂質分析ラボ・特任准教授	武田晴治	elastic modules of LDL as potential indicator of its oxidation	annals of clinical biochemistry	first author
平成27年度	病態解析学分野・教授	惠淑萍	elastic modules of LDL as potential indicator of its oxidation	annals of clinical biochemistry	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・講師	松尾淳司	Synergistic costimulatory effect of Chlamydia pneumoniae with carbon nanoparticles on NLRP3 inflammasome-mediated IL-1 β secretion in macrophages	infection and immunity	first author
平成27年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Synergistic costimulatory effect of Chlamydia pneumoniae with carbon nanoparticles on NLRP3 inflammasome-mediated IL-1 β secretion in macrophages	infection and immunity	corresponding author
平成27年度	生活機能学分野・教授	八田達夫	Backrest Shape Affects Head-Neck Alignment and Seated Pressure	Journal of Healthcare Engineering	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成27年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes	Modern Rheumatology	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	Fatal cardiac vessel involvement ANCA-associated vasculitis: an autopsy case report	cardiovascular pathos	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・教授	山口博之	Protozoal ciliate promotes bacterial auto inducer-2 accumulation in mixed culture with Escherichia coli	Journal of general and applied microbiology	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・教授	惠淑萍	mass spectrometric quantification of amphipathic, polyphenolic antioxidant of the pacific oyster	analytical sciences	corresponding author
平成27年度	機能回復学分野・教授	山中正紀	kinematics and muscle activities of the lower limb during aside-cutting task in subjects with chronic ankle instability	Knee surgery Sports Traumatology Arthroscopy	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・助教	岡田一範	myocardial shortening in three orthogonal directions and its transmural variation in patients with nonconstructive hypertrophic cardiomyopathy	circulation journal	corresponding author
平成27年度	医用生理工学分野・教授	神島 保	performance of computer-based analysis using temporal subtraction to assess joint space narrowing progression in rheumatoid patients	rheumatology international	corresponding author
平成27年度	基盤看護学分野・助教	下田智子	Development and current status of an advanced telehealth consultation system in japan	journal of telemedicine and telecare	first author
平成27年度	医用生理工学分野	石川正純	feasibility study on signal separation for spontaneous alpha decay in LaBr3:Ce scintillator by signal peak-to-charge discrimination	review of scientific instruments	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・教授	石津明洋	The responses of macrophages in interaction with neutrophils that undergo NRTosis	Journal of Autoimmunity	corresponding author
平成27年度	病態解析学分野・教授	山口博之	A characteristic of polymorphic membrane proteinF of Chlamydia trachomatis isolated from male urogenital tracts in Japan	Journal of Infection and Chemotherapy	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成27年度	病態解析分野・特任教授	三神大世	Sonographic Detection of Abnormal Plaque Motions of the Carotid Artery: Its Usefulness in Diagnosing a Series of High-Risk Lesions Ranging from Plaque Rupture to Ulcer Formation	Ultrasound in Medicine and Biology	corresponding author
平成27年度	基盤看護学分野・教授	結城美智子	Secondary exposure of family members to cyclophosphamide after chemotherapy of outpatients with cancer:a pilot study	Oncology Nursing Forum	first author
平成27年度	健康科学分野・教授	小笠原克彦	Proposal for Bottom-up Hierarchical Task Analysis:Application to the Mammography Examination Process	Journal of Medical Imaging and Health Informatics	corresponding author
平成27年度	医用生体理工学分野・教授	伊達広行	Optimization of the fractionated irradiation scheme considering physical doses to tumor and organ at risk based on dose volume histograms	Medical Physics	corresponding author
平成27年度	機能回復学分野・助教	萬井太規	Adaptation of postural control while standing on narrow unfixed base of supports	International Journal of Rehabilitation Research	first author
平成27年度	機能回復学分野・教授	浅賀忠義	Adaptation of postural control while standing on narrow unfixed base of supports	International Journal of Rehabilitation Research	corresponding author
平成27年度	医用生体理工学分野・教授	神島 保	Radiographic Quantifications of Joint Space Narrowing Progression by Computer-based Approach Using Temporal Subtraction in Rheumatoid Wrist	The British Journal of Radiology	corresponding author
平成27年度	機能回復学分野・助教	笠原敏史	The effect of aging on vertical postural control during the forward and backward shift of center of pressure	Gait posture	first author
平成27年度	生活機能学分野・教授	八田達夫	Does a novel-developed product of wheelchair incorporating pelvic support forward head posture during prolonged sitting?	PLOS ONE	corresponding author
平成27年度	食品機能解析学・保健栄養学分野(寄附分野)・特任准教授	布田博敏	Oyster extracts attenuate pathological changes in non-alcoholic steatohepatitis (NASH) mouse model	Journal of Functional Foods	first author
平成27年度	健康科学分野・教授	千葉仁志	Oyster extracts attenuate pathological changes in non-alcoholic steatohepatitis (NASH) mouse model	Journal of Functional Foods	corresponding author

VIII. 顕彰及び研究助成制度

助成年度	所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考
平成27年度	創成看護学分野・教授	佐伯和子	Movement changes due to hemiplegia in stroke survivors:A hermeneutic phenomenological study	Disability and Rehabilitation	corresponding author
平成27年度	医用生理工学分野・教授	神島 保	Accurate Quantitative Assessment of Synovitis in Rheumatoid Arthritis Using Pixel-by-Pixel,Time-Intensity Curve Shape Analysis	The British Journal of Radiology	corresponding author

IX. 中央研究室の活動報告

i 活動報告所 (平成 25 年度～平成 27 年度)

平成 25 年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 千葉 仁志

1. 中央研究室の移設

- ・保健科学研究所建屋改修工事に伴い第1,第2,第4および第5中央研究室の仮移設(旧留学生センター)を行った。
- ・仮移設に必要な電源や上下水道の工事,ドラフトの排気口の設置等の計画・設計を行い,施工手配を行った。

2. 研究機器の管理

- ・共通で設置している純水製造装置をはじめとした機器類の消耗部品の交換や定期的なメンテナンスを行った。また,各機器類の移設処置等を実施し,移設後もメンテナンスや修理を行った。

3. 利用者への対応

- ・各装置の使用法や実験法について個別に対応した。

4. 各種説明会の開催

- ・中央研究室利用説明会(大学院生)[平成25年4月5日開催]

【内容】中央研究室の使用規約の要点,場所,主要な機器についてスライドにて説明し,希望者には各中央研究室を実際に回り機器の説明を行った。

【参加者】4名(以下内訳)

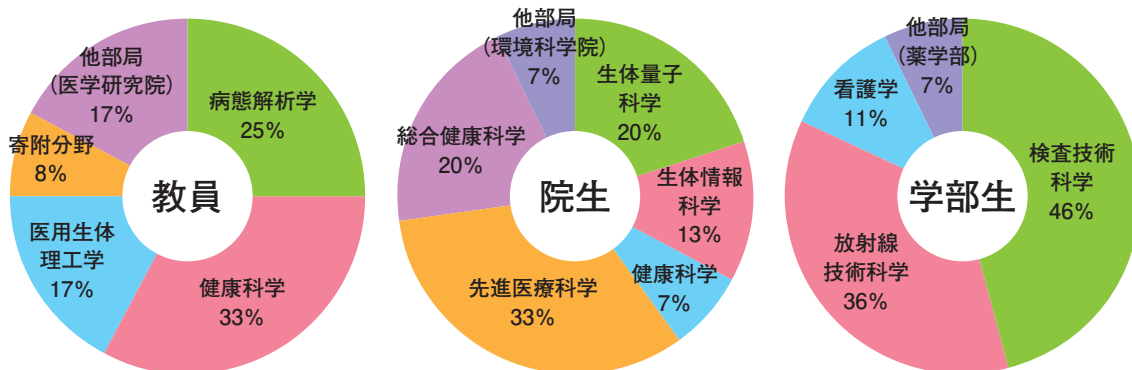
大学院生(修士課程)	4名(生体情報科学4)
------------	-------------

5. 利用者の登録

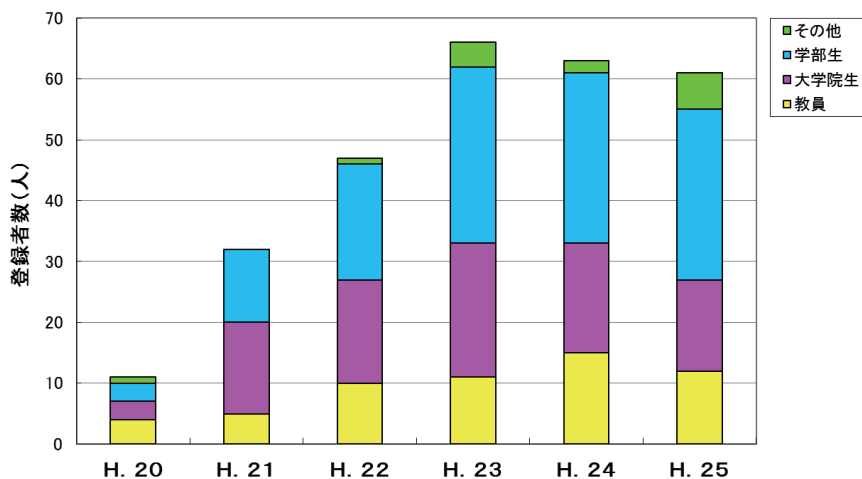
本年度の中央研究室利用者登録数は61名で,内訳は以下である。

教員(保健科学研究所)	: 10名(前年比-5)
教員(他部局)	: 2名(前年比+2)
大学院生(保健科学院)	: 14名(前年比-4)
大学院生(他部局)	: 1名(前年比-1)
学部生(保健学科)	: 26名(前年比-2)
学部生(他学部)	: 2名(前年比+2)
その他(博士研究員等)	: 6名(前年比+4)

IX. 中央研究室の活動報告



【参考】5年間の利用者推移



平成 26 年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 尾崎 倫孝

1. 中央研究室の移設

- ・保健科学研究所新棟完成に伴い旧留学生センターに仮設置していた中央研究室機材の移設を行った。5 部屋に分かれていた中央研究室は新棟(E棟)4階に集約され,用途別に「コア・リサーチラボ」および「遺伝子組換え・細胞培養実験室」に名称変更した。
- ・コア・リサーチラボおよび遺伝子組換え・細胞培養実験室について,それぞれP1, P2実験室の申請を行った。

2. 研究機器の管理

- ・共通で設置している純水製造装置をはじめとした機器類の消耗部品の手配や交換,定期的なメンテナンスを行った。

3. 利用者への対応

- ・セミナーや操作講習会を実施した。
- ・各装置の操作・使用法や実験相談について個別に対応した。

4. セミナーおよび操作講習会

- ・リアルタイムPCR・デジタルPCR 遺伝子解析基礎セミナー〔平成26年6月11日開催〕
【内容】リアルタイムPCRの原理から遺伝子解析での活用についてバイオラッド社から講師を招いてセミナーを開催した。

【参加者】22名(以下内訳)

教員(特任含む)	: 6名(医用生体理工学, 生活機能学, 機能回復学, 基盤看護学, 寄附分野ほか)
大学院生(博士課程)	: 1名(先進医療科学)
大学院生(修士課程)	: 4名(生体情報科学, 健康科学)
学部生	: 9名(放射線, 検査)
その他(研究員等)	: 2名(客員研究員, 学外参加者)

- ・リアルタイムPCR操作説明会〔平成27年1月22日開催〕
【内容】新規導入したリアルタイムPCR(Applied Biosystems社, StepOnePlus)の操作方法および使用法の説明。

【参加者】12名(以下内訳)

教員(特任含む)	: 7名(医用生体理工学, 病態解析学, 基盤看護学, 寄附分野)
大学院生(博士課程)	: 2名(先進医療科学)
大学院生(修士課程)	: 1名(生体情報科学, 健康科学)
その他(短期留学生)	: 2名(台北医学大学)

IX. 中央研究室の活動報告

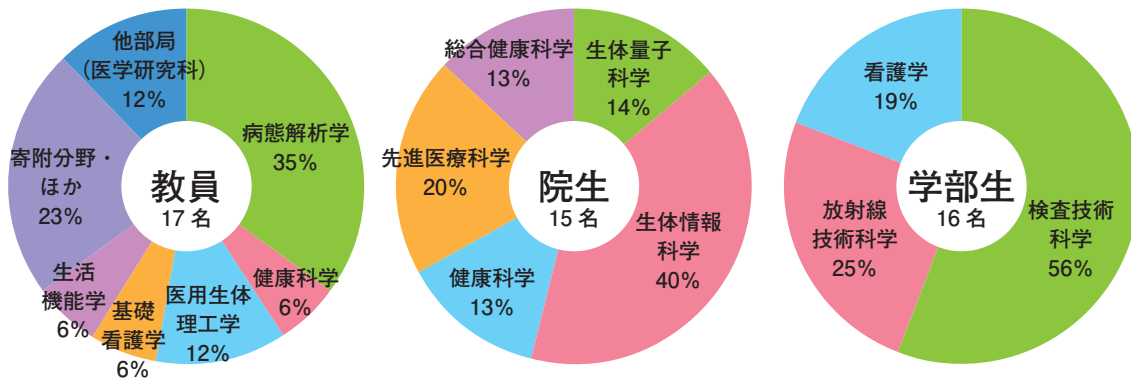
5. 利用者の登録

本年度の中央研究室利用については部屋別（用途別）に申請することとした。

コア・リサーチラボの利用登録数 : 36名

遺伝子組換・細胞培養実験室の利用登録数 : 28名

上記の内訳は以下のグラフで示す（重複登録を除いた数値）。



平成 27 年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 尾崎 倫孝

1. 中央研究室の管理

- ・ E 棟 4 階の一部実験室に供給している炭酸ガスおよび窒素ガスのボンベ室の管理（ガス圧のチェック、ボンベ交換の手配等）を行った。
- ・ 北海道大学の衛生管理の強化により、ドラフトチャンバーの点検項目および方法が変更になり、それに対応した点検法を習得し、点検を行った。

2. 研究機器の管理

- ・ 研究機器類のウェブ予約システムの運用を開始した。
- ・ 共通で設置している純水製造装置をはじめとした研究機器類の消耗部品の手配や交換、定期的なメンテナンスを行った。

3. 利用者への対応

- ・ 共通研究機器の操作講習会を実施した。
- ・ 各装置の操作や使用法、実験に関する相談について個別に対応した。

4. 研究機器操作講習会

- ・ 蛍光顕微鏡操作説明会〔平成26年6月11日開催〕

【内容】遺伝子組換え・培養実験室に設置されている蛍光顕微鏡（キーエンス社, BIOREVO BZ-9000）の操作・使用法の説明。操作についてはメーカーの技術者から講習を受けた。

【参加者】15名（以下内訳）

教員（特任含む）	：5名（医用生体理工学，健康科学，病態解析学，寄附分野）
大学院生（博士課程）	：3名（先進医療科学）
大学院生（修士課程）	：5名（生体情報科学，健康科学）
学部生	：2名（放射線）

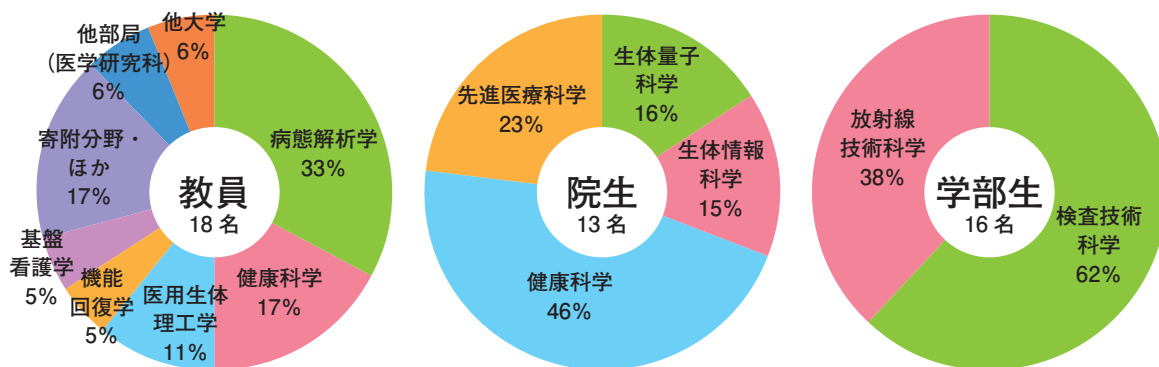
5. 利用者の登録

本年度の中央研究室利用登録数は以下である。

- コア・リサーチラボの利用登録数 : 47名
- 遺伝子組換え・細胞培養実験室の利用登録数 : 36名

上記の内訳は以下のグラフで示す（重複登録を除いた数値）。

IX. 中央研究室の活動報告



X. 第二期中期目標・中期計画

保健科学研究院 第二期(平成22年度～平成27年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>1 研究に関する目標</p> <p>(1) 高度先進医療技術を利用した保健科学研究を推進すると共に、教員の研究能力を向上させる。</p>	<p>1 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 国民の健康維持・増進のために、健康情報ネットワークやナノセンサーを活用した先端的健康支援システムに関する研究を展開する。</p> <p>(2) 地域に根ざした産学官連携を推進し、「ヘルスサイエンス」の拠点づくりを展開する。</p> <p>(3) 研究成果に対するインセンティブを拡充する。</p> <p>(4) RAの雇用による研究支援を積極的に推進する。</p>
<p>(2) 先端保健科学研究を推進するために、研究環境を充実させる。</p>	<p>(1) 研究機器・設備の共有化を進め、中央研究室を整備・拡充する。</p> <p>(2) 若手研究者の自立を継続的に支援する。</p> <p>(3) 産学官連携を推進するスペースを確保する。</p>
<p>2 社会貢献・その他に関する目標</p> <p>(1) 学内外へ研究成果を発信し、保健科学の啓発を図る。</p>	<p>2 社会貢献・その他に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 保健科学研究院公開講座の内容をより充実させる。</p> <p>(2) 広報誌およびホームページを通して、国内外への広報活動を積極的に行う。</p>
<p>(2) 国内外の大学・研究機関との連携・交流を推進する。</p>	<p>(1) 外国との共同研究を積極的に推進する。</p> <p>(2) 大学間及び部局間交流協定等の締結を図る。</p>
<p>(3) 高度医療技術による職業人教育プログラムを通じて、地域と社会に貢献する。</p>	<p>(1) 潜在助産師のための再チャレンジ支援プログラムを実施する。</p> <p>(2) キャリア支援のための継続的教育プログラムの開発と運営を行う。</p>

保健科学院 第二期(平成22年度～平成27年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 保健科学をリードする研究者・指導者を育成するために、領域横断的教育を推進する。</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 環境・情報エレクトロニクス・保健政策・医療経済など、保健科学の学際的領域における国内外の研究者を講師として招聘し、専攻共通基礎科目「保健科学セミナー」を充実させる。</p> <p>(2) 科目群間交流を推進するために、合同学生シンポジウムを開催する。</p> <p>(3) MBA 特別コースなど、他大学・他部局との連携を維持・推進する。</p>
<p>(2) 国際化へ向けた大学院教育課程を充実させると共に、教員の国際的教育指導能力を向上させる。</p>	<p>(1) 教育の国際化のためのFDワークショップを実施する。</p> <p>(2) 英語による授業を導入する。</p> <p>(3) 外国人留学生のために、チューター制度導入やSD研修などの受け入れ体制を整備する。</p>
<p>(3) 博士後期課程における教育体制を確立する。</p>	<p>(1) 博士後期課程を設置し、入学者を受け入れ、複数指導教員体制などの構築を行う。</p> <p>(2) 学生自習室、ゼミナール室などを確保し、教育環境を整備する。</p> <p>(3) 優秀な学生に対する顕彰制度を創設する。</p>

医学部【保健学科】第二期(平成22年度～平成27年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
1 教育に関する目標 (1) 豊富な専門分野の知識を身につけ、新しい課題を積極的に開拓する人材を育成する。	1 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 専攻の枠を超えた学科共通科目を充実させる。 (2) 指定規則の変更に伴い、専門教育カリキュラムを充実させる。 (3) 卒業研究成果を積極的に学会発表する。 (4) 優れた卒業研究に対して、顕彰制度を創設する。
(2) 専門職業人としての知識、技術、自覚を高めるために、専門教育を充実させる。	(1) TA を活用し、実習及び演習の教育効果を高める。 (2) 臨床実習にチーム医療体験を導入する。 (3) 臨床指導教授等を対象としたFD研修を開催する。
2 社会貢献・その他に関する目標 (1) 学生の修学環境を整備する。	2 社会貢献・その他に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 講義室、実習室などを計画的に整備充実する。 (2) 学生自習室を整備・拡充する。 (3) 学生のアメニティスペースを確保する。

大学院保健科学研究所・大学院保健科学院(医学部保健学科)
年報(平成25年4月～平成28年3月)

発行日：平成28年10月

発行責任者：大学院保健科学研究所長 齋藤 健

編集：点検・評価室年報編集専門部会
齋藤 健(部会長)

井上 馨, 神島 保, 鷺見 尚己

本田 光, 小畑 慶子, 寒川 美奈, 櫻井 俊宏

井上 直樹(事務課長), 古坐 要(庶務担当係長)

連絡先：医学系事務部保健科学研究所事務課庶務担当

電話 011-706-3315

E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp

印刷会社名：柏楊印刷株式会社